

## 8. 漆器

## (1) 前提 (図108～110)

今回の調査では、豊臣大坂城期の遺構埋土や包含層から600点以上の漆器が出土している。そのほとんどが豊臣前期に属するものであり、後期のものは可能性を含めても20点ほどである。

図108～110は特に残存の良好な遺物を図示したものであり、以下に資料の塗色・文様について簡単な解説を行う。なお、実測図の天地については、器種・用途の不確定なものが多いことから、一様に碗・皿として取り扱っている。また、それぞれの出自や法量等の詳細については表35～40を参照されたい。

## (2) 解説

108-1は蓋と思われるものの、つまみ端面が摩滅しており、皿としても使用された可能性が高い。高台見付に「上文字に二つ星」を記す。108-2は高台基部に水平方向の穿孔がみられるが、用途は不明である。108-3は外面3カ所に「三つ盛り亀甲に花菱」を描く。108-4は外面6カ所に「丸に立ち沢潟たけがた」と花文風文様を交互に描く。108-5は内外面朱漆の無文碗であるが、塗りの厚い優品である。腰部に弱い稜線が巡る。108-6・7は豊臣後期に属する井戸518より出土した。108-6は内面赤漆、外面黒漆を配し、外面2カ所に「七本骨扇」を描く。108-7は内面朱漆、外面黒漆を配し、外面4カ所に「丸に？(植物か)」と「×」を交互に描く。108-8は外面全体に「松・鶴亀」等の漆絵を描く。108-9は内面赤漆、外面黒漆を配す。1/2を欠損するものの、外面を6分する位置に「亀甲に花菱(花角か)」と「横見枝梅」の漆絵を交互に描く。108-10は見付と外面1カ所に「紐付き俵」を描く。また、高台見付には8分する刻線を放射状に施す。

109-1は外面全体に「網目」を描き、さらにその上から5カ所と、高台見付に「唐花たうか」を描く。109-2は胴部から高台までの外面全体に「梅の花・藤・三つ星」等の漆絵を描く。109-3は内面朱漆、外面黒漆を配し、外面数カ所に「対い二つ銀杏」を描く。109-4は108-3と同様、外面3カ所に「三つ盛り亀甲に花角(花菱か)」を描く。109-5は見付に2羽の「鶴(夫婦鶴か)」、外面全体に「松」等の漆絵を描く。109-6は内面赤漆、外面黒漆を配し、外面数カ所に「竹」らしき漆絵を描く。109-7は見付と外面に「並び丸に二つ引き」を描く。109-8は内面朱漆、外面黒漆を配し、外面2カ所に「丸に出二文字」を描く。109-9は内外面とも朱漆であるが、高台見付には黒漆を塗る。108-1と同様、蓋の可能性が考えられる。また、見付部分には漆液が付着しており、漆容器として転用されたものである。109-10は内外面赤漆の浅い碗である。口縁は玉縁状を呈し、塗りが丁寧な優品である。109-11は外面3カ所に黒漆の「三つ盛り変わり分銅」を描く。109-12は内面赤漆、外面黒漆を配し、外面数カ所に「丸に？(棕櫚しょうろか)」を描く。また、外面の一部には塗り直しの痕跡が認められる。

110-1は内面赤漆、外面黒漆を配し、外面に「三つ？(逆さ飛び鶴か)」を描く。また高台見付に「十」と記す。110-2は無文で口縁が玉縁状を呈し、高台見付に「一」と書く。110-3は内面赤漆、外面黒漆を配し、外面数カ所に「？(逆さ飛び鶴か)」を描く。110-4は外面3カ所に「三つ盛り木瓜もくご」を描く。また、高台見付に円孔を穿つ。110-5は108-1等と同様、蓋の可能性が考えられ、塗りの丁寧な優品である。110-6は外面の1カ所に「逆さ飛び鶴」を描く。110-7は見付周辺に焦げ跡があり、高台見付に「丸に一」を記す。腰部付近には穿孔を行う。110-8は内面赤漆、外面黒漆を配し、外面を3分する位置に「紐付き俵」を描く。また、高台見付に朱漆で「丁」と記す。110-9は外面を6分する位置に「丸に出三つ柏(中柏か)」と花文風文様を交互に描く。110-10は円筒形を呈し、合子状の蓋と思われる。

## (3) 分類と計測

上記を含む漆器資料すべてについて、図111に基づく計測を行った。計測は基礎データ、法量、形態分

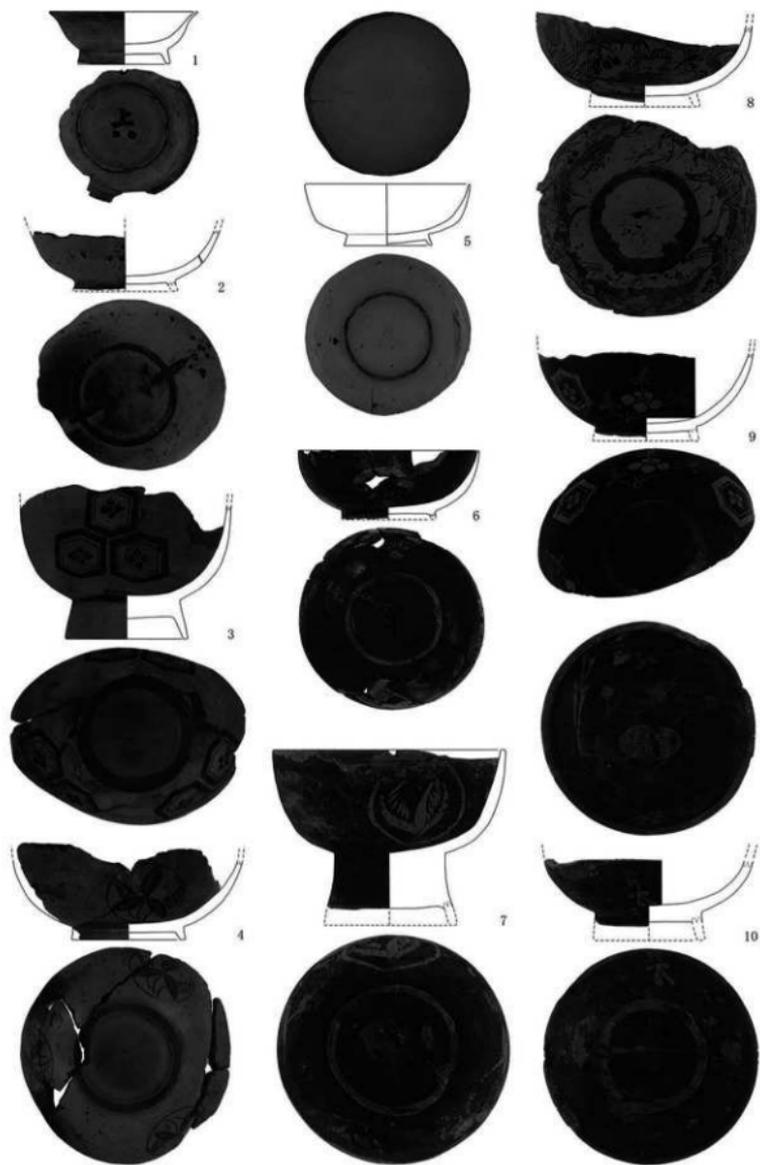


图 108 漆器 (1) (1:3)

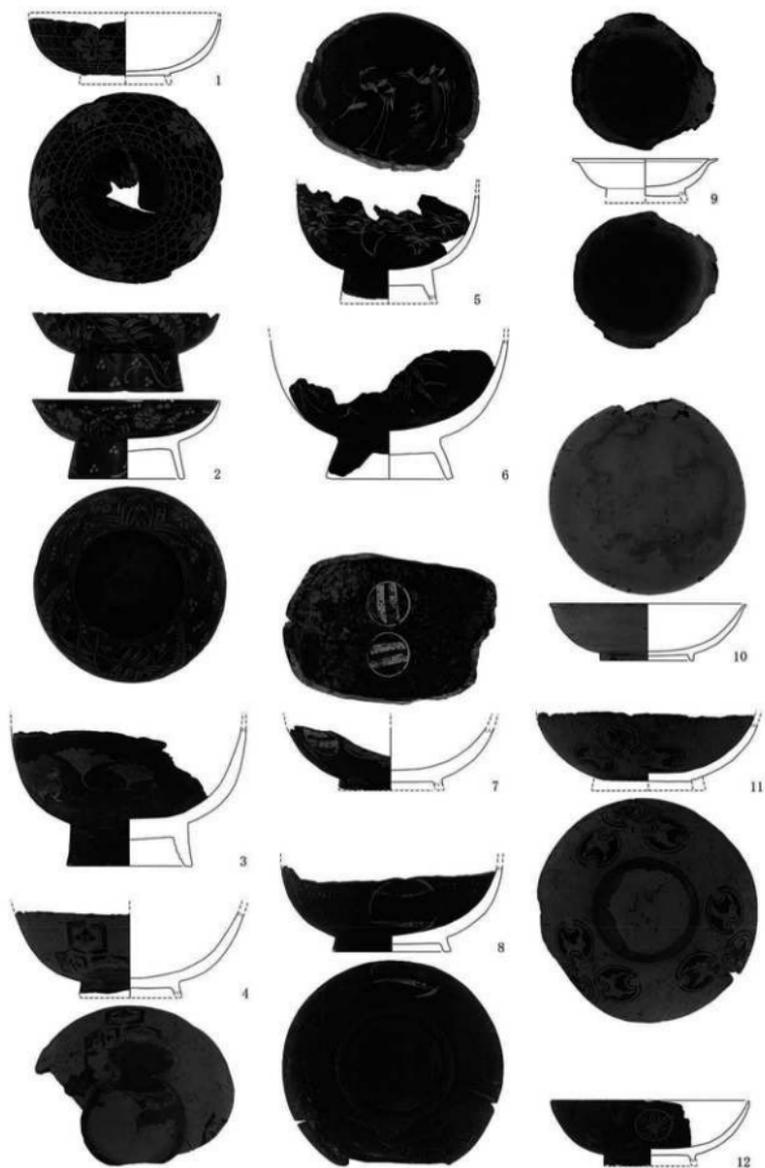


図109 漆器(2)(1:3)

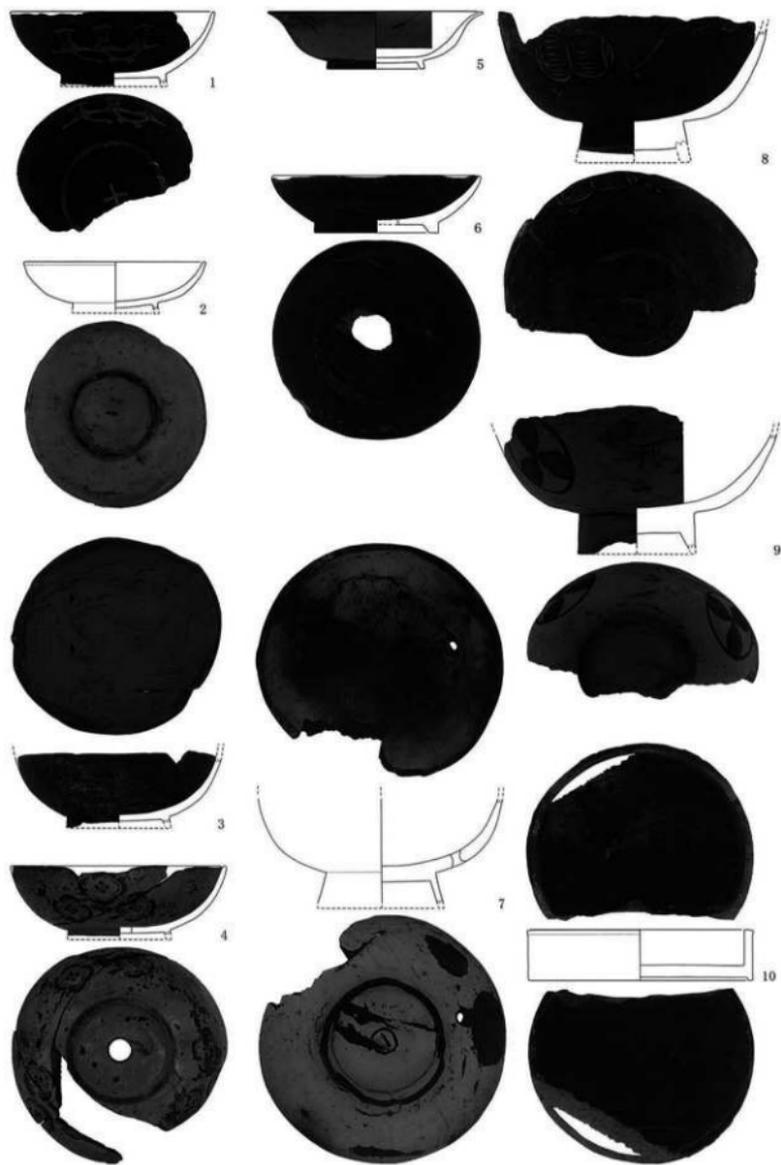


圖 110 漆器 (3) (1 : 3)

類、塗色、文様、その他に大別する各種項目を、作成したマニュアルに従って行っている。各項目は細片資料に対応できるよう、可能な限り分解した属性であり、その設定については『大坂城発掘調査報告Ⅰ』（大文セ2002）等に記載している。基本的には過去の計測方法を踏襲しており、新出資料に対応するための属性追加を逐次行っている。表35～40の観察表は、その計測データの一部を掲載したものである。

器種の分類については、前述のように用途不明のものが多いため、あえて行わないことにした。一般的な碗・皿の類は全資料の9割以上を占めており、その他に合子・膳・指物等の特殊品も出土している。本調査区では特に膳が多く出土しているものの、一の膳・二の膳等の微妙な分類に合わせて全体形を復元することは困難であり、分析の対象からは除外した。しかし、膳は食膳具に関わる重要な器種であり、今後の検討が必要であろう。概観する限り、塗色は黒漆が圧倒的に多く、朱（赤）漆は器物の一部に塗布する程度である。後述の碗・皿の傾向と異なる点が注目されるものの、『酒飯論』に描かれている食膳具が黒漆膳に朱漆碗であることから、このような傾向は一般的な組み合わせを示したものと考えられる。

#### (4) 傾向

一定の資料データが蓄積できた碗・皿について、法量・形態・塗色・文様に関する解析を試み、出土漆器の傾向を探ることとする。分析では豊臣期を前期・後期に分けて行っているが、前述のように後期の資料点数は極端に少なく、分析の対象としては適さないため、あくまで参考程度と考えていただきたい。なお、図に表示した「個体」は残存率から換算した個体数、「%（比率）」は点数から計算したものである。

図112は口径・底径の1/2と器高・高台高の散布と、口径・器高・高台高・底部厚の点数比を示したも

基礎データ	形態分類						法量	口径 器高 底径 高台内径 高台高 器厚 底厚 残存率
	上縁タイプ	1 環反	2 外縁	3 普通	4 内湾	5 5縁		
遺物名	内段など						口径 器高 底径 高台内径 高台高 器厚 底厚 残存率	口径 器高 底径 高台内径 高台高
遺物番号								
発掘区							口径 器高 底径 高台内径 高台高 器厚 底厚 残存率	口径 器高 底径 高台内径 高台高
層名								
遺構名							口径 器高 底径 高台内径 高台高 器厚 底厚 残存率	口径 器高 底径 高台内径 高台高
写真								
器種							口径 器高 底径 高台内径 高台高 器厚 底厚 残存率	口径 器高 底径 高台内径 高台高
技法								
紋目							口径 器高 底径 高台内径 高台高 器厚 底厚 残存率	口径 器高 底径 高台内径 高台高
変り								
塗色							口径 器高 底径 高台内径 高台高 器厚 底厚 残存率	口径 器高 底径 高台内径 高台高
文様								
内面内容							口径 器高 底径 高台内径 高台高 器厚 底厚 残存率	口径 器高 底径 高台内径 高台高
内面文様位置								
外縁内容・色							口径 器高 底径 高台内径 高台高 器厚 底厚 残存率	口径 器高 底径 高台内径 高台高
外縁文様								
高台裏付文様内容・色							口径 器高 底径 高台内径 高台高 器厚 底厚 残存率	口径 器高 底径 高台内径 高台高
高台裏付文様位置								

図111 漆器の計測方法

のである。口径13cm前後の腰高碗と普通碗、口径10cm前後の皿がみられる。その中では口径13cm前後、器高4cm前後、高台高1cm前後の普通碗がもっとも多いことが分かる。

図113は口縁部・腰部・高台部について、各分類ごとの個体数を示したものである。口縁部は「普通」がもっとも多用されており、「玉縁」がこれに次ぐ。これらは碗に通有の口縁であり、「端反・外湾」は小型の皿にみられる場合が多い。腰部は「円弧」が過半数以上を占めており、碗・皿に一般的な形状であることが分かる。次に多くみられる「張り」は、腰高碗に多用されているタイプである。高台部は腰高碗と普

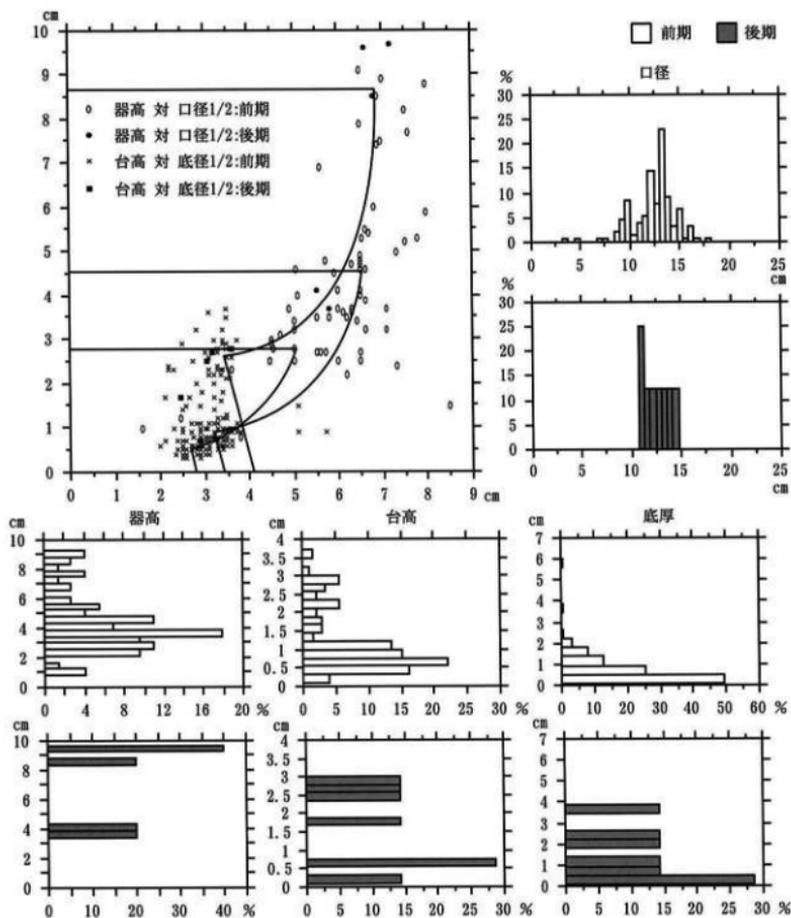


図112 碗・皿の量量

通柄・皿を分類する上で有効な属性である。「輪形」が過半数以上を占めており、これを用いる普通碗・皿の多いことが明らかである。しかし、腰高碗に相当する「台形」が高い割合を示していることは、これらの漆器が豊臣前期の遺物群であることを証明しており、過去の調査成果とも一致している。

図114は内外面における塗色別の個体数を示したものである。朱と赤は判別が難しいため、赤に統一して分析を行った。圧倒的に「総赤」のものが多く、次いで「内赤外黒」、「総黒」と続く。また、「茶」を塗布する漆器が、少量ながら出土していることは注目される。このような「赤」を主体とする傾向は、既知の成果とも一致しており、豊臣期の大坂城では「赤」が多用されていたことが再確認される結果となった。

図115は内外面・高台見付における文様別の個体数を示したものである。傾向を捉えるため、家紋・絵画・無文に大別して分析を行った。なお、「あり」とは判別不能の文様を示している。家紋・絵画が同程度みられる傾向も、過去の成果に矛盾するものではなく、塗色とともにバラエティに富む様相を示している。なお、実見の限りでは、完形品等の優品は無文や家紋文様を施したのことが多いことを注記しておく。

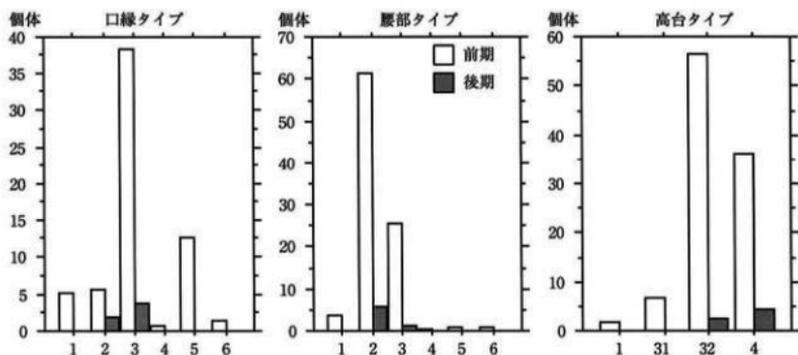


図113 碗・皿の形態

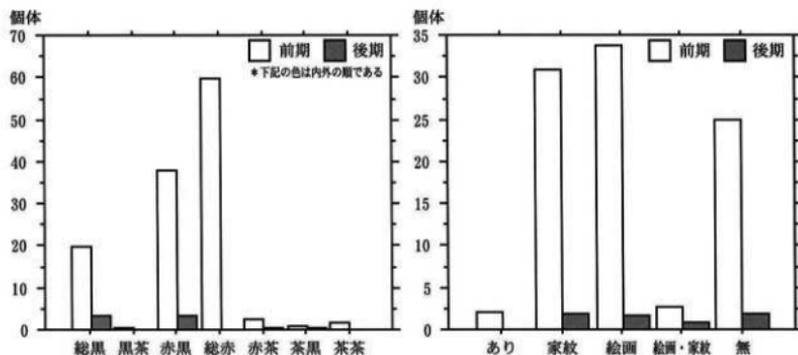


図114 碗・皿の塗色

図115 碗・皿の文様



表36 漆器一覧(2)

資料番号	区分	器名	遺構名	形制・流量 (cm)										産色・文様				備考					
				上縁 径寸	下縁 径寸	底面 径寸	口径	高さ	高さ 内径	口径	台高	胴高	底厚	筒厚	筒径	筒高	文様分 寸		文様 内径	文様 寸			
1250601	ⅡB	土師	3	5	4	9.0	5.3	4.9				0.4	0.7	60	33		44	13	象点				
1250602	ⅡB	土師	3	2	4	13.4						0.3	0	33			60	16					
1250603	ⅡB	土師	土師402	3	4		4.0	4.3	5.1	1.7	0.7	1.2	35	41	K3	F	24	17					
1251001	ⅡB	土師	土師404								0.2	0.1	44		K5	F	22	19					
1251002	ⅡB	土師	土師404								0.3	0	44				60	13					
1251101	ⅡB	土師	土師402								1.0	1.0	20	20			60	11					
1251102	ⅡB	土師	土師403								0.2	0	44				60	12					
1251103	ⅡB	土師	土師402								0.6	0.3	0.2	5	41		60	12					
1251201	ⅡB	土師	土師402	31							1.0	0.6	0.4	10	11	K3	F	107	13				
1251202	ⅡB	土師	土師402	32			7.2	6.2	7.4		0.5	0	33				60	12					
1251301	ⅡB	土師	土師402								0.9	1.0	41				60	14	1片				
1251401	ⅡB	土師	17~基礎遺構跡								1.2	5	11				60	16					
1251501	ⅡB	土師	土師402								0.2	0	44				60	11					
1251502	ⅡB	土師	土師402								0.2	0	44				60	11					
1251503	ⅡB	土師	土師402								11.8	12.6	0.2	0.4	0.6	25	1	60	18				
1252001	ⅡB	土師	土師402	3	32					11.4	0.9	0.2	0.9	0.7	15.0	45	K3	62	25	12片			
1254002	ⅡB	土師	土師402				4			5.5	4.7	6.0	0.6	0.2	5	34		60	12				
1254003	ⅡB	土師	土師402				4				6.8	0.8			5	31		60	12				
1251004	ⅡB	土師									1.0	0	11				60	16	半片				
1260201	ⅡB	土師	土師406	3			13.0				0.5	1.0	44				22	20	13片				
1260301	ⅡB	土師	土師396								0.3	1.0	20	20	K3	F	207	13	片				
1260401	ⅡB	土師	土師411	2	2	22	5.0	3.0	4.4	3.8	6.1	2.3	0.5	0.4	45	45	F	14	16	1片			
1260501	ⅡB	土師	土師415	3	2	32	14.0			3.8	5.2		0.3	0.3	15	33	K3	27	25	10片			
1260602	ⅡB	土師	土師419								0.4	0	33				60	14					
1260603	ⅡB	土師	土師417	5	2						0.2	0	33				60	18					
1260701	ⅡB	土師	土師400	3	4					6.2	3.8	7.0	1.1	0.7	0.8	11	K3	F	143	14	片		
1260801	ⅡB	土師	土師423	3							0.3	0	33				60	13					
1260901	ⅡB	土師	土師425								0.9	5	55				60	16	1片				
1261001	ⅡB	土師	土師425	1	3	13.0					0.6	0	44				60	14					
1261101	ⅡB	土師	土師395	3	32						0.6	0.8	18	44			60	13					
1261201	ⅡB	ⅠB(土師跡)	跡F209	3	2	12.0					0.7	4.0	53	K3	F	20	13	片					
1261401	ⅡB	土師	F+1509	2	32				7.0	6.0		0.3	0.4	33	33	K3	F	21	13	片			
1261402	ⅡB	土師	F+1509	2	32				11.4		0.4	5	41				60	13					
1261501	ⅡB	土師	跡F1610	6		12.0					0.4	1.0	11				60	16	1片				
1261601	ⅡB	ⅠB(土師跡)	土師541								0.2	0	33				60	11					
1261604	ⅡB	土師	土師541								0.7	2.0	41	K3	F	20	13	片					
1261602	ⅡB	土師	土師591	2	32				6.0	4.8	6.2	0.4	0.4	0.4	10	11	K3	F	14	19	片		
1261603	ⅡB	土師	土師591	2	32				6.0	4.4	6.4	0.4	0.4	0.4	10	11	K3	F	14	19	片		
1261701	ⅡB	土師	土師592								0.6	5	11				60	16					
1261702	ⅡB	土師	土師592	6					11.2	12.0	0.4	0.6	0.4	25	11			60	16	1片			
1261801	ⅡB	土師	土師513	2	2	32	13.0	4.9	6.2	5.4	6.8	0.7	0.4	0.4	45	45	K3	25	25	11片			
1261901	ⅡB	土師	土師514	2	2	32	12.2			0.8	0.0		0.3	0.3	40	44	K3	F	23	13	片		
1262001	ⅡB	土師	土師523	6	3	4			3.4	3.1		0.5	1.0	73	22	K1	F	21	16	1片			
1262101	ⅡB	土師	土師509	3	3		16.0				0.9	0	33				60	13					
1262201	ⅡB	土師	土師502	3	2	32	11.0			4.4	3.8		0.4	0.3	20	41	K3	F	24	14	片		
1262202	ⅡB	土師	土師502	3	2	32	12.0				0.5	2.0	44	K3	F	20	13	片					
1262301	ⅡB	土師	土師523	2	2						0.2	0	33				60	13					
1262401	ⅡB	土師	土師515	2	2	32	12.4		4.4	5.4		0.3	0.4	40	33	K3	30	8	21	34片			
1270101	ⅡB	ⅡB	18~12層								0.2	5	33	K3	F	207	12	片					
1270201	ⅡB	ⅡB	18~12層								0.5	1.0	11				60	16	1片				
1270302	ⅡB	ⅡB	18~10層								0.2	5	11				60	16	1片				
1270303	ⅡB	ⅡB	18~10層								0.4	1	55				60	16	1片				
1270401	ⅡB	ⅡB	18~10層	3	1	4	8.8	4.8	4.4		0.4	0.1	55	52	F	16	13	片					
1270402	ⅡB	ⅡB	18~10層	6	3	32	13.2		4.9		0.6	0.6	30	33	F	20	13	片					
1270502	ⅡB	ⅡB	18~10層	5	2	14.0					0.6	3.0	32	30	K3	F	20	13	片				
1270601	ⅡB	ⅡB	17~9層				4		6.8	6.2	8.1	2.3	1.0	1.8	11	30	F	01	13	片			
1270602	ⅡB	ⅡB	17~9層				4				5.2	5	3				60	13					
1270603	ⅡB	ⅡB	17~9層								0.2	6	33	K3	F	207	10	片					
1270701	ⅡB	ⅡB	17~9層				2	32			0.3	3.0	41	K3	F	205	14	19	片				
1270702	ⅡB	ⅡB	17~9層								5	6.5	5	41	K3	F	18	19	片				
1270703	ⅡB	ⅡB	17~9層								3.0	31	K3	F	207	13	片						
1270704	ⅡB	ⅡB	17~9層				5	32			15	33	K3	F	207	12	片						
1270705	ⅡB	ⅡB	17~9層				6	4	5.4	4.3		2.0	2.0	44	K3	F	227	12	片				
1270706	ⅡB	ⅡB	17~9層								1.0	11	K3	F	207	10	片						
1270901	ⅡB	ⅡB	18~10層								0.3	5	65				60	16	1片				
1270902	ⅡB	ⅡB	18~10層								0.4	5	11				60	16	1片				
1270903	ⅡB	ⅡB	18~10層								0.5	5	11				60	16	1片				
1270904	ⅡB	ⅡB	18~10層								0.6	1	10				60	11					
1280101	ⅡB	ⅡB	19層								0.9	2.0	25	11			60	16	1片				
1280201	ⅡB	ⅡB	19層								0.6	1.0	10				60	16	1片				
1280202	ⅡB	ⅡB	19層								1.0	1.0	10				60	16	1片				
1280303	ⅡB	ⅡB	19層								1.0	0.4	10				60	16	1片				
1280401	ⅡB	ⅡB	19層								7.0	7.4	5.3	0.3	0.9	40	41		60	16	1片		
1280501	ⅡB	ⅡB	19層								0.6	0.6	5	1			60	16	1片				
1280602	ⅡB	ⅡB	土師620	2	4				6.2	8.4	2.0	0.4	0.5	1.2	1.0			60	13	片			
1290101	ⅡB	ⅡB	19層								7.1	7.6	1.0	0.5	0.5	30	45	K3	F	25	13	片	
1290201	ⅡB	ⅡB	19層								12.0	13.4	0.2	0.5	0.2	39	11		60	11			
1290301	ⅡB	ⅡB	19層								7.0	6.8	7.0	0.7	0.8	10	11		60	16	1片		
1290401	ⅡB	ⅡB	19層								0.6	0.3	30				60	16	1片				
1290402	ⅡB	ⅡB	19層	3	1	1	12.4	3.2	6.4	6.0	6.4		0.4	0.3	20	21			60	16	1片		
1290502	ⅡB	ⅡB	19層	3	1	4	14.0	2.4	9.4	6.2			0.3	0.0	20	20			41	14	14片		
1290604	ⅡB	ⅡB	19層	3	1	32	11.0		6.4	5.1			0.6	0.5	20	20			60	16	1片		
1290605	ⅡB	ⅡB	19層	3	2	32	13.2	3.2	6.2	5.6	6.4	0.3	0.5	0.3	20	44	K3	F	17	24	14片		
1290606	ⅡB	ⅡB	19層								0.6	1.0	44	K3	F	207	10	片					
1290702	ⅡB	ⅡB	19層								0.5	0.5	30	30			60	16	1片				
1290800	ⅡB	ⅡB	19層				18.0				0.4	5	41	K3	F	207	12	片					
1290901	ⅡB	ⅡB	19層				3	2	32	15.0	6.2	7.2	5.2	6.9	6.9	5.5	5.2	70	41		60	16	1片
1290902	ⅡB	ⅡB	19層								6.4	6.7					6.4	4		60			

表37 漆器一覽(3)

資料番号	品名	規格名	形寸・流量 (mm)										塗色・文様		備考									
			上縁 H17	高台 H17	口径	縁高	底径	高台内径	台径	台高	縁深	底深	流量 (%)	文様分 内径		文様 外径								
1301300	7B	7~9脚	3	2	32						0.5	10	45		07	13脚								
1301307	7B	7~9脚	3	2	32			4.8	5.4	5.2	6.7	0.6	10	32		08	11脚							
1301308	7B	7~9脚	3	2	32						0.5	15	41	MY	18	207	12脚							
1301309	7B	7~9脚	3	2	32						0.7	11	41		06	14脚	1尺							
1301401	7B	7~9脚	1								0	0	05		00	02脚								
1301402	7B	7~9脚									0	11	7	P	107	3脚								
1301403	7B	7~9脚									15	44	7	P	207	20脚								
1301404	7B	7~9脚									0	11			00	10脚								
1301405	7B	7~9脚									15	44			08	43脚								
1301406	7B	7~9脚									0	46			00	32脚								
1301501	7B	7~9脚									0.7	5	11		00	10脚縁上	2尺							
1301502	7B	7~9脚									0.5	5	11		00	10脚縁上	2尺							
1301601	7B	6~9脚									10	11	7	P	207	10脚								
1301602	7B	6~9脚									15	44	KS	P	207	26脚								
1301603	7B	6~9脚									10	41			00	10脚品	10尺							
1301604	7B	6~9脚						8.4	7.6		13	88			00	本製品	1尺							
1301605	7B	6~9脚									10	40			00	15脚								
1301606	7B	6~9脚									15	41	7	P	207	20脚								
1301701	7B	6~9脚									0.7	5	05		00	10脚縁上	2尺							
1301702	7B	6~9脚									0.3	5	05	7	P	107	10脚縁上	2尺						
1301703	7B	6~9脚									0.3	5	11		00	11脚								
1301704	7B	6~9脚									0	40			00	11脚								
1301801	7B	6~9脚	3	2	32	13.0	6.0	7.2		7.2	0.7	0.6	0.3	00	91	MY	21	217	3脚					
1310101	7B	7脚	3	2	32	13.2	5.8	6.8		6.2	7.2	1.0	0.6	0.8	75	21	KS	P	24	43脚				
1310102	7B	7脚									0.5				00									
1310201	7B	7脚	2	3	31	12.0	3.4	7.2		5.6	7.2	0.6	0.5	0.2	90	11	KS	P	24					
1310301	7B	7脚				4					0.5				15	44								
1310302	7B	7脚	2								0.5				44	KS	P	207	22脚					
1310303	7B	7脚	2	32	10.0	3.2	5.2		4.1	5.4	6.4	0.4	0.5	0.0	41	MY	P	91	3脚					
1310304	7B	7脚	3	2	32	13.0		7.0		6.2		0.5	0.5	0.0	41	KS	P	207	42脚					
1310305	7B	7脚	3	2	31	13.2	3.9	6.4		5.2	6.4	0.9	0.4	0.3	21	31	KS	P	207	20脚				
1310306	7B	7脚(10脚上縁)	1	2	32	12.0	3.6	5.8		5.1	5.9	0.9	0.3	0.3	70	44	MY	44	14脚品	10尺				
1310307	7B	7脚	5	2	32		8.9	6.5		5.2		1.1	1.5	45	44	MS	P	24	10脚	10尺				
1320101	7B	8~9脚						8.0				1.4	5	05		00	15脚							
1320201	7B	8~9脚	1	2	31	8.9	2.5	5.5		4.9	3.8	0.9	0.2	0.2	60	33			00	10脚				
1320401	7B	8~9脚	3	2	31	12.4	3.5	6.8		6.2	5.7	0.8	0.5	0.1	5	05			00	10脚				
1320501	7B	8~9脚				4	2	1	4.9	1.2	3.8								00	10脚				
1320701	7B	8~9脚				32					5.4	6.4		0.3	0.2	40	11	MY	44	14脚品	合子			
1320702	7B	8~9脚				32					5.4	6.4		0.5	0.1	30	KS	P	207	20脚				
1320703	7B	8~9脚									5.4	6.4		0.5	0.1	15	41	KS	P	207	20脚			
1320704	7B	8~9脚				2	32	12.4		7.2	6.0		0.6	0.6	40	43	KS	P	207	10脚品使用	11尺			
1320705	7B	8~9脚									5.8	6.0		0.5	0.5	19	11	KS	P	207	20脚			
1320706	7B	8~9脚									5.8	6.3		0.3	0.5	11	41	7	P	207	21脚			
1320901	7B	8~9脚	3	2	32	12.0	3.7	5.6		6.7	5.8	0.5	0.4	0.2	25	41	MS	P	24	10脚縁上	2尺			
1320902	7B	8~9脚	2	32				6.2			5.8	6.0		0.5	0.4	60	33			00	10脚			
1320903	7B	8~9脚				2	32			7.6			0.4	0.4	30	41			00	10脚品使用	2尺			
1320904	7B	8~9脚	3	2	4	14.0		6.6		7.4	2.7	0.7	0.9	20	41	KS	P	207	20脚					
1320905	7B	8~9脚	3	2	32	10.1	4.5	5.5		6.2	5.2	0.6	0.5	0.0	41	MY	77	41		00	10脚品使用	3尺		
1320906	7B	8~9脚	5	2	32	11.0	2.7	5.0		4.4	5.1	0.4	0.4	0.0	50	44	MY							
1321001	7B	8~9脚	3	2	31			7.2		6.7	7.4	0.9	0.9	0.3	00	41	KS	P	91	3脚				
1321002	7B	10脚	1	3	32	9.1	3.8	6.0		6.4	5.5	0.5	0.4	0.1	15	MY			00	10脚	2尺			
1321003	7B	10脚	2	32				5.4		4.9	6.0	0.9	0.4	0.4	20	23	MY	P	91	22脚				
1321004	7B	10脚	2	32				6.4		6.1	6.5	0.5	0.5	0.2	11	KS	P	107	10脚					
1321005	7B	10脚	3	2	32	14.0	5.0	6.2		5.4	5.4	0.7	0.5	0.3	30	11	KS	P	207	20脚				
1321006	7B	10脚	2	32				6.4		6.0	6.4	1.0	0.5	0.6	30	11	KS	P	207	20脚				
1321007	7B	10脚				2	32	15.0				0.3	0.3	10	41	KS	P	207	10脚縁上	2尺				
1321008	7B	11~12脚										0.6	0.6	70	41	KS	P	207	10脚縁上	2尺				
1321009	7B	11~12脚	3	2	32	15.6	5.3	6.8		6.1	7.2	0.8	0.5							00	10脚			
1321010	7B	10脚										0.0	0.5	0.5	0	01			00	10脚	1尺			
1321011	7B	10脚				4				5.6	5.2	7.2	3.2	1.3	10	10	MY			00	10脚			
1321012	7B	10脚										0.5	0.5	10	11	MY	777	61	11		00	10脚		
1321013	7B	10脚								7.6	6.8	5.8	5.5	0.3	95	11	MY	44	14脚品	高				
1321014	7B	10脚										0.5	1.0	41					00	10脚	1尺			
1321015	7B	10脚										0.5	0.5	10	11				00	10脚縁上	本尺	1尺		
1321016	7B	10脚	1	3	32	13.4		6.9	6.4		0.6	0.4	30	33				00	10脚	2尺				
1321017	7B	10脚	3	4				7.0	6.6	6.9		0.7	0.9	30	33	MY	P	41	23脚					
1321018	7B	10脚										0.1	0.9	11	KS	P	207	20脚						
1321019	7B	10脚										0.5	0.5	5	33	MY	P	17	21					
1321020	7B	10脚										0.6	0.5	10	41			00	10脚					
1321021	7B	10脚										0.6	0.4	11	7	P	207	10脚						
1321022	7B	10脚	2	2		13.0						3.0	3.0	30	30									
1321023	7B	10脚	3	2	32	12.0	4.1	5.8		5.2	6.4	0.8	0.5	0.9	60	31	MY	P	24					
1321024	7B	10脚				2	32			5.5	5.5	0.5	0.5	0.1	KS	P	207	10脚						
1321025	7B	10脚				2	4			6.8	5.5	7.2	1.8	0.7	13	44			04	1尺				
1321026	7B	10脚	3	2	32	13.2	4.6	6.6		6.5	6.8	0.6	0.5	0.5	40	41	KS	P	61	22脚				
1321027	7B	10脚				2	32			6.2		0.5	0.5	0.0	41	MY			00	10脚				
1321028	7B	10脚				2	4			6.2	6.0		0.5	1.0	35	44			00	10脚				
1321029	7B	10脚				2	32			5.9	5.2		0.8	0.7	30	11	MY	P	34					
1321030	7B	10脚	3	2	32	13.4	5.4	7.0		6.8	7.1	0.8	0.6	0.7	23	31	MY	P	23					
1321031	7B	10脚								7.0	6.5	6.5	3.7		15	10	7	P	117					
1321032	7B	10脚				2	32			7.0	6.6	7.0	0.6	0.3	5.4	40	41	KS	MY	P	31	10脚		
1321033	7B	10脚				2	31			5.0	4.9	3.0	0.5	0.5	40	44	MY	44	11脚					
1321034	7B	10脚				2	32			6.2	6.1	5.4	0.6	0.3	6.1	41	MY	P	31	12脚				
1321035	7B	10脚				2	32			6.5	5	11	KS	P	30									
1321036	7B	10脚				32				6.6	5.9	6.6	0.7	0.3	5	41			00	10脚				
1321037	7B	10脚				32				5.9	4.1	6.5	1.8		6.1	10	41		00	10脚				
1321038	7B	10脚																						



表 39 漆器一覽(5)

資料番号	No	種名	通称名	形制・度量 (cm)										着色・文様				備 考				
				上縁幅	下縁幅	口縁	口深	底径	高さ内径	台径	台高	脚高	総高	積層数	積層高	文様分内径	文様分脚高					
144001	7B 漆器			2	4					5.8	5.1	6.0	0.7	0.5	0.7	21	95	4	207			
144002	7B 漆器													0.7	0	11			90	7片		
144003	7B 漆器			2	4	11.0				7.2	6.4			3.3	6.0	20	44	MS	P	207	12片	
144004	7B 漆器									6.8	6.0			6.8	1.2	11.5	20	41			207	12片
144005	7B 漆器					32				6.0	5.2			4.5	3.5	30	44	KS	P	207	11片	
144006	7B 漆器					32				6.0	5.2			0.3	0.4	5	41			90	14片	
144007	7B 漆器					32				6.0	5.2			0.5	0.6	23				90	2片	
144008	7B 漆器									6.0	5.4			0.6	0.4	13	44	KS	P	207	22片	
144009	7B 漆器									5.0				0.8	0.2	15	44	KS	P	207	裏面逆透	
144010	7B 漆器		3	3										1.0	1.0	20	41			90	裏面逆透 72片	
144011	7B 漆器		0	6										1.0	1.0	10	44			90	裏面逆透	
144012	7B 漆器		3	32						6.8	5.7	7.2	0.9	0.6	0.7	65	41	MI	P	91	32片	
144013	7B 漆器									6.4	5.4			1.2	1.5	20	41			90	裏面逆透	
144101	7B 漆器		3	2	32	12.6	4.7			6.6	5.5	6.5	0.4	0.4	65	41	KS	P	251			
144111	7B 漆器									6.2	5.0	6.4	0.8	0.5	0.5	25	44			90	12片	
144112	7B 漆器					2	32			6.2	5.0	6.4	0.8	0.5	0.5	25	44			90	12片	
144113	7B 漆器					4				6.2	5.4			0.7	0.5	20	44			90	12片	
144131	7B 漆器													0.4	0	11				90	12片	
144132	7B 漆器													0.7	0.5	44	KS	62	207	12片		
144133	7B 漆器		3	3										0.8	0	11	MS	P	207	12片		
144134	7B 漆器													0.5	0	5				90		
144135	7B 漆器		3	2	32	12.2				6.0	5.0			0.5	0.5	60	41			90	12片	
144136	7B 漆器									5.4	4.6			0.5	0.6	60	44	KS	P	207	12片	
144137	7B 漆器		3	4						5.0	4.6			0.7	1.4	28	44	KS	62	247	22片	
144138	7B 漆器									5.4	4.6			0.7	1.4	28	44	KS	62	247	22片	
144139	7B 漆器		3	4						5.4	4.6	6.0	2.0	0.8	1.2	25	44	KS	P	247	22片	
144141	7B 漆器		3	32						5.4	4.6	7.2	1.0	0.8	0.8	41				90	12片	
144142	7B 漆器									6.6	6.3			0.7	1.4	15	41			90	12片	
144143	7B 漆器									6.6	6.3			0.7	1.4	15	41			90	12片	
144144	7B 漆器		3	4						6.8	5.7	7.9	2.3	0.6	0.8	25	44			90	12片	
144145	7B 漆器		3	4						6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144146	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144147	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144148	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144149	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144150	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144151	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144152	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144153	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144154	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144155	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144156	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144157	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144158	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144159	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144160	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144161	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144162	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144163	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144164	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144165	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144166	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144167	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144168	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144169	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144170	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144171	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144172	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144173	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144174	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144175	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144176	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144177	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144178	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144179	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144180	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144181	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144182	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144183	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144184	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144185	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144186	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144187	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144188	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144189	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144190	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144191	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144192	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144193	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144194	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144195	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144196	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144197	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS	P	207	12片	
144198	7B 漆器									6.8	5.4	7.9	2.9	1.3	1.2	25	41	MS				

表40 漆器一覧(6)

資料番号	1/2	器名	通称	形制・寸法 (cm)										着色・文様			備考								
				上縁 H17	縁幅 H17	口径	底径	底径 高内径	台径	台高	脚高	容量 (%)	着色	文様 内容	文様 位置										
1501001	7B	漆		3	4			6.2	5.2	7.2	2.3	0.8	1.4	80	44	無	無	44	漆器17						
1501001	7B	漆		3	4	13.0		6.8				0.5		20	23			00	漆器						
1501701	7B	漆		4	5	4	13.0	6.4	5.0	7.4		1.1	1.5	40	11	K3	F	207	13片						
1501702	7B	漆		2	2		13.0					0.5	10	41				00	漆器						
1510101	7B	漆		2	2	32	13.8	4.8	6.4	5.2	6.2	0.7	0.5	13	40	K1	F	21	漆器						
1510101	7B	漆		3	5	4		6.2	5.4	7.4	2.2	0.8	1.5	65	44	K1	F	247	12片						
1510102	7B	漆		3	3							0.5	10	44				00	漆器						
1510201	7B	漆		3	3	32	13.0	4.8	6.0	4.9	6.2	0.8	0.5	14.4	44	K3	F	41	漆器						
1510301	7B	漆		3	3							0.7	10	33	K3	F	20	漆器							
1510302	7B	漆		2	2	32			4.2	3.4		0.5	0.5	5	44			00	漆器						
1510401	7B	漆		3	3	4	13.1		6.2	5.4		0.5	10	44				00	漆器						
1510401	7B	漆		3	3		13.2					0.8	25	11				00	漆器						
1510401	7B	漆		3	3		13.2					0.5	5	41				00	漆器						
1520001	7B	漆	漆(土上層)	漆/F27														00	漆器 1片						
1520001	7B	漆	漆	土灰724			30.0	3.3	30.0		1.6	1.1	0.9	0.6	19	45			00	漆器					
1520401	7B	漆	漆	漆/F21					6.7	5.5	8.0	2.0	0.6	10.9	30	41			00	漆器					
1520401	7B	漆	漆	漆/F21					6.8	5.9			1.2	10	1				00	漆器					
1520403	7B	漆	漆	漆/F21					6.7	5.6	7.4	1.0	0.6	15.2	40	44			00	漆器					
1520501	7B	漆	漆(土上層)	(72)			1	3	32	9.0	2.9	4.0	5.4	3.2	1.0	0.4	10.4	35	44	K3	F	41	漆器		
1520601	7B	漆	漆	土灰712								0.5	10	38					00	漆器	内側	削欠			
1520601	7B	漆	漆	土灰730					3	4									00	漆器	内側	削欠			
1520601	7B	漆	漆	土灰730			3	2	4	13.0	4.1	6.4	3.2	6.0	1.7	0.5	1.2	30	41	K3	F	01	13片		
1520601	7B	漆	漆(土上層)	土灰730								1.1	1	9	11				00	漆器					
1530001	7B	漆	漆	漆/F27			1	3	4	16.0	8.8	7.0	6.1	7.4	3.5	0.6	1.0	40	45	F		01	17片		
1530202	7B	漆	漆	漆/F27								6.6				0.9	25	41					00	漆器	
1530301	7B	漆	漆	土灰730			3	3	31	16.0	5.9	6.4	5.4	6.0	1.2	0.9	0.5	40	41	K3	F	247	漆器		
1530401	7B	漆	漆	土灰712			3	3	4	13.2	6.9	5.3	4.4	5.8	1.7	0.6	1.1	60	11	K3/K3	F	30	13片		
1530402	7B	漆	漆	土灰712			3	3	4	13.2	6.9	5.3	4.4	5.8	1.7	0.5	0.5	80	20	無	無	44	漆器		
1530501	7B	漆	漆	漆/F27			2	2	32	16.2	4.0					0.4	15.2	40	41	K3	F	24	14片		
1530601	7B	漆	漆	漆/F27								6.0				0.4	5	44					00	漆器	
1530701	7B	漆	漆(土上層)	漆/F27			2	2	32							0.3	0.4							00	漆器
1530702	7B	漆	漆(土上層)	漆/F27					4			7.0	5.8	7.6	2.1	1.6	1.0	9	8	K1	F	01	12片		
1530801	7B	漆	漆	土灰700			3	2	32		3.6	6.0	5.1			0.5	0.4	50	44	無	無	44	漆器	内側	削欠
1530901	7B	漆	漆	土灰700					3	4						0.3	19	41	K3	F			00	漆器	
1531001	7B	漆	漆	漆/F27								6.6				1.2	10	41					00	漆器	
1531101	7B	漆	漆	土灰742								6.6				0.5	5	11					00	漆器	
1531201	7B	漆	漆	土灰770			3		14.0							0.5	15	41	K3	F	207	12片			
1531301	7B	漆	漆	土灰711								10.2				0.9	10.0	20	9				00	漆器	
1540001	7B	漆	漆	土灰711			4		4			5.8	5.0	6.2	0.9	0.4	10.4	40	37	K1	F	01	11片		
1540202	7B	漆	漆				3	4				5.8	5.9	6.3	2.6	1.1	1.1	70	41	無	無	44	漆器		
1540301	7B	漆	漆									0.6	10	11									00	漆器	
1540301	7B	漆	漆									1.1	10	44									00	漆器	
1540401	7B	漆	漆									10.0				0.3	5	41					00	漆器	
1540501	7B	漆	漆													0.4	5	44	K3	F	207	11片			
1540601	7B	漆	漆													0.5	5	11					00	漆器	
1540701	7B	漆	漆				3	2	32	13.0	2.7	5.9	4.9	6.0	0.6	0.3	0.4	30	44				00	漆器	
1540801	7B	漆	漆				5		32			5.8	5.0	6.0	0.6	0.5	0.4	20	44	K3	F	107	24片		
1540901	7B	漆	漆									4.2				1.0	10	41					00	漆器	
1540902	7B	漆	漆									4.2				1.0	10	41					00	漆器	
1540903	7B	漆	漆									4.2				1.1	10	20					00	漆器	
1540904	7B	漆	漆				32					7.4	6.0	7.0	0.9		0.4	40	40				00	漆器	
1540905	7B	漆	漆				4					6.6	6.8	7.0		1.3	5	1					00	漆器	
1540906	7B	漆	漆				4					7.0				1.1	5	0					00	漆器	
1540907	7B	漆	漆													0.8	10	11					00	漆器	
1540908	7B	漆	漆													0.5	11	7	F				00	漆器	
1540909	7B	漆	漆													10	41	K3	F	207	29片				
1540910	7B	漆	漆													0.5	5	33	F				00	漆器	
1540911	7B	漆	漆	漆685			1	2	32	9.4	3.1	5.0	4.7	6.7	1.0	0.5	0.6	60	33	K1	F	41	13片		
1540921	7B	漆	漆	漆643			3	3	32			6.8	6.0	7.0	0.5	0.6	0.5	60	41	K3/K3	F	31	13片		
1540931	7B	漆	漆	土灰643			2	4	13.8	6.3		7.8	5.2	7.8	2.6	0.7	1.1	60	31	K3	F	23	14片		
1540941	7B	漆	漆	土灰633			2	4				6.4				0.6	0.7	60	44	K3	F	247	4片		
1540941	7B	漆	漆	土灰630												0.4	10	41	K3	F	207	11片			
1540951	7B	漆	漆	土灰648			3					6.3				0.9	10	44					00	漆器	
1540952	7B	漆	漆	土灰648								6.4				0.9	5	11					00	漆器	
1540953	7B	漆	漆	土灰648								6.7				1.0	11	11					00	漆器	
1540954	7B	漆	漆	土灰643								1.1				1.1	10	44					00	漆器	
1540954	7B	漆	漆	土灰643								0.7				0.5	5	44					00	漆器	
1540954	7B	漆	漆	土灰641								0.7				0.7	10	15					00	漆器	
1540954	7B	漆	漆	土灰641								0.6				0.6	0	55					00	漆器	

## 9. 銭貨

### (1) 前提 (図 121～128、写 140～144)

今回の調査では、とくに豊臣期の遺構埋土および包含層については全てを対象として水洗選別作業を貫徹し、各種遺物についてはほぼ遺漏なく取り上げを行っているものと判断している。銭貨についても破損して細片となったものも含めて、938点の銭貨を確認している。

本来であれば各遺構面、遺構ごとに出土銭貨を個別報告すべきところであろうが、そのような報告はあまり意味のあるものとは思えず、ここでは短期間のうちに盛衰した豊臣大坂城の特異性を鑑み、一括して報告を進めることにしたい。

なお、一覧表中において出土層位を7～10層として特定できていないものがあるが、これは作業ヤードの関係で各層を厳密に峻別することができなかつたことに起因している。いずれにしても、上記のような問題は内包するものの、銭貨の出土傾向を把握する上においては有意なデータであると考えている。

また、出土銭貨には銭文が不鮮明なもの、薄くて質量が軽いもの、裏面が平坦なものなど明らかに模倣銭と考えられるものが多数含まれているが、ここでは銭文を最上位の属性として記述を進めることにしたい。

なお、今回の報告にあたっては出土銭貨のうち、完形もしくは限りなく完形に近いもの、裏面に文字などがあるものについて網羅し、図版作成にあたっては年代順ではなく、検索を効率的に行えるように50音順で配列を行っている。また、番号については無用の混乱を避けるため、新たな番号を付すことなく調査・整理段階に付した通し番号をそのまま準用して一覧表とし(表41～51)、遺物自体にも裏面下位にこの番号を注記している。なお、この番号は江戸時代以降の銭貨を含んだものであり、したがって部分的に欠落している番号があるが、これは江戸時代以降の層位から出土した銭貨である。

なお、法量に関しては直径・厚さ・孔径はデジタルキャリパー (MITUTOYO CD-S20C) を用いてミリメートルを単位として小数点2位までを計測している。なお、直径および孔径については銭文を正置した状態での縦方向を計測している。ただし、破片の場合はこの限りではない。また、厚さについては基本的に最大厚を計測している。質量は保存処理前に電子天秤を用いて、グラムを単位として小数点2位までを計測、処理後には電子天秤を用いてグラムを単位として小数点1位までの計測を行っている。なお、本報告で示した質量については基準を一定にするために保存処理作業後に行った計測値のみを提示している。これは保存処理前では土砂や鉄分などの付着したものが多く、当然のことながらそれを除去した処理後の質量が少なく、一方、きれいな状態のものでは保存処理に伴ってわずかではあるが質量が増えているからである。ただし、質量が増えているものでも小数点1位のレベルでは大きな違いは認められない程度であり、元来の質量とは異なっていることは自明の事実ながらも、相対的な比較に際しては有効であると考えている。

保存処理については事前調査(X-ray撮影)→クリーニング→B. T. Alによる腐食促進因子の安定化(B. T. A 1.5%エタノール溶液使用 50 cm Hg で 1hr) →樹脂含浸 (Paraloid B72 20%アセトン溶液 50 cm Hg で 2hr) →仕上げ (インクラック塗布) という工程を経ている。

### (2) 出土状況

今回の調査では江戸時代の銭貨を含めて938点の銭貨を確認している。このうち、徳川大坂城時代の遺構および徳川大坂城築城にともなう盛土と考えられる4層から出土した銭貨が55点あり、したがって豊臣大坂城段階の銭貨は883枚となる。全体的傾向としては、遺構からの出土が10%弱で整地層を含む包含層からの出土が90%を超えている。

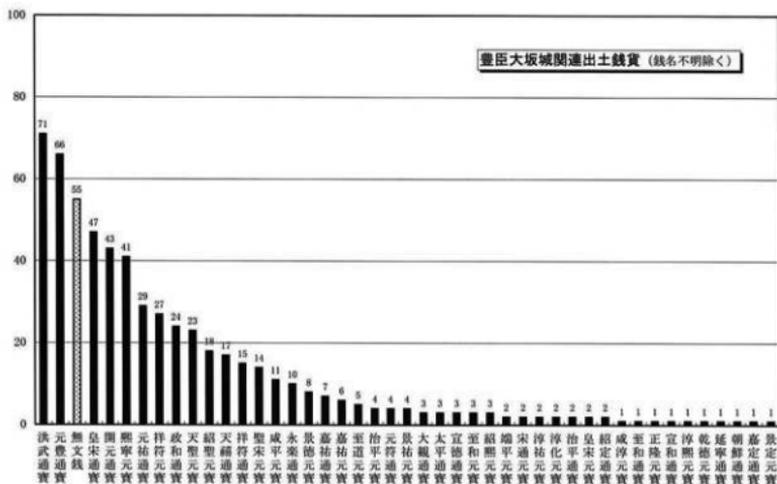


図116 銭貨の出土順位(1)

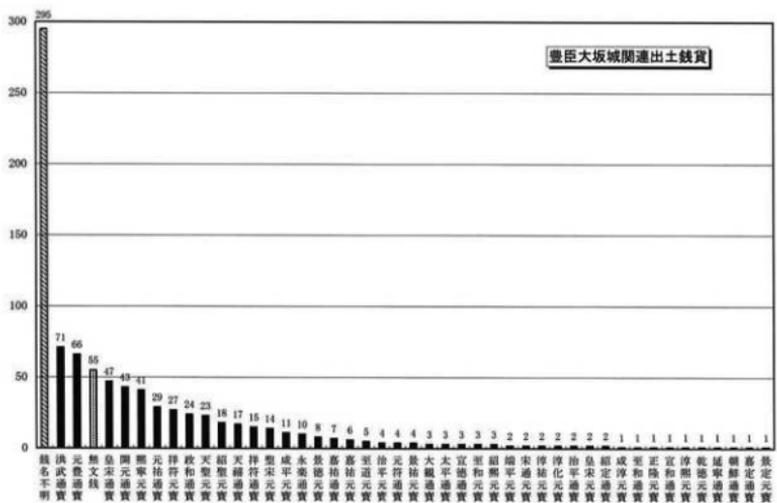


図117 銭貨の出土順位(2)

また、すでに記述してきたように豊臣期の遺構は地形的に高い南半の7A地区では徳川大坂築城にもない大きく削平されている。そのような中であって井戸328では35点と比較的まとまった数の銭貨が出土しているものの、7A地区全体として銭貨の出土は多くない。

一方、北半の7B地区では谷部からは豊臣期の遺構面を重層的に検出し、ここからは単純計算で1.73m<sup>2</sup>/枚、およそ畳1畳(1.62m<sup>2</sup>)に1枚という密度で銭貨が出土している。そのほか、緋銭のまま蘆着した状態の銭貨が6組、計43枚出土している。

また、銭貨のうちには破損したのも多く、完形で出土したものは総数の60%ほどであり、破片での出土は40%以上にもおよんでいる。これらの破片については接合を行っているが、接合したのは数点程度であり、埋没段階においてすでに破損していた割れ銭が多数存在していたことを示している。

### (3) 銭種の傾向

883点のうち銭文が判読できないものや、欠損などによって銭種が確定できないものが295点あり、全体の31%を占めている(図119)。以下では、これらを除外して銭文が確定できたものを対象として記述を進める。

銭文が確定できたものは44種553点を数え、これ以外に55点の無文銭が出土している。銭文があるものでは、洪武通寶が71点と最も多く、これに66点の元豊通寶が続く。以下、無文銭、皇宋通寶、開元通寶、熙寧元寶と続く。これら6種はいずれも確定できただけで40点以上の出土数を数えるものであり、あわせて323点と全体の約6割を占め、銭種に大きく偏りがみられることが看取できる(図118)。北宋銭あるいは北宋銭を模鋳したものが全体の64%と多く、明銭も16%含まれる。全体として中国銭が大半を占めるが、朝鮮通寶や延寧通寶(後黎)などの銭貨もわずかに含まれている。

### (4) 模鋳銭

今回の調査で出土した銭貨の特徴としては無文銭が55点と今回の調査における出土順位では3位、占有率も10%以上を超えている。また、銭文を有する銭貨の中でも、明らかに模鋳銭と考えられるものが185点と銭文を有する銭貨の1/3を超える高い割合で含まれている。また、各種銭種のうち、完形品が20点以上出土している8種の銭貨の質量と直径の関係を瞥見してもわかるように、非常に大きなばらつきが認められ、肉眼観察による判定と呼応して多くの模鋳銭を含んでいることを証左している(図120)。

なお、本報告では本銭と模鋳銭の比較を可能としようように全容を知りうる銭貨については網羅的に表裏面の拓本を図版として掲載し、かつ拓本下部には法量を添えている。

また、一覧表には直径に対する質量の比率(質量/直径)を指数として掲げている。これは単に質量だけを比較しただけでは、もともと直径が小さい洪武通寶などの場合、同じ組上での比較が困難であることによる。上記の指数を用いることによって、直径に対する質量の比率が比較可能となり、数値が小さければ小さいほど直径に対して質量が小さいことを示し、模鋳銭を見極めるための一つの目安となる。しかしながら、模鋳銭の中にも本銭とほぼ同じ程度の質量を有するものもあり、単純には割り切れない部分もあるが、参考までに掲げておくことにした。

なお、直径と質量の比率をみると、当然のことながら無文銭では小さく0.02~0.08、平均0.05である。ちなみに銭文をもつ銭貨では平均が0.12であり、この数値自体は本銭と模鋳銭が混在する中にあっては大きな意味をもつものではないが、逆に目安としては参考としようものと考えている。ここでは全ての銭貨について個々に記述していく余裕はないが、事実、指数が0.12を大きく下回る銭貨では銭文が不鮮明であったり、裏面が平滑であるなどの特徴が顕著である事実が看取され、X線写真でも果が入った状態のも

の多い(写144)。模倣銭の抽出に際して顕著な事例に対してはある程度有効であるといえる。なお、諸属性から明らかに模倣銭と考えられるものは185点を数え、少なくともかなりの比率で模倣銭が含まれていることになる。これらについては備考欄に模倣銭と付記している。

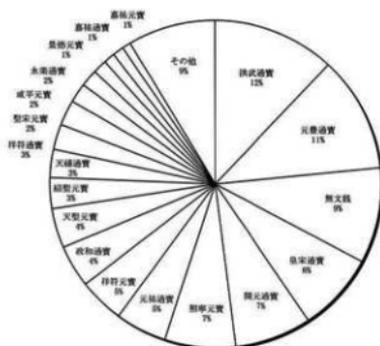


図118 銭貨の出土比率(1)

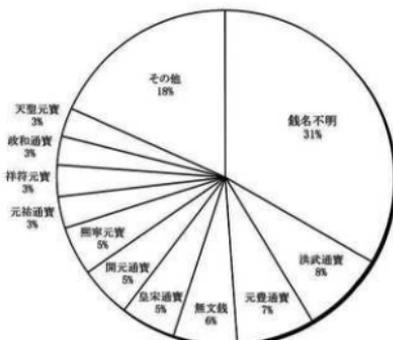


図119 銭貨の出土比率(2)

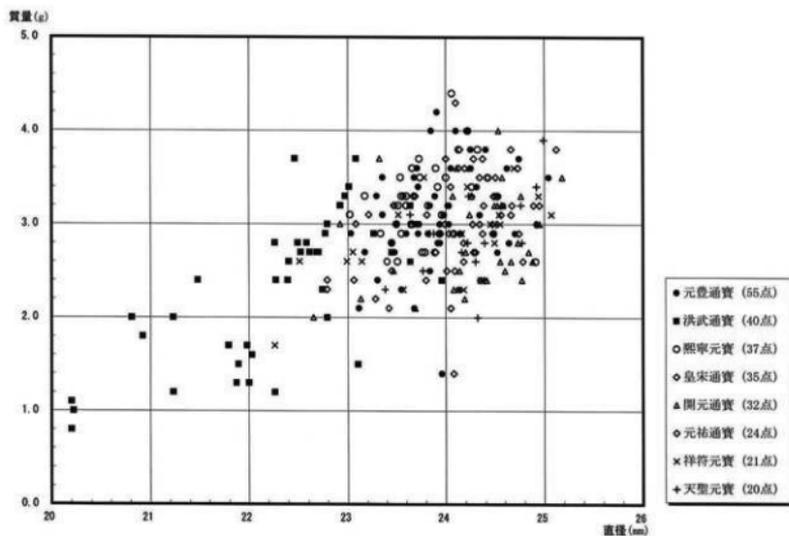


図120 主要銭貨の直径と質量

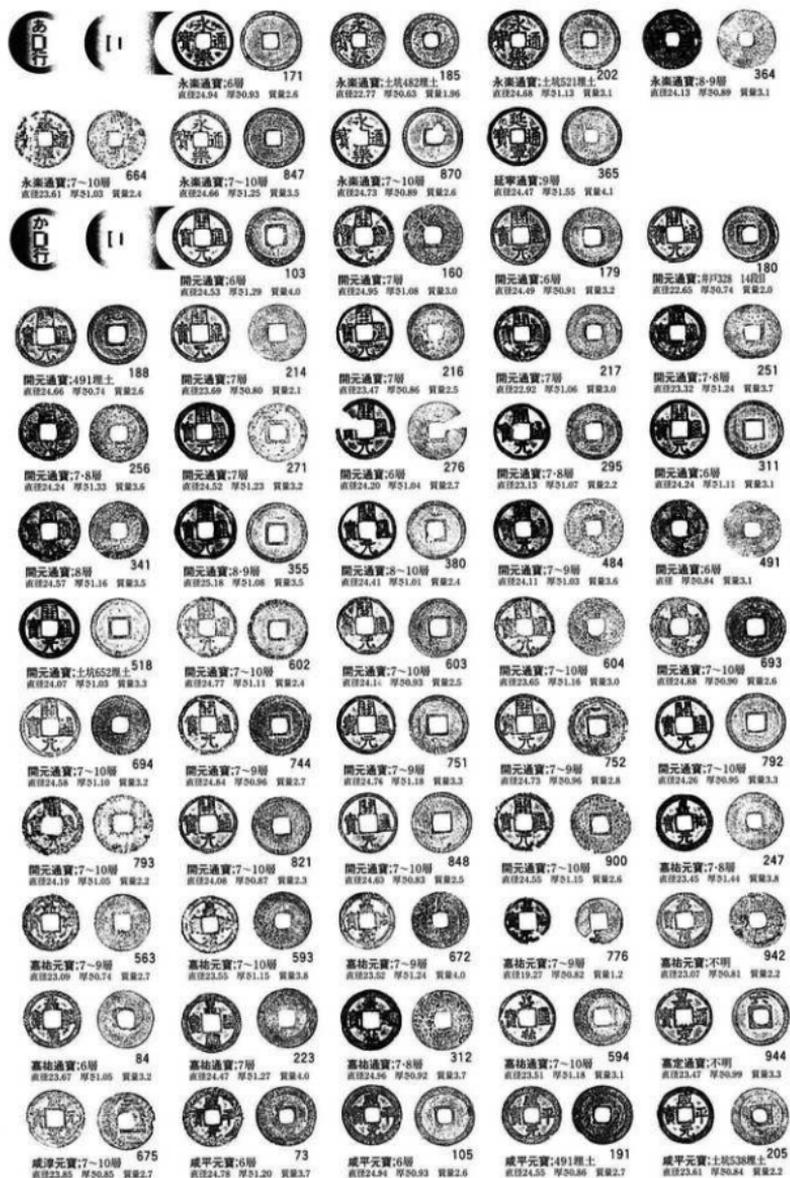


图 121 錢貨 (1) (1:2)





圖 123 錢貨 (3) (1:2)



図124 銭貨(4)(1:2)

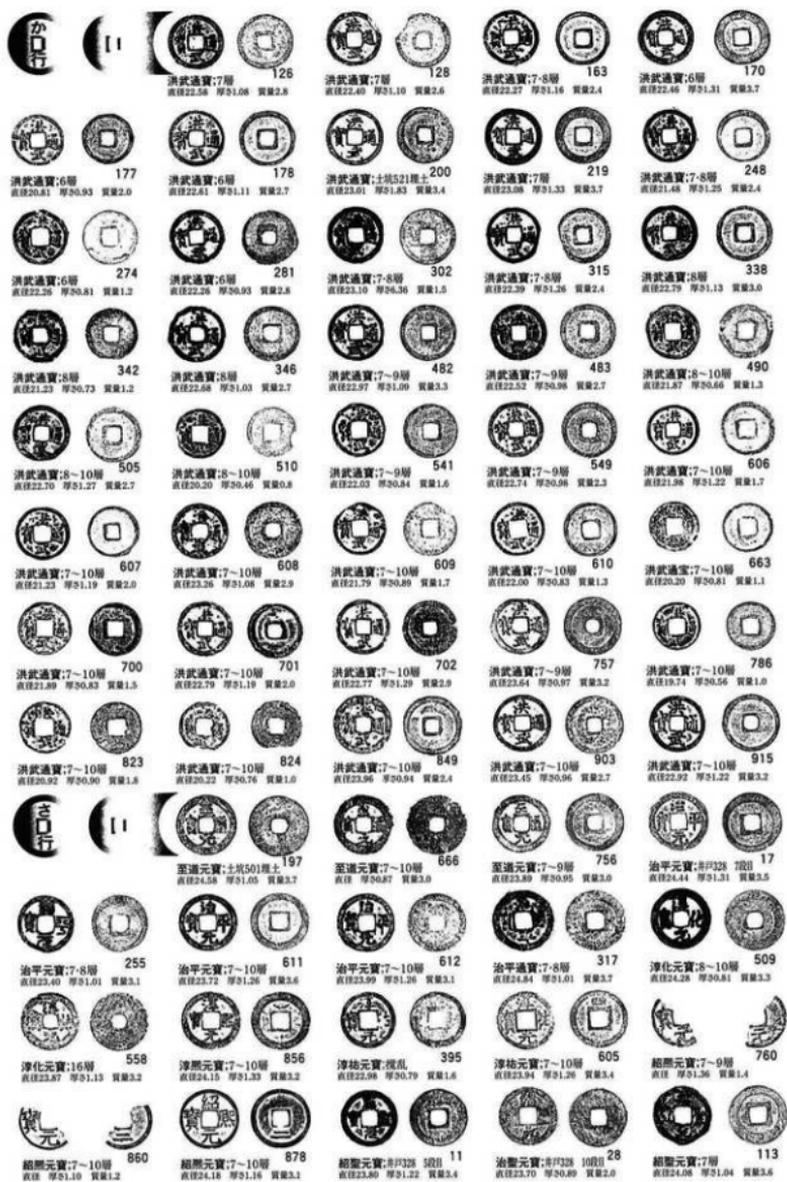


圖 125 錢貨 (5) (1:2)



図126 銭貨(6)(1:2)



圖 127 錢貨 (7) (1 : 2)



図128 銭貨(8)(1:2)

表 41 豊臣銭貨一覽(1)

番号	H/F	通稱	單位	種類	直径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	質量(g)	換符率	直径/質量	登録番号	備 考
1	7A	井戸328	3段目	〇〇貫	—	—	1.00	1.0	1/4	—	665	真書
2	7A	井戸328	5段目	押付元寶	24.49	6.32	0.79	2.8	宛存	0.11	662	真書・模範銭
3	7A	井戸328	5段目	押付通寶	24.64	6.28	0.97	3.2	宛存	0.13	662	真書・模範銭
4	7A	井戸328	5段目	天福通寶	24.31	6.25	0.99	3.1	宛存	0.13	662	真書
5	7A	井戸328	5段目	皇宋通寶	24.95	6.79	0.95	3.2	宛存	0.13	662	真書・模範銭
6	7A	井戸328	5段目	皇宋通寶	24.03	6.70	0.92	2.9	宛存	0.13	662	真書
7	7A	井戸328	5段目	元豐通寶	24.09	6.30	0.84	2.2	宛存	0.09	662	行書
8	7A	井戸328	5段目	元豐通寶	23.75	7.02	1.06	3.3	宛存	0.14	662	行書
9	7A	井戸328	5段目	元祐通寶	24.05	7.15	1.24	2.1	宛存	0.09	662	行書
10	7A	井戸328	5段目	元祐通寶	24.13	6.99	1.10	3.6	宛存	0.15	662	行書
11	7A	井戸328	5段目	紹聖元寶	23.80	6.45	1.22	3.4	宛存	0.14	772	鎌書
12	7A	井戸328	5段目	政和通寶	24.75	6.17	1.10	3.1	宛存	0.13	662	分幣
13	7A	井戸328	5段目	不明	—	—	1.10	0.7	欄片	—	662	—
14	7A	井戸328	6段目	乾德元寶	23.66	6.76	1.25	3.3	宛存	0.14	772	—
15	7A	井戸328	6段目	元豐通寶	24.52	6.96	0.85	2.7	宛存	0.11	772	行書・模範銭
16	7A	井戸328	6段目	皇宋通寶	25.12	7.08	1.00	3.8	宛存	0.15	772	真書
17	7A	井戸328	7段目	簡平元寶	24.44	6.52	1.31	3.5	宛存	0.14	774	真書
18	7A	井戸328	7段目	元豐通寶	23.93	6.67	0.92	2.9	宛存	0.12	774	行書
19	7A	井戸328	7段目	〇〇貫	—	—	1.07	1.0	1/4	—	774	真書
20	7A	井戸328	7段目	無文銭	—	—	0.94	0.8	1/2	—	774	—
21	7A	井戸328	9段目	聖和通寶	24.61	6.75	1.03	3.5	宛存	0.14	776	鎌書
22	7A	井戸328	10段目	政和通寶	23.52	6.91	0.67	1.5	宛存	0.06	778	分幣・模範銭
23	7A	井戸328	10段目	〇〇貫	—	—	1.21	0.9	1/4	—	778	真書
24	7A	井戸328	10段目	〇〇通	—	—	1.01	0.6	欄片	—	778	真書・模範銭
25	7A	井戸328	10段目	洪武通寶	—	—	0.86	1.0	1/2	—	779	真書
26	7A	井戸328	10段目	〇〇貫	—	—	0.78	0.7	1/4	—	779	真書・模範銭
27	7A	井戸328	10段目	攝隆元寶	24.20	6.28	1.07	3.6	宛存	0.15	779	真書
28	7A	井戸328	10段目	紹聖元寶	23.70	6.77	0.89	2.0	宛存	0.08	779	行書・模範銭
29	7A	井戸328	10段目	天聖元寶	24.77	7.32	0.92	2.8	宛存	0.11	779	真書
30	7A	井戸328	10段目	〇〇通寶	—	—	1.07	—	1/2	—	779	真書・模範銭
69	7B	6編	〇〇貫	—	—	1.08	0.4	欄片	—	793	真書	
70	7B	6編	〇〇元寶	—	—	0.96	0.6	1/4	—	793	真書	
71	7B	6編	皇宋通寶	—	—	0.76	0.8	1/2	—	793	鎌書・模範銭	
72	7B	6編	元祐通寶	—	—	1.16	1.3	1/2	—	793	鎌書	
73	7B	6編	咸平元寶	24.78	6.04	0.82	3.1	宛存	0.13	793	真書	
74	7B	6編	開元通寶	24.58	6.24	1.06	3.1	3/4	—	794	—	
75	7B	6編	攝隆元寶	—	—	0.18	1.19	2.9	3/4	—	877	真書
76	7B	6編	政和通寶	24.13	6.89	0.92	3.2	宛存	0.13	800	鎌書	
77	7B	6編	押付元寶	24.94	6.04	1.00	3.3	宛存	0.13	800	真書	
78	7B	6編	垂祐通寶	24.02	7.07	0.94	1.7	1/2	—	876	真書	
79	7B	6編	押付元寶	22.90	—	0.75	1.5	1/2	—	876	真書	
80	7B	6編	端平元寶	24.22	6.52	1.28	3.6	宛存	0.15	836	背元	
81	7B	6編	景徳元寶	24.55	6.04	1.06	3.4	宛存	0.14	873	真書・模範銭	
82	7B	6編	元祐通寶	23.47	7.11	1.16	3.2	宛存	0.14	873	鎌書	
83	7B	6編	元祐通寶	23.67	6.89	1.18	3.3	宛存	0.14	873	行書	
84	7B	6編	嘉祐通寶	23.67	7.11	1.05	3.2	宛存	0.14	873	鎌書・模範銭	
85	7B	6編	簡平通寶	—	—	0.99	1.2	1/2	—	873	鎌書	
86	7B	6編	〇〇通寶	—	—	1.37	1.4	1/2	—	873	行書	
87	7B	6編	天〇〇貫	—	—	0.83	0.9	1/2	—	873	真書	
88	7B	6編	開元通寶	—	—	0.94	0.6	1/4	—	873	—	
89	7B	6編	〇〇貫	—	—	0.84	0.6	1/4	—	873	真書・模範銭	
90	7B	6編	〇〇貫	—	—	0.79	0.7	1/4	—	873	真書	
91	7B	6編	無文銭	23.33	6.71	0.45	1.2	宛存	0.05	873	—	
92	7B	6編	皇宋通寶	22.59	—	0.90	0.9	1/2	—	837	鎌書・模範銭	
93	7B	6編	皇宋通寶	24.60	6.48	1.23	3.5	宛存	0.14	874	鎌書・模範銭	
94	7B	6編	洪武通寶	—	—	0.94	0.7	1/4	—	874	真書	
95	7B	6編	〇〇元寶	—	—	1.04	0.8	1/4	—	874	模範銭	
96	7B	6編	皇宋通寶	24.34	6.46	1.03	3.5	宛存	0.14	875	真書・模範銭	
97	7B	6編	皇宋通寶	23.69	6.76	1.28	3.3	宛存	0.14	875	鎌書	
98	7B	6編	元豐通寶	23.96	7.98	0.63	1.4	宛存	0.06	875	行書・模範銭	
99	7B	6編	政和通寶	24.26	—	1.07	1.5	1/2	—	875	分幣・模範銭	
100	7B	6編	永樂通寶	—	—	1.13	0.8	1/4	—	901	—	
101	7B	6編	押付元寶	23.57	6.81	0.80	2.3	宛存	0.10	1337	—	
102	7B	6編	元豐通寶	23.69	6.76	1.02	3.0	宛存	0.13	1337	行書	
103	7B	6編	開元通寶	24.53	6.86	1.29	4.0	宛存	0.16	1052	背上月	
104	7B	6編	洪武通寶	—	—	1.02	0.7	1/4	—	1054	真書	
105	7B	6編	咸平元寶	24.73	6.17	1.20	3.7	宛存	0.15	1147	真書	
106	7B	6編	簡平元寶	23.72	6.79	1.07	3.7	宛存	0.16	1147	真書	
107	7B	6編	元祐通寶	23.77	6.79	1.33	3.7	宛存	0.16	1316	鎌書	
108	7B	7編	押付通寶	23.52	6.18	1.13	3.3	宛存	0.14	1155	真書	
109	7B	6編	押付元寶	24.93	6.31	0.91	3.0	宛存	0.12	1154	真書・模範銭	
110	7B	7編	洪武通寶	22.49	5.74	1.26	2.8	宛存	0.12	1449	真書	
111	7B	7編	宣徳通寶	24.94	5.41	1.05	3.6	宛存	0.14	1449	—	
112	7B	7編	押付元寶	24.54	6.55	1.03	3.1	宛存	0.13	1449	真書・模範銭	
113	7B	7編	紹聖元寶	24.08	6.91	1.04	3.6	宛存	0.15	1449	行書	
114	7B	7編	元〇通寶	24.19	5.83	1.16	2.4	1/2	—	1449	行書	
115	7B	7編	〇〇通寶	—	—	1.09	1.4	1/2	—	1449	—	
116	7B	7編	洪武通寶	22.28	5.58	1.05	1.4	1/2	—	1449	—	
117	7B	7編	〇〇元〇	—	—	1.06	1.4	1/2	—	1449	真書	
118	7B	7編	〇〇通〇	—	—	0.90	1.1	1/2	—	1449	真書・模範銭	
119	7B	7編	開元通寶	—	—	0.85	0.9	1/4	—	1449	—	

表42 豊臣銭貨一覽(2)

番号	1/2寸	遺構	層位	種類	直径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	残存率	直徑/重量	登録番号	備考
120	7B		7層	不明	—	—	—	—	—	—	1449	
121	7B		7層	○未○○	—	—	0.93	0.7	1/4	—	1449	鎌倉
122	7B		7層	○○透○	—	—	0.97	0.8	1/4	—	1449	鎌倉
123	7B		7層	○○○貫	—	—	1.02	0.6	1/4	—	1449	鎌倉
124	7B		7層	○平○○	—	—	0.87	0.6	1/4	—	1449	鎌倉
125	7B		7層	○未○○	—	—	0.75	0.5	銅片	—	1449	鎌倉
126	7B		7層	浪式通貫	22.58	5.80	1.08	2.8	宛存	0.12	1454	鎌倉
127	7B		7層	無字元貫	24.26	7.16	1.08	3.4	宛存	0.14	1454	鎌倉
128	7B		7層	浪式通貫	22.40	6.16	1.10	2.6	宛存	0.12	1538	鎌倉
129	7B		7層	宗徳元貫	24.89	6.32	1.28	3.6	宛存	0.14	1538	鎌倉
130	7B		7層	紹興元貫	23.71	6.47	1.28	3.5	宛存	0.15	1538	鎌倉
131	7B		7層	聖宗元貫	23.83	6.69	1.32	3.4	宛存	0.14	1538	鎌倉
132	7B		7層	聖和元貫	23.93	6.92	1.04	3.3	宛存	0.14	1538	鎌倉
133	7B		7層	祥○○○	—	—	1.05	0.9	1/4	—	1538	鎌倉
134	7B		7層	紹興元貫	—	—	1.15	1.6	1/2	—	1538	鎌倉
135	7B		7層	政和通貫	—	—	1.03	1.2	1/2	—	1538	分幣
136	7B		7層	聖宗元貫	—	—	1.27	1.2	1/4	—	1538	鎌倉
137	7B		7層	紹興元貫	—	—	1.05	1.7	1/2	—	1538	鎌倉
138	7B		7層	○○○透	—	—	0.82	0.7	1/4	—	1538	鎌倉
139	7B		7層	皇○○○	—	—	1.01	0.9	1/4	—	1538	鎌倉
140	7B		7層	○○○貫	—	—	0.96	0.7	1/4	—	1538	鎌倉
141	7B		7層	不明	—	—	0.88	0.5	銅片	—	1538	鎌倉
142	7B		7層	不明	—	—	1.11	0.3	銅片	—	1538	鎌倉
143	7B		7層	政和通貫	24.11	6.56	0.87	2.2	宛存	0.09	1541	分幣・模倣銭
144	7B		7層	無文銭	22.20	7.17	0.80	1.7	宛存	0.08	1541	鎌倉
145	7B		7層	無○貫	—	—	1.05	1.9	1/2	—	1541	鎌倉
146	7B		7層	不明	—	—	0.99	0.8	1/2	—	1541	鎌倉
147	7B		7層	浪和通貫	—	—	1.05	0.7	1/4	—	1541	分幣
148	7B		7層	天○○○	—	—	1.21	1.0	1/4	—	1541	鎌倉
149	7B		7層	無文銭	—	—	0.67	0.4	銅片	—	1541	鎌倉
150	7B		7層	元徳通貫	23.30	7.05	1.07	2.4	宛存	0.10	1539	鎌倉
151	7B		7層	宣統通貫	24.73	5.28	0.88	3.1	宛存	0.13	1539	鎌倉
152	7B		7層	元徳通貫	23.92	7.25	0.86	2.8	宛存	0.12	1539	行書・模倣銭
153	7B		7層	政和通貫	24.34	6.37	1.03	3.0	宛存	0.12	1539	鎌倉
154	7B		7層	皇徳通貫	24.89	6.86	1.02	3.2	宛存	0.13	1539	鎌倉
155	7B		7層	聖宗元貫	23.70	6.73	1.04	3.3	宛存	0.14	1539	鎌倉
156	7B		7層	浪和元貫	23.64	5.92	0.88	2.6	宛存	0.11	1539	行書・模倣銭
157	7B		7層	不明	22.59	6.67	0.62	2.4	宛存	0.11	1539	模倣銭
158	7B		7層	無字元貫	—	—	0.97	1.6	1/2	—	1539	鎌倉
159	7B		7層	○○○貫	—	—	0.89	1.4	1/2	—	1539	鎌倉・模倣銭
160	7B		7層	浪和通貫	24.95	7.26	1.08	3.0	宛存	0.12	1539	模倣銭
161	7B		7層	○和○貫	—	—	0.93	1.4	1/2	—	1539	鎌倉
162	7B		7層	○○透○	—	—	0.73	0.7	銅片	—	1539	模倣銭
163	7B		7-8層	浪式通貫	22.27	5.93	1.16	2.4	宛存	0.11	1802	鎌倉
164	7B		7-8層	聖宗元貫	23.22	6.66	1.03	3.2	宛存	0.14	1802	鎌倉・模倣銭
165	7B		7-8層	祥符通貫	22.74	6.90	0.71	2.1	宛存	0.09	1802	鎌倉・模倣銭
166	7B		7-8層	不明	—	—	0.53	0.4	銅片	—	1802	模倣銭
167	7B		7-8層	不明	—	—	0.57	0.6	銅片	—	1802	模倣銭
168	7B		6層	祥符元貫	24.45	6.27	0.79	3.0	宛存	0.12	1654	鎌倉
169	7B		6層	不明	23.29	6.34	0.83	2.3	宛存	0.10	1235	模倣銭
170	7B		6層	浪式通貫	22.46	5.93	1.31	3.7	宛存	0.16	1625	鎌倉
171	7B		6層	永樂通貫	24.94	6.32	0.93	2.6	宛存	0.10	1355	鎌倉
172	7B		6層	祥符○貫	—	—	0.43	0.8	2.1	1/2	1355	鎌倉・模倣銭
173	7B		6層	○○○貫	—	—	2.25	0.43	0.6	3/4	1355	174と接合・模倣銭
174	7B		6層	浪和通貫	—	—	—	—	—	—	1355	173と接合・模倣銭
175	7B		6層	天聖元貫	24.39	7.50	0.85	2.8	宛存	0.11	1227	鎌倉・模倣銭
176	7B		6層	天聖元貫	24.32	6.34	0.89	2.6	宛存	0.08	1250	鎌倉
177	7B		6層	浪式通貫	23.81	5.90	0.93	2.6	宛存	0.10	1249	鎌倉
178	7B		6層	浪式通貫	23.61	6.06	1.11	2.7	宛存	0.12	1251	鎌倉
179	7B		6層	開元通貫	24.49	6.94	0.91	3.2	宛存	0.13	1245	鎌倉
180	7A	井戸328	14段目	浪和通貫	22.65	6.54	0.74	2.0	宛存	0.09	1023	鎌倉
181	7A	井戸328	14段目	政和通貫	24.41	6.06	1.17	1.9	3/4	—	1023	分幣
182	7A	井戸328	14段目	不明	—	—	0.16	1.06	1.0	3/4	1023	模倣銭
183	7A	井戸328	13段目	元祐通貫	23.57	6.81	1.04	3.3	宛存	0.14	1006	鎌倉
184	7A	井戸518	1-3段目	聖宗元貫	23.58	6.72	1.12	3.7	宛存	0.16	1117	鎌倉・模倣銭
185	7A	土坑482	埋土	永樂通貫	22.77	5.77	0.63	1.9	宛存	0.08	997	鎌倉
186	7A	土坑482	埋土	天聖元貫	24.24	6.73	0.96	3.0	宛存	0.12	997	鎌倉
187	7A	土坑501	埋土	皇宗通貫	24.08	6.32	0.86	1.4	宛存	0.06	786	鎌倉
188	7A	H <sup>+</sup> 集積遺構491	埋土	浪和元貫	24.66	7.09	0.74	2.6	宛存	0.11	806	鎌倉
189	7A	H <sup>+</sup> 集積遺構491	埋土	無字元貫	23.82	7.15	0.87	3.2	宛存	0.13	806	鎌倉・模倣銭
190	7A	H <sup>+</sup> 集積遺構491	埋土	無字元貫	23.77	5.97	1.58	2.5	3/4	—	880	鎌倉
191	7A	H <sup>+</sup> 集積遺構491	埋土	咸平元貫	24.55	6.35	0.86	2.7	宛存	0.11	880	鎌倉
192	7A	H <sup>+</sup> 集積遺構491	埋土	天○○○	—	—	—	—	—	—	880	鎌倉
193	7A	H <sup>+</sup> 集積遺構491	埋土	不明	—	—	—	0.86	1.1	1/2	880	鎌倉
194	7A	H <sup>+</sup> 集積遺構491	埋土	○○結通貫	—	—	—	1.09	1.6	1/2	881	行書
195	7A	土坑494	埋土	祥符元貫	23.05	5.82	1.01	2.7	宛存	0.12	994	鎌倉
196	7A	土坑494	埋土	皇宗通貫	24.37	6.52	1.03	3.7	宛存	0.15	994	鎌倉
197	7A	土坑501	埋土	浪和元貫	24.58	6.24	1.05	2.7	宛存	0.13	966	鎌倉・模倣銭
198	7B	H <sup>+</sup> 1502	埋土	太平通貫	24.24	6.18	0.86	3.1	宛存	0.13	976	鎌倉
199	7B	土坑521	埋土	祥符通貫	23.25	6.32	0.84	2.3	宛存	0.10	1082	鎌倉
200	7B	土坑521	埋土	浪式通貫	23.01	5.82	1.83	3.4	宛存	0.15	1082	鎌倉

表43 豊臣銭貨一覽(3)

番号	品名	通稱	單位	種類	直径(mm)	孔徑(mm)	厚さ(mm)	質量(g)	残存率	直徑/質量	登録番号	備考
201	7B	土統521	埋土	元豊通寶	23.45	6.22	0.85	2.8	完存	0.12	1082	行書
202	7B	土統521	埋土	永樂通寶	24.68	5.80	1.13	3.1	完存	0.13	1171	
203	7B	土統521	埋土	元祐通寶	24.10	6.91	1.37	4.3	完存	0.18	1280	隸書
204	7B	6册	6册	開元通寶	—	—	1.08	1.6	1/2	—	871	
205	7B	土統538	埋土	咸平元寶	23.61	5.66	0.84	2.2	完存	0.09	1256	真書
206	7B	靖560	埋土	天聖元寶	24.76	7.07	0.89	3.2	完存	0.13	1350	隸書
207	7B	土統581	埋土	元祐通寶	24.01	6.27	1.63	3.5	完存	0.10	1357	行書
208	7B	土統581	埋土	皇宋通寶	23.90	7.01	0.93	2.7	完存	0.11	1357	隸書
209	7B	土統594	埋土	天聖元寶	24.92	7.23	1.04	3.4	完存	0.14	1455	真書
210	7B	土統594	埋土	天聖元寶	24.92	7.22	1.63	3.0	完存	0.12	1455	隸書・楕圓銭
211	7B	豊成遺構609	埋土	皇宋通寶	24.92	6.92	0.89	3.0	完存	0.12	1534	隸書・楕圓銭
212	7B	土統619	埋土	皇宋通寶	23.68	6.27	1.08	3.0	完存	0.13	1497	隸書
213	7B	7册	7册	元豊通寶	23.68	6.48	1.09	3.5	完存	0.15	1331	行書
214	7B	7册	7册	開元通寶	23.69	7.00	0.80	2.1	完存	0.09	1356	
215	7B	7册	7册	不明	—	—	—	—	—	—	1356	
216	7B	7册	7册	開元通寶	23.47	6.46	0.86	2.5	完存	0.11	1329	
217	7B	7册	7册	開元通寶	22.92	6.24	1.66	3.0	完存	0.13	1329	
218	7B	7册	7册	洪武通寶	—	—	1.28	1.5	1/2	—	1329	
219	7B	7册	7册	洪武通寶	23.68	5.82	1.33	3.7	完存	0.16	999	
220	7B	7册	7册	元祐通寶	24.48	6.18	1.63	3.3	完存	0.13	1254	隸書
221	7B	7册	7册	元豊通寶	—	—	0.95	1.4	1/2	—	1254	隸書
222	7B	7册	7册	元祐通寶	23.21	6.43	1.08	3.1	完存	0.13	1156	行書
223	7B	7册	7册	嘉祐通寶	24.47	7.05	1.27	4.0	完存	0.16	944	隸書
224	7B	7册	7册	祥符〇寶	23.02	6.70	0.83	1.5	1/2	—	944	行書・楕圓銭
225	7B	7册	7册	天聖元寶	24.23	6.72	0.99	3.3	完存	0.14	999	真書
226	7B	7册	7册	元豊通寶	24.46	6.74	1.13	3.8	完存	0.16	999	隸書
227	7B	7册	7册	洪武通寶	22.31	5.57	1.68	1.7	1/2	—	1081	
228	7B	7册	7册	祥符〇寶	—	—	0.94	1.1	1/2	—	1084	真書
229	7B	7册	7册	〇〇通寶	23.92	—	1.07	2.0	1/2	0.08	1084	楕圓銭
230	7B	7册	7册	〇〇通寶	—	—	0.95	0.8	1/4	—	1084	
231	7B	7册	7册	洪武通寶	19.60	—	0.77	0.6	1/2	—	1084	楕圓銭
232	7B	7册	7册	祥符通寶	22.73	6.37	0.83	2.3	完存	0.10	1255	真書
233	7B	7册	7册	祥符〇寶	23.25	—	0.65	1.1	1/2	—	1255	真書・楕圓銭
234	7B	7册	7册	天聖元寶	24.62	—	1.14	1.6	1/2	—	1255	隸書
235	7B	7册	7册	〇〇通寶	23.27	—	1.21	1.6	1/2	—	1255	隸書・楕圓銭
236	7B	7册	7册	〇〇通寶	—	—	0.92	—	1/4	—	1255	真書
237	7B	7册	7册	〇〇通寶	—	—	0.98	0.4	楕圓	—	1255	楕圓銭
238	7B	7册	7册	元豊通寶	24.34	6.45	1.10	3.1	完存	0.13	1358	隸書・楕圓銭
239	7B	7册	7册	元豊通寶	23.64	6.90	0.80	2.6	完存	0.11	1358	行書・楕圓銭
240	7B	7册	7册	熙寧元寶	24.52	6.82	0.86	3.3	完存	0.13	1358	隸書
241	7B	7-8册	7-8册	宣統通寶	25.05	5.53	1.06	3.7	完存	0.15	1804	
242	7B	7-8册	7-8册	祥符元寶	24.55	6.23	0.99	3.0	完存	0.12	1804	真書
243	7B	7-8册	7-8册	天祐通寶	24.24	6.56	0.88	2.7	完存	0.11	1804	真書
244	7B	7-8册	7-8册	景徳元寶	24.59	6.58	0.83	2.5	完存	0.10	1804	真書
245	7B	7-8册	7-8册	元豊通寶	23.49	7.22	0.99	3.0	完存	0.13	1804	隸書
246	7B	7-8册	7-8册	元豊通寶	24.13	7.37	0.85	2.5	完存	0.10	1804	行書
247	7B	7-8册	7-8册	嘉祐元寶	23.45	6.14	1.44	3.8	完存	0.16	1804	真書
248	7B	7-8册	7-8册	洪武通寶	21.48	5.94	1.25	2.4	完存	0.11	1804	
249	7B	7-8册	7-8册	熙寧元寶	24.32	7.36	1.22	3.8	完存	0.16	1804	隸書
250	7B	7-8册	7-8册	天聖元寶	23.49	6.67	1.15	3.2	完存	0.14	1804	隸書・楕圓銭
251	7B	7-8册	7-8册	開元通寶	23.32	6.36	1.24	3.7	完存	0.16	1804	背に文字あり
252	7B	7-8册	7-8册	天聖元寶	23.84	7.29	0.88	2.9	完存	0.12	1804	隸書・楕圓銭
253	7B	7-8册	7-8册	熙寧元寶	24.48	7.05	0.99	2.9	完存	0.12	1804	隸書・楕圓銭
254	7B	7-8册	7-8册	元豊通寶	24.05	6.68	1.12	3.6	完存	0.15	1804	行書
255	7B	7-8册	7-8册	治平元寶	23.46	6.99	1.01	3.1	完存	0.13	1804	隸書
256	7B	7-8册	7-8册	開元通寶	24.24	6.93	1.33	3.6	完存	0.15	1804	
257	7B	7-8册	7-8册	元祐通寶	23.39	6.44	0.87	3.7	完存	0.08	1804	真書・楕圓銭
258	7B	7-8册	7-8册	不明	24.12	6.72	1.11	3.1	完存	0.13	1804	真書
259	7B	7-8册	7-8册	〇〇通寶	23.24	7.12	1.02	2.9	完存	0.12	1804	真書
260	7B	7-8册	7-8册	不明	22.93	6.65	0.98	3.0	完存	0.13	1804	楕圓銭
261	7B	7-8册	7-8册	不明	23.95	6.46	0.92	2.8	完存	0.12	1804	
262	7B	7-8册	7-8册	祥符元寶	24.96	6.26	1.02	2.0	1/2	—	1804	真書・楕圓銭
263	7B	7-8册	7-8册	〇〇通寶	—	—	0.95	1.0	1/4	—	1804	真書・楕圓銭
264	7B	7-8册	7-8册	不明	—	—	0.74	0.4	楕圓	—	1804	楕圓銭
265	7B	7-8册	7-8册	不明	—	—	0.93	1.1	1/4	—	1804	
266	7B	7册	7册	祥符通寶	22.13	6.62	0.82	1.8	完存	0.08	1833	真書・楕圓銭
267	7B	7册	7册	元祐通寶	23.93	6.61	0.88	2.9	完存	0.12	1833	行書・楕圓銭
268	7B	7册	7册	元豊通寶	23.25	6.03	1.08	3.1	完存	0.13	1270	行書
269	7B	7册	7册	皇宋通寶	23.28	7.09	1.05	2.2	完存	0.09	1628	隸書
270	7B	7册	7册	元豊通寶	24.03	7.12	1.27	3.0	完存	0.12	1789	行書
271	7B	7册	7册	開元通寶	24.52	6.72	1.23	3.2	完存	0.13	1789	
272	7B	7册	7册	元豊通寶	24.62	6.85	1.18	3.6	完存	0.15	1796	隸書
273	7B	6册	6册	咸平元寶	23.98	5.71	0.98	3.1	完存	0.13	1213	真書
274	7B	6册	6册	洪武通寶	22.26	7.34	0.81	1.2	完存	0.05	1145	楕圓銭
275	7B	6册	6册	祥符元寶	24.35	6.51	0.93	2.4	完存	0.10	1236	真書
276	7B	6册	6册	開元通寶	24.26	6.63	1.04	2.7	完存	0.11	1855	200上楕合
277	7B	6册	6册	咸平元寶	—	—	1.01	1.4	1/2	—	1855	真書
278	7B	6册	6册	元祐通寶	—	—	0.85	1.1	1/4	—	1855	隸書
279	7B	6册	6册	元祐通寶	—	—	0.93	0.6	楕圓	—	1855	隸書
280	7B	6册	6册	祥符元寶	24.16	6.39	0.96	2.9	完存	0.12	1856	真書・楕圓銭
281	7B	6册	6册	洪武通寶	22.28	5.44	0.93	2.8	完存	0.13	1856	

表44 豊臣銭貨一覧(4)

番号	比喩	遺構	部位	種類	直径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	質量(g)	残存率	重量/質量	登録番号	備考
282	7B	6層	元龜通寶	24.49	—	0.89	—	1.7	1/2	—	1856	行書
283	7B	6層	龜坐元寶	24.37	—	0.89	0.96	1.5	1/2	—	1856	隸書
284	7B	6層	元○○○	—	—	—	0.77	0.7	—	—	1861	真書・模範銭
285	7B	6層	無文銭	20.77	6.20	0.51	1.0	宛存	0.05	—	1861	—
286	7B	6層	天聖元寶	24.56	7.12	1.08	—	3.2	宛存	0.13	1803	隸書
287	7B	6層	元龜通寶	23.71	6.83	1.05	3.0	宛存	0.13	—	1803	隸書
288	7B	6層	祥符元寶	23.78	6.74	0.97	3.5	宛存	0.15	—	1803	真書・模範銭
289	7B	6層	祥○通○	22.72	—	1.28	1.6	1/2	—	—	1803	—
290	7B	6層	開元通寶	—	—	—	—	—	—	—	1803	276と接合
291	7B	6層	○○○寶	23.82	—	0.78	—	1.2	1/2	—	1803	隸書
292	7B	6層	○○○寶	—	—	0.90	—	1.0	1/4	—	1803	真書
293	7B	6層	紹聖通寶	—	—	1.12	—	0.8	1/4	—	1803	背一
294	7B	6層	○○○寶	—	—	0.66	—	0.7	1/4	—	1803	隸書・模範銭
295	7B	7-8層	開元通寶	23.13	6.91	1.07	2.2	宛存	0.10	1829	—	
296	7B	7-8層	熙寧元寶	24.08	6.02	0.97	2.9	宛存	0.12	1829	真書	
297	7B	7-8層	熙寧元寶	23.40	6.40	0.92	2.6	宛存	0.11	1829	隸書・模範銭	
298	7B	7-8層	不明	—	—	0.75	1.1	1/2	—	1829	模範銭	
299	7B	7-8層	不明	—	—	1.25	1.7	1/2	—	1829	背三	
300	7B	7-8層	無文銭	22.20	6.51	0.63	0.9	3/4	—	1829	—	
301	7B	7-8層	祥符通寶	24.68	6.66	1.04	2.8	宛存	0.11	1857	真書	
302	7B	7-8層	洪武通寶	23.10	6.87	0.36	1.5	宛存	0.06	—	1857	模範銭
303	7B	7-8層	洪武通寶	20.68	—	0.50	0.7	3/4	—	—	1857	模範銭
304	7B	7-8層	政和通寶	24.12	6.43	1.24	3.2	宛存	0.13	1857	分冊・模範銭	
305	7B	7-8層	元龜通寶	23.72	6.50	0.91	3.4	宛存	0.14	1857	隸書	
306	7B	7-8層	熙寧元寶	23.90	6.97	1.09	3.6	宛存	0.15	1857	隸書	
307	7B	7-8層	熙寧元寶	24.22	6.46	1.03	4.0	宛存	0.17	1857	—	
308	7B	7-8層	○○○寶	—	—	0.95	1.3	1/2	—	1857	隸書・模範銭	
309	7B	7-8層	祥○○○	—	—	0.84	1.1	1/2	—	1857	真書・447と接合	
310	7B	7-8層	無文銭	20.07	7.46	0.84	1.1	宛存	0.05	1857	—	
311	7B	7-8層	開元通寶	24.84	6.77	1.15	3.1	宛存	0.13	1795	—	
312	7B	7-8層	景祐通寶	24.96	6.90	0.92	3.7	宛存	0.15	1795	真書	
313	7B	7-8層	祥符元寶	24.09	6.04	1.29	3.6	宛存	0.15	1795	真書	
314	7B	7-8層	景祐元寶	25.11	8.31	0.82	2.6	宛存	0.10	1795	隸書・模範銭	
315	7B	7-8層	洪武通寶	22.39	6.71	1.26	2.4	宛存	0.11	1795	—	
316	7B	7-8層	不明	24.34	6.65	0.90	3.1	宛存	0.13	1795	—	
317	7B	7-8層	治平通寶	24.84	7.15	1.01	3.7	宛存	0.15	1795	真書	
318	7B	7-8層	景祐元寶	—	—	1.05	—	—	1/2	—	1795	隸書
319	7B	7-8層	○平元○	23.15	—	1.10	—	—	1/2	—	1795	真書
320	7B	7-8層	天聖元寶	24.37	6.17	1.27	2.2	3/4	—	1795	真書・模範銭	
321	7B	7-8層	○○○寶	—	—	0.94	1.1	1/2	—	1795	行書	
322	7B	7-8層	無文銭	—	—	0.95	1.2	—	—	1795	行書	
323	7B	7-8層	○○○寶	—	—	0.88	0.6	1/4	—	1795	隸書	
324	7B	7-8層	○○○通○	—	—	0.87	0.7	1/4	—	1795	真書	
325	7B	7-8層	無文銭	22.05	7.22	0.87	1.7	宛存	0.08	1795	—	
326	7B	7層	○元通寶	23.49	6.70	1.08	1.3	1/2	—	1665	模範銭	
327	7B	7層	祥符通寶	21.96	6.51	0.61	1.2	3/4	—	1665	真書・模範銭	
328	7B	7層	○平元寶	—	—	0.91	1.5	1/2	—	1665	真書・模範銭	
329	7B	7層	祥○○寶	—	6.65	0.89	1.5	1/2	—	1665	真書・模範銭	
330	7B	7層	○○○寶	—	—	1.03	0.4	—	—	1665	隸書	
331	7B	7層	政和通寶	23.07	7.00	0.92	2.0	宛存	0.09	1563	隸書	
332	7B	7層	元龜通寶	23.60	6.56	0.95	2.9	宛存	0.12	1582	行書	
333	7B	7層	元龜通寶	24.74	7.03	1.08	1.9	1/2	—	1583	隸書	
334	7B	7層	政和通寶	—	—	1.27	1.7	1/2	—	1583	分冊	
335	7B	7層	洪武通寶	—	—	0.50	0.7	1/4	—	1583	—	
336	7B	7層	政和通寶	—	—	0.87	0.8	1/4	—	1583	隸書・模範銭	
337	8層	8層	咸平元寶	22.95	6.70	1.03	3.2	宛存	0.14	1453	真書	
338	8層	8層	洪武通寶	22.79	5.81	1.13	3.0	宛存	0.13	1453	—	
339	8層	8層	元龜通寶	24.10	6.52	1.26	4.0	宛存	0.17	1453	隸書	
340	8層	8層	元祐通寶	24.56	6.71	1.03	3.1	宛存	0.13	1453	行書	
341	8層	8層	開元通寶	24.57	6.82	1.16	3.5	宛存	0.14	1399	—	
342	8層	8層	洪武通寶	21.23	6.30	0.73	1.2	宛存	0.08	1399	—	
343	8層	8層	政和通寶	24.09	6.79	1.02	1.8	3/4	—	1399	隸書	
344	8層	8層	祥符通寶	23.24	6.56	0.87	2.6	宛存	0.11	1399	真書・模範銭・856と接合	
345	8層	8層	元龜通寶	24.64	7.21	0.83	2.8	宛存	0.11	1464	行書	
346	8層	8層	洪武通寶	22.68	6.20	1.03	2.7	宛存	0.12	1417	—	
347	8層	8層	元祐通寶	24.66	6.30	1.02	3.8	宛存	0.15	1337	隸書	
348	8層	8層	龜坐通寶	24.74	7.37	0.95	2.9	宛存	0.12	1456	真書	
349	8層	8-9層	熙寧元寶	23.60	6.81	1.39	3.2	宛存	0.14	1982	隸書	
350	8層	8-9層	元祐通寶	24.26	6.94	1.16	3.3	宛存	0.14	1982	行書	
351	8層	8-9層	○○○寶	—	—	0.79	1.2	1/2	—	1982	模範銭	
352	8層	8-9層	元祐通寶	23.90	6.22	0.89	3.0	宛存	0.13	1986	真書	
353	8層	8-9層	元○通寶	24.17	7.36	0.96	1.8	3/4	—	1986	真書・模範銭	
354	8層	8-9層	○○○寶	—	—	1.06	1.2	1/2	—	1986	真書	
355	8層	8-9層	開元通寶	25.18	6.96	1.08	3.8	宛存	0.14	2056	背上月	
356	8層	8-9層	天禧通寶	—	7.40	0.82	1.7	宛存	—	2056	真書	
357	8層	8-9層	不明	22.71	6.30	1.18	3.2	宛存	0.14	2056	模範銭	
358	8層	8-9層	不明	23.07	7.10	0.54	2.0	宛存	0.09	2056	模範銭	
359	8層	8-9層	不明	24.47	6.33	0.88	3.2	宛存	0.13	2056	模範銭	
360	7B	8-9層	不明	—	—	—	—	宛存	—	2056	模範銭	
361	7B	8-9層	不明	—	—	—	—	宛存	—	2056	模範銭	
362	7B	8-9層	不明	—	—	—	—	宛存	—	2056	模範銭	

表 45 豊臣銭貨一覽(5)

番号	メゾ	通稱	單位	種類	直径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	質量(g)	残存率	重量/質量	登録番号	備考		
363	7B	8~9層	不明	—	—	—	—	—	—	—	2056	銅銭		
364	7B	8~9層	永楽通寶	24.13	5.97	0.89	3.1	—	—	0.13	1944	模倣銭		
365	7B	9層	延享通寶	24.47	5.44	1.55	4.1	—	—	0.17	1797	ペトナム		
366	7B	9層	朝暹通寶	23.60	5.93	1.33	3.6	—	—	0.15	1798	朝鮮		
367	7B	9層	熙寧元寶	23.55	6.69	0.85	2.9	—	—	0.12	1790	鎌倉		
368	7B	9層	皇寧通寶	24.27	6.72	1.17	3.0	—	—	0.12	2149	真書		
369	7B	7~9層	熙寧元寶	24.06	6.25	1.49	4.4	—	—	0.18	1987	鎌倉		
370	7B	7~9層	文徳通寶	24.18	6.41	1.66	4.2	—	—	0.13	1987	鎌倉		
371	7B	7~9層	元祐通寶	23.94	6.36	1.43	4.2	—	—	0.18	1987	鎌倉		
372	7B	7~9層	不明	—	—	—	—	—	—	0.11	1987	模倣銭		
373	7B	7~9層	成〇〇寶	—	—	—	—	—	—	0.08	1987	模倣銭		
374	7B	7~9層	成〇〇寶	—	—	—	—	—	—	0.84	1.3	1/2	1987	真書
375	7B	7~9層	〇〇〇寶	—	—	—	—	—	—	0.91	0.8	1/4	1987	真書-模倣銭
376	7B	7~9層	無文銭	—	—	—	—	—	—	0.66	0.9	1/2	1987	—
377	7B	7~9層	〇〇〇寶	—	—	—	—	—	—	0.87	0.7	1/4	1987	模倣銭
378	7B	7~9層	不明	—	—	—	—	—	—	0.67	0.6	1/4	1987	—
379	7B	7~9層	不明	—	—	—	—	—	—	0.73	0.4	細片	1987	—
380	7B	8~10層	開元通寶	24.41	6.79	1.01	2.4	—	—	0.10	2078	背上月		
381	7B	8~10層	元昌通寶	23.68	7.31	0.88	2.1	—	—	0.09	2078	行書		
382	7B	8~10層	元祐通寶	23.42	6.21	0.92	2.1	—	—	0.09	2078	行書		
383	7B	8~10層	元祐通寶	24.17	6.38	1.18	2.0	—	—	0.34	2078	行書		
384	7B	8~10層	元祐通寶	23.46	6.54	0.62	1.6	—	—	0.07	2078	模倣銭		
385	7B	8~10層	不明	—	—	—	—	—	—	1.5	0.07	2078	模倣銭	
386	7B	8~10層	〇〇通〇	—	—	—	—	—	—	1.36	1.0	1/2	2078	—
387	7B	8~10層	無文銭	19.13	8.37	0.51	0.5	—	—	0.03	2078	—		
388	7B	8~10層	無文銭	21.28	10.45	0.66	0.9	—	—	0.04	2078	—		
389	7B	8~10層	無文銭	18.40	8.86	6.73	1.0	—	—	0.05	2078	—		
390	7B	7~9層	元祐通寶	—	—	—	—	—	—	1.18	1.3	1/2	2150	行書-模倣銭
391	7B	7~9層	〇〇〇寶	—	—	—	—	—	—	0.84	1.1	1/2	2150	真書
395	7B	覆盆	排括元寶	22.98	6.98	0.79	1.6	—	—	0.07	632	背文書-模倣銭		
399	7A	井戸328	14段目	不明	—	—	—	—	—	0.77	1.9	1/2	1023	模倣銭
400	7B	井戸487	埋土	皇寧通寶	24.66	6.37	1.16	3.1	—	—	0.13	1983	真書	
401	7B	埋土500	埋土	不明	24.31	6.05	1.17	3.4	—	—	0.14	1202	模倣銭	
402	7B	埋土504	埋土	不明	24.03	7.12	1.19	3.3	—	—	0.14	1481	—	
403	7B	土坑502	埋土	無文銭	20.63	8.87	0.66	1.9	—	—	0.04	1224	—	
404	7B	土坑642	埋土	元祐通寶	24.05	6.86	1.08	3.4	—	—	0.14	1620	行書	
405	7B	埋土643	埋土	排括元寶	23.14	6.86	0.86	2.6	—	—	0.11	1805	真書-模倣銭	
406	7B	土坑755	埋土	熙寧元寶	23.08	7.09	0.85	2.4	—	—	0.10	2078	真書	
419	7B	土坑342	埋土	不明	—	—	—	—	—	—	642	模倣(江戸時代?)		
419	7B	土坑342	埋土	不明	—	—	—	—	—	—	642	模倣(江戸時代?)		
420	7B	土坑342	埋土	不明	—	—	—	—	—	—	642	模倣(江戸時代?)		
421	7B	土坑342	埋土	不明	—	—	—	—	—	—	642	模倣(江戸時代?)		
422	7B	土坑342	埋土	不明	—	—	—	—	—	—	642	模倣(江戸時代?)		
423	7B	土坑342	埋土	不明	—	—	—	—	—	—	642	模倣(江戸時代?)		
424	7B	土坑342	埋土	不明	—	—	—	—	—	—	642	模倣(江戸時代?)		
424	7B	土坑342	埋土	不明	—	—	—	—	—	—	642	模倣(江戸時代?)		
425	7B	土坑342	埋土	不明	—	—	—	—	—	—	642	模倣(江戸時代?)		
426	7B	土坑342	埋土	不明	—	—	—	—	—	—	642	模倣(江戸時代?)		
427	7B	土坑342	埋土	不明	—	—	—	—	—	—	642	模倣(江戸時代?)		
428	7B	土坑342	埋土	不明	—	—	—	—	—	—	642	模倣(江戸時代?)		
429	7B	土坑342	埋土	不明	—	—	—	—	—	—	642	模倣(江戸時代?)		
430	7B	7層	洪武通寶	—	—	—	—	—	—	—	1792	模倣		
431	7B	7層	無文銭	—	—	—	—	—	—	—	1792	模倣		
432	7B	7層	無文銭	—	—	—	—	—	—	—	1792	模倣		
433	7B	7層	不明	—	—	—	—	—	—	—	1792	模倣		
434	7B	7層	不明	—	—	—	—	—	—	—	1792	模倣		
435	7B	7層	不明	—	—	—	—	—	—	—	1792	模倣		
436	7B	7層	不明	—	—	—	—	—	—	—	1792	模倣		
437	7B	7層	不明	—	—	—	—	—	—	—	1792	模倣		
438	7B	7層	不明	—	—	—	—	—	—	—	1792	模倣		
439	7B	7層	不明	—	—	—	—	—	—	—	1792	模倣		
440	7B	7層	不明	—	—	—	—	—	—	—	1792	模倣		
441	7B	7層	不明	—	—	—	—	—	—	—	1792	模倣		
442	7B	7層	不明	—	—	—	—	—	—	—	1792	模倣		
443	7B	6層	熙寧元寶	24.18	6.80	1.26	3.8	—	—	0.16	1195	鎌倉		
444	7B	6層	開元通寶	23.84	7.69	0.97	2.9	—	—	3/4	1195	模倣		
445	7B	6層	〇〇元寶	—	—	—	—	—	—	0.72	0.9	1/2	1195	—
446	7B	6層	〇〇〇寶	—	—	—	—	—	—	0.76	0.7	1/2	1195	—
447	7B	6層	〇〇〇寶	—	—	—	—	—	—	—	—	1195	399上縁合	
448	7B	6層	熙寧元寶	23.65	7.11	1.08	3.0	—	—	0.13	1196	真書-模倣銭		
449	7B	6層	排括元寶	23.35	6.63	0.95	1.9	—	—	3/4	1196	真書-模倣銭		
450	7B	6層	天祐通寶	—	—	—	—	—	—	1.08	1.6	1/2	1196	真書
451	7B	6層	洪武通寶	—	—	—	—	—	—	0.93	0.8	1/4	1196	—
452	7B	6層	〇〇〇寶	23.33	7.38	0.89	2.9	—	—	0.12	1196	模倣銭		
453	7A	6層~埋土	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	模倣		
454	7A	6層~埋土	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	模倣		
455	7A	6層~埋土	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	模倣		
456	7A	6層~埋土	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	模倣		
457	7A	6層~埋土	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	模倣		
458	7A	6層~埋土	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	模倣		
459	7A	6層~埋土	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	模倣		
460	7A	6層~埋土	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	模倣		

表46 豊臣銭貨一覽(6)

番号	比喩	遺構	層位	種類	直径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	質量(g)	残存率	裏背/質量	登録番号	備考
461	7A		6層~地山	不明	—	—	—	—	—	—	—	破銭
462	7A		6層~地山	不明	—	—	—	—	—	—	—	破銭
463	7A		6層~地山	不明	—	—	—	—	—	—	—	破銭
464	7A		6層~地山	不明	—	—	—	—	—	—	—	破銭
465	7A		6層~地山	不明	—	—	—	—	—	—	—	破銭
466	7B		7層	無文銭	20.73	8.01	0.41	0.9	—	0.04	1458	
467	7B		7層	不明	22.73	7.76	0.78	1.9	—	0.08	1536	模倣銭
468	7B		7層	無文銭	19.62	9.42	0.69	0.8	—	0.04	1541	
469	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番
470	7B		7層	無文銭	—	—	—	—	—	—	—	1541
471	7B		7~8層	元〇〇〇	—	—	0.82	0.6	1/4	—	1804	鎌倉
472	7B		7~8層	無文銭	—	—	1.40	0.8	1/2	—	1804	
473	7B		7~8層	無文銭	—	—	0.41	0.2	1/2	—	1804	鎌倉
474	7B		7~9層	天聖元寶	23.88	7.28	0.84	2.9	—	0.12	2251	鎌倉・模倣銭
475	7B		7~9層	聖徳元寶	23.72	6.72	1.35	2.7	—	0.11	2251	
476	7B		7~9層	洪武通寶	—	—	1.91	1.6	3/4	—	2251	模倣銭
477	7B		7~9層	元〇〇〇	—	—	1.03	1.5	1/2	—	2251	鎌倉
478	7B		7~9層	不明	—	—	0.97	1.1	1/2	—	2251	
479	7B		7~9層	元〇〇〇	—	—	0.87	0.8	1/4	—	2259	鎌倉
480	7B		7~9層	洪武通寶	—	—	1.36	0.9	1/4	—	2259	
481	7B		7~9層	景徳元寶	24.07	6.19	1.21	3.1	—	0.13	2290	鎌倉
482	7B		7~9層	洪武通寶	22.97	5.48	1.09	3.3	—	0.14	2290	
483	7B		7~9層	洪武通寶	22.52	6.07	0.98	2.7	—	0.12	2290	
484	7B		7~9層	開元通寶	24.11	6.32	1.03	3.6	—	0.15	2290	
485	7B		7~9層	紹聖元寶	23.52	6.59	1.31	3.4	—	0.14	2290	鎌倉
486	7B		7~9層	元符通寶	24.25	7.04	1.04	3.6	—	0.15	2290	鎌倉
487	7B		7~9層	不明	24.32	7.57	1.13	2.9	—	0.12	2290	模倣銭
488	7B		7~9層	無文銭	18.47	7.39	0.52	0.7	—	0.04	2290	
489	7B		8~10層	不明	—	—	1.51	0.9	1/4	—	2076	模倣銭
490	7B		8~10層	洪武通寶	21.87	7.02	0.66	1.3	—	0.08	2165	模倣銭
491	7B		8~10層	開元通寶	—	—	0.84	3.1	—	—	2165	模倣銭
492	7B		8~10層	洪武通寶	—	—	1.03	1.0	1/2	—	2165	
493	7B		8~10層	政和通寶	—	—	0.90	1.2	1/2	—	2165	分磨
494	7B		11~12層	天禧通寶	24.45	6.31	0.84	3.6	—	0.15	2231	鎌倉
495	7B		8~10層	元豐通寶	23.72	6.61	0.84	2.9	—	0.12	2076	鎌倉
496	7B		8~10層	元豐通寶	24.25	6.34	0.87	3.6	—	0.15	2076	鎌倉
497	7B		8~10層	元豐通寶	23.84	6.99	0.82	2.5	—	0.10	2076	鎌倉・模倣銭
498	7B		8~10層	元豐通寶	24.21	6.06	1.14	4.0	—	0.17	2076	鎌倉
499	7B		8~10層	聖徳元寶	23.51	6.67	0.88	3.9	—	0.13	2076	行書
500	7B		8~10層	天聖元寶	24.30	7.16	0.89	2.6	—	0.11	2076	鎌倉
501	7B		8~10層	祥符〇〇	—	—	1.02	1.1	1/4	—	2076	鎌倉
502	7B		8~10層	無文銭	—	—	0.59	0.8	3/4	—	2076	
503	7B		8~10層	天聖元寶	23.77	6.86	0.89	2.5	—	0.11	2084	鎌倉・模倣銭
504	7B		8~10層	元祐通寶	—	—	0.90	3.4	—	—	2084	鎌倉
505	7B		8~10層	洪武通寶	22.70	6.17	1.27	2.7	—	0.12	2084	
506	7B		8~10層	洪武通寶	—	—	0.78	0.8	1/2	—	2084	
507	7B		8~10層	咸平元寶	—	—	0.87	1.2	1/2	—	2084	鎌倉
508	7B		8~10層	〇〇〇〇	—	—	0.90	0.8	1/4	—	2084	鎌倉
509	7B		8~10層	淳化元寶	24.28	6.49	0.81	3.3	—	0.14	2149	行書
510	7B		8~10層	洪武通寶	20.20	6.92	0.46	0.6	—	0.04	2149	模倣銭
511	7B		8~10層	〇〇通寶	23.74	6.16	1.66	4.0	—	0.17	2149	
512	7B		8~10層	〇〇通寶	—	—	1.03	0.8	1/4	—	2149	鎌倉
513	7B		9層	聖徳元寶	23.66	6.94	1.05	3.6	—	0.15	1826	鎌倉
514	7B		9層	皇祐通寶	24.30	7.73	0.82	2.7	—	0.11	1826	鎌倉・模倣銭
515	7B		10層	元祐通寶	24.28	6.52	1.04	3.7	—	0.15	2053	鎌倉
516	7B	土坑652	埋土	祥符元寶	22.51	6.20	0.96	2.6	—	0.12	1788	鎌倉
517	7B	土坑652	埋土	〇〇通寶	23.85	7.42	0.92	2.8	—	0.12	1788	
518	7B	土坑652	埋土	開元通寶	24.07	6.79	1.03	3.3	—	0.14	1788	
519	7B	土坑652	埋土	開元通寶	—	6.91	0.71	1.9	3/4	—	1788	
520	7B	土坑652	埋土	不明	—	—	0.88	1.5	1/2	—	1788	
521	7B	土坑652	埋土	洪武通寶	—	—	1.37	1.1	1/4	—	1788	
522	7B	土坑652	埋土	〇〇元寶	—	—	0.55	0.9	1/4	—	1788	鎌倉
523	7B	土坑652	埋土	洪武通寶	—	—	1.22	1.1	1/4	—	1788	
524	7B	土坑652	埋土	〇〇〇〇	—	—	0.82	1.1	1/4	—	1788	鎌倉
525	7B	土坑652	埋土	〇〇通寶	—	—	0.69	0.7	1/4	—	1788	鎌倉・模倣銭
526	7B	土坑652	埋土	〇符〇〇	—	—	0.78	0.7	1/4	—	1788	鎌倉・模倣銭
527	7B	土坑652	埋土	無文銭	25.38	8.33	0.66	1.1	—	0.05	1788	
528	7B		6層	〇〇〇〇	—	—	1.12	0.4	細片	—	793	模倣銭
529	7B		6層	〇〇〇〇	—	—	0.77	0.5	細片	—	793	
530	7B		6層	不明	—	—	0.76	0.5	1/4	—	793	模倣銭
531	7B		6層	不明	—	—	0.51	0.3	1/2	—	1196	模倣銭
532	7B		6層	〇〇〇〇	—	—	0.89	0.7	1/4	—	1855	
533	7B		8~10層	〇〇〇〇	—	—	0.92	0.9	1/2	—	2076	模倣銭
534	7B		8~10層	〇祐通寶	—	—	1.03	1.6	1/2	—	2340	鎌倉
535	7B		8~10層	祥符元寶	24.22	6.25	0.98	3.4	—	0.14	2340	鎌倉
536	7B		8~10層	〇紹通寶	—	5.70	0.94	1.2	1/2	—	2340	
537	7B		8~10層	不明	—	—	0.96	1.0	1/4	—	2340	
538	7B		8~10層	無文銭	26.78	8.63	0.65	1.3	—	0.06	2340	
539	7B		7~9層	天聖元寶	24.39	6.97	0.89	2.4	—	0.10	2349	鎌倉
540	7B		7~9層	天禧通寶	25.10	7.03	1.03	3.0	—	0.12	2349	鎌倉
541	7B		7~9層	洪武通寶	22.63	6.70	0.84	1.6	—	0.07	2349	

表47 豊臣銭貨一覽(7)

番号	品名	造法	部位	種類	直径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	質量(g)	純率	直径/質量	倉庫番号	備考
542	7B	7~9割	〇〇元寶	21.96	6.44	0.97	1.09	完存	0.09	2248		
543	7B	7~9割	〇〇元寶	—	—	1.19	0.7	1/4	—	2248		真書
544	7B	7~9割	元豊通寶	23.89	6.78	1.23	3.3	完存	0.14	2298		行書
545	7B	7~9割	元豊通寶	23.73	6.98	0.99	3.0	完存	0.13	2298		行書
546	7B	7~9割	元豊通寶	23.94	7.09	1.05	3.0	完存	0.13	2298		行書・模範銭
547	7B	7~9割	聖宗元寶	24.55	6.19	1.08	2.6	完存	0.11	2298		録書
548	7B	7~9割	成平元寶	24.62	6.11	1.01	3.4	完存	0.14	2298		真書
549	7B	7~9割	洪武通寶	22.74	6.09	0.98	2.3	完存	0.10	2298		
550	7B	7~9割	紹聖元寶	23.62	6.19	0.77	2.6	完存	0.11	2298		録書
551	7B	7~9割	元祐通寶	23.45	6.79	0.74	2.5	完存	0.11	2298		録書
552	7B	7~9割	永樂通寶	—	—	0.89	1.4	1/2	—	2298		
553	7B	7~9割	〇〇元寶	—	—	0.93	1.3	1/2	—	2298		
554	7B	7~9割	洪武通寶	—	—	1.20	1.7	1/2	—	2298		
555	7B	7~9割	無文銭	21.16	8.17	0.79	1.4	完存	0.07	2298		
556	7B	7~9割	不明	19.66	9.22	0.77	0.7	3/4	—	2298	557上揃合	
557	7B	7~9割	不明	—	—	—	—	—	—	2298	556上揃合	
558	7B	16割	淳化元寶	23.87	5.84	1.13	3.2	完存	0.13	2398		行書・模範銭
559	7B	16割	天〇元寶	—	—	1.06	1.1	3/4	—	2398		真書
560	7B	7~9割	洪武通寶	22.26	6.64	0.84	1.1	3/4	—	2449		
561	7B	7~9割	洪武通寶	—	—	0.99	1.1	1/2	—	2449		
562	7B	7~9割	皇宋通寶	24.40	7.21	0.82	1.5	3/4	—	2449		録書・模範銭
563	7B	7~9割	聖宗元寶	23.09	6.69	0.74	2.7	完存	0.12	2449		真書・模範銭
564	7B	7~9割	〇〇元寶	—	—	1.08	1.0	1/4	—	2449		行書
565	7B	7~9割	無文銭	18.63	7.34	0.59	0.7	完存	0.04	2449		
566	7B	7~9割	無文銭	22.37	7.90	0.69	1.2	完存	0.05	2449		
567	7B	7~9割	不明	25.48	6.16	1.33	3.5	完存	0.14	2449		模範銭
568	7B	7~10割	紹聖元寶	23.40	6.77	1.07	3.5	完存	0.15	2450		行書
569	7B	7~10割	天聖元寶	24.22	7.26	0.83	2.8	完存	0.12	2450		真書・模範銭
570	7B	7~10割	元豊通寶	24.47	7.14	0.82	2.9	完存	0.12	2450		行書
571	7B	7~10割	皇宋通寶	24.14	7.29	1.12	2.9	完存	0.12	2450		真書
572	7B	7~10割	皇宋通寶	24.14	6.47	1.28	3.8	完存	0.16	2450		真書
573	7B	7~10割	無寧元寶	23.98	7.17	0.98	3.1	完存	0.13	2450		真書
574	7B	7~10割	天祐通寶	22.79	6.44	1.08	2.4	完存	0.11	2450		真書・模範銭
575	7B	7~10割	天禧通寶	—	—	0.99	1.4	1/2	—	2450		真書
576	7B	7~10割	〇〇元寶	—	—	0.94	0.9	1/2	—	2450		真書
577	7B	7~10割	〇〇元寶	—	—	0.86	0.7	1/4	—	2450		真書
578	7B	7~10割	無文銭	19.88	8.80	0.79	1.0	完存	0.05	2450		
579	7B	7~10割	無文銭	19.64	8.56	0.49	0.8	完存	0.04	2450		
580	7B	7~10割	皇宋通寶	23.81	7.21	0.95	3.1	完存	0.13	2503		真書
581	7B	7~10割	皇宋通寶	24.28	7.40	0.85	2.2	完存	0.13	2503		真書・模範銭
582	7B	7~10割	皇宋通寶	23.80	6.72	0.89	3.5	完存	0.10	2503		録書
583	7B	7~10割	聖宗元寶	24.99	6.17	1.02	2.8	完存	0.10	2503		真書
584	7B	7~10割	聖宗元寶	23.54	6.56	1.23	3.5	完存	0.15	2503		録書
585	7B	7~10割	太平通寶	24.11	6.80	1.33	5.5	完存	0.15	2503		真書
586	7B	7~10割	大観通寶	23.63	6.78	1.06	3.0	完存	0.13	2503		
587	7B	7~10割	大観通寶	24.18	6.33	1.06	3.3	完存	0.14	2503		
588	7B	7~10割	政和通寶	24.43	6.43	1.05	3.5	完存	0.14	2503		録書
589	7B	7~10割	天禧通寶	23.94	6.21	0.78	2.3	完存	0.10	2503		真書・模範銭
590	7B	7~10割	天禧通寶	23.52	6.10	1.05	2.1	完存	0.13	2503		真書
591	7B	7~10割	天聖元寶	24.16	7.12	0.90	2.7	完存	0.11	2503		録書
592	7B	7~10割	天聖元寶	24.99	6.28	1.16	3.9	完存	0.16	2503		真書
593	7B	7~10割	嘉祐元寶	23.63	6.39	1.15	3.8	完存	0.16	2503		真書
594	7B	7~10割	嘉祐通寶	23.51	6.79	1.18	3.1	完存	0.13	2503		真書
595	7B	7~10割	嘉祐通寶	23.88	6.72	1.09	2.1	3/4	—	2503		真書
596	7B	7~10割	元祐通寶	24.19	6.81	1.12	3.6	完存	0.15	2503		録書
597	7B	7~10割	元豊通寶	24.31	6.50	1.06	3.4	完存	0.14	2503		録書
598	7B	7~10割	元豊通寶	23.82	6.11	1.03	2.9	完存	0.12	2503		録書
599	7B	7~10割	元豊通寶	23.38	6.22	1.51	3.5	完存	0.15	2503		行書
600	7B	7~10割	元豊通寶	23.11	7.01	0.93	2.1	完存	0.09	2503		行書
601	7B	7~10割	元豊通寶	24.70	7.18	0.94	2.9	完存	0.12	2503		録書・模範銭
602	7B	7~10割	開元通寶	24.77	6.72	1.11	2.4	完存	0.10	2503		
603	7B	7~10割	開元通寶	24.14	7.01	0.93	2.5	完存	0.10	2503		録書
604	7B	7~10割	開元通寶	23.63	6.87	1.16	3.0	完存	0.13	2503		模範銭
605	7B	7~10割	祥符元寶	23.94	7.12	1.26	3.4	完存	0.14	2503		真書
606	7B	7~10割	洪武通寶	21.98	6.68	1.22	1.7	完存	0.08	2503		
607	7B	7~10割	洪武通寶	21.23	5.58	1.19	2.0	完存	0.09	2503		
608	7B	7~10割	洪武通寶	23.26	6.14	1.08	2.9	完存	0.12	2503		
609	7B	7~10割	洪武通寶	21.79	6.77	0.89	1.7	完存	0.08	2503		
610	7B	7~10割	洪武通寶	22.00	7.00	0.83	1.3	完存	0.06	2503		
611	7B	7~10割	治平元寶	23.72	6.44	1.26	3.4	完存	0.15	2503		真書
612	7B	7~10割	治平元寶	23.99	6.53	1.26	3.1	完存	0.13	2503		真書
613	7B	7~10割	聖宗元寶	24.34	7.32	1.19	3.2	完存	0.13	2503		真書
614	7B	7~10割	聖宗元寶	23.94	6.98	0.72	2.9	完存	0.12	2503		真書
615	7B	7~10割	聖宗元寶	23.81	6.69	0.90	2.6	完存	0.11	2503		真書
616	7B	7~10割	祥符元寶	25.07	6.20	1.63	3.1	完存	0.12	2503		真書
617	7B	7~10割	祥符元寶	22.99	6.44	0.99	2.6	完存	0.11	2503		真書・模範銭
618	7B	7~10割	祥符元寶	24.18	6.18	0.83	2.3	完存	0.10	2503		真書
619	7B	7~10割	紹聖元寶	24.49	6.93	0.97	3.1	完存	0.13	2503		行書
620	7B	7~10割	紹聖元寶	24.05	6.60	1.38	3.6	完存	0.15	2503		録書
621	7B	7~10割	紹聖元寶	24.32	6.63	0.91	3.1	完存	0.13	2503		行書
622	7B	7~10割	元豊通寶	24.58	6.48	1.62	3.2	完存	0.13	2503		録書

表48 豊臣銭貨一覧(8)

番号	比寸	通径	部位	種類	直径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	質量(g)	残存数	直径/質量	登録番号	備考
623	78	7~10瓣	無字元寶	23.33	6.77	0.93	2.9	宛存	0.12	2563	鎌倉-模倣銭	
624	78	7~10瓣	無字元寶	24.00	7.56	1.08	3.5	宛存	0.15	2563	鎌倉	
625	78	7~10瓣	開元通寶	23.68	6.86	0.89	1.8	3/4		2563		
626	78	7~10瓣	開元通寶	—	—	1.13	0.9	1/4		2563		
627	78	7~10瓣	祥符通寶	24.07	6.17	1.05	1.9	1/2		2563	真赤	
628	78	7~10瓣	祥○○○	—	—	0.79	0.8	糊片		2563	真赤	
629	78	7~10瓣	紹定通寶	—	—	1.33	1.8	1/2		2563	背玉	
630	78	7~10瓣	永樂通寶	—	—	1.18	1.7	1/2		2563		
631	78	7~10瓣	政和通寶	24.56	—	1.22	1.7	1/2		2563	分磨	
632	78	7~10瓣	無字元寶	—	—	1.05	1.4	1/2		2563	真赤	
633	78	7~10瓣	正隆元寶	23.78	—	1.05	1.4	1/2		2563		
634	78	7~10瓣	元豊通寶	—	—	0.91	1.2	1/2		2563		
635	78	7~10瓣	元豊通寶	—	—	0.93	1.1	1/2		2563	鎌倉-模倣銭	
636	78	7~10瓣	元○○○	—	—	0.80	1.2	1/2		2563	鎌倉	
637	78	7~10瓣	元○○○	—	—	1.07	1.3	1/2		2563	行赤	
638	78	7~10瓣	元○○○	24.31	—	0.92	1.3	1/2		2563	行赤	
639	78	7~10瓣	元○○○	—	—	0.93	0.9	1/4		2563	行赤	
640	78	7~10瓣	無字元寶	—	—	0.97	1.8	3/4		2563	鎌倉	
641	78	7~10瓣	〇幣元〇	—	—	1.08	1.4	1/2		2563	鎌倉	
642	78	7~10瓣	〇〇元〇	—	—	0.95	0.9	1/4		2563	真赤	
643	78	7~10瓣	洪武通寶	—	—	0.73	6.5	1/4		2563	模倣銭	
644	78	7~10瓣	洪武通寶	—	—	0.88	0.3	糊片		2563		
645	78	7~10瓣	洪武通寶	—	—	1.22	0.6	糊片		2563		
646	78	7~10瓣	不明	—	—	1.23	1.3	1/2		2563		
647	78	7~10瓣	〇〇通〇	—	—	1.02	0.9	1/4		2563		
648	78	7~10瓣	〇〇元〇	—	—	0.89	1.0	1/2		2563		
649	78	7~10瓣	〇〇元〇	—	—	1.22	1.2	1/2		2563		
650	78	7~10瓣	不明	—	—	1.11	0.7	1/4		2563		
651	78	7~10瓣	〇拾通〇	—	—	0.73	0.9	1/2		2563	鎌倉-模倣銭	
652	78	7~10瓣	〇〇元〇	23.28	6.12	1.19	2.4	3/4		2563		
653	78	7~10瓣	皇宋通寶	23.92	6.67	1.08	1.7	3/4		2563	真赤	
654	78	7~10瓣	不明	—	—	0.66	6.5	糊片		2563		
655	78	7~10瓣	不明	26.32	—	0.88	0.9	3/4		2563		
656	78	7~10瓣	不明	—	—	0.87	0.4	糊片		2563		
657	78	7~10瓣	無文銭	21.11	8.58	0.65	1.2	宛存	0.06	2563		
658	78	7~10瓣	無文銭	19.60	8.23	0.60	0.6	宛存	0.03	2563		
659	78	7~10瓣	無文銭	21.23	9.56	0.69	1.0	宛存	0.05	2563		
660	78	7~10瓣	無文銭	19.01	7.58	0.69	0.9	宛存	0.05	2563		
661	78	7~10瓣	無文銭	21.28	6.95	0.69	1.2	宛存	0.06	2563		
662	78	7~10瓣	無文銭	20.21	6.21	0.88	1.0	3/4		2563		
663	78	7~10瓣	洪武通寶	20.29	6.86	0.81	1.1	宛存	0.05	2563		
664	78	7~10瓣	太皇太后	23.61	5.58	1.03	2.4	宛存	0.10	2447	模倣銭	
665	78	7~10瓣	咸平元寶	23.88	6.31	0.99	2.2	宛存	0.09	2447	行赤-模倣銭	
666	78	7~10瓣	至道元寶	—	6.82	0.87	3.0	宛存	0.11	2447	行赤-模倣銭	
667	78	7~10瓣	洪武通寶	—	—	1.23	1.0	1/2		2447		
668	78	7~10瓣	洪武通寶	—	—	0.86	0.4	糊片		2447		
669	78	7~10瓣	〇〇元〇	—	—	0.75	0.7	1/2		2447	真赤	
670	78	7~10瓣	無文銭	19.36	8.11	0.62	0.7	宛存	0.04	2447		
671	78	7~10瓣	無文銭	19.59	8.58	0.56	0.8	宛存	0.04	2447		
672	78	7~10瓣	嘉祐元寶	23.52	5.95	1.26	4.0	宛存	0.17	2455	真赤-模倣銭	
673	78	7~10瓣	天禧通寶	24.89	0.95	6.65	3.4	宛存	0.14	2455	真赤	
674	78	7~10瓣	無字元寶	23.89	6.70	1.08	3.0	宛存	0.13	2455	真赤-模倣銭	
675	78	7~10瓣	咸平元寶	23.85	6.90	0.85	2.7	宛存	0.11	2455	背二	
676	78	7~10瓣	皇宋通寶	24.18	7.48	0.97	2.8	宛存	0.12	2455	真赤-模倣銭	
677	78	7~10瓣	祥符通寶	23.31	6.18	0.89	2.5	宛存	0.11	2455	真赤	
678	78	7~10瓣	祥符○○	—	—	0.91	1.1	1/2		2455	真赤	
679	78	7~10瓣	〇〇通寶	25.09	5.66	1.32	2.9	宛存	0.12	2455	模倣銭	
680	78	7~10瓣	洪武通寶	22.12	—	0.88	1.0	1/2		2455		
681	78	7~10瓣	〇背○○	—	—	0.87	0.4	糊片		2455	真赤	
682	78	7~10瓣	元○○○	—	—	0.96	1.4	1/2		2455	鎌倉	
683	78	7~10瓣	〇〇元〇	—	—	0.89	1.2	1/2		2455	鎌倉	
684	78	7~10瓣	〇〇元〇	—	—	0.96	0.6	1/4		2455		
685	78	7~10瓣	紹聖元寶	23.84	6.68	1.08	3.4	宛存	0.14	2456	行赤	
686	78	7~10瓣	咸平元寶	24.28	6.37	1.15	3.2	宛存	0.13	2456	真赤	
687	78	7~10瓣	聖宗元寶	23.73	6.70	1.09	3.6	宛存	0.15	2456	鎌倉	
688	78	7~10瓣	洪武通〇	—	—	0.63	0.9	1/2		2456		
689	78	7~10瓣	洪武通寶	—	—	1.09	1.3	1/2		2456		
690	78	7~10瓣	無字元寶	23.52	7.22	1.19	3.2	宛存	0.14	2486	真赤	
691	78	7~10瓣	無字元寶	23.79	7.14	0.73	2.7	宛存	0.11	2486	真赤-模倣銭	
692	78	7~10瓣	無字元寶	23.66	6.56	1.39	3.0	宛存	0.13	2486	真赤	
693	78	7~10瓣	開元通寶	24.88	7.28	0.90	2.6	宛存	0.10	2486		
694	78	7~10瓣	開元通寶	24.58	6.77	1.18	3.2	宛存	0.13	2486		
695	78	7~10瓣	開元通寶	24.65	6.22	0.98	2.2	3/4		2486		
696	78	7~10瓣	政和通寶	24.46	6.87	1.22	3.2	宛存	0.13	2486	分磨	
697	78	7~10瓣	政和通寶	24.28	6.20	1.06	3.0	宛存	0.12	2486	分磨	
698	78	7~10瓣	政和通寶	24.35	7.97	0.97	2.5	宛存	0.10	2486	分磨-模倣銭	
699	78	7~10瓣	政和通寶	23.76	5.76	1.53	2.9	宛存	0.12	2486	分磨	
700	78	7~10瓣	洪武通寶	21.89	6.72	0.83	1.5	宛存	0.07	2486		
701	78	7~10瓣	洪武通寶	22.79	5.93	1.19	2.0	宛存	0.09	2486		
702	78	7~10瓣	洪武通寶	22.77	5.53	1.29	2.9	宛存	0.13	2486		
703	78	7~10瓣	元豊通寶	24.03	6.81	1.36	3.1	宛存	0.13	2486	行赤	

表 49 豐臣錢貨一覽(9)

番号	1/10才	通稱	單位	種類	直径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	質量(g)	残存率	重量/質量	登録番号	備考
704	7B	元豐通寶	23.03	6.71	0.91	2.9	空存	0.13	2486	行書-模跡銭		
705	7B	元豐通寶	23.48	6.56	0.89	2.7	空存	0.11	2486	行書		
706	7B	元○通寶	24.35	5.67	1.32	3.1	空存	0.13	2486	模跡銭		
707	7B	元豐通寶	23.81	6.54	0.93	1.3	3/4		2486	行書		
708	7B	皇宋通寶	24.78	7.29	0.88	2.6	空存	0.10	2486	真書-模跡銭		
709	7B	皇宋元寶	24.23	7.26	1.06	3.3	空存	0.14	2486	隸書-模跡銭		
710	7B	元祐通寶	24.42	7.12	1.17	3.5	空存	0.14	2486	行書		
711	7B	聖德元寶	24.05	6.27	1.11	2.9	空存	0.12	2486	真書		
712	7B	皇祐元寶	24.70	6.59	1.09	3.6	空存	0.15	2486	隸書		
713	7B	祥符元寶	23.17	6.13	0.86	1.3	3/4		2486	真書		
714	7B	祥符○○	—	—	0.74	0.7	1/4		2486	真書		
715	7B	熙寧元寶	23.45	6.36	1.16	2.8	空存	0.12	2486	隸書		
716	7B	○○○寶	23.60	7.35	0.62	1.3	空存	0.06	2486	模跡銭		
717	7B	不明	22.96	6.41	1.15	2.6	空存	0.11	2486	模跡銭		
718	7B	○○○○	24.48	7.78	0.88	1.9	3/4		2486			
719	7B	○豐通○	—	—	0.98	1.3	1/2		2486	隸書		
720	7B	天○○寶	23.94	—	1.05	1.6	1/2		2486	真書		
721	7B	皇宋通寶	—	—	0.87	0.9	1/4		2486	真書		
722	7B	○平○○	—	—	0.81	0.8	1/4		2486	真書		
723	7B	○○○通寶	23.83	7.71	0.94	1.6	3/4		2486	隸書-模跡銭		
724	7B	○○○重	24.59	6.21	0.69	1.4	1/2		2486			
725	7B	○○○寶	—	—	0.67	0.5	1/4		2486	真書		
726	7B	○○○寶	—	—	0.82	0.5	1/4		2486	真書		
727	7B	不明	—	—	0.89	0.7	1/4		2486			
728	7B	不明	—	—	0.70	0.2	銅片		2486			
729	7B	無文銭	18.56	8.13	0.96	0.8	空存	0.04	2486			
730	7B	無文銭	19.34	8.30	0.66	1.1	空存	0.05	2486			
731	7B	無文銭	20.25	8.98	0.60	1.1	空存	0.05	2486			
732	7B	熙寧元寶	23.74	6.53	1.27	3.5	空存	0.15	2473	真書		
733	7B	熙寧元寶	23.17	6.28	1.15	3.3	空存	0.14	2473	真書		
734	7B	元祐通寶	24.00	6.28	1.18	3.7	空存	0.15	2473	隸書-模跡銭		
735	7B	皇宋通寶	24.49	6.72	1.02	3.3	空存	0.13	2473	真書		
736	7B	皇宋通寶	24.73	7.51	1.13	3.6	空存	0.15	2473	隸書		
737	7B	熙寧元寶	23.02	6.50	1.04	3.1	空存	0.13	2473	隸書		
738	7B	聖宋元寶	24.45	6.06	1.02	3.7	空存	0.15	2473	行書		
739	7B	紹興元寶	24.66	7.09	1.08	3.5	空存	0.13	2473	行書		
740	7B	元豐通寶	23.55	7.96	0.86	2.3	空存	0.10	2473	隸書-模跡銭		
741	7B	大觀通寶	23.94	6.55	0.87	2.3	空存	0.10	2473	行書		
742	7B	政和通寶	24.38	6.33	1.25	3.4	空存	0.14	2473	隸書		
743	7B	天禧元寶	24.51	7.02	1.02	3.0	空存	0.12	2473	真書		
744	7B	開元通寶	24.84	6.44	0.96	2.7	空存	0.11	2473	行書		
745	7B	元豐通寶	24.02	7.67	1.07	3.2	空存	0.13	2473	行書		
746	7B	元豐通寶	23.84	8.05	1.01	3.2	空存	0.13	2473	隸書-模跡銭		
747	7B	不明	23.62	6.67	0.92	2.3	空存	0.10	2473	模跡銭		
748	7B	不明	23.13	6.06	1.01	2.4	空存	0.10	2473	模跡銭		
749	7B	元豐通寶	23.71	6.19	1.22	3.6	空存	0.15	2473	行書		
750	7B	元豐通寶	23.98	7.07	1.05	3.1	空存	0.13	2473	行書		
751	7B	開元通寶	24.76	6.91	1.18	3.3	空存	0.13	2473			
752	7B	開元通寶	24.73	6.89	0.96	2.8	空存	0.11	2477	書上月		
753	7B	祥符通寶	23.12	6.17	1.09	4.2	空存	0.17	2477	真書		
754	7B	祥符○○	—	—	0.78	0.9	1/4		2477	真書-模跡銭		
755	7B	天聖元寶	23.38	5.51	0.82	2.3	空存	0.10	2477	隸書		
756	7B	至道元寶	23.89	5.04	0.95	3.0	空存	0.13	2477	真書		
757	7B	洪武通寶	23.64	5.75	0.97	3.2	空存	0.14	2477			
758	7B	天○○寶	—	—	0.76	1.2	1/2		2477	真書		
759	7B	○元祐○	23.67	—	1.02	1.3	1/2		2477			
760	7B	紹興元寶	—	—	1.36	1.4	1/2		2477	書光		
761	7B	洪武通寶	—	—	0.84	0.3	銅片		2477			
762	7B	不明	24.42	7.37	1.02	3.0	空存	0.12	2477	模跡銭		
763	7B	不明	23.52	6.16	0.89	2.4	空存	0.10	2477			
764	7B	不明	26.36	5.48	1.08	4.2	空存	0.16	2477	模跡銭		
765	7B	不明	24.50	7.22	1.24	3.0	空存	0.12	2477			
766	7B	不明	22.50	7.54	0.68	1.2	3/4		2477			
767	7B	無文銭	19.18	8.37	1.02	0.9	3/4		2477			
768	7B	皇宋元寶	23.82	6.43	0.89	3.0	空存	0.13	2485	行書		
769	7B	熙寧元寶	24.42	6.58	1.08	3.5	空存	0.14	2485	隸書		
770	7B	聖宋元寶	23.61	6.42	1.32	3.7	空存	0.16	2485	行書		
771	7B	元祐通寶	—	7.35	0.89	2.4	空存	0.11	2485	真書-模跡銭		
772	7B	聖宋元寶	24.52	6.19	0.65	2.6	空存	0.11	2485	真書-模跡銭		
773	7B	元祐通寶	24.25	6.77	1.07	3.8	空存	0.16	2485	隸書		
774	7B	元祐通寶	25.22	7.47	0.82	1.1	1/2		2485	隸書		
775	7B	元祐通寶	25.03	6.32	1.09	3.2	空存	0.13	2485	真書		
776	7B	嘉祐元寶	19.27	6.94	0.82	1.2	空存	0.06	2485	真書		
777	7B	洪武通寶	22.85	6.44	1.05	1.6	3/4		2485			
778	7B	祥符○寶	25.30	5.91	1.05	2.1	1/2		2485	真書		
779	7B	洪武通寶	—	—	0.58	0.6	1/2		2485	模跡銭		
780	7B	不明	—	—	0.74	0.4	1/2		2485			
781	7B	不明	—	—	0.85	0.3	銅片		2485			
782	7B	無文銭	21.00	7.34	0.87	1.2	空存	0.06	2485			
783	7B	無文銭	21.04	8.62	0.83	0.9	空存	0.04	2485			
784	7B	聖德元寶	24.76	6.01	1.12	3.6	空存	0.14	2485	真書		

表50 豊臣銭貨一覽(10)

番号	印字	遺構	部位	種類	直径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	質量(g)	残存率	重量/質量	登録番号	備考
785		7~10層	照準元寶	23.90	6.23	1.19	3.4	完存	0.14	2488	真書	
786		7~10層	洪武通寶	19.74	7.02	0.56	1.0	完存	0.06	2488	真書	
787		7~10層	元豐通寶	25.64	6.84	0.92	3.5	完存	0.14	2488	隸書	
788		7~10層	天禧通寶	25.37	6.71	0.85	2.6	完存	0.10	2488	真書	
789		7~10層	天禧通寶	23.79	6.30	0.88	2.4	完存	0.10	2488	真書-模跡銭	
790		7~10層	皇宋通寶	24.84	6.70	1.18	3.3	3/4	0.14	2488	隸書	
791		7~10層	〇元寶	24.25	—	0.68	1.2	1/2	—	2488	真書	
792		7~10層	開元通寶	24.26	6.85	0.95	3.3	完存	0.14	2489		
793		7~10層	開元通寶	24.19	7.45	1.05	2.2	完存	0.09	2489		
794		7~10層	元龜通寶	24.15	7.25	0.77	2.9	完存	0.12	2489	行書	
795		7~10層	元龜通寶	23.91	5.54	1.52	4.2	完存	0.18	2489	隸書	
796		7~10層	祥符通寶	24.47	6.11	1.05	3.5	完存	0.14	2489	真書	
797		7~10層	祥符元寶	24.54	6.65	1.04	2.1	3/4	—	2489	真書	
798		7~10層	祥〇〇	—	—	0.75	0.4	銅片	—	2489	真書	
799		7~10層	景祐元寶	22.45	6.38	1.17	2.7	完存	0.12	2489	真書	
800		7~10層	景〇元寶	23.28	6.24	1.19	2.3	3/4	—	2489	真書	
801		7~10層	景定元寶	—	—	0.86	1.1	1/2	—	2489	背元	
802		7~10層	熙寧元寶	24.91	7.82	0.96	2.6	完存	0.10	2489	真書	
803		7~10層	熙寧元寶	23.89	7.13	0.73	2.7	完存	0.11	2489	隸書	
804		7~10層	天武通寶	23.64	7.04	0.86	3.1	完存	0.13	2489	真書	
805		7~10層	洪武通寶	21.88	6.60	0.76	0.7	1/2	—	2489		
806		7~10層	紹聖元寶	23.96	6.49	1.43	2.7	3/4	—	2489	行書	
807		7~10層	紹聖元寶	23.66	6.69	1.18	3.2	完存	0.14	2489	行書	
808		7~10層	政和通寶	25.18	6.80	0.99	2.6	完存	0.10	2489	分簿	
809		7~10層	皇宋通寶	24.38	7.87	0.96	2.7	完存	0.11	2489	真書-模跡銭	
810		7~10層	皇宋通寶	24.07	6.35	1.07	2.9	完存	0.12	2489	隸書-模跡銭	
811		7~10層	熙寧元寶	—	7.35	1.23	3.1	完存	—	2489	隸書-模跡銭	
812		7~10層	天〇〇	—	—	0.95	0.5	1/4	—	2489	真書	
813		7~10層	祥符元寶	—	—	0.73	0.9	1/2	—	2489	真書	
814		7~10層	〇通元〇	—	—	0.93	1.3	1/2	—	2489		
815		7~10層	〇〇元〇	—	—	0.71	0.3	銅片	—	2489		
816		7~10層	〇〇元寶	—	—	1.61	0.8	1/4	—	2489	真書	
817		7~10層	不明	—	—	0.78	0.4	1/4	—	2489		
818		7~10層	不明	—	—	0.88	0.3	銅片	—	2489		
819		7~10層	無文銭	20.27	7.25	0.75	0.9	完存	0.04	2489		
820		7~10層	無文銭	19.97	7.26	0.76	1.2	完存	0.06	2489		
821		7~10層	開元通寶	24.08	7.13	0.87	2.3	完存	0.10	2490		
822		7~10層	皇宋通寶	24.09	7.85	0.82	2.5	完存	0.10	2490	隸書-模跡銭	
823		7~10層	洪武通寶	20.92	7.06	0.90	1.8	完存	0.09	2490	模跡銭	
824		7~10層	洪武通寶	20.22	6.76	0.76	1.0	完存	0.05	2490	模跡銭	
825		7~10層	洪武通寶	—	—	0.74	0.5	1/2	—	2490		
826		7~10層	〇〇元寶	—	—	0.9	0.9	1/2	—	2490		
827		7~10層	祥〇元寶	—	—	0.98	1.5	1/2	—	2490	真書	
828		7~10層	〇祥〇〇	—	—	0.75	0.4	1/4	—	2490	真書	
829		7~10層	元祐通寶	24.47	6.64	0.82	3.0	完存	0.12	2490	行書	
830		7~10層	〇和通〇	—	—	1.08	1.0	1/2	—	2490		
831		7~10層	〇福〇〇	—	—	1.26	0.8	1/4	—	2490	真書	
832		7~10層	〇〇通寶	—	—	0.89	1.1	1/2	—	2490	真書-模跡銭	
833		7~10層	〇〇通寶	—	—	0.75	0.9	1/2	—	2490	真書	
834		7~10層	〇〇元寶	—	—	1.08	1.3	1/2	—	2490	隸書	
835		7~10層	不明	—	—	0.94	0.5	1/4	—	2490		
836		7~10層	天〇〇	—	—	1.05	0.8	1/4	—	2490		
837		7~10層	〇〇元寶	—	—	1.42	1.1	1/4	—	2490		
838		7~10層	〇〇元寶	—	—	0.85	0.4	銅片	—	2490		
839		7~10層	無文銭	21.18	7.33	0.66	1.5	完存	0.07	2490		
840		7~10層	無文銭	20.39	10.02	0.70	0.9	完存	0.04	2490		
841		7~10層	無文銭	18.66	7.56	0.72	1.0	完存	0.05	2490		
842		7~10層	無文銭	—	—	0.68	0.6	完存	—	2490		
843		7~10層	元豐通寶	24.53	6.83	0.95	3.3	完存	0.13	2509	隸書	
844		7~10層	元豐通寶	23.29	6.61	1.02	3.3	完存	0.14	2509	隸書	
845		7~10層	皇宋通寶	24.02	7.55	0.99	2.0	3/4	—	2509	真書	
846		7~10層	元豐通寶	—	—	0.93	0.9	1/2	—	2509	行書	
847		7~10層	永樂通寶	24.68	5.84	1.25	3.5	完存	0.14	2509		
848		7~10層	開元通寶	24.60	7.55	0.83	2.5	完存	0.10	2509		
849		7~10層	洪武通寶	23.96	5.87	0.94	2.4	完存	0.10	2509		
850		7~10層	洪武通寶	—	—	1.01	1.2	1/2	—	2509	模跡銭	
851		7~10層	洪武通寶	—	—	0.77	0.5	1/2	—	2509		
852		7~10層	紹聖元寶	—	—	0.84	2.1	3/4	—	2509	行書	
853		7~10層	紹〇元寶	23.72	—	0.97	1.3	1/2	—	2509		
854		7~10層	〇祐元寶	24.89	6.78	0.96	2.4	3/4	—	2509	真書	
855		7~10層	〇元通寶	23.71	5.93	0.89	3.8	完存	0.16	2509	真書-模跡銭	
856		7~10層	淳熙元寶	24.15	6.46	1.33	3.2	完存	0.13	2509	真書-背月星	
857		7~10層	祥〇元寶	—	—	1.15	1.5	1/2	—	2509	真書	
858		7~10層	祥〇〇〇	—	—	—	—	—	—	2509	真書-344と融合	
859		7~10層	皇宋通寶	23.95	—	1.22	2.3	3/4	0.10	2509	隸書	
860		7~10層	紹興元寶	—	—	1.10	1.2	1/2	—	2509	背二	
861		7~10層	〇元寶	—	—	1.08	1.6	1/2	—	2509	真書	
862		7~10層	〇元寶	—	—	0.98	1.1	1/2	—	2509	真書	
863		7~10層	〇〇通寶	—	—	0.91	1.2	1/2	—	2509	行書	
864		7~10層	〇〇元寶	—	—	1.37	1.4	1/2	—	2509		
865		7~10層	〇〇通寶	23.91	6.39	1.04	3.1	完存	0.13	2509	模跡銭	

表 51 豐臣錢貨一覽 (11)

番号	比号	通稱	單位	種類	直径(mm)	孔徑(mm)	厚さ(mm)	質量(g)	残存率	直径/質量	登録番号	備 考
866	7B	7~10兩	元豐通寶	23.94	7.18	0.89	2.8	宛存	0.12	2509	鎌倉・模倣銭	
867	7B	7~10兩	○元通○	—	—	1.15	1.6	1/2	—	2509	模倣銭	
868	7B	7~10兩	不明	—	—	0.98	0.3	薄片	—	2509	—	
869	7B	7~10兩	○○○寶	22.24	7.07	0.93	2.4	宛存	0.11	2509	模倣銭	
870	7B	7~10兩	永楽通寶	24.73	6.77	0.89	2.6	宛存	0.11	2510	—	
871	7B	7~10兩	皇宋通寶	23.06	6.44	0.60	2.4	宛存	0.10	2510	真書・模倣銭	
872	7B	7~10兩	皇宋通寶	24.67	7.02	0.96	3.2	宛存	0.13	2510	鎌倉・模倣銭	
873	7B	7~10兩	皇宋通寶	24.37	7.05	0.83	2.9	宛存	0.12	2510	真書・模倣銭	
874	7B	7~10兩	皇宋通寶	—	—	1.06	1.3	1/2	—	2510	真書・模倣銭	
875	7B	7~10兩	皇宋通寶	—	—	0.84	1.1	1/2	—	2509	鎌倉	
877	7B	7~10兩	祥符元寶	23.52	6.20	0.95	3.1	宛存	0.13	2510	真書	
877	7B	7~10兩	祥符通寶	24.32	6.43	0.89	3.0	宛存	0.12	2510	真書	
878	7B	7~10兩	紹聖元寶	24.18	6.44	1.16	3.1	宛存	0.13	2510	真書	
879	7B	7~10兩	紹聖元寶	24.11	6.93	0.73	2.8	宛存	0.12	2510	行書・模倣銭	
880	7B	7~10兩	元祐通寶	24.18	7.61	0.79	2.6	宛存	0.11	2510	鎌倉・模倣銭	
881	7B	7~10兩	元祐通寶	—	—	1.26	1.6	1/2	—	2510	行書	
882	7B	7~10兩	○○元寶	23.06	6.02	0.74	2.7	宛存	0.12	2510	模倣銭	
883	7B	7~10兩	太平通寶	24.33	6.16	0.75	2.6	宛存	0.11	2510	真書	
884	7B	7~10兩	元豐通寶	23.80	6.43	1.12	4.0	宛存	0.17	2510	行書・模倣銭	
885	7B	7~10兩	元豐通寶	23.17	6.35	0.85	2.7	宛存	0.12	2510	行書・模倣銭	
886	7B	7~10兩	元豐通寶	24.14	6.91	1.02	2.0	1/2	—	2510	行書・900と組合	
887	7B	7~10兩	咸平元寶	23.33	6.16	0.86	2.7	宛存	0.12	2510	真書	
888	7B	7~10兩	熙寧元寶	24.13	6.65	0.96	3.8	宛存	0.16	2510	真書	
889	7B	7~10兩	熙寧元寶	23.55	6.45	1.13	3.3	宛存	0.14	2510	鎌倉	
890	7B	7~10兩	宣和通寶	24.32	6.14	0.88	2.8	宛存	0.12	2510	鎌倉	
891	7B	7~10兩	洪武通寶	19.76	7.10	0.57	0.5	1/2	—	2510	模倣銭	
892	7B	7~10兩	○祐○○	—	—	0.90	0.5	1/4	—	2510	—	
893	7B	7~10兩	○○○寶	—	—	0.94	0.8	1/4	—	2510	—	
894	7B	7~10兩	皇宋通寶	—	—	1.05	1.3	1/2	—	2510	鎌倉	
896	7B	7~10兩	無文銭	22.23	—	7.41	0.66	1.7	宛存	0.08	2510	—
896	7B	7~10兩	不明	—	—	0.89	0.7	1/4	—	2510	—	
897	7B	7~10兩	天禧通寶	23.00	6.99	0.79	1.7	宛存	0.07	2511	鎌倉・模倣銭	
898	7B	7~10兩	天禧通寶	23.73	6.08	0.79	2.4	宛存	0.10	2511	真書	
899	7B	7~10兩	天禧通寶	24.32	6.20	1.22	2.7	宛存	0.11	2511	真書	
900	7B	7~10兩	開元通寶	24.55	6.57	1.15	2.6	宛存	0.11	2511	—	
901	7B	7~10兩	祥符通寶	24.79	6.96	0.88	2.9	宛存	0.12	2511	真書	
902	7B	7~10兩	祥符○○	24.56	—	1.15	1.4	1/2	—	2511	真書	
903	7B	7~10兩	洪武通寶	23.45	6.77	0.96	2.7	宛存	0.12	2511	真書	
904	7B	7~10兩	皇宋通寶	24.35	7.20	0.83	3.4	宛存	0.10	2511	真書	
905	7B	7~10兩	皇宋通寶	22.79	7.24	0.75	2.3	宛存	0.10	2511	真書・模倣銭	
906	7B	7~10兩	皇宋通寶	24.03	6.92	1.13	2.1	3/4	—	2511	真書・模倣銭	
907	7B	7~10兩	皇德元寶	24.43	6.10	1.13	2.3	3/4	—	2511	真書	
908	7B	7~10兩	嘉○通○	—	—	0.98	1.1	1/2	—	2511	鎌倉	
909	7B	7~10兩	元○○○	—	—	—	—	—	—	2511	行書・886と組合	
910	7B	7~10兩	○○通寶	—	—	1.38	1.2	1/2	—	2511	鎌倉	
911	7B	7~10兩	無文銭	—	—	0.63	0.9	宛存	—	2511	—	
912	7B	7~9兩	熙寧元寶	—	6.98	1.03	—	宛存	—	2477	真書	
913	7B	7~9兩	○聖元寶	—	6.34	1.19	—	3/4	—	2477	—	
914	7B	7~10兩	不明	22.12	6.98	0.53	1.6	3/4	—	2489	—	
915	7B	7~10兩	洪武通寶	22.92	5.79	1.22	3.2	宛存	0.14	2493	—	
916	7B	7~10兩	無文銭	—	—	0.63	0.5	1/2	—	2450	模倣銭	
917	7B	7~10兩	不明	—	—	—	—	宛存	—	2450	模倣銭	
918	7B	7~10兩	不明	—	—	—	—	宛存	—	2450	模倣銭	
919	7B	7~10兩	不明	—	—	—	—	宛存	—	2450	模倣銭	
920	7B	7~10兩	不明	—	—	—	—	宛存	—	2450	模倣銭	
921	7B	7~10兩	不明	—	—	—	—	宛存	—	2450	模倣銭	
922	7B	7~10兩	不明	—	—	—	—	宛存	—	2450	模倣銭	
923	7B	7~10兩	不明	—	—	—	—	宛存	—	2450	模倣銭	
924	7B	7~10兩	不明	—	—	—	—	宛存	—	2450	模倣銭	
925	7B	7~10兩	不明	—	—	—	—	宛存	—	2450	模倣銭	
926	7B	7兩	無文銭	16.89	3.41	0.84	0.5	宛存	0.03	1358	—	
927	7A	6兩~地山	不明	—	—	—	—	宛存	—	2290	模倣銭	
928	7A	6兩~地山	不明	—	—	—	—	宛存	—	2290	模倣銭	
929	7A	6兩~地山	不明	—	—	—	—	宛存	—	2290	模倣銭	
930	7A	6兩~地山	不明	—	—	—	—	宛存	—	2290	模倣銭	
931	7A	6兩~地山	不明	—	—	—	—	宛存	—	2290	模倣銭	
932	7A	6兩~地山	不明	—	—	—	—	宛存	—	2290	模倣銭	
933	7A	6兩~地山	不明	—	—	—	—	宛存	—	2290	模倣銭	
934	7A	6兩~地山	不明	—	—	—	—	宛存	—	2290	模倣銭	
935	7A	6兩~地山	不明	—	—	—	—	宛存	—	2290	模倣銭	
936	7A	6兩~地山	不明	—	—	—	—	宛存	—	2290	模倣銭	
937	7A	6兩~地山	不明	—	—	—	—	宛存	—	2290	模倣銭	
938	7A	6兩~地山	不明	—	—	—	—	宛存	—	2290	模倣銭	
939	7B	増補500	埋上	○○○寶	—	—	—	—	—	1202	—	
940	7B	6兩	無文銭	14.39	7.68	0.64	0.3	宛存	0.02	797	—	
941	7B	7兩	政和通寶	—	—	1.05	0.9	1/2	—	1328	—	
942	不明	不明	嘉祐元寶	23.07	6.78	0.81	2.2	宛存	0.10	不明	鎌倉・模倣銭	
943	不明	不明	聖宗元寶	23.66	6.82	1.13	3.4	宛存	0.14	不明	行書	
944	不明	不明	嘉定通寶	23.47	6.54	0.99	3.3	宛存	0.14	不明	背六	
945	不明	不明	元祐通寶	24.74	6.92	0.98	3.7	宛存	0.15	不明	行書	

## 10. 刀剣・刀装・装剣金具類

今回の調査では豊臣期本丸築造開始から三の丸築造開始以前の土層より、刀剣類やその外装、そして、それに付属する装剣金具類が数多く検出された。これらの多くは断片的な資料となっていることや、錆化が激しいためその内容を十分に把握できない。

しかし、それでもなお、当時の拵の特徴や製作手法を知る上で有為なものであると考えられるため、以下にその詳細と内容について報告を行うこととする。

### (1) 刀剣類 (図 129-6～9、写 145-1～4)

4点の出土が確認された。その内訳は短刀とその可能性を持つもの3点、刀または脇差1点である。129-6は残存長9.5cm、身幅2.0cmを測る平造り、庵棟の刃器で、短刀の切先部に相当する断片となる可能性が考えられる。しかし、棟が指表側に偏っていること、指表側切先附近が片切刃造りになっていることを勘案するならば、大小柄用の小刀と理解することも可能である。

129-7は全形の窺える資料ある。法量は長さ19.8cm(六寸五分三厘)、反り0.1cm弱(一厘)、元幅2.1cm(六分九厘)、元重0.6cm(二分)、茎長さ8.8cm(二分九厘)、茎反り0.1cm弱(一厘)を測る。

造り込みは平造、重ねは尋常。棟は中筋の広狭のある真の棟で、鉞はやや高い。茎は生ぶで両面穿孔からなる目釘穴一つ。茎尻は丸い栗尻で、外圧を受け指表側に緩く曲がっている。鱧目は不明で、刃方は角棟、茎棟には小肉が付く。銘は認められない。

姿は身幅狭く、フクラは枯れ気味となるが、茎の難所附近の重ねが元重より0.1cm独厚いことや、刃区がほとんど確認できないことから、現状は相当研ぎ減りの進んだ状態の姿であると考えられる。鍛えや刃紋については錆のため不明である。

また、柄の木質が部分的に錆着しており、これが指裏の目釘穴を覆う状態にある。このため、目釘は表裏を貫通しない状態で挿入していたものと考えられる。さらに、木質が遺存しているにも関わらず鏝は認められず、刀身側に棟区を除いて柄木が覆う状態にある。この事から呑口式に近い状態の拵に掛けられていた可能性が考えられるが、伝世品にみるような半月形を成していないことが問題点として残る。129-8も短刀で、錆化により切先を欠損する。法量は推定長27cm、反り僅か、元幅2.4cm(七分九厘)、元重0.65cm(二分一厘)、茎長さ8.8cm(二分九厘)、茎反り0.1cm弱(一厘)を測る。造り込みは平造、重ねは尋常。鉞の低い行の棟。茎は生ぶで両面穿孔からなる目釘穴一つ。茎尻は刃上がり気味の浅い栗尻。鱧目は楯増で、刃方、茎棟双方とも小肉が付き、茎棟には筋違の鱧目が確認できる。指表には細鋳で浅い二字銘が確認できるが、判読はできない。

姿は身幅尋常、フクラ枯れ気味でやや大振りである。鍛えは棟側の錆の深い部分に柁目の通る部分が観察される。刃紋については錆のため不明。観察できる諸要素から大和伝あるいは関伝系の刀工による製品である蓋然性が高い。

129-9は残存長47.0cmを測る刀剣で、途中で切断されているために刀であるのか脇差であるのか確定できない。造り込みは鑄造、重ねは尋常で、鏝はやや高く、その幅は狭い。棟は鉞の尋常な行の棟。

身幅は先に向かってやや幅を狭め、最も厚い部分で2.9cm(九分六厘)測る。重ねは同じく0.6cm強(二厘)。反りは現状で1.0cmを測り、先にいって強くなる。

切先は先端を欠失するが、やや伸びごろの中切先と推測され、小鏝が直線となるためフクラは枯れ気味であったものと考えられる。鍛えは錆化の激しい心鉄部分では、鏝地が柁目、平地が大きく流れる板目となる。全体の姿から室町時代末期の所産にかかるものと考えられる。

## (2)刀装類 (図 129-1～5、写 138-1～10)

これに分類できる資料として、柄前・鑑・鞘状木製品を確認できる。用いられる素材は木材を中心とし、一部に鮫皮や漆などが併用される。個別についてその特徴を観察する。

### ①柄前 (図 129-1～3、写 138-1～3)

3点出土しており、いずれも木材を主に用いている。129-1は全体が遺存する資料である。表面には刀身側3分の1程で二枚を継ぎ合わせた鮫皮が巻かれ、黒漆が塗布されている。なお、靱粒は認められず、目貫の根を固定するための削り込みも存在しない。

遺存状況が良好でないため不確実であるが、その大きさから小刀様の短い刀剣類に掛けられたものと考えられ、また、鮫皮が縁の部分にまで及んでいることから、出鮫柄となっていた可能性もある。

129-2はほぼ全形の窺える資料で、その形状から相当身幅のある大振りの短刀や、寸延短刀あるいは、小脇差に掛けられていたものと考えられる。柄形は両輪鼓形で、目釘穴は刀身側小口より約1.5cm下がった棟方寄りに穿たれている。刀身側小口部には0.8cm程度にわたり一段高くなった部分が観察される。この様相から金属製の縁が装着されていたと類推され、その幅から考えて掛けられていた縁は高さ1cmに満たない腰の低いものであったことが想定される。

頭部分は鋸により切り離されたままの状態を止めていることから、金属製のものが装着されていたものとは考えられず、これに変わって角頭が張り付けられていたとみられる。

裏面も鋸引きの跡を明瞭に止め、その内側に長さ約9.0cmにわたって茎を収める挿き入れが施されている。その形状から茎尻の張った刀身が収められていたと考えられる。

なお、茎尻は栗尻となっているが、茎の圧痕や錆の沈着が認められないことから、この部分が突き流しに相当するのか、茎の形状をそのまま表しているのかは判断できない。

129-3も柄前で形状や目釘穴の位置、挿き入れられた茎の形状など細部に至るまで共通している。その他の諸特徴もほとんどが共通し、本来、一対のものであると考えられた。試みに双方を合致させたところ、一対であることを疑う余地はほとんど無く、この状態で復原図化も行った。その結果、納められていた刀身の茎は鑑の非常に高いものであることが明確となり、両刃造りや菖蒲造り、あるいは、冠落とし造りなどの刀剣を納めるものであったと推定されることとなった。

### ②鑑 (写 138-4～6)

3点出土した。平面形はやや幅広の楕円形をなしている。材質は木材で、縦方向に木取りを行う。表面には黒漆が塗布され、裏面は木地のままである。

### ③鞘状木製品 (図 129-4・5、写 138-7～10)

4点出土した。規格には大小二種類あるように見受けられる。外形は静型薙刀の鞘状を呈する。表面は削り放しで木地のままであり、そこに赤色顔料が塗布されている。内側には長さ21cmから24cm前後を測る刀身のような挿き入れが施されているが、鑑袋は設けられていない。

これを刀剣類のものとするならば、長さ七、八寸程度のほとんど無反りで片刃の姿となり、また、断面形からは相当重ねの厚い製品であったと推測される。

このような特徴を備えつつ現在までに伝世している刀剣類には、鑑通し造りの短刀や、菊地槍風の片刃の槍がみられ、これらを本例に納められた刀剣類の具体的候補として掲げることができる。

しかし、表面に漆が塗布されない木地鞘であり防水性に乏しいこと、鑑袋が設けられず刀身との固定法に不明な点が残るなど、鉄製品の鞘とするには疑問点も残ることから鞘状木製品と報告しておく。

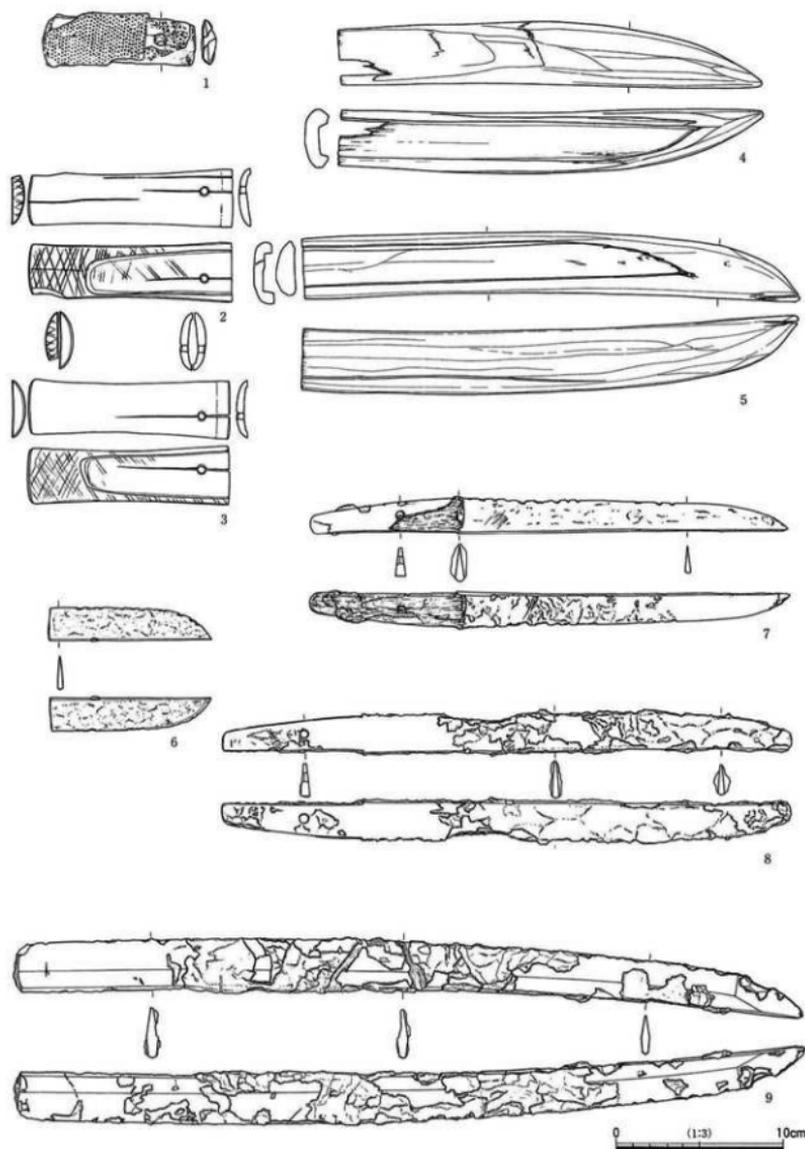


図129 柄前・鞘状木製品・刀剣類

(3) 装剣金具類 (図 130・131、写 145-5～39・146～149)

目貫・筭・小柄の三所のほか、縁・切羽・鵜目・その他の金具類がある。地金については確実なものに真鍮・銀を用いたものが1点ずつ確認できる。その他のものについては伝世品から推測して、赤銅・山金を主に用いていると思われるが、長年埋没していたため当時の状態を止めていない。従って確実に判断できるものについては記述を行うが、それ以外は素銅を含む銅合金であるとの解釈を願いたい。

①目貫 (図 130-1～17、写 146-1～12・147-7～16)

確実なものが13点、それ以外のものが9点出土し、すべてが表裏どちらか一方のみが残存する片目貫となっている。これらは伝世品という古金工・古美濃を始め、鋳目貫までが含まれているが、中に1点、後藤家上三代の作品と考えられるものも含まれていることで注目に値する。

130-1はやや厚手の地金を用いた短刀用の丸目貫である。容影に毛彫を加え、中央に珠点を持つ14葉の重弁菊花紋が表現される。裏面には鑲付された円形の陽根が一部残存する。

130-2は薄金出しによる容影の製品で、鳥と水を表現している意匠を持つようだが判然としない。3カ所に抜け穴を有し、内、中央の一つは根が剥がれると共に広がったものと考えられる。

130-3は厚金出しの容影で、丸に右三つ巴紋を三双にした四角を表す。紋は陰表現とされ、その部分と周囲の丸との間の地には粗い魚ヶ子が蒔かれている。周囲に刻目を加え装飾性を高めているが、全体的な紋様表現は粗雑である。なお、その大きさからみて、比較的小振りの楯に掛けられていたものとみられる。

裏面中央には根元が四角で先端が丸い陽根が鑲付されている。その円形の部分に横方向の擦痕が確認できることから、本来、陰陽根で目釘として兼用されていた表目貫と考えられる。

130-4は三鈷剣を表現しているもので、劔部分を欠失している。やや厚手の地金を用いた容影に細かな毛彫が施され、菊座に囲まれた柄の尖部と三鈷との接触部には、一列の魚ヶ子髹も加えられている。また、連報段階で示されている通り、鑿底には一部漆膜の残存する部分が認められる。

裏面柄部には一枚の金属板を楕円筒形に曲げた陰根が鑲付されていることから、裏目貫であると判断される。作行から古金工に分類される製品であると考えられる。

130-5は丸に尖り花角紋を陰表現の三双とし容影で仕立てたもので、地金には極厚手の良質な赤銅が用いられている。紋以外の低くなった部分には実測図では表現できないほどの非常に細かい魚ヶ子が蒔かれている。その方向は紋内側部では縦位、地部分では周縁に沿った同芯円となっている。

裏面中央には楕円形の短い陰根が鑲付されており、裏側に用いられた金具であることを示している。また、その大きさなどから太刀用金具であった可能性が高い。

この製品は、良質で非常に厚い赤銅地を用いたまこと目貫であること、裏の作行が浅いこと、紋同志の重なりが少ないこと、非常に精緻な紋様が刻出されていることなどから、後藤家上三代の作品であると考えられるものである。

130-6は重なり合った扇面二双を厚金出しの容影にして表現するもので、扇面には紋様を確認することはできない。裏面には陽根を鑲付した痕跡を止めているが、それ自体は失われている。

130-7は馬を表現するもので、表面に髯、側面の一部に鈎張りを切削した痕跡を認め得るため、鋳目貫であると判断できる。鋳造後、目・鬣・尻尾に毛彫を加えて仕上げられ、裏面に根は認められない。頭位から指表に用いられたものと考えられる。

130-8は薄金出して大黒天を容影とするものであるが、人物や依の表現が稚拙であり、かつ、髻やキサ

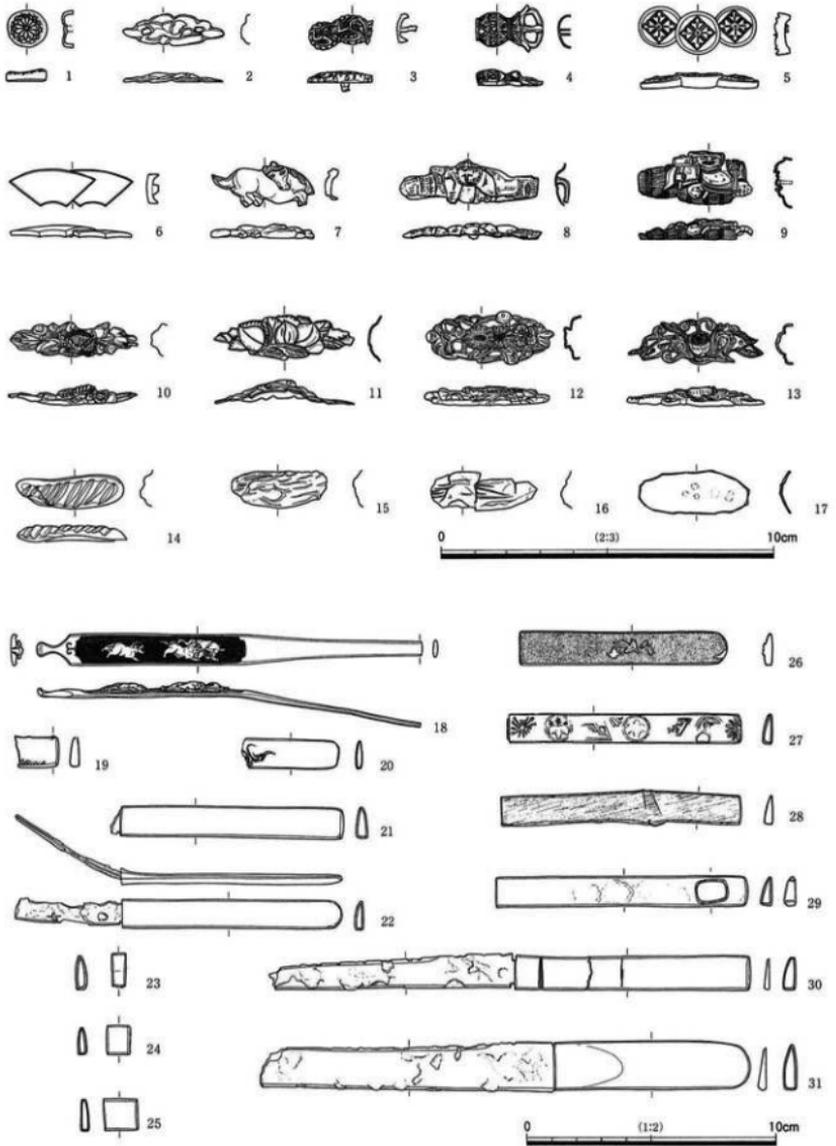


図130 目貫・筭・小柄

グなどの工具痕を明瞭に残していることなどで粗略な製品であるといえる。

裏面には断面六角形の足の長い鬚根が鑲付されているが、下方に向かって内側に隠れるまでに大きく折り曲げられている。体の向きから裏目貫であると考えられる。

130-9も上記と同様、赤銅地を薄金出しの容彫とし、大黒天を表現した表目貫である。左側の宝袋から依の部分で欠失している。剝離して紋様際でしか確認できない部分も多いが、左側の俵・小楯・胴部の衣紋・左側の宝袋に厚手の金を用いたウツリ色絵が着せられ、また、口髷や袖口などには細密な毛彫が施されている。紋様は腰から際端にまでにおよび、表面全体を使って刻出されている。

以上の特徴から古金工に分類される製品であるとみられる。なお、裏面には横一文字の根が鑲付されていた痕跡を止めている。

130-10は薄金出しで牡丹を容彫とする裏目貫である。両端が表面に向かって反り、右側が一部破れるなど痛みが激しいが、紋様は比較的旧状を止めており、花芯や葉脈に施された毛彫も一定程度観察できる。なお、裏面には根が取り付けられた痕跡は認められない。

130-11は三個の桃と葉を表現した表目貫である。薄金出し、容彫に太めの毛彫を加えて葉脈や葉の周縁までを刻み込んでいる。これも、裏面には根の取り付けられた様相は看取できない。なお、図柄は迷言面題の一つ、三仟歳の図に通ずるものかもしれない。

130-12は秋草図の裏目貫である。撫子・菊を中心に据え、その周囲に葉を配する構図を持つ。紋様の凹凸が非常に大きい薄金出しの容彫技法を採り、抜け穴は撫子の花卉間に小さなもの5カ所、花の周囲に10カ所と非常に多い。葉脈や花卉の紋様など、細部に至るまで緻密な毛彫を加えて紋様を表現している。裏面には根を取り付けた痕跡は認められない。その構図や製作技法から、古美濃とされる一群に分類される製品である。

130-13は中央に芥子の花、その両側に丁字を配し、これらの周囲を葉と枝を用いて唐草紋風に組み合わせた構図を持つ表目貫である。抜け穴は5カ所。先の例と同様に紋様の高低差が大きい薄金出しの容彫で、表面からの鑿のみでは出し不足、裏面からの打ち出しでこれを補っている。

花芯には銀、丁字と葉の上の露に金色絵、別の場所の露には銀象嵌が施されている。なお、裏面には根が取り付けられた痕跡は確認できない。先の例と同様の製作技法や意匠を持つことから、本例も古美濃に分類される製品である。

写147-16は竹を厚金出し、容彫として表現した表目貫である。裏面には根が取り付けられた痕跡は認められない。

他に、130-14から17および、写147-7・8・11・12に示す薄い地金を使用する目貫様の製品が検出されている。130-13と写147-8のように共通した意匠を持ち、焼付金が施されるような例は目貫に含めて考えて良いと思われる。また、写147-12のようにこの中でもやや厚手の地金を用い、裏から打ち出し風の鑿が加えられているものは未成品との解釈も成り立つ。しかし、それら以外は金属板を型に押圧して紋様を表す押し出し技法とでも呼称できるような製作法を採るもので、構図も明確にでないことから目貫とは考えられない。なお、この中でも130-16のみは右側を下にした縦位置の状態を観察すると、仏像か神像の左半身に相当する部分の袖口と衣紋に見えなくもない。

#### ②筭 (図130-18、写145-39)

1点のみの出土である。筭の下半部から穂先の部分が欠失し、木瓜形附近で裏面側に湾曲する。また、火を受けたものとみられ、紋様など鮮明さに欠ける部分も多い。

表現される図柄は三匹の獣であり、類例から豹・虎図であると考えられるが、各々のどれがそれに相当するのは確定できない。

製作技法は一体成形した赤銅魚々子仕立の地板に、別に製作した厚金出し、高彫の図柄を掘紋とするものである。紋を外すことのできた木瓜形側の観察結果から製作手法をたどると、まず、予め全面に魚々子を蒔いた地板と、据えようとする紋を別々に製作し、続いて、地板は紋を据える部分のみを鑿で菱形に鋤取りながら小穴をあけ、紋は裏面に目貫のような根を鑲付する。最後に双方の結合部を円形に加工し、カラクリ技法で固定するという手順を経たものであると想定される。

なお、X線写真によると単独と二匹が絡まっている紋の双方に、それぞれ足のあることが判明する。全体の形状については、貝の内の切込は一文字となる程度で匙面取ではない。頸の部分は細い。胴から肩、雉子股に移行する部分は緩やかに屈曲する。蕨手はやや小振りではほぼ真円に刻まれ、その下の眉形も切込が明確である。州浜は稜をなさず小縁へと屈曲する。木瓜形は大きな下彫れとはなっていない。

このような形態や製作手法を採ることから、その作者は後藤家四代光兼（1529（享禄二）年～1620（元和六）年）あるいは、五代徳乗（1550（天文十九）年～1631（寛永八）年）である可能性が高い。

### ③小柄（図130-19～31、写145-10・15・17・19・20・27～38、148-19）

19点が確認できる。中には写145-34のように銀を素材とするものや、写145-37のように木材と漆を使用して製作された木彫道具という特殊なものが含まれている。また130-23～25のように、両端を切断して加工を加えたものも存在する。

規格はそれぞれ130-26、130-30、130-31を代表例とするように3種類に大別され、それぞれ、半差小柄、小柄、大小柄に相当するものと考えられる。しかし、最も出土量の多い小柄でも、後世の諸例のように必ずしも長さ三寸二分（約9.7cm）、幅四分五厘（約1.4cm）前後に集約される状況にはなく、長さ、幅共に数mm程度の大小差がある。

形態はいずれも小縁のつかない棒小柄で、戸尻の形態から二分される。その一方は130-21のように一文字となるもので、他方は130-26のように丸く納められるものである。

この相違は製作手法にも反映されるようで、前者は二枚の金属板を「L」字形に曲げ、戸尻に別の板を加えて三つの部品を刃方、棟方、戸尻で鑲付しており、後者は一枚の金属板を刃方で折り返し、戸尻と棟方で鑲付する手法を用いている。

表面の仕上げは磨地が主で、装飾があるとしても130-28のように時雨籠がかけられるか、130-26のような石目地に簡素な薄肉彫の草花紋が施される程度である。ただし、130-27のように紗綾形紋の中に十六葉程度の菊紋と丸に五三桐紋と思しき家紋を配する例なども含まれており、装飾性豊かなものが一部に存在していたことを推測させる。

また、130-29は、戸尻側に覆輪を着せた隅丸方形の環が設えられている点で他のものと異なる。

なお、131-18～26、写145-5～9・11～14・16・18・21～26のように小刀のみが遊離した状態で多数出土している。本来、装剣金具に入れるものではないが、小柄に鑲付して出土しているものもあるためここで報告しておきたい。

大きさに長短があるのは研ぎ減りのために致し方ないが、約1.3cmを基本とするという身幅にも大小差があり、この点において小柄と呼応している。言を翻せば小刀の個体差が小柄の大きさを規定しているとの解釈も成り立ち、こちらの方がより妥当性が高いと考えることも可能である。

なお、錆化が激しく断言できないが、造り込みも後世のように定型化してはおらず、区から片刃の始ま

る位置や形状に小異がみられるようである。

銘の有無についても精観したが、錆と保存処理のために明確なものは確認できなかった。しかし、131-24に僅かながら針描状の線刻、130-22に鑿痕の一部が認められることから、銘を切る例が皆無であったとは言い切れない。

#### ④口金 (図131-16、写148-21)

1点出土した。槍の柄最上端と塩首とが接する部分に嵌め込まれる金属製補強材と酷似するためここで報告する。製作技法は金属板を円形に曲げ、その一方を逆「L」字形に折り返して天井金とする一体成形である。最終的には1ヵ所を鐵付して形作られるが、内側の接合部分に力金は添えられていない。

#### ⑤縁 (図131-17、写148-22)

1点認められた。口金と全く同様の成形技法を採る。側面から観察すると両輪強を強く取る腰の非常に低い太鼓形となり、上面からでは下膨れの楕円形となる。天井金は図示する通りで、後世の諸例のように小口を大きく覆うものではない。室町時代以降の伝世品の幾つかに類似する資料がある。

#### ⑥切羽 (図131-14・15、写147-1～6)

6点出土し、そのうち全形の窺える2点を図示した。平造り用と鑄造り用の別がある。いずれも後の時期のもの比較して薄い。なお、茎孔に金や銀を着せるための加工が施されたものは認められない。

131-14はやや下膨れの楕円形を呈し、裏面の刃方には刀身固定用の鑿が両側方から加えられ、周囲は切り回して仕上げられている。平面形や大きさなどからみて、平造り短刀拵の柄側に掛けられたものとみられ、茎孔から推定されるその法量は、茎元幅0.75cm(二分五厘)、最大重ね5.5cm(一分八厘)で、刃・棟ともに角棟であったものと考えられる。なお、小柄櫃用刺り込みの位置がやや上方に偏っていることでも特徴的である。

131-15は中央の張った楕円形を呈するもので、その大きさや平面形態などから、鑄造り打刀拵あるいは脇差拵の刀身側に掛けられたものと考えられ、周囲は切り回して仕上げられている。表面には錘と強く接していたため圧痕がついており、その形状から行の棟の刀あるは脇差に掛けられていたもので、錘の台尻にみる刃方から棟方までの法量は、長さ3.0cm(一寸)を測ることができる。

また、茎孔から推定されるその大きさは、茎元幅2.35cm(七寸六分)、最大重ね0.7cm(二分五厘)であったとみられる。

その他の例については写147-3が、切り直し仕上げ、鑄造り用、刀身側のもの。写147-4が小刻み仕上げ、鑄地を削いだ鑄造り用、柄側のもの。写147-5が切り直し仕上げ、鑄造り用、柄側のもの。写147-6が大刻み仕上げ、平造り用、柄側のもので、これには表面に縁の圧痕、裏面には鑿が加えられている状況を観察することができる。

#### ⑦鶴目 (図131-4～11、写148-1～13)

14点出土した。その大きさから栗形に嵌入されたものと考えられる。後統段階のもの比較していずれも腰が高く、上面が丸みを持つ傾向にある。裝飾が加えられた例は表面に段状の加工が施された131-5が1点あるのみで、その他については観察でき得る限り磨地仕上げである。現在一般的に見られるような周囲や表面に刻目や鶴目が施されたものや、座金が付随するものは存在していない。

規格には2類に大別される。一つは131-4～7のような、やや小型のもの、他は131-8～11のような大型のものである。なお、前者がより腰高で上面の丸みが強く、後者の方がより扁平で上面が角張り気味であるという傾向が看取される。このことから装着される拵の種類によって、二種類が使い分けられ

ていたものと考えられる。

成形技法は金属板を扁平な楕円筒形と中央に孔を穿った半月形のものに加工し、前者の楕円筒形の端面と後者の裏面とを鑢付して、足と表面とを形作るというものである。

なお、筒状部の鑢付位置は今回の資料を見る限り上面に限定され、下方で接合するものはない。

この他、写148-14・15および、20のような平面形態が鳩目に近似する製品が出土している。周囲は整などで切り離されたままで、14・15などは両側に半月形の金属板を鑢付したままへしゃげられたような形状を呈している。楕円筒形部の形状や鑢付の位置が共通することを根拠とすることが許されるならば、鳩目の未成品と考えることも可能である。

⑧鳩目 (図131-3、写148-17・18)

2点出土した。装剣金具類にのみ使用されるものではないが、ここで取り上げておく。成形技法は鳩目と共通する。表面には装飾が加えられず、磨地仕上げとなる。

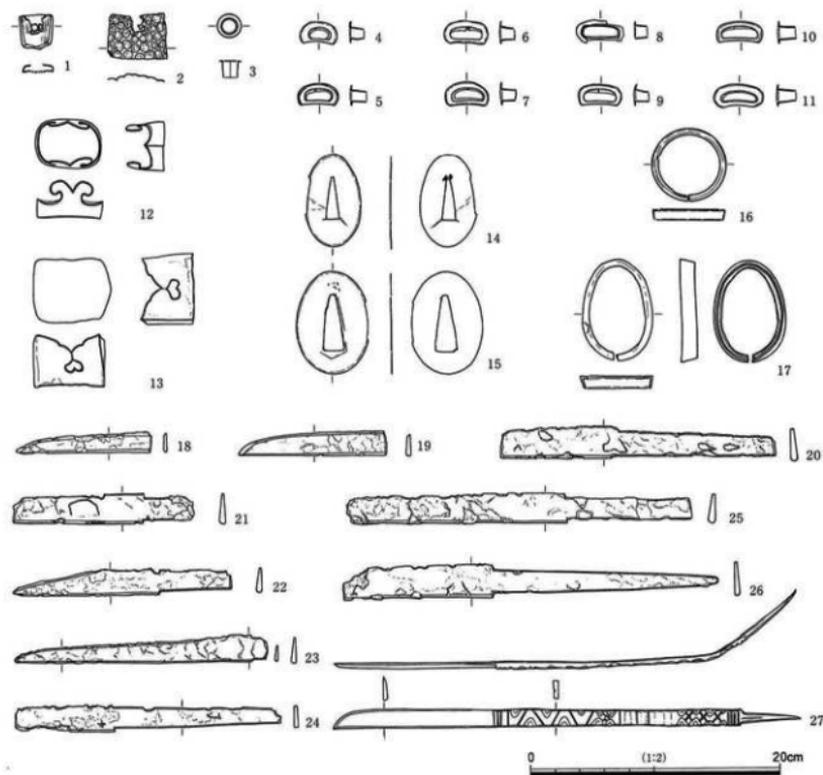


図131 鳩目・鳩目・切羽・縁・小刀・その他

### ⑨革先革 (図 131-1)

1点出土した。このように考えたのは、太刀拵の足革下端部に取り付けられる金具に酷似しているためである。表面は細かい縦方向の鱗目仕上げのままで、この上に黒漆が塗布されている。伝世品や後世の諸例のように装飾性豊かなものではなく、簡素なものであるから実戦用のものであったと考えられる。

### ⑩打出鮫 (図 131-2、写 149-16～23)

8点出土し、そのうち1点を図示した。いずれも破砕していたり、裁断されたりしているため、全形の窺えるものはない。粒径やその形状から同一個体と思われるものもあるが確定はできない。

### ⑪責金 (図 131-12・13、写 149-24・25)

2点出土し、うち、蕨手状の紋様を表現した131-12は真鍮製である。131-13は猪目透かしと眉形状の装飾を加えている。側面からみた場合では太刀の責金や柏金に類似するが、上面からの形態が隅丸方形を呈することや用いられる地金が非常に薄いため、装剣金具ではない可能性が高い。

#### (4) その他の製品 (図 131-27、写 149-1～15・26・27)

これまで述べた他に、装剣金具に関係しないものや不明品が掲載されているため一括して報告する。131-27は中央部に各種紋様を表現した鉄製刃器で、左側にフクラのついた片切刃造りの小刀、右側に茎状の尖頭部を作りだしている。用途不明ではあるが、馬針の可能性があるとの見方もある。

写149-1～5は甲冑などに取り付けられる覆輪が外れたものと考えられ、この内1～3には焼付金が施される。

写149-6～14は磨地、桜・菊花などを表現した座金で、いずれもその中央に割ピン状の足を鎌付したり、組み込んだりして製品としている。汎用性が高い製品であるため使用部位の特定はできない。

写149-15は鮫皮の表面に塗布された漆膜が剥離したもの。写149-26は時雨鐘がかけられた極薄い金属板で、その候補として、太刀金具の芝引きの残欠である可能性が掲げられる。

#### (5) 小結

以上、今回出土した刀装および装剣金具の報告を行った、これらの出土した層準は、上下に塁重する遺構面との関係や、文献などから、1582(天正十)年から1598(慶長三)年までの16年間に限定できるものと考えられた。また、共存遺物の中に唐津焼が全く含まれないという事実から、陶磁器の研究成果からもこれを追証できるという非常に信頼性の高いものである。

従来、文献や伝承、そしてあまたの伝世品で体系づけられてきたこれらの製品に対し、この研究法のみならず、層位学と考古学的手法とを以て言を発する機会に恵まれたことは非常に有意なものであり、双方の研究成果に寄与する部分は決して少なくないものといえよう。

これらの中でも特筆に値するものは、当時の足利将軍家から信長、秀吉、家康までの各為政者に仕えた後藤宗家上三代から四・五代の光乗・徳乗までの作品と推定される製品が2点含まれていることである。彼らは装剣金具の製作ばかりではなく、通貨の製作から度量衡の管理までもを託される要職に就くこともあった人物達であった。従って、これらの製品が相当な人物の所持品であったことを知らしめると共に、当時の大坂城が歴史の表舞台にあったことを如実に物語っている。

しかしながら、これらの装剣金具がどのような形で組み合わせられ拵を形作っていたのかなど問題は山積している。製作技術の検討や系譜のさらなる追求などと共に今後委ねられた問題点が少なくない。

向後、この拙文が双方の研究に些かでも寄与し、相互の問題追求がより深化されることを望みたい。

表52 刀装・装剣金具類一覧(1)

図面番号/写真番号	比尺	種類	部位	遺構名	特徴	集積庫番号
129	1 138	7巾	柄首		短刀用、表面皮成寄せの上に黒漆塗布。	T2-91
129	2 138	2巾	柄首		鍔の高い大振り用の短刀や小脇差用、鍔の装嵌されていた痕跡あり。	T2-128
129	3 138	3巾	柄首	土坑538	上と合わせて一拵。	T2-582
129	4 138	9巾	不明	6層	鞘状木製品(小型)、赤色顔料塗布、重ねの厚い片刀の刀鞘用か?	T2-582
129	5 138	10巾	不明	8層	鞘状木製品(大型)、赤色顔料塗布。	T2-582
129	6 145	17巾	刀鞘	7~10層	平造、先端部片切刃あり、大小柄用小刀刀。	T30-109
129	7 145	2巾	無刀	土坑762	存在、平造、真の鍔、反り幅か、生爪差、葉孔あり、柄の木質遺存。	T30-111
129	8 145	3巾	無刀	土坑641	切先欠失、平造、行の鍔、反り幅か、生爪差、葉孔あり、二字路あり。	T30-112
129	9 145	4巾	刀鞘	7層	鍔造、刀あるいは鍔造、尖部切筋、先反り強く中切先伸びこころ、末吉刀。	T30-114
130	1 147	15巾	目貫	8~10層	容貯、根のない風筒あり、表面不明、菊花造、短刀用出し目貫。	T30-92
130	2 146	3巾	目貫	土坑482	容貯、図柄不明(魚々?)、中央部欠失。	T30-2
130	3 146	17巾	目貫	6層	容貯、陽槌、表目貫、丸に右三巴紋図、地紋に魚々々、右側欠失。	T30-8
130	4 146	27巾	目貫	6層	容貯、陽槌、裏目貫、三斜刺図、細網な魚々魚々子蟹型用、彫部欠失。	T30-31
130	5 146	9巾	目貫	8~10層	容貯、赤銅魚々子地、陰槌、裏目貫、尖り花筒状三双、まこと目貫、後藤上三代。	T30-34
130	6 146	5巾	目貫	8~10層	容貯、陽槌、表目貫、扇面二双図、無紋、足欠失。	T30-36
130	7 146	6巾	目貫	6層	跡目貫、根なし、表目貫、刺図、表面に筋、鍔に袴袋切痕あり、一部も彫り。	T30-32
130	8 146	11巾	目貫	8~10層	容貯、陽槌、表目貫、大黒天図、毛彫り使用、各所工具痕跡が複雑な作り。	T30-33
130	9 146	10巾	目貫	8~10層	容貯、陽槌、表目貫、大黒天図、右側欠失、金ツクリ色鍔、古金工。	T30-35
130	10 146	4巾	目貫	8~10層	容貯、根なし、裏目貫、牡丹図、左側一部欠失。	T30-51
130	11 146	7巾	目貫	6層	容貯、根なし、裏目貫、牡丹図、中央で字づみに割れる。	T30-71
130	12 146	8巾	目貫	6層	容貯、根なし、裏目貫、牡丹図、毛彫り使用、全面に陰分徒巻、古美濃。	T30-5
130	13 146	12巾	目貫	8~10層	容貯、根なし、芥子丁字巻草履図、金・銀色鍔、細網巻、古美濃。	T30-30
130	14 147	13巾	目貫	6層	容貯(押し出し)、根なし、表面不明、刀用?根なしの左平身か?	T30-72
130	15 147	9巾	不明	7~8層	不明金風筒品、用途不明、薄い金鍔根を押し出す、表面黒付。	T30-128
130	16 147	14巾	不明	7~8層	不明金風筒品、用途不明、薄い金鍔根を押し出す、押し出しの左平身か?	T30-127
130	17 147	12巾	不明	7~10層	周囲鑿による切り直し、裏面に打ち出し、鍔の鑿一部にあり、目貫未成部品?	T30-129
130	18 145	39巾	鐔	7~10層	竿から根先欠失、赤銅魚々子地、高彫刺図、皮彫り、足でカラク、後藤永興・道楽。	T30-41
130	19 145	28巾	小柄	6層	片切刃造、両端部欠失。	T30-6
130	20 145	17巾	小柄	6層	一枚割し合かけ成形、表面石目地に薄肉彫りの草花紋、裏面縦線。	T30-117
130	21 145	32巾	小柄	13層	存在、二枚合わせ成形、表裏面磨地、戸尻一文字。	T30-27
130	22 145	20巾	小柄	7~10層	存在、一枚割し合かけ成形、表裏面磨地、戸尻丸、小刀遺存、指表に鑿痕あり。	T30-112
130	23 148	19巾	小柄	6層	二枚合わせ成形、両端部切筋。	T30-63
130	24 148	17巾	小柄	7~10層	二枚合わせ成形、両端部切筋。	T30-123
130	25 148	7巾	小柄	7~10層	二枚合わせ成形、両端部切筋。	T30-68
130	26 145	19巾	小柄	7層	存在、一枚割し合かけ成形、表面石目地に薄肉彫りの草花紋、裏面縦線。	T30-25
130	27 145	31巾	不明	井戸628	存在、二枚合わせ成形、表面磨・刺紋と砂紋彫りあり、戸尻一文字。	T30-24
130	28 145	33巾	小柄	7~10層	存在、二枚合わせ成形、表裏面磨地、戸尻一文字、中央で曲がる。	T30-115
130	29 145	30巾	小柄	7~10層	存在、二枚合わせ成形、表裏面磨地、戸尻一文字、鑿痕をかけた痕あり。	T30-4
130	30 145	36巾	小柄	7~10層	存在、二枚合わせ成形、表裏面磨地、戸尻一文字、表裏面にかけて鍔痕あり。	T30-26
131	3 145	38巾	小柄	7~8層	存在、折り返し風筒、表裏面磨地、棟方鐵打、大小刀遺存。	T30-81
131	1 145	7巾	葉先差	7~10層	中央部凹孔あり、表面黒漆塗布。	T30-102
131	2 149	17巾	打込鍔	7~10層	裏面に髪を用い半球形に打ち出す。	T30-67
131	3 148	17巾	鐔目	7~10層	梨形用、規格(大)、表面磨地仕上げ、泉の接合部上面にあり。	T30-98
131	4 148	17巾	鐔目	7~10層	梨形用、規格(小)、表面磨地仕上げ、泉の接合部上面にあり。	T30-122
131	5 148	6巾	鐔目	6層	梨形用、規格(小)、表面に段状の加工を施し、装飾性を高める。	T30-130
131	6 148	27巾	鐔目	7~9層	梨形用、規格(大)、表面磨地仕上げ、泉の接合部上面にあり。	T30-47
131	7 148	11巾	鐔目	土坑536	梨形用、規格(小)、表面磨地仕上げ、泉の接合部上面にあり。	T30-118
131	8 148	13巾	鐔目	6層	梨形用、規格(大)、表面の一部欠失、泉の接合部上面にあり。	T30-7
131	9 148	16巾	不明	6層	梨形用、規格(大)、表面磨地仕上げ、泉の接合部上面にあり。	T30-119
131	10 148	4巾	鐔目	7層	梨形用、規格(大)、表面磨地仕上げ、泉の接合部上面にあり。	T30-46
131	11 148	5巾	鐔目	7~10層	梨形用、規格(大)、表面磨地仕上げ、泉の接合部上面にあり。	T30-121
131	12 149	25巾	黄金	7層	用途不明、中央に黒手状の加痕あり。	T30-37
131	13 149	24巾	黄金	7~8層	用途不明、中央に黒手状の加痕あり。	T30-85
131	14 147	17巾	切刃	7~10層	存在、平造り短刀用、柄側用、周囲切り直し仕上げ。	T30-29
131	15 147	27巾	切刃	7~10層	存在、鑿造り打刃あるいは鍔造用、刀身側用、周囲切り直し仕上げ、鍔圧痕。	T30-28
131	16 148	21巾	口金	土坑581	大弁金一体成形、下方鑿付、力金なし。	T30-126
131	17 148	22巾	鍔	6層	大弁金一体成形、下方鑿付、力金なし。	T30-39
131	18 145	9巾	小刀	7~8層	片切刃造、刃部下段以下欠失、鉾線できず。	T30-107
131	19 145	26巾	小刀	7~8層	片切刃造、刃部下段以下欠失、鉾線できず。	T30-80
131	20 145	9巾	小刀	7~10層	片切刃造、刃部中程から先と葉先端部欠失、鉾線できず。	T30-110
131	21 145	22巾	小刀	7層	片切刃造、刃部上半欠失、葉半分以下欠失。	T30-105
131	22 145	16巾	小刀	7~9層	片切刃造、刃部鑿り減りのため切り出し状となる、葉下半部欠失。	T30-108
131	23 145	25巾	小刀	7~9層	片切刃造、刃部鑿り減りのため切り出し状となる、葉半分以下欠失。	T30-75
131	24 145	7巾	小刀	7~10層	片切刃造、刃部中程から先と葉先端部欠失、指表に針刺状の痕跡あり。	T30-113
131	25 145	11巾	小刀	7~8層	片切刃造、刃部上半と葉先端部欠失、鉾線できず。	T30-106
131	26 145	12巾	小刀	7~10層	片切刃造、刃部上半欠失、葉先存在、鉾線できず。	T30-114
131	27 149	27巾	不明	7~10層	片切刃造りの磨製刀鐔、柄部に紋様を施す。	T30-42
138	47巾	鐔	13層		下鍔の楕円形、表面黒漆塗布。	
138	67巾	鐔	7~8層		中央の鑿った楕円形、表面黒漆塗布。	
138	77巾	不明	8~10層		楕円形、表面黒漆塗布。	
138	78巾	不明	土坑505		鞘状木製品(大型)、赤色顔料塗布、重ねの厚い片刀の刀鞘用か?	
145	67巾	小刀	6層		鞘状木製品(小型)、赤色顔料塗布、重ねの厚い片刀の刀鞘用か?	
145	87巾	小刀	7層		片切刃造、刃部中程から先と葉先端部欠失、鉾線できず。	
145	87巾	小刀	7層		片切刃造、刃部中程から先と葉先端部欠失、鉾線できず。	
145	107巾	小柄	6層		二枚合わせ成形、2ヶ所で大きく曲げられる。	
145	137巾	小刀	不明	壘527	片切刃造、刃部先端欠失、葉先存在、鉾線できず。	
145	147巾	小刀	不明	木箱49-42	片切刃造、刃部先端欠失、葉一部を欠し欠失、鉾線できず。	
145	157巾	小柄	6層		一枚割し合かけ成形、表面磨地、表裏面丸刀の痕跡、裏面欠失、戸尻丸い。	
145	187巾	小刀	7~10層		片切刃造、刃部先端と下段部以下欠失。	
145	217巾	小刀	土坑733		片切刃造、刃部のほとんどと葉下半部欠失。	

表 53 刀装・装剣金具類一覽(2)

図版番号	写真番号	品名	種類	部位	通称名	特徴	実測番号
	145-237B	小刀	6層			片切刃端、刃部のほとんどと表未磨欠失。	
	145-247B	小刀	7層			片切刃端、刃部のほとんどと表のほとんど欠失。	
	145-277B	小柄	7~10層			二枚含む成形、裏板引きちぎられたような状態で欠失。	
	145-297B	小柄	7~10層			片切刃端、大きく引きちぎられたような状態で両端部欠失。	
	145-347B	小柄	7層			完存。二枚含む成形、表裏面磨地、戸尻一文字、銀製。	
	145-357B	小柄		土坑774		完存。二枚含む成形、表裏面磨地、戸尻一文字、小刀一部遺存。	
	145-377B	小柄		土坑538		本磨地具、黒漆厚く遺存、先端部の欠失した小刀遺存。	
	147-37B	切刃	7層			鋳造り打刀あるいは鋳造用、刀身細く、両面切り直し仕上げ。	
	147-47B	切刃		伊540		鋳造用、両面打ち打刀あるいは鋳造用、柄細、両面小割み仕上げ。	
	147-57B	切刃	7層			鋳造り打刀あるいは鋳造用、柄細、両面切り直し仕上げ。	
	147-67B	切刃	7~9層			可なり厚みあり、鋳造用、柄細、両面切り直し仕上げ、縁の圧痕あり。	
	147-77B	不明	7~8層			不明金属製品、用途不明、薄い金属板を押し出す。	
	147-87B	目貫	7~10層			寄彫(押し出し)彫、根なし、表面不明、厚目?表面焼付金。	
	147-107B	不明	11~12層			不明金属製品、用途不明、薄い金属板を押し出す。	
	147-117B	不明		井戸487		不明金属製品、用途不明、薄い金属板を押し出す。	
	147-167B	目貫	7~10層			寄彫、根なし、厚目、表目貫。	
	148-37B	鐙目	7層			栗形用、規格(大)、表面磨地仕上げ、足の後合部上面にあり。	
	148-77B	鐙目	7~10層			栗形用、規格(大)、表面の一部欠失、足の後合部上面にあり。	
	148-87B	鐙目	6層			栗形用、規格(大)、表面の一部欠失、足の後合部上面にあり。	
	148-97B	鐙目	8~10層			栗形用、規格(大)、表面磨地仕上げ、足の後合部上面にあり。	
	148-107B	鐙目	7~9層			栗形用、規格(大)、表面の一部欠失、足の後合部上面にあり。	
	148-127B	不明	7~9層			栗形用、規格(大)、表面磨地仕上げ、足の後合部上面にあり。	
	148-147B	鐙目	7~10層			鐙目未成金?周囲鑿による切り直し状態、足上面で鑿付、2個連続。	
	148-157B	不明	7~8層			鐙目未成金?周囲鑿による切り直し状態、足上面で鑿付、2個連続。	
	148-187B	鐙目	7~10層			表面遺存状態不良。	
	148-207B	不明	7~10層			鐙目未成金?周囲鑿による切り直し状態、足上面で鑿付。	
	149-17B	覆輪	7~10層			甲冑などに使用されたものか?断面「U」字形、両端部欠失、表面焼付金。	
	149-27B	覆輪	7層			甲冑などに使用されたものか?断面「U」字形、両端部欠失、表面焼付金。	
	149-37B	覆輪	7層			甲冑などに使用されたものか?断面「U」字形、両端部欠失、表面焼付金。	
	149-47B	覆輪	7~10層			甲冑などに使用されたものか?断面「U」字形、両端部欠失。	
	149-57B	覆輪	6層			甲冑などに使用されたものか?断面「U」字形、右端部欠失。	
	149-67B	匣金	7層			磨地、裏面割ピン状一般の足鑿付。	T984
	149-77B	匣金	7~10層			磨地、裏面割ピン状一般の足鑿付。	
	149-87B	匣金	8~10層			磨地、裏面割ピン状一般の足鑿付。	
	149-97B	匣金	7~8層			桜花紋毛彫り、裏面一本足鑿付。	
	149-107B	匣金	7~9層			磨地、中央に足挿入用の穿孔。	
	149-117B	匣金	7~8層			菊花紋毛彫り、裏面割ピン状一般の足鑿付。	
	149-127B	匣金	7~9層			菊花紋毛彫り、中央に足挿入用の穿孔、割ピン状の二枚の足鑿入。	
	149-137B	匣金		土坑688		菊花紋毛彫り、中央に足挿入用の穿孔、割ピン状の二枚の足付属。	
	149-147B	匣金	7~9層			菊花紋毛彫り、中央に足挿入用の穿孔。	
	149-157B	漆縁		土坑482		絞皮の表面に着色された漆縁が剥離したものの。	T988
	149-167B	打出較		互敷き629		裏面より蟹を月い半球形に打ち出す、表面黒漆塗布。	
	149-187B	打出較		互敷き629		裏面より蟹を月い半球形に打ち出す、表面黒漆塗布。	
	149-197B	打出較	7~10層			裏面より蟹を月い半球形に打ち出す、表面黒漆塗布。	
	149-207B	打出較	7~10層			裏面より蟹を月い半球形に打ち出す、表面黒漆塗布。	
	149-217B	打出較	7層			裏面より蟹を月い半球形に打ち出す、表面黒漆塗布。	
	149-227B	打出較	6層			裏面より蟹を月い半球形に打ち出す、表面黒漆塗布。	
	149-237B	打出較	6層			裏面より蟹を月い半球形に打ち出す、表面黒漆塗布。	
	149-267B	足引き	7層			表面に時出線、細溝い金属板。	

## 11. 甲冑関連遺物

甲冑に関連する遺物としては小札、押付、鞆、手甲、鎖などが出土している。

## (1) 小札 (図 132、写 151)

小札は破片を含めて80点出土している。形態からA類～D類の4種類に分類が可能であり、法量などからさらに細分も可能である。

**A類** 上端を斜めに落とした本小札である (132-1～25)。

法量や形態、穴の数などに違いがあり、さらに細分が可能である。穴が2列のものでは13穴と14穴のものがある。13穴のものは並穴もしくは並札と呼ばれるもので本小札の標準となるものである。平均長5.0cm、平均幅1.5cm、平均厚0.1cm、平均質量3.76gを測る。14穴は四目の本小札であり、胴丸・腹巻など平造の金具廻を花がらみで綴じつける箇所用に用いたものである。また、大鏡でも八双紙を打つ箇所や、平造の脇板を花がらみにする場合に用いられている。法量は13穴のものと近似する。

また、右半分を中心に厚い漆が残る盛上小札も含まれる。これらの盛上小札は厚みの薄いえさ歯小札の補強のためのものとされており、事実、今回の調査で出土した盛上小札も鉄地自体の厚さは1mm以下のものが多い。132-22・23に代表される札尻に向かって幅が広がるものは、しころや喉輪・曲輪・頬当等に使われていたものであると考えられる。このほか、出土点数は少ないが、3列19穴の幅広のものも出土している。当該小札は三目もしくは三目札と呼ばれるものであり、平安時代に流行し室町時代ころまで用いられたものであるとされることから、今回の調査で出土した小札の中では古い部類に属する。

**B類** 上端に丸みをもつ伊予札である (132-26～33・40～42)。

頭部の形態から碁石頭 (132-26・27) と一文字頭 (132-28～33・40～42) に分かれる。後者は通常、はい楯に用いられ、2列8穴のものは菱綴・畔目綴をもってつなぎ、2列10穴のものは1段目に用いて家地に花がらみで綴じ付けられるものである。

**C類** C類としたものは上下を鎖で連結する小札である (132-37～39・47～51)。

法量および形態によって数種に細分できる。132-50は他のものとは異なり、左手親指にあたる手甲の一部である。表面には黒漆を塗った後に金箔が押されている。それ以外のものは籠手・はい楯・脛当として用いられた小篭と考えられるものである。なお、132-51のみ幅広で形態を異にしているが、一方の端部に鎖が残っている。

**D類** D類としたものは一方の端部を斜めに折り曲げたものを重ねたものである (132-46)。表面には漆が塗られており、兜のしころまたは喉輪などを形成する小札であると考えられる。

## (2) その他

小札以外の甲冑関連遺物はさほど多くはないが、金具類が数点出土している。

132-45は魚々子地に唐草紋を毛彫りしたものであり、袖に化粧板の押付用金物であると考えられる。

132-54は表面に菊紋が毛彫りされた丸頭の鑑台である。兜鉢の後正中に取り付け笠印付鑑と考えられるものである。132-55～57は胴の高紐などに用いられた鞆である。132-55には魚々子地に毛彫り文様が施されており、紡錘形に2穴を穿つ形状から笠鞆と考えられるものである。

そのほか、飾り金具 (132-43・44・52) や紐金具 (132-53)、鎖類 (132-58～60) を掲載しているが、59のみ脛当などに用いられた総鎖であると考えられる以外は用途不明である。また、前項でも触れたように写149-1～5は甲冑などに取り付けられる覆輪が外れたものと考えられ、このうち写149-1～3には焼付金が施される。

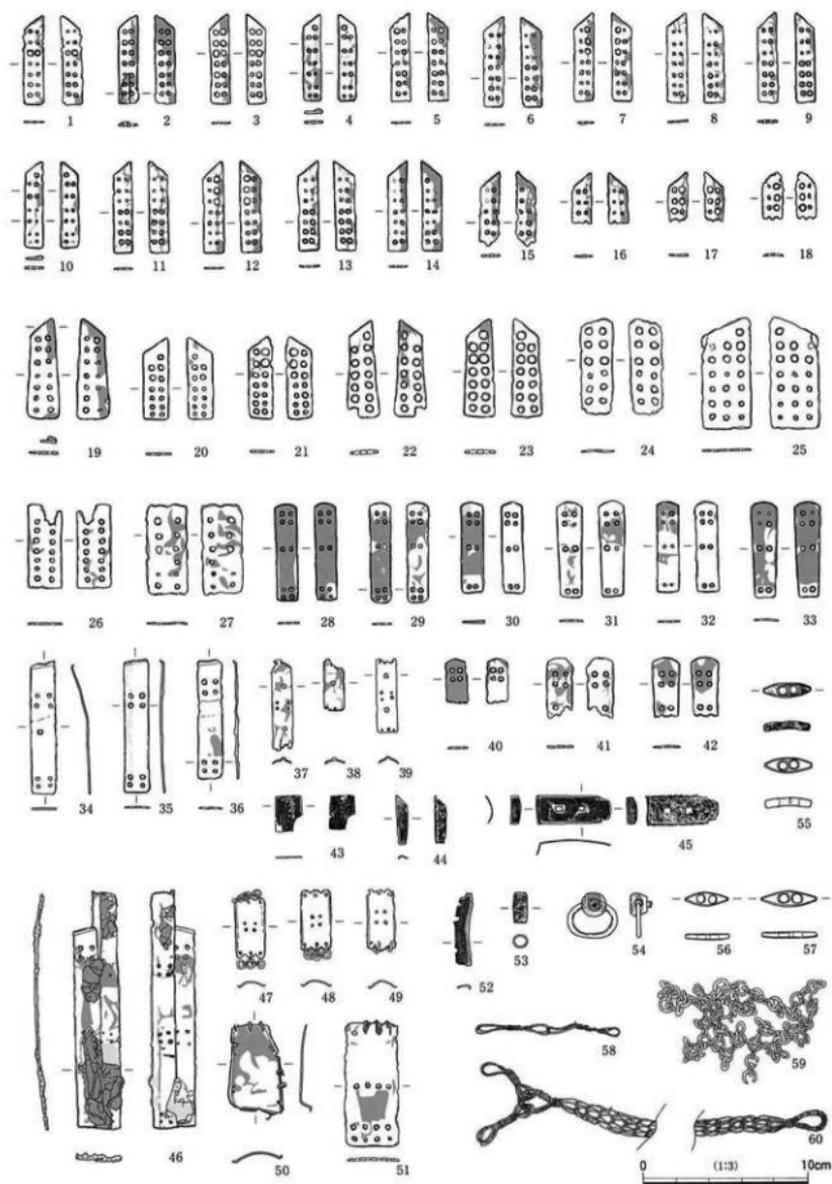


图 132 甲骨関連遺物

表 54 小札一覧

図版番号	写真番号	HP	層位	遺構名	小札分類	種別	長さ	幅	厚さ	実測番号
132	1	151	10 7B	7~9層	A類	小札	5.4	1.2	0.1	7め141
132	2	151	3 7B	7~9層	A類	小札	5.4	1.2	0.3	7め140
132	3	151	5 7B	7~9層	A類	小札	5.5	1.2	0.1	7め142
132	4	151	2 7B	7~9層	A類	小札	5.3	1.1	0.3	7め135
132	5	151	7 7B	7~10層	A類	小札	5.4	1.2	0.1	7め144
132	6	151	8 7B	7~10層	A類	小札	5.5	1.2	0.1	7め145
132	7	151	9 7B	7~10層	A類	小札	5.4	1.2	0.1	7め146
132	8	151	6 7B	7~10層	A類	小札	5.5	1.2	0.1	7め 55
132	9	151	4 7B	6~9層	A類	小札	5.5	1.2	0.1	7め136
132	10	151	1 7B	6層	A類	小札	5.3	1.1	0.2	7め134
132	11	151	12 7B	7~10層	A類	小札	5.5	1.2	0.1	7め143
132	12		7B	7層	A類	小札	5.5	1.2	0.1	7め137
132	13	151	11 7B	7層	A類	小札	5.5	1.2	0.1	7め138
132	14	151	13 7B	8層	A類	小札	5.5	1.2	0.1	7め139
132	15		7B	7~10層	A類	小札	(4.6)	1.1	0.1	7め165
132	16		7B	7~10層	A類	小札	(3.1)	1.2	0.1	7め166
132	17		7B	7~10層	A類	小札	(3.0)	1.2	0.1	7め164
132	18		7B	7~10層	A類	小札	(3.1)	1.2	0.1	7め 3
132	19	151	16 7B	7~10層	A類	小札	6.1	1.9	0.4	7め 54
132	20	151	14 7B	7層	A類	小札	5.0	1.5	0.1	7め132
132	21	151	15 7B	7~9層	A類	小札	5.0	1.5	0.1	7め133
132	22	151	17 7B	6層	A類	小札	6.0	1.9	0.2	7め148
132	23	151	18 7B	8~9層	A類	小札	6.0	1.8	0.2	7め147
132	24	151	19 7B	8~10層	A類	小札	5.9	2.0	0.1	7め149
132	25	151	20 7B	8~10層	A類	小札	6.8	2.9	0.1	7め 58
132	26	151	21 7B	7~9層	B類	小札	5.2	2.0	0.1	7め 56
132	27	151	22 7B	8~9層	B類	小札	5.5	2.4	0.1	7め150
132	28	151	24 7B	8層	B類	小札	6.0	1.3	0.3	7め155
132	29	151	23 7B	7~10層	B類	小札	6.1	1.3	0.1	7め156
132	30	151	29 7B	7層	B類	小札	5.5	1.3	0.2	7め154
132	31	151	27 7B		土坑652	B類	5.9	1.5	0.1	7め152
132	32	151	28 7B	7~10層	B類	小札	5.6	1.3	0.1	7め 57
132	33	151	26 7B		土坑652	B類	5.9	1.6	0.1	7め151
132	34	151	39 7B	7~9層	D類	小札	8.1	1.5	0.1	7め 97
132	35	151	38 7B	7~10層	D類	小札	6.2	1.5	0.1	7め161
132	36	151	37 7B	7~9層	D類	小札	5.2	1.5	0.2	7め160
132	37	151	30 7B		井戸485	C類	(5.5)	1.2	0.4	7め157
132	38		7B	7~9層	C類	小札	(3.1)	1.2	0.4	7め158
132	39	151	31 7B	7~10層	C類	小札	(4.5)	1.2	0.4	7め 99
132	40		7B	7~8層	B類	小札	(2.7)	1.3	0.1	7め167
132	41		7B	7~10層	B類	小札	(3.7)	1.6	0.1	7め163
132	42		7B	7層	B類	小札	6.0	1.3	0.1	7め155
132	43	150	2 7B	7層		飾り金具	2.2	1.6	0.1	7め 86
132	44	150	3 7B	7層		飾り金具	3.0	0.7	0.2	7め 87
132	45	150	1 7B	7層		鍍金具	4.4	1.7	0.9	7め 40
132	46	151	40 7B		井戸727	D類	14.5	2.8	0.6	7め162
132	47	151	34 7B	6層	C類	小札	4.8	1.9	0.3	7め 60
132	48	151	35 7B	7~8層	C類	小札	4.3	1.8	0.4	7め 59
132	49	151	36 7B	7~10層	C類	小札	(3.8)	1.7	0.5	7め168
132	50	151	33 7B	8~10層	C類	小札	6.0	3.4	0.6	7め 61
132	51	151	32 7B	7~8層	C類	小札	7.8	3.3	0.2	7め159
132	52	150	4 7B	6層		飾り金具	4.4	1.1	0.1	7め 73
132	53	150	8 7B	7~10層		鍍金具	1.8	0.9		7め104
132	54	150	10 7B	7~10層		鍍金具(大座の鍍)	2.7	3.0	(1.3)	7め 48
132	55	150	6 7B	7~8層		鈔	2.8	0.9	0.5	7め 43
132	56	150	5 7B	7~8層		鈔	2.7	0.8	0.4	7め 45
132	57	150	7 7B	7~8層		鈔	3.4	1.0	0.4	7め 44
132	58		7B	8~10層		鈔	4.3	0.3		7め 23
132	59	150	9 7B	7~10層		鈔	5.0	3.2		7め 82
132	60	150	11-12 7B	8~10層		鈔	14.7+16.5			7め 22
		151	25 7B	7~10層	B類	小札	5.5	1.2	0.1	

## 12. 鉄釘

### (1) 前提 (図 133、写 157・158)

今回の調査では冒頭でも記したように豊臣期の包含層に関してはすべてを対象として水洗選別作業を行い、微細遺物の抽出を徹底している。その過程でかなりの数の鉄釘を検出している。これは錆びた状態の鉄釘の場合、その多くは土砂と同化してしまうため、現地調査の段階で取り上げられることが少ないことに起因しているものと考えられる。

なお、ここで取り上げる鉄釘は単体で出土したものを対象としており、建築部材に打ち込まれた状態のものや下駄の補修等に使用されているものは数量のカウントには含めていない。

今回の調査で出土した鉄釘は5851本である。出土遺構および包含層は一部のものを除いて豊臣前期に帰属するものである。

出土した釘の多くは折損していたり、曲がっているため、その全容が不明なものが大半を占めている。したがって、ほぼ現状を留め、観察および計測が可能なものは694本のみである。

今回の報告にあたっては、この694本についてデジタルノギスを用いた計測作業を行い、当時の尺度との関係を検討するために1尺を30.26cmとして換算を行っている。なお、1尺を30.26cmとしたのは、1595年段階の計算上の1尺の推定値の算出結果によるものである(岩田1994・江浦2001)。なお、本報告では紙幅の関係もあり、計測値等については割愛し、長さの傾向等を概括的に記載するに留める。

### (2) 出土状況

今回の調査で出土した鉄釘はその大半にあたる4844本が包含層からの出土である。

遺構からの出土は全体からすればさほど多くはないが、井戸328などでは104本の釘が出土するなど、まとまった数の鉄釘を出土する遺構も看取される。このほか、井戸500では44本、竈527では22本の釘が出土するなどしているが、これらの遺構以外では20本を超えることはない。

なお、井戸328では104本の鉄釘が出土しているにも関わらず、完形品はわずかに1本のみである。一方、井戸500では44本中、31本がほぼ原形を留めるものであり、同様に竈527でも22本中、13本が完形であるなど、井戸328の場合と対比的な状況を示している。

### (3) 種類

出土した鉄釘の大半は長短の差はあるものの、形態的には頭巻の角釘である(133-1~31)。これ以外では、頭部を直角に折り曲げた折頭の角釘(133-32)も数点出土している。また、扁平で幅広の頭部と同じく扁平で湾曲する基部をもつ特異な形態を呈する釘も2点出土している(133-33・34)。この鉄釘については湾曲する扁平な形状と頭部の角度などから舟釘である可能性を有するものである。

### (4) 法量

冒頭でも記したように出土した鉄釘のうち、原形を留める694本について計測作業を行い、当時の尺度に換算することによって規格性の有無について検討を行った。なお、計測の対象としたのは頭巻の各釘である。

出土した頭巻の角釘のうち、最も長いものは11.96cm、一方、最短のものは2.18cmを測る。また、長さ別での出土分布をみると、1寸4分を測るものが47点で最も多く、これに9分および1寸2分の35本、1寸8分の34本が続いている。当然、上記の長さにピークを有しているが、これ以外では出土点数は多くはないが、2寸4分前後にもピークがみられる。

時期は下るが江戸時代中期の『和漢三才図會』巻八十一、家宅類中「釘」に数種類の長さの釘がみえる

が、2寸半・2寸・1寸半・1寸・6分・4分などの長さがみえる（金箱1984）。

必ずしも対応しないが、先に示した1寸4分の鉄釘については1寸半を意図して作られたものである可能性も浮上する。同様に9分のピークについては8分もしくは1寸の規格をもつものであった可能性がある。

#### (5) 小結

今回の調査では5000本を超える鉄釘が出土した。その多くは7B地区の谷の中からであり、およそ1500㎡に包括される範囲からの出土ということになる。また、出土した鉄釘の大半は三の丸築造にともなう客土の下層から検出したものであり、豊臣前期に包括される時代に限定できるものである。

ここで繰り返すまでもなく、三の丸築造にあたってはすでに形成されていた城下町の町屋などを移転させるという大規模な改変が行われている。

今回の調査で出土した鉄釘は一部を除けば、一度使用されたものであり、かつ折損したり、曲がったりしているものの占める割合が非常に高い状況を看取することができる。

短絡的に結びつけるわけにはいかないかもしれないが、三の丸築造に際して既存の建物などの解体が行われ、それに伴って抜かれて不要になった鉄釘が生じ、それが廃棄された可能性も想定できるのではないかと推測する。

木製品の項では触れなかったが、今回の調査で出土したわずかな建築部材はいずれも木取りが悪かったり、木目の状況が良くないものであり、結果的に転用や再利用に不適当なものが廃棄されていた状況を看取できる。

今回の調査で出土した多数の鉄釘は単に包含層の水洗選別によって、遺漏なく取り上げ得たというだけでなく、上記のような歴史的背景の中で意味をもつものであるかもしれない。

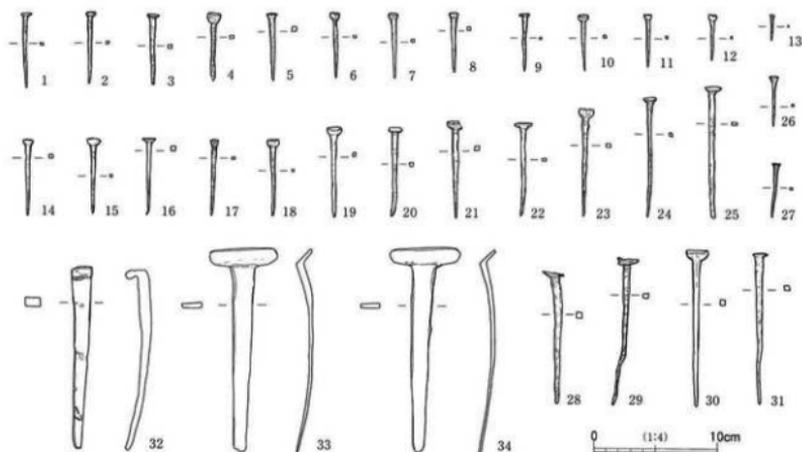


図 133 鉄釘

### 13. その他の金属製品

図134にはその他の金属製品を掲げている。

以下、主要な遺物について簡潔に記述を進めていくことにする。

134-1は鋳、134-2は菊座の座金である。134-3は銅製の透かし彫り飾り金具である。表面には毛彫りによる文様も施されている。134-4は銅製の印籠蓋で銀鍍付けによって両側面に半円形の紐通しが付加されている。134-6は簪、断面は六角形である。134-9は覆輪である。

134-11は先端が外反するU字形の基部に軸を付けた鉄製品である。一方の先端を欠損しているが、復元すると幅がほぼ正確に1寸を測るものであり、1寸のゲージもしくはディバイダー的な役割をもつものであると考えられる。同じような形態をもち、ねじりを加えたものも出土しており、同様の用途をもつものと考えられる(写152-22)。134-12・13は鉄製の釣針。図示していないが別に1点出土している(写152-17)。

134-14は真鍮製の煙管雁首である。豊田分類のA類であり、頸部が湾曲しつつ下に下がっている古いタイプに属する。頸部は非常に長く、隆帯は魚々子地で二方に猪目透かしおよび3条の沈線が施され、先端は花卉状を呈する。火皿部は横方向にやや変形しているが、頸部側にオランダ花クルスに似る十文字を透かし彫りする。火皿の下には突帯がある。なお、図中では変形している当該透かし部分については復元的に図化作業を行っている。

134-16は銅鈴。完全な形状を留めるものは少なく、上下が分離して出土したものが多い(写152-9～16)。なお、銅鈴には未製品と考えられるものも含まれている。134-17は一方の端を欠損するが、形状と法量からみて錠前の鍵である可能性が高い。134-19は鉄製の錠前である。鍵がささったままの状態であるが、X線写真を見ると、鍵が斜めに入って詰まったような状態を呈していることが分かる。134-20は鉄製の毛抜きであり、134-21は銅製の耳掻きである。134-22は小型の片口金槍であり、穴の部分には柄が一部遺存している。質量は32.5gを測る。小型で金工用である可能性がある一方、鋸歯のあせりを出すための歯槌である可能性も残る。134-24～29は鉄砲玉。質量は6～9gを測る。134-23は槌と考えられるもので、先端は扁平で鋭利である。

134-30～33は壺金である。写155-9～44に掲げたように多数出土している。また、未掲載であるが、雁の縦框に打ち込まれた状態の大型の壺金も出土している。134-34～37は肘金である。写156-1～15に掲げたように多数出土しているが、さほど大型のものはない。134-45～47・49は煽り止めである。図示した4点以外にも多数出土している(写156-16～25)。134-38および134-48はヤリガンナのような工具である。前者は茎の部分が上方に上がっているが、後者は刃部と一直線であり、柄の木質が残る。いずれも刃は山形に作られるが、全体に薄い造りである。134-50は用途不明であるが、扁平な棒状を呈する真鍮製品である。134-51は銅製の六器である。

134-52～54は包丁。134-52・53には柄が残る、前者には責金の痕跡のみ残る。132-55～57は火箸。上部にねじりを加えたものも出土している。また、134-58は火箸を連結するための金具であると考えられるものである。図示したもの以外に多数出土している(写153-1～17)。134-59・60は鎌である。前者には柄の部分に木質が残る。

なお、これ以外に図示していないが、鉄鍋(写153-22)や火打鎌(写154-6)なども出土している。

また、写155-8に掲げたように、銅板や真鍮板などの切屑が多数出土しており、多量のトリペの出土などとあわせて、当地において金属加工が行われていたことを証左する遺物である。

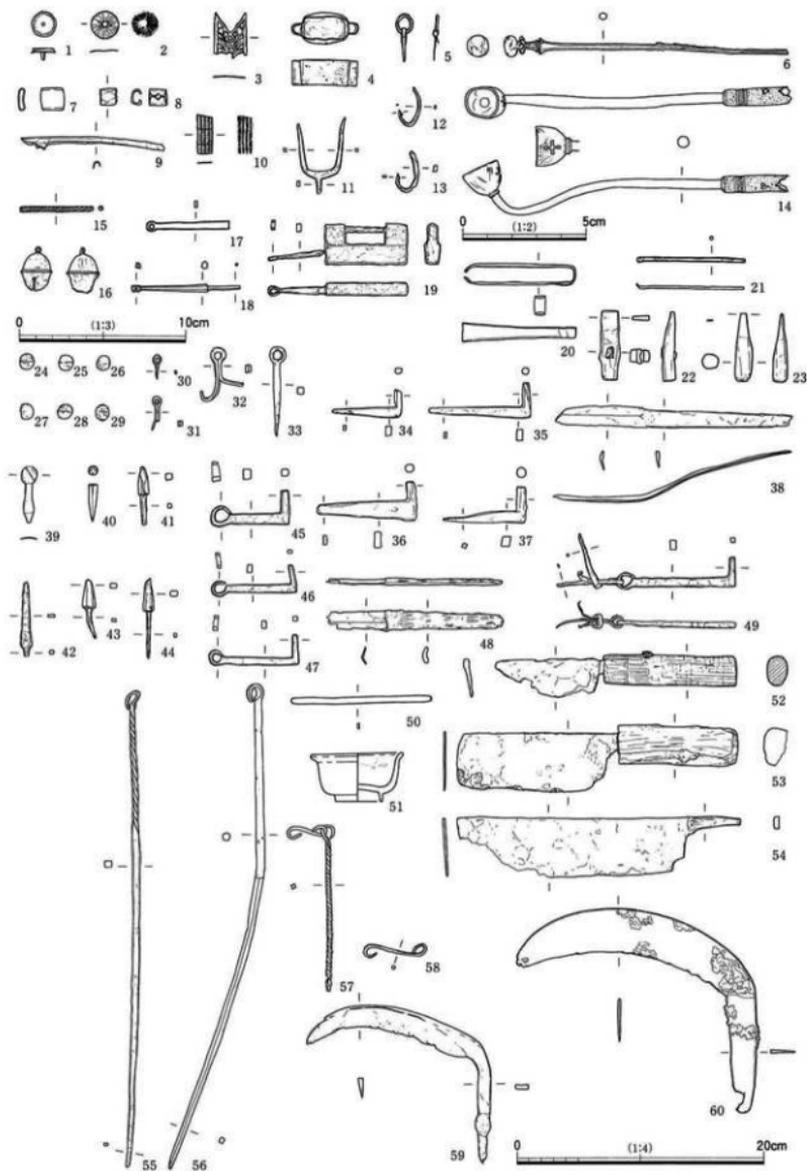


图 134 金属製品

表55 金属製品一覧(1)

図面番号	写真番号	品名	規格	種別	口径	最大径	高さ	底径	長さ	幅	厚さ	高さ	実測番号
133	1	157	20	7					6.0	0.8			T5115
133	2	157	19	7A	9段目	井戸328			5.8	0.7	0.2		T5114
133	3		7	6層					5.8	1.0	0.3		T5178
133	4	157	14	7					5.5	1.0	0.3		T5169
133	5	158	8	7	6層				(6.8)	0.9	0.4		T5206
133	6	157	15	7					5.3	0.8	0.2		T5170
133	7	158	8	7	6層				5.3	0.8	0.3		T5205
133	8	158	8	7	6層				4.8	0.8	0.3		T5204
133	9	157	16	7A	10段目	井戸328			4.7	0.8	0.1		T5171
133	10	158	8	7	8~10層				4.6	0.8	0.3		T5208
133	11	158	8	7	6層				4.4	0.6	0.2		T5210
133	12	158	8	7	6層				3.8	0.7	0.2		T5209
133	13	157	18	7A	11層断面5	井戸328			2.1	0.4	0.1		T5173
133	14	158	8	7	6層				(6.2)	0.8	0.4		T5203
133	15	157	22	7					6.0	1.1	0.2		T5179
133	16	158	8	7	8~10層				6.2	1.1	0.4		T5202
133	17	157	21	7					6.2	0.6	0.2		T5177
133	18	157	23	7A					6.2	1.0	0.2		T5177
133	19	158	8	7	6層				7.4	1.2	0.3		T5200
133	20	157	24	7A	11層断面5	井戸328			7.3	1.1	0.3		T5178
133	21	158	8	7	6層				7.9	(1.0)	0.4		T5201
133	22	157	25	7A	10段目	井戸328			(7.6)	1.5	0.3		T5179
133	23	157	26	7					8.8	1.2	0.3		T5180
133	24	157	27	7	10段目	井戸328			8.8	1.3	0.3		T5181
133	25	157	28	7A	10段目	井戸328			(10.8)	1.3	0.3		T5182
133	26	158	8	7	8~10層				4.1	0.7	0.2		T5207
133	27	157	17	7	3段目	井戸518			4.4	0.7	0.2		T5172
133	28	157	29	7					10.7	1.7	0.5		T5177
133	29		7	6層					12	1.6	0.3		T5183
133	30	158	8	7	7層				12.8	1.8	0.4		T5188
133	31	158	8		不明				12.4	1.1	0.5		T5199
133	32	158	3	7	6層				14.9	1.6	0.9		T5197
133	33	158	3	7	6層				16.6	1.4	0.4		T5198
133	34	158	1	7	6層				16.6	2.7	1.5		T5195
134	1		7	7~10層						0.2		0.7	T5169
134	2	149	14	7	7~9層					1.5			T5169
134	3	152	4	7	7~10層					1.7			T5169
134	4	152	5	7	7~9層							1.5	T5169
134	5	153	1	7	6層				2.9	1.0	0.4		T5174
134	6	152	7	7	6層				11.5	0.9	0.3		T5170
134	7		7	8~9層					1.4	1.4	0.3		T5116
134	8		7	6層					1.0	0.9	0.3		T5165
134	9	149	5	7	6層				8.5	0.6	0.4		T5184
134	10	152	21	7	6層				2.4	0.9	0.1		T5194
134	11	152	23	7	7層				4.7	2.9	0.3		T5190
134	12	152	18	7	7層				2.4	1.2	0.3		T5131
134	13	152	19	7	8層				2.5	1.3	0.3		T5191
134	14	152	8	7	7~10層				13.0	1.5	0.3		T5153
134	15	152	2	7	7層				4.4		0.3		T5189
134	16	152	13	7	7~10層							2.7	T5185
134	17	155	4	7	7~10層				4.9	0.6	0.3		T5192
134	18	152	1	7	7~10層				6.5	0.4	0.4		T5125
134	19	152	6	7	6~10層				8.4	2.5	0.9		T5121
134	20	153	23	7	6層				9.0	1.7	0.2		T5213
134	21	153	24	7					8.7	0.3	0.2		T5212
134	22	153	19	7	8~9層				17.1	1.6	1.4		T5216
134	23	153	18	7	6層				8.6	1.3	1.3		T5215
134	24	157	5	7	7層								T5170
134	25	157	7		不明						1.3		T5170
134	26	157	2	7	7~10層						1.3		T5170
134	27	157	3	7	6層						1.3		T5170
134	28	157	4	7	7~9層						1.2		T5170
134	29	157	3	7	8~10層						1.3		T5170
134	30	155	9	7	7~8層								T5195
134	31	155	10	7	7~10層								T5188
134	32	155	21	7	7~10層								T5189
134	33	155	32	7									T5187
134	34	156	11	7	7層								T5217
134	35	156	15	7									T5218
134	36	156	10	7									T5219
134	37	156	14	7	7~9層								T5220
134	38	153	21	7	6層								T5211
134	39	152	3	7	8層								T5130
134	40	157	8	7	8~9層								T5168
134	41	157	10	7A	11段目	井戸328							T5167
134	42	157	8	7	7~8層								T5176
134	43	157	11	7	7~10層								T5124
134	44	157	12	7A	11段目	井戸328							T5163
134	45	156	21	7	7層								T5189
134	46	156	18	7	7~9層								T5222
134	47	156	19	7									T5221
134	48	153	20	7	7層								T5214
134	49	156	25	7									T5160
134	50	155	6	7									T5193
134	51	155	7	7									T5196
134	52	154	1	7									T5184
134	53	154	2	7									T5183
134	54	154	3	7	7層								T5185
134	55	153	9	7									T5191
134	56	153	10	7									T5190
134	57	153	13	7									T5194
134	58	153	17	7									T5193
134	59	154	5	7									T5186
134	60	154	4	7									T5187

表56 金属製品一覧(2)

図録番号	写真番号	シナ	層位	遺構	種別	口径	最大径	最大径	口径	長さ	幅	厚さ	高さ	実測番号
	152	9	7B	7層	銃		(1.9)							(1.4)
	152	10	7B	8~10層	銃		(5.1)							(1.4)
	152	11	7B	7~10層	銃		(2.0)							(1.4)
	152	12	7B	7~8層	銃		(1.8)							(0.9)
	152	14	7B	6層	銃		(2.2)							(1.1)
	152	15	7B	7~10層	銃		(2.2)							(1.1)
	152	18	7B	7層	銃		(2.1)							(1.0)
	152	17	7B		土坑689	銃針				2.0	0.8	0.2		
	152	20	7B	8~10層						(3.1)	1.5	1.0		
	152	22	7B	7~10層						(3.7)	2.5	0.5		
	153	1	7B	9層						(22.9)	0.9	0.4		
	153	2	7B		溝604	火箸				(27.4)		0.5		
	153	3	7B		溝509	火箸				(30.5)		0.6		
	153	4	7B		土坑693	火箸				(30.7)		0.6		
	153	5	7B		土坑494	火箸				(30.5)		0.7		
	153	6	7B		溝493	火箸				30.8		0.5		
	153	7	7B	6層						34.0		0.5		
	153	8	7B		土坑688	火箸				38.0		0.5		
	153	11	7B		溝509	火箸				17.6	1.4	0.6		
	153	12	7B		土坑538	火箸				17.4	1.3	0.6		
	153	14	7B	7~10層						2.6	0.8	0.2		
	153	15	7B	7層						4.2	1.0	0.3		
	153	16	7B	6層						4.4	0.9	0.3		
	153	22	7A		井戸247	鏃	-	-	-	-	-	-	-	-
	154	6	7B	7層		火打鎌				10.3	3.5	3.2		
	154	2	7B	7~10層						1.0	0.7	0.1		
	154	3	7A	4c層						1.6	1.1	0.2		
	154	5	7B	7層						5.4	0.6	0.2		
	154	11	7B		土坑794	鍬金				(1.9)	0.8	0.4		
	154	12	7B	7~10層		鍬金				(2.0)	0.9	0.6		
	154	13	7B	7層		鍬金				(2.2)	1.0	0.6		
	154	14	7B	7~10層		鍬金				(2.7)	1.2	0.5		
	154	15	7B	7層		鍬金				(2.7)	0.9	0.5		
	154	16	7B	7~10層		鍬金				(2.7)	1.2	0.4		
	154	17	7B	7~10層		鍬金				(2.7)	1.1	0.6		
	154	18	7B	7層		鍬金				(2.5)	1.0	0.4		
	154	19	7B	7~9層		鍬金				(3.1)	1.1	0.7		
	154	20	7B	7~10層		鍬金				(2.6)	1.4	0.6		
	154	22	7B	7~10層		鍬金				(3.0)	2.4	0.8		
	154	23	7B	7~9層		鍬金				(3.7)	0.8	0.4		
	154	24	7B	6層		鍬金				(4.2)	1.0	0.4		
	154	25	7B	7~10層		鍬金				(3.7)	0.8	0.5		
	154	26	7B	6層		鍬金				(3.5)	0.9	0.5		
	154	27	7B	7層		鍬金				(3.2)	1.4	0.6		
	154	28	7B	6層		鍬金				(3.2)	1.3	0.7		
	154	29	7B	7~10層		鍬金				(3.8)	1.2	0.4		
	154	30	7B	7層		鍬金				(4.4)	1.3	0.6		
	154	31	7B	7~9層		鍬金				(4.8)	1.0	0.3		
	154	33	7B	6層		鍬金				(4.4)	1.2	0.7		
	154	34	7B	7層		鍬金				(4.9)	1.0	0.7		
	154	35	7B	6層		鍬金				(5.8)	1.1	0.7		
	154	36	7B	7~10層		鍬金				(6.0)	1.2	0.6		
	154	37	7B	7~10層		鍬金				(5.5)	1.3	0.7		
	154	38	7B	7層		鍬金				(4.2)	1.3	0.6		
	154	39	7B	13層		鍬金				(4.6)	1.1	0.5		
	154	40	7B	8~10層		鍬金				(4.6)	0.9	0.5		
	154	41	7B	7~9層		鍬金				(4.8)	1.1	0.8		
	154	42	7B	7~10層		鍬金				(5.6)	1.4	0.6		
	154	43	7B	7~8層		鍬金				(4.7)	2.3	0.7		
	154	44	7B	7層		鍬金				8.9	1.0	0.5		
	154	1	7B	8~10層		鍬金				3.9	(2.0)	0.6		
	154	2	7B	7~10層		鍬金				6.1	(1.7)	0.3		
	154	3	7B	7~9層		鍬金				5.3	2.1	0.6		
	154	4	7B	7~9層		鍬金				(3.5)	(3.1)	0.7		
	154	5	7A		井戸328	鍬金				(4.9)	(3.0)	0.9		
	154	6	7B	7~9層		鍬金				(5.4)	2.3	1.0		
	154	7	7B	6層		鍬金				(4.0)	(3.2)	1.6		
	154	8	7B		溝506	鍬金				(5.4)	3.2	0.8		
	154	9	7B	7~9層		鍬金				8.8	3.0	1.4		
	154	12	7B	7~10層		鍬金				6.2	2.3	0.8		
	154	13	7B	7~9層		鍬金				(6.2)	(2.4)	0.9		
	154	16	7B	7~9層		鍬金				6.0	2.1	0.6		
	154	17	7B	7~9層		鍬金				6.5	2.1	0.6		
	154	20	7B	7~10層		鍬金				-	-	-		
	154	22	7B	7~9層		鍬金				7.4	2.5	0.8		
	154	23	7B	7層		鍬金				7.1	2.3	0.7		
	154	24	7B	7~9層		鍬金				8.2	2.7	0.9		
	157	6	7B	8~10層		鉄線玉				1.2				
	157	13	7B	7~10層						(2.9)	1.2			
	158	4	7B	7~10層	土坑538	釘				(7.1)	(2.0)	0.7		
	158	5	7B			釘				(5.0)	(2.2)	0.4		
	158	6	7B			釘				(5.5)	1.2	0.6		
	158	7	7B			釘				(3.5)	(2.1)	0.6		

## 14. 鑄造関連遺物

### (1) 出土状況

今回の調査ではトリベ集積遺構491から100個体近いトリベと10点羽の輪羽口が出土している。また、土坑538から38点、瓦敷き628から13点のトリベ片が出土している。豊臣前期段階の包含層中から出土したものを含むと破片数では3000点におよぶトリベが出土している。また、わずかながら炉壁と考えられる焼土塊も出土している。

以下ではトリベ集積遺構491から出土した鑄造関連遺物を中心に報告することにした。

### (2) トリベ (図135、写161・162)

トリベ集積遺構491から出土したトリベのうち、完形もしくは完形に還元されるものは50点前後である。いずれも小型のトリベであり、外径は5.1～8.1cmで平均6.94cm、内径は4.1～6.0cmで平均5.35cm、深さ1.4～3.2cmで平均2.06cmの範囲におさまり、若干の大小はあるものの量法にはまとまりがみられる。

表57に示した容量はメスシリンダーを用いて5mlを単位として実際にトリベに口縁ぎりぎりまで水をいれて計測したものである。精度はかなり落ちるものであるが、目安として提示している。これを見ると、容量はおおよそ15～30mlの範囲に集中し、平均すると25mlを前後するものであったことが分かる。なお、この容量は上記のように口縁ぎりぎりまでの計測値であり、実際にはもっと少ない容量の金属を溶融していたことになる。

トリベは基本的には外容器等をもたない手捏ね製品であり、大半は胎土中に初殻を混ぜている状況が窺える。なお、いずれのトリベも片口にはなっていない。内面には金属やその残渣が厚く溶着しており、発泡している部分も多くみられる。なお、トリベに付着している金属のすべてを分析したわけではないが、その多くは第10章第2節に分析結果を提示しているように鉄および銅と考えられるものである。

しかし、その後の作業過程で135-1・9・15・51・55および写162-15・21では内面に金の細粒が付着していることを確認している。肉眼観察の結果、上記のトリベを含めて41点に金粒の付着を確認している。この金粒については第10章第4節において分析結果を提示しているので、そちらを参照していただきたい。

なお、包含層から出土したトリベについても同形同大のものが大勢を占めているが、135-58などのように容量が120mlにもおよぶ大型のものも少数ながらも出土している。そのほか、6層から出土した135-55では外面底部に焼成後の十文字形の線刻が成されている(写162-20)。

### (3) 羽口

羽口は10点前後が出土したのみである。本報告では2点を掲載したのみである。

135-59はトリベ集積遺構491から出土したものであり、部分的に欠損するがほぼ完形である。通風孔の直径は2.0cm、長さは8.5cmで、輪の羽口としては短い部類に属する。また、写162-26は7層から出土したものであり、法量的には上記のトリベ集積遺構491から出土したものと近似する。出土した羽口の多くはほぼ同じ大きさか、もしくは通風孔の直径が1.5cmに満たないものもあるなど、小形のものが多いのが特徴的である。

### (4) その他

炉壁と考えられる焼土片もコンテナ1箱分が出土している。いずれも細片で形状を復元できるものはない。また、サルと称される三又の支脚も出土している(写162-27)。

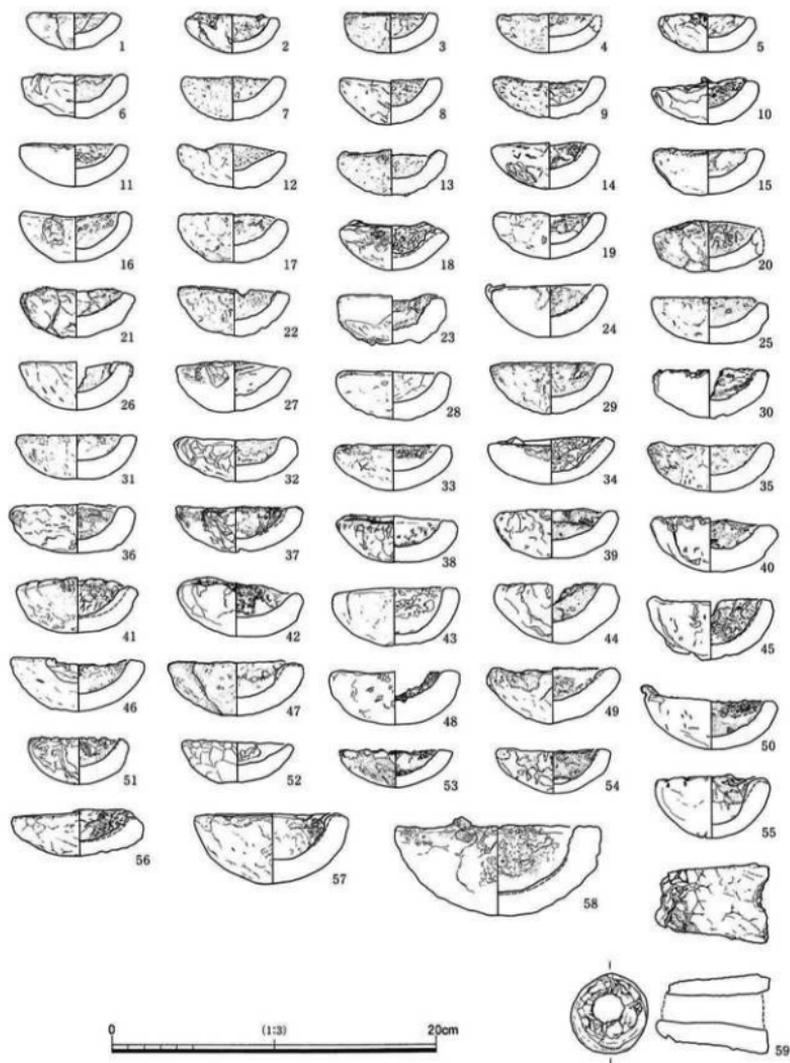


図 135 トリベ・羽口

表 57 トリペー覧

図版番号	写真番号	取上番号	比尺	層位	遺構名	種類	外径	内径	深さ	高さ	底厚	容量 (ml)	金付層	実測番号	
135	1	161	9	491-31	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	5.5	4.4	1.4	2.2	0.8	15	○	T:482
135	2			491-11	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	5.4	3.7	1.9	2.3	0.4	20		T:19
135	3	161	14	491-32	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	5.7	4.6	1.6	2.2	0.6	15		T:446
135	4	161	4	491-19	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.2	5.2	1.5	2.1	0.6	15		T:460
135	5			491-53	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	5.7	4.2	1.5	2.2	0.7	15		T:16
135	6	161	26	491-6	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.4	4.5	2.0	2.6	0.6	20		T:471
135	7	161	15	491-34	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.0	4.8	1.8	2.5	0.7	15		T:458
135	8	161	16	491-35	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.6	5.1	2.0	2.9	0.9	25		T:18
135	9	161	10	491-52	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.7	5.0	1.9	2.4	0.5	20	○	T:473
135	10	162	6	491-72	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.3	4.8	1.8	2.4	0.6	20		T:479
135	11	161	8	491-23	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.3	4.9	1.7	2.6	0.9	20		T:467
135	12	161	21	491-44	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.9	5.6	1.8	2.6	0.8	20		T:468
135	13	162	5	491-71	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.5	4.9	1.8	2.5	0.7	20		T:451
135	14	162	8	491-80	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.6	4.9	1.6	2.6	1.0	15		T:488
135	15	161	6	491-21	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.4	5.0	2.1	2.8	0.7	25	○	T:474
135	16	161	31	491-60	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.2	5.7	2.5	3.0	0.5	30		T:465
135	17	161	7	491-22	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.7	5.2	2.0	2.8	0.8	25		T:459
135	18			491-10	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.5	4.1	1.8	2.8	1.0	15		T:20
135	19			491-42	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.7	5.2	2.2	2.8	0.6	30		T:463
135	20	161	30	491-46	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.8	5.6	2.3	3.1	0.8	25		T:452
135	21			491-41	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.8	5.3	1.9	2.8	0.9	20		T:15
135	22	161	11	491-27	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.5	5.0	2.0	3.0	1.0	20		T:445
135	23	161	1	491-1	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.8	4.9	2.3	(3.1)	(0.8)	25		T:483
135	24	162	1	491-65	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.0	5.2	2.2	3.1	0.9	25		T:470
135	25	161	12	491-30	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.8	5.6	1.9	2.8	0.9	30		T:453
135	26			491-20	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.8	5.2	2.1	3.1	1.0	-		T:480
135	27	161	27	491-56	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.5	5.4	2.2	3.0	0.8	20		T:484
135	28	161	28	491-57	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.6	5.3	2.1	3.1	1.1	25		T:469
135	29			491-79	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.3	5.5	2.3	3.2	0.9	-		T:445
135	30	161	18	491-37	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	6.9	5.1	2.1	2.7	0.6	-		T:443
135	31	161	19	491-38	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.2	5.8	1.9	2.8	0.9	30		T:461
135	32	162	4	491-70	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.6	5.8	1.9	2.6	0.7	25		T:472
135	33	161	24	491-50	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.3	5.9	1.8	2.5	0.7	25		T:464
135	34	161	25	491-51	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.4	6.0	2.3	2.9	0.6	35		T:466
135	35	161	13	491-59	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.6	5.9	2.1	3.0	0.8	20		T:448
135	36	162	2	491-66	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.4	5.3	1.8	2.8	1.0	25		T:478
135	37	161	20	491-61	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.6	5.9	2.1	2.8	0.7	30		T:487
135	38	161	3	491-17	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.4	5.4	1.8	2.7	0.9	20		T:449
135	39	161	17	491-36	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.4	6.0	2.0	2.7	0.7	30		T:454
135	40	161	23	491-5	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.4	5.5	1.9	3.1	1.2	30		T:450
135	41			491-26	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.3	5.5	2.3	3.2	0.9	30		T:15
135	42			491-25	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.1	6.1	2.6	3.6	1.0	-		T:455
135	43	161	29	491-2	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.7	5.8	3.2	(3.5)	(0.3)	50		T:475
135	44	161	2	491-12	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.4	5.4	2.3	3.6	1.3	25		T:456
135	45	162	3	491-67	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.6	5.9	3.0	3.5	0.5	40		T:489
135	46	162	7	491-78	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.4	5.4	1.8	2.5	0.7	25		T:477
135	47	161	5	491-24	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	8.1	5.9	2.3	3.2	0.9	30		T:462
135	48			491-47	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	8.1	6.0	2.0	3.4	1.4	-		T:486
135	49			491-64	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	8.0	7.7	2.2	3.5	1.3	30		T:476
135	50			491-18	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	8.0	6.4	2.7	3.4	0.7	-		T:481
135	51	162	10		7B	7層	トリエ	6.1	4.5	1.9	2.7	0.8	15	○	T:444
135	52				7B	6層	トリエ	6.7	5.9	1.5	2.6	1.1	-		T:17
135	53				7B	10層	トリエ	6.7	5.2	1.7	2.3	0.6	25		T:442
135	54				7B	8・9層	トリエ	6.8	5.2	2.1	2.7	0.6	-		T:490
135	55	162	20		7B	6層	トリエ	6.5	4.9	3.0	3.7	0.7	35	○	T:485
135	56			491-55	7B	6層	トリエ	7.8	5.6	2.0	2.7	0.7	25		T:17
135	57				7B	1〜3層	トリエ	9.1	6.3	3.0	4.4	1.4	70		T:14
135	58	162	24		7B	6層	トリエ	11.7	9.0	3.9	5.5	1.6	120		T:54
135	59	162	25		7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	羽口	6.5 (最大径)	5.5 (最小径)	2.0					T:21
		161	22	491-20	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.4	6.1	2.4	3.4	1.0	50		
		161	32	491-39	7B	H <sup>+</sup> 集積遺構群	トリエ	7.8	6.4	2.6	3.6	1.0	40		
		162	9		7B	6層	トリエ	7.8	6.0	2.2	2.9	0.7	30		
		162	11		7B	8層	トリエ	7.6	6.0	2.1	2.6	0.5	30		
		162	12		7B	7層	トリエ	7.5	5.8	2.1	2.9	0.8	35		
		162	13		7B	7層	トリエ	6.8	5.5	2.0	2.7	0.7	25		
		162	14		7B	7層	トリエ	7.5	6.0	2.1	3.0	0.9	35		
		162	15		7B	8・9層	トリエ	7.0	5.2	2.3	3.1	0.8	25	○	
		162	16		7B	7・8層	トリエ	7.0	5.2	2.3	3.1	0.8	35		
		162	17		7B	7・8層	トリエ	6.9	5.1	1.7	2.9	1.2	25		
		162	18		7B	7・8層	トリエ	6.9	4.5	1.9	2.6	0.7	20		
		162	19		7B	10層	トリエ	6.5	4.9	2.0	2.7	0.7	25		
		162	21		7B		トリエ	7.2	5.9	2.3	2.8	0.6	30	○	
		162	22		7B	土坑735	トリエ	7.4	6.1	2.0	2.9	0.9	30		
		162	23		7B	土坑762	トリエ	7.4	6.1	2.0	2.9	0.9	30		
		162	23		7B	10層	羽口	7.7	6.1	2.3	3.2	0.9	40		
		162	26		7B	7層	羽口	6.8 (最大径)	4.6 (最小径)	4.6 (最小径内径)			2.1		
		162	37		7B	土坑713	中少						7.4 (最大径)		

## 15. 石製品

## (1) 硯 (図 136-1~11、写 160)

硯は11点出土している。

136-1・2は小形の硯であり、後者は過度の使用のせいか、大きく窪んでいる。136-3は隅丸に成形した硯であるが、大半を欠失している。136-4は細片であるが、136-7・10と同様に底面を上げ底に加工するものである。136-5~8は大きさが異なるものの、ほぼ同系統の硯である。138-8はほぼ完形である。136-9は陸側の周縁の中心を稜線状に削り残したものである。136-10は底面を斜めに加工したものであり、裏面にはX字状の線刻と文字と考えられる線刻が看取される。136-11は石材に貫入した白色結晶を境界として加工した2連の硯である。一方の硯面の海は宝珠形を呈するものである。

## (2) 基石 (図 136-12、写 159-1~30)

基石は黒石が191点、白石が18点、白色に近いが灰色を呈するもの16点が出土している。これ以外に石製品ではないが、サザエの蓋の部分を利用したと考えられるもの1点を確認している。

また、黒石の136-12は表裏面に金泥によって文様が施されている。当該資料のように研磨によって、正円形に仕上げられるものもあるが、大半は自然石もしくは粗い加工が行われているのみである。また、上記のように白石の中にはサザエの蓋の部分加工したと考えられるものが含まれている(写159-6)。灰色の石を含めても黒石と白石の比率は11:2となり、明らかにアンバランスである。基石として扱っている黒石の中に、実際には基石ではないものが含まれている可能性も示唆されるが、一方で写159-6の白石のように貝製の場合などでは、地中で分解されて残らないものも多かったのではないかと憶測する。個々の法量については記述しないが、長径と短径を計測してグラフ化したものを図138に掲げている。直径2cm前後を測るものが多いことが看取されるが、若干ばらつきがみられる。

## (3) 数珠玉 (図 136-13・14、写 159-37・38)

水晶製の数珠が2点出土している。T字形の穿孔が施されていることから母珠であることが分かる。すでに報告した木製の数珠玉と対になるものであろうか。

## (4) 石臼 (図 136-15~17、写 159-40)

石臼は3点が出土している。136-15・16はいずれも花崗岩製であるのに対して、136-17のみ砂岩製でやや小振りである。後者は材質と臼目などの特徴から茶臼である可能性がある。

## (5) 石塔 (図 136-18~23・図 137)

出土した石塔類はいずれも花崗岩製で礎石等に転用されていたものであり、その多くは五輪塔である。また、転用段階に人為的に打ちかけられているものも多く、被火によって変色しているものもある。

136-18・19は一石五輪塔であるが、前者は空風輪、後者はそれに加えて地輪が打ち欠かれている。文字等は彫られていない。136-20~23は火輪である。いずれも上部に風輪を乗せるためのホゾ穴がある。同様に137-3も火輪である。他例に比して大ぶり、四周に梵字が彫られている。火を受けたためか、全体に黒っぽく変色している。137-1・2は空風輪のみが打ち欠かれて残るものである。前者は1面のみに、後者は4面に梵字がみられる。137-4は土坑332から出土した刻印石の刻印拓影で石塔ではない。ここで掲げているが、時期的には下る可能性がある。137-5は水輪。137-6および137-7は四周に複弁の連弁が彫られた台座であり、後者には下部に格狭間が彫られている。

## (6) 砥石 (写 159-31~36)

砥石は10点前後出土している。写159-36は3条の溝があり、玉砥石の可能性はある。

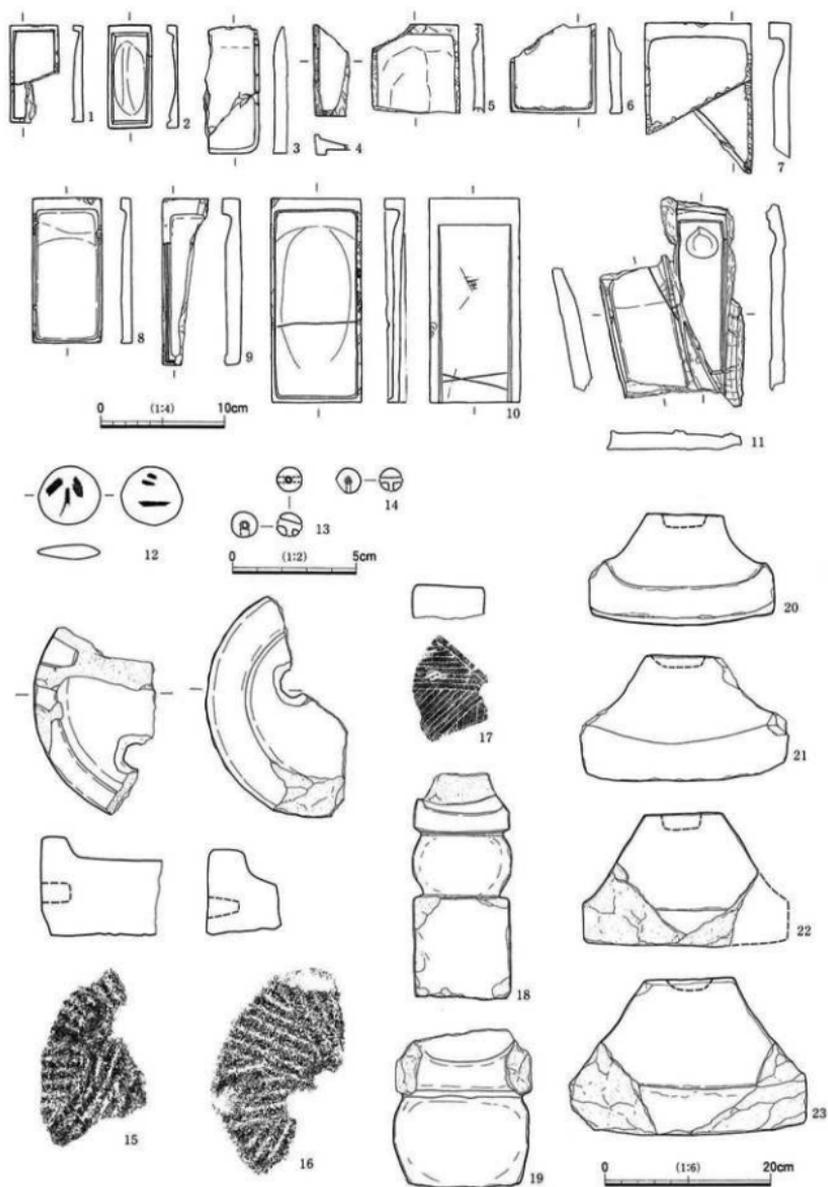


图 136 石製品 (1)

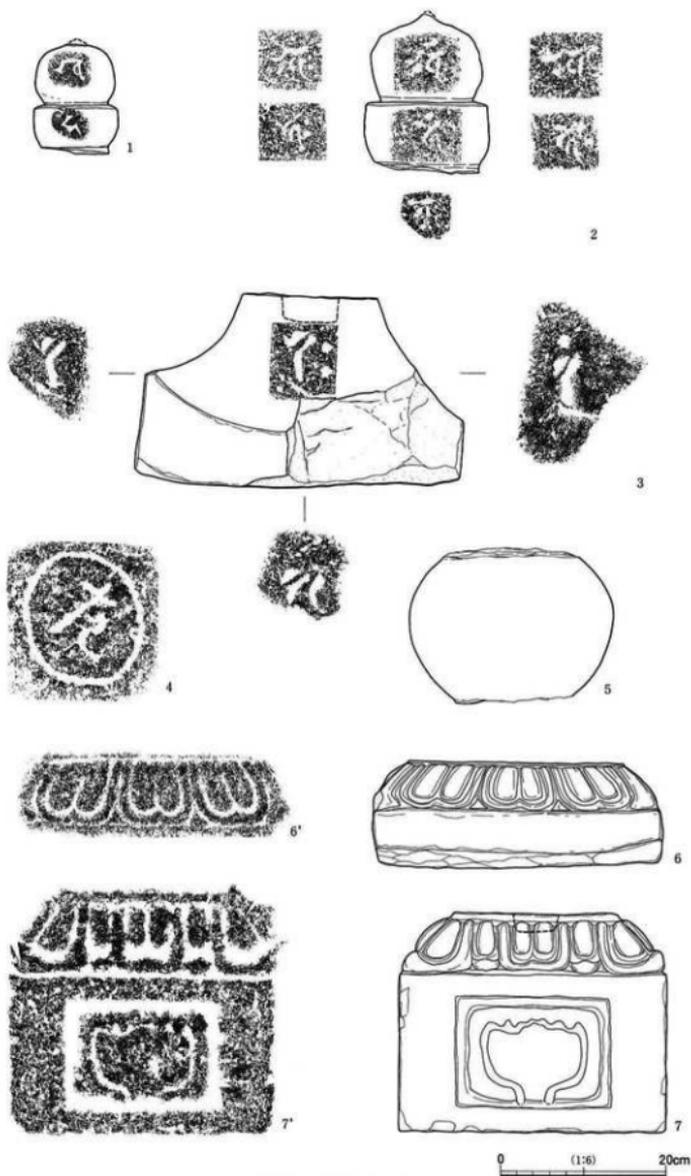


図137 石製品(2)

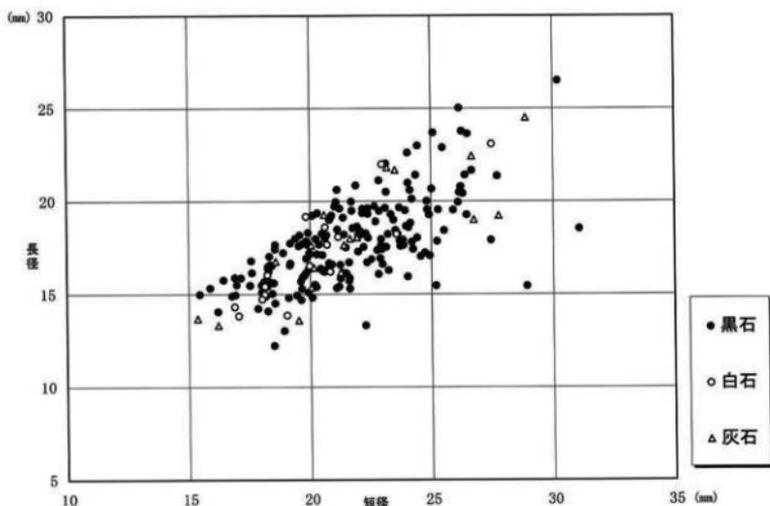


図 138 基石法量グラフ

表 58 豊臣石製品一覧

図版番号	写真番号	トシ	層位	遺構名	種別	径	高さ	長さ	幅	厚さ	実測番号
136	1	160	4	7B	7層	硯		(4.9)	3.8	0.8	Tや16
136	2	160	5	7B	6層	硯		8.4	3.5	0.9	Tや2
136	3	160	6	7A		硯		10.5	4.5	1.1	Tや3
136	4	160	1	7B	8-9層	硯		(6.4)	(2.8)	1.6	Tや17
136	5	160	2	7B	6層	硯		(7.2)	7.1	(0.9)	Tや14
136	6	160	3	7B		硯		(7.3)	6.9	0.9	Tや19
136	7	160	8	7B	8-9層	硯		(12.2)	8.5	1.7	Tや18
136	8	160	11	7B	6層	硯		11.8	5.5	0.9	Tや3
136	9	160	10	7B	7層	硯		13.5	3.8	1.4	Tや15
136	10	160	7	7B	6層	硯		16.7	7.2	1.6	Tや4
136	11	160	9	7B		硯		15.8	10.9	1.5	Tや1
136	12	159	12	7B		硯				0.6	Tや7
136	13	159	37	7B	7~9層	基石(金剛)	2.5				Tや5
136	14	159	38	7B	7~9層	散珠玉(母珠)水晶製	1.0				Tや6
136	15	159	38	7B	7~9層	散珠玉(母珠)水晶製	1.0				Tや6
136	16	159	38	7B	13層	石白	(29.2)			12.0	Tや25
136	17	159	40	7A	4c層	石白	(33.2)			8.8	Tや25
136	18	159	40	7A	4c層	灰白	(18.2)			(4.0)	Tや22
136	19			7B		一石五輪塔		(27.3)	11.4		Tや21
136	20			7B		一石五輪塔(大水輪)		(18.5)	16.9		Tや20
136	21			7B	10層	五輪塔(大輪)		13.8	22.5		Tや23
136	22			7B	6層	五輪塔(大輪)		15.1	24.8		Tや20
136	23			7B		五輪塔(大輪)		16.0	(25.0)		Tや28
136	24			不明		五輪塔(大輪)		19.1	(28.6)		Tや29
137	1			7B	7層	一石五輪塔(空風輪)		(14.2)	10.2		Tや22
137	2			7B	7層	五輪塔(空風輪)		(19.0)	15.2		Tや26
137	3			7A		五輪塔(大輪)		23.8	39.8		Tや10
137	4			不明		刻印石					Tや9
137	5			7B		五輪塔(大輪)		18.6	24.4		Tや27
137	6			7B		石塔台座		12.8	34.6		Tや11
137	7			不明		石塔台座		25.4	31.8		Tや12
		159	31	7B	6層	礎石			3.4	2.6	2.3
		159	32	7B	7~10層	礎石			6.5	3.0	0.7
		159	33	7B	7層	礎石			6.0	3.9	0.7
		159	34	7B	9層	礎石			7.9	3.5	1.0
		159	35	7B	7~9層	礎石			7.1	3.5	1.9
		159	36	7B	7~10層	礎石			5.3	6.5	1.6

## 16. 骨製品

今回の調査では骨もしくは歯牙で作られたと考えられる製品が数点出土している。遺物の種別は耳掻き・サイコロ・雙六駒・櫛払いなどである。

## (1) 耳掻き (図 139-5、写 163-1・2)

骨製の耳掻きは2点出土している。139-5は長さ8.8cm、幅0.3cm、厚さ0.5cmを測るものであり、先端から6.4cmのところから側面から直径約1mmの穿孔がある。図示していない写163-1は残存長6.6cmで、139-5と同様に側面から穿たれた穿孔部分で折損している。139-5が扁平であるのに対して本例は幅、厚さともに0.4cm前後で、断面形はほぼ円形である。

## (2) サイコロ (図 139-1、写 163-6)

139-1はサイコロである。全体に角が取れて丸みを帯びている。必ずしも正立方体にはならず、1と6の目以外の目は長方形を呈する。図上で1の目を上にした状態で計測値は縦1.03cm、横0.99cm、厚さ0.82cmである。なお、2の目の部分には対角線上に下書きのような微細な点が3つ並んでいる。きわめて扁平なサイコロであり、普通に振るとほとんどが1と6の目になる。なお、当該資料については蛍光X線分析によってP・Ca・Kが強くみられることと、組織がみられないことなどから象牙などの可能性はある。

## (3) 雙六駒 (図 139-3・4、写 163-4・5)

139-3・4は雙六駒である。表裏面には細かい削痕が残り、両面ともに梅花文を施す。両者とも直径約1.8cm、厚さ0.4cmを測る。暗褐色を呈するなどの点でサイコロと似ており、蛍光X線分析もサイコロ同様にP・Ca・Kが強くみられ、象牙などの可能性はある。

このほか、写163-3は骨製の櫛払いと考えられる製品の残片である。外形の一部と歯の部分もわずかに残っており、古いタイプの櫛払いと共通する特徴をもつ。

## 17. ガラス製品

出土したガラス製品は139-2のガラス玉のみである。乳白色を呈する円形のガラス玉であり、直径1.46cm、穴径は0.38cmを測る。数珠玉や装飾品の可能性はあるものの、用途は特定できない。

## 18. 布製品

出土点数は多くはないが、遺構および包含層から布製品が出土している。今回はそのうちでもまとまって出土した井戸247出土の布と遺存状態が良好な7層出土のものを報告する。

写163-8は豊臣後期の井戸247から出土した平織の布である。同時に綿が出土しており、一部では綿と布を縫い付けた部分もみられる。なお、布は17×15本/cm<sup>2</sup>で、燃りはSである。

全容は不明であるが、綿入りの着物であったと考えられる。

写163-9は7層から出土した刺子の布である。25×20本/cm<sup>2</sup>前後の平織地に1cmに8列の割合で太めの糸(乙燃)が縫い付けられ、縁で折り返して次列に向かっていく。また、布地の縁に4~5mm間隔で縫い糸が確認できる。

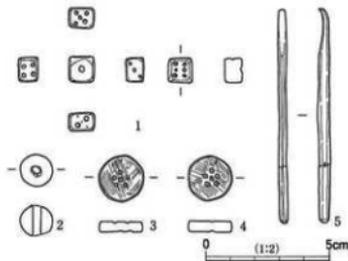


図 139 骨格・ガラス製品

## 19. 計量関係遺物

### (1) 尺度 (図 140、写 133)

#### ①特徴

尺度は区画Dの南東付近から出土したものである。スギを材質とする木製で、土圧による局地的な変形や調査取り上げ時の小傷がみられるものの完存している。

また、各隅部は使用時のものと考えられる摩滅によって全体に丸みを帯びている。木取りは板目であり、尺度の表面に木目の硬い部分が出しており、意図的に加工していた可能性が示唆される。

長さは1尺で36.66cmを測る。ただし、当該尺は木製であることを考えると地下水中で膨潤し、長さ方向に伸長している可能性も考慮しなければならない。幅および最大厚は右端でそれぞれ2.018cmと0.654cm、左端部では2.043cmと0.811cmを測る。中央付近はやや広く幅2.181cm、最大幅0.901cmを測る。目盛は1寸刻みに尺上面を横断するように陰刻し、その中を2等分して5分の目盛を端部から3～5mmの長さで刻んでいる。また、5寸の目盛部分では「×」状に陰刻を施している (写 133-2)。

なお、5分の目盛は三角形に陰刻されるが、目盛を上にして置いた場合、全体を通して刻み目の左辺が尺度上端の長辺に直交しているのに対して、右辺が斜めに刻まれている状況が看取される (写 133-3)。これは、まず左辺が原器を基準にして切り込まれ、次に右辺を斜めに切り込むことによって目盛を刻んだためであると推定される。5分の目盛の鞍部には陰刻による稜線が生じているが、この稜線を目盛とすると全体に左に振れる傾向にある。

上記のような状況を勘案すると、当該尺の5分の目盛は長辺に直交して切り込まれた左辺が、本来意図していた目盛位置に近いものであると考えられる。

したがって、表 59 に示した計測値のうち、1寸の目盛については陰刻の稜線部分を基準とし、一方、5分については上記のような状況を勘案し、長辺に対して直交して刻まれている右辺を基準とした計測を行っている。なお、個々の計測値については表 59 に示した通りである。1寸の長さの平均値と標準偏差は $36.66 \pm 0.544$ mmである。1寸の長さについては上記のごとく比較的偏差が少ないのに対して、5分の長さは $18.33 \pm 1.186$ mmと1寸の目盛間隔と比較してややばらつきが認められる。

#### ②出土尺度の検討

今回の調査で出土した尺度は、1尺の長

表 59 尺度の寸法

目 盛		寸 法	
分	寸	分	寸
0～5	0～1	20.14	37.26
5～10		17.12	
10～15		18.29	
15～20	1～2	19.10	37.39
20～25		18.24	
25～30		18.18	
30～35	2～3	18.16	36.42
35～40		17.96	
40～45		18.39	
45～50	3～4	18.00	36.39
50～55		18.85	
55～60		17.33	
60～65	4～5	20.35	36.42
65～70		16.07	
70～75		16.82	
75～80	5～6	20.40	37.22
80～85		16.82	
85～90		19.26	
90～95	6～7	16.71	35.97
95～100		18.12	
95～100		19.06	
全 長		366.55	

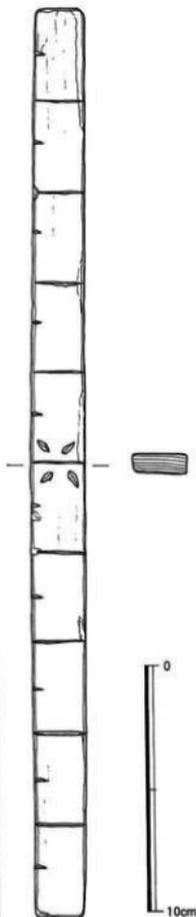


図 140 尺度

さが36cmを超えるものであり、これは日本の標準尺である曲尺よりも明らかに長い。各時代の標準尺となる曲尺については岩田重雄先生の研究があり(岩田1994)、これにしたがうと、以下の通りとなる。

まず、当該尺度は三の丸築造に関わる盛土との関係から16世紀末頃と推定される。この年代を $x$ として岩田先生が示された日本における回帰方程式の係数と定数の表をみると、2次係数 $-5.1747 \cdot 10^{-7}$ 、1次係数 $1.8619 \cdot 10^{-3}$ 、定数項 $2.8604 \cdot 10$ となり、 $y$ (cm)を曲尺の1尺の長さとするれば、その2次方程式は次のようになる。

$$y = -5.1747 \cdot 10^{-7} x^2 + 1.8619 \cdot 10^{-3} x + 28.604$$

この $x$ に尺度の出土層位から推定される年代を仮に1595年と考え、これを代入すると、 $y=30.26$ cmとなる。これが推定される当時の1尺の平均値となる。これを基準として出土した尺度の長さと比較すると、木が水を含んで1%程度伸長しているものとする、その長さはほぼ正確に曲尺の1.2倍を測るものとなる。なお、これまでの諸先学の研究で16世紀中頃の裁衣尺の中では、呉服尺が曲尺の1.20倍、鯨尺が1.25倍であったことが指摘されている(今村1987・岩田1994)。

これを今回の調査で出土した尺度に対応させると、ほぼ正確に推定される標準尺である曲尺の1.2倍を測るものとなり、結果的に今回の大坂城跡出土の尺度は呉服尺であるといえる。

## (2) 出土枡の概要と検討

枡はいずれも側板のみであるが、確実なものだけでも8点を確認している。

なお、7点の枡の側板は法量や細部の特徴など、それぞれの所属性からいずれも別個体であると考えられるものである。以下、個々に特徴を略述しておく。

### ① 出土枡の概要

枡① 豊臣大坂城段階の整地層である8層中から出土した枡の側板である。平面的には区画Aに包括されるエリアからの出土である。

全体に丁寧な成形を行っており、各面ともにきわめて平滑に仕上げられている。また、外側にあたる角の一部では面取りが行われている。側面には2ヶ所に一辺3mm弱の竹釘が残り、同様に左右の両断面にも釘穴が残る。部材としては完存しており、下面には約4.5cmの間隔において、2箇所に直径約2.0mmの底板固定のための釘穴が残る。また、外側の側面中位には直径約1.3cmの「㊦」の文字が手彫りにより彫られている。家紋だとすれば「丸に二つ算木」が最も近い。断面や文様の部分には柿渋と考えられる黒色顔料が明瞭に残り、本来は全面に塗布されていた可能性が高い。

法量は表61に示した通りであり、ここでは繰り返さないが、推定容量は $182.14\text{cm}^3$ を量る。

枡② 豊臣大坂城段階の遺構である土坑536から出土した枡の側板である。枡①と同様に全体に丁寧な成形を行っており、各面ともにきわめて平滑に仕上げられ、内面には加工痕が確認できる。側面の右下には一辺3mm弱の竹釘が残るが、左上のものは側板の一部もろとも欠失している。断面は左断面に竹釘が残るが、右側は釘穴が残るのみである。X線写真によれば右側の釘穴の深さは1.1cmを測る。

部材としては完存しており、下面には約3.1cmの間隔で2箇所に直径約1.5mmの底板固定のための釘穴が残る。なお、この側板には左上方に直径約3.2mmの穴が穿たれている。この穴は貫通しているが、裏面ではさらに2ヶ所に途中で穿孔を中止したような痕跡も認められる。

外側がとくに摩滅しているために判然としないが、顔料が塗布されていた可能性は低いものと判断される。法量は表61に示した通りで推定容量は $188.67\text{cm}^3$ を量る。

枡③ 豊臣大坂城段階の遺構である土坑538から出土した枡の側板である。柁目材を丁寧に成形してお

り、各面ともにきわめて平滑に仕上げられている。なお、外側に該当する各コーナー部分は摩滅しているものの、面取りが行われていた状況が看取される。

また、側面には2箇所に一辺3mm弱の断面長方形の竹釘が折損して残る。また、左右の両断面にも直径約1.5mmの釘穴が残る。部材としては完存しており、下面には約4.5cmの間隔で2箇所直径約1.5mmの底板固定のための釘穴が残る。この釘穴の間隔は枡①と共通しており、1寸5分を意図したものである可能性がある。全体に比較的良好に残存しているが、顔料が塗布されていた状況は見出しがたい。

推定容量は186.94cm<sup>3</sup>を量る。

枡④ 豊臣大坂城段階の包含層から出土した枡の側板である。全体に表面部分が痛んでおり、加工痕などは必ずしも明瞭ではない。しかしながら、外面右下には加工時の毛描き線が残っている。側面の竹釘は2箇所ともに側板の一部もろとも欠失している。断面は左右ともに釘穴が残るのみである。

部材としては完存しており、下面には3.01cmの間隔で2箇所直径約1.5mmの底板固定のための釘穴が残る。この釘穴の間隔は枡②と共通するものであり、1寸を意図したものである可能性がある。

全体に表面部分の残りが悪く、顔料が塗布されていたか否かは判断できない。

推定容量は189.75cm<sup>3</sup>を量り、他の枡の推定容量と近似する。

枡⑤ 豊臣大坂城段階の包含層から出土した枡の側板である。全体に表面部分が痛んでおり、部分的に木目に沿って表面が剝離している状況が看取される。また、右上方は大きく欠損している。したがって、加工痕はまったく確認できない。側面の竹釘は2箇所ともに側板の一部もろとも欠失し、断面は左右ともに釘穴が残るのみである。部材としては完存しており、下面には4.43cmの間隔で2箇所直径約1.5mmの底板固定のための釘穴が残る。

全体に表面部分の残りが悪く、顔料が塗布されていたか否かは判断できない。

推定容量は190.41cm<sup>3</sup>を量り、他の枡の推定容量と比してやや大きいのが、さほど大きな差異ではない。

枡⑥ 豊臣大坂城段階の包含層から出土した枡の側板である。

表面部分の残りは比較的良好ではあるものの、下方は釘穴部分から下半を欠失している。全体に平滑に仕上げられており、外面のコーナー部分は摩滅のためか、やや丸みを帯びている。なお、内側には左右両側ともに切り欠き部分の延長線上に加工時の毛描き線が残っている。

側面の釘穴は左上のものは完存するが、右下のものは一部を残すのみである。断面は左側では釘穴が残るのみであるが、右断面には長さ1.37cmの竹釘が残る。

下半部を欠損しているが、下面には1箇所だけ釘穴の先端部分の痕跡が残る。この枡側板の外面には、ほぼ中央に細い2条の線刻によって山形の文様が刻まれている。外面の文様部分などは、元来の形状をとどめられていると考えられるものの、顔料などは肉眼では確認できない。

下半を欠損しているために容量の推定は困難であるが、釘穴の痕跡が深さ約4mmで残存しており、他例の状況からみて、この深さが1cm前後であったとすると、枡の内法の高さは3.3cm前後であったと憶測できる。この場合、推定容量は約189cm<sup>3</sup>となり、他の枡の推定容量と近似するものとなる。

枡⑦ 豊臣大坂城段階の整地層である7層から出土した枡の側板である。平面的には区画Bとしたエリアからの出土である。

枡①～⑥に比して大振りではあるが、逆に側板の厚さは薄く、ほぼ全面に黒色顔料を塗布する点で他例とは一線を画している。上下2片に割れているが、表面の残存状況はきわめて良好である。全体に非常に丁寧に成形されている上に、ほぼ前面に黒色顔料がみられ、加工痕も明瞭である。なお、本例の黒色

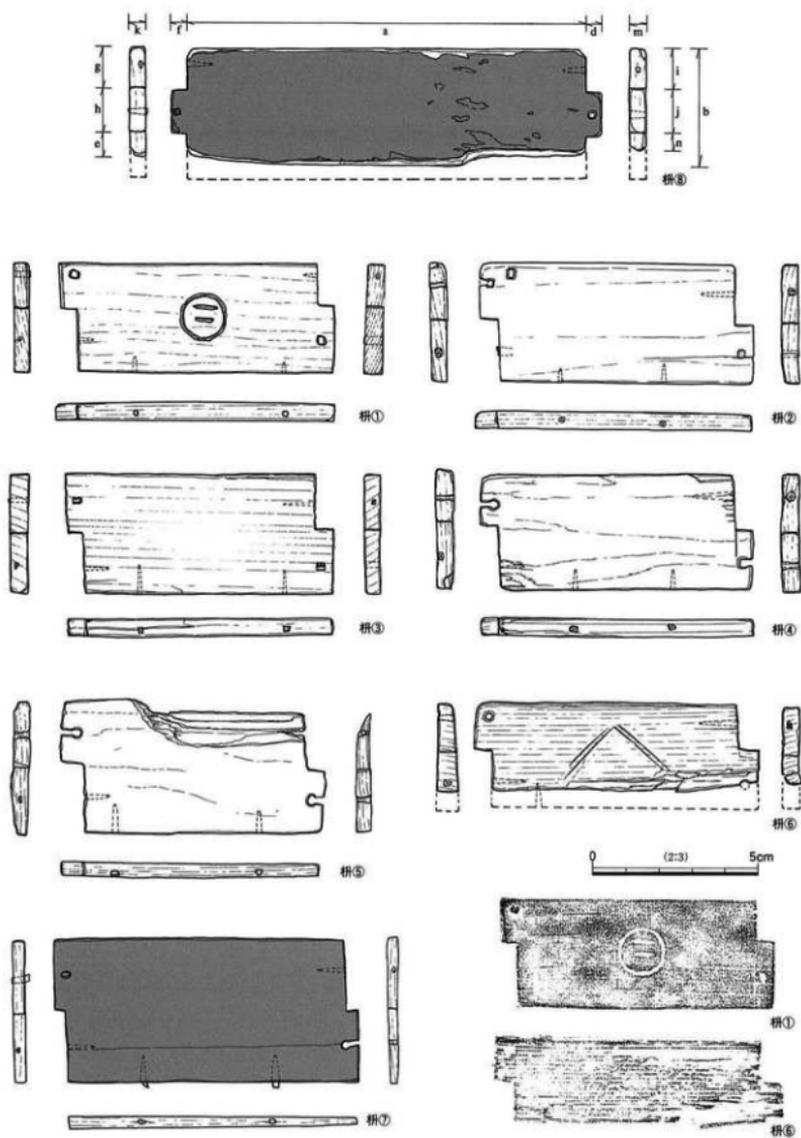


図 141 拵

顔料は漆であり、外面は光沢を放っているのに対して内面は艶がなく、仕上げに明瞭な差異がみられる。

側面の竹釘は右下のものが側板の一部もろとも欠失しているが左上側では直径2.7mmの竹釘が折損して残る。断面には左右ともに釘穴が残るのみである。2片に割れているとはいえ、部材としては完存し、下面には3.97cmの間隔で2箇所到底板固定のための竹釘が残る。

推定容量は324.44cm<sup>3</sup>を量り、枡①～⑥の推定容量の2倍弱となる。

枡⑧ 7B地区の東側で先行して掘削を行った試掘トレンチ内から出土したものであり、層的には6層もしくは7層からの出土である。平面的には区画Bとしたエリアからの出土である。

今回の調査で出土した枡の中では最も大きいものであり、また左右両端が凸形に加工される点で他例とは異なっている。また、内外面ともに漆を厚く塗布する点も特徴的である。残念ながら下部を欠失しているが、それ以外はほぼ完存している。側面の竹釘は左側では一辺2.7mmの竹釘が折損して残っているのみである。断面には左側は釘穴が残るのみであるが、右側では竹釘が折損して残っている。

すでに記したように、本例は他例に比して大きい上にコーナー部分の木組み技法が異なっている。表61には各部位の計測値を示しているが、形態が異なる故、計測位置が他例とは異なっているので注意されたい。ちなみに、本例の内法にあたる一辺の長さは12.09cmを測り、ほぼ正確に4寸を測る点は留意される。

下半部を欠損しており、高さについては厳密に言えば、3.57cm以上とせざるをえないが、1箇所釘穴の先端部が残っている点から欠失した部位はさほど大きなものではないと類推される。

また、左右両側の凸部の寸法をみた場合、その加工がきわめて高い精度をもって行われていることを看取することができる。左右両側の元来の形状が凸部を中心として上下にシメトリーであったとすると、その高さは3.90cmと推定することができる。

表61に示した推定容量は上記の推定高によって算出したものであり、その容量は570.06cm<sup>3</sup>を量る。この推定容量は、ほぼ正確に枡①～⑥の推定容量の平均値の3倍である点は興味深い事実であり、先の高さの推定が正鵠を得たものである可能性をも示唆するものといえる。

#### ②出土枡の検討

今回の調査で確認した枡はいずれも側板のみの8点であり、量や細部の特徴などから、いずれも別個体のものであると判断できるものである。

しかしながら、すでに記してきたように枡①～⑥の6点の枡の側板は大きさなどがかなり近似し、基本的な制作技法も共通する。推定容量も平均187.58cm<sup>3</sup>、標準偏差3.31cm<sup>3</sup>とまとまりを見せている。

これを現存する1升枡相当の枡の容量との関係でみると、大局的にはほぼ10分の1前後の容量をもつものと理解することが可能であり、したがって、これらの枡はいずれも1合枡であると推定される。

それに比してやや大振りの枡⑦に関しては、先に1合枡と推定した枡①～⑥の容量との関係では正確には2倍に満たないものの、2合枡であった可能性が高いのではないかと憶測している。

また、今回出土した枡のなかで最も大きい枡⑧は木組みの方法も異なっている。すでに記してきた

表60 枡一覧

	調査区	遺構・層位	樹種	木取り	塗り	刻印	備考
枡①	7B	8層	ヒノキ	追柁目	有	○にニ	
枡②	7B	土坑536埋土	ヒノキ	板目	有?	無	左上部に穿孔
枡③	7B4	土坑538埋土	未鑑定	板目	無?	無	
枡④	7B	7～10層	未鑑定	板目	無?	無	
枡⑤	7B	7～10層	未鑑定	板目	無?	無	右上部欠損
枡⑥	7B	7～10層	未鑑定	板目	無?	山形	下半部欠損
枡⑦	7B1	7層	未鑑定	板目	漆	無	
枡⑧	7B	6・7層	未鑑定	板目	漆	無	下半部欠損

ようにやや強引に推定容量を算出すると570.06cm<sup>3</sup>という数値を導くことができる。これを枡①～⑥の推定容量の平均値との関係でみると、3.04倍の容量であったことになる。

結果的に枡③に関しては3合枡であった蓋然性が高いものと判断できる。

いずれにしても今回の調査で出土した枡はいずれも16世紀末葉のものであり、枡が統一される以前であり、用途に応じて大小の枡を使い分けていたとされる点と呼応する事実であるといえる。

今回の調査で出土した枡は1合枡と2合枡、3号枡と考えられるが、6点が出土している1合枡であっても微妙に形態や仕上げ方法が異なる部分もある。したがって、個々の用途を特定するまでには至らないが、側板の厚さが5mm前後と非常に薄いこと、一部では塗りを施したものが認められるなど、少なくともこの枡は穀物用ではないと考えられる。厳密に言えば、用途を特定するには至らないが、その候補としては葉や香料、酒などを計量するものであった可能性も高く、出土木簡にみえる「たるかず 五千三百卅入」との関係など、非常に示唆的である。

### (3) 秤関係遺物 (図143、写131～134)

今回の調査では出土した秤関係の遺物は天秤秤と桿秤に関連するものに大別され、いずれも豊臣前期段階のものである。前者では蕪形分銅が7点、後者では桿秤の箱とそれに納められていた桿の他、つなぎ桿、木瓜が出土している。

#### ①天秤秤関連遺物

天秤秤に関連する遺物としては蕪形分銅が出土している。出土した7点の分銅はいずれも蕪形分銅であり、文字は型により線刻されている。分銅の内訳は三分が2点、四分が1点、四匁が1点、五匁が1点、四兩が1点、不明が1点である。

個々に略述すると、143-3は三分で質量は1.29g。143-4も三分であるが、1.50gを測り、3よりやや重い。143-3は四分で質量は1.73g。上端面には鍛打した跡がみられる。

143-6は四匁で質量14.57g。143-7は五匁で質量17.94g。裏面は後藤銘と花押が線刻されている。なお、当該分銅の花押については後藤小三郎吉高(祐徳)の甥にあたる五代徳乗の花押である可能性が高い。ちなみに徳乗の生年は1550年であり、没年は1631年である。

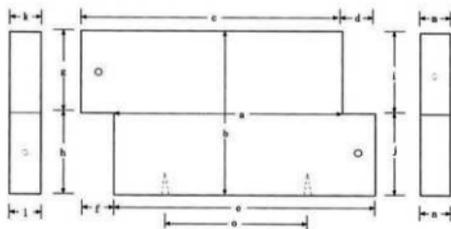


図142 枡の計測部位

表61 枡質量一覧

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	推定容量
枡①	7.33	3.39	7.83	0.52	7.79	0.51	1.42	1.93	1.33	2.09	0.44	0.47	0.53	0.55	4.50	182.14
枡②	7.17	3.67	7.81	0.59	7.71	0.60	1.76	1.89	1.81	1.81	0.51	0.50	0.57	0.52	3.05	188.67
枡③	7.07	3.74	7.54	0.52	7.60	0.49	1.79	1.85	1.71	2.00	0.60	0.54	0.55	0.48	4.50	186.94
枡④	7.25	3.61	7.75	0.58	7.76	0.56	1.65	1.98	1.76	1.88	0.53	0.57	0.59	0.54	3.01	189.75
枡⑤	6.79	4.13	7.45	0.59	7.29	0.69	1.95	2.13	-	1.93	0.54	0.59	0.48	0.47	4.43	190.41
枡⑥	7.57	(2.76)	8.13	0.66	8.23	0.66	1.51	(1.23)	1.35	(1.19)	0.54	0.66	0.61	0.57	-	-
枡⑦	8.51	4.48	8.81	0.36	8.81	0.36	2.20	2.21	2.22	2.22	0.39	0.37	0.32	0.22	3.97	324.44
枡⑧	12.09	(3.57)		0.48		0.51	1.27	1.36	1.27	1.36	0.54	(0.71)	0.51	(0.55)		570.06

※カッコ内の数値は残存長、単位はcm、推定容量はa×b×d(単位はcm<sup>3</sup>)、枡⑥のみ計測位置が異なる。

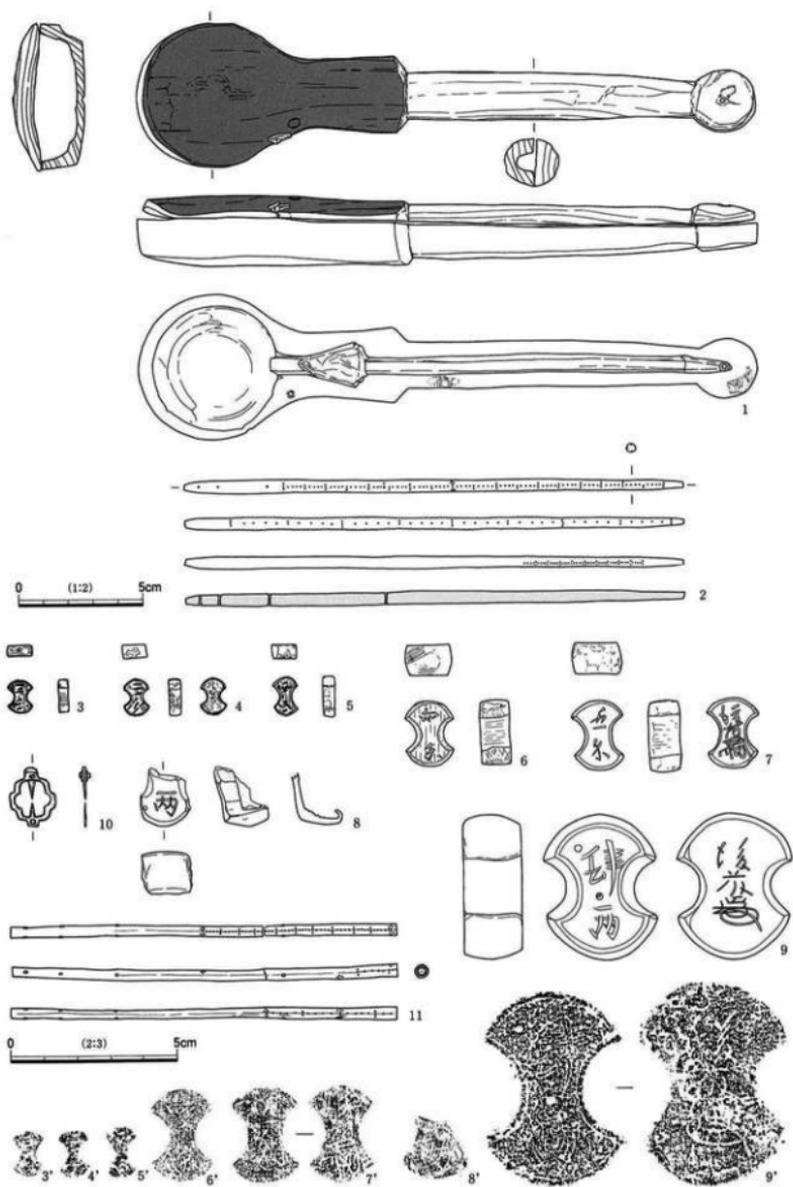


图 143 秤秤·分銅

143-8は唯一の中空分銅であるが、欠損して鉛は残らない。大きさから一兩の可能性が高いものと判断される。143-9は四兩であり、質量136.61gである。表面には「肆」と「兩」の間と「肆」の左上方に小さな円形の窪みが確認され、検印として打刻されたものである可能性が高い。裏面には後藤銘と花押が線刻される。

なお、この花押は後藤小三郎吉高のものである可能性が高い。ちなみに吉高は祐徳とも呼ばれ、光乗の弟にあたる。ちなみに光乗は1529年生まれで1620年没であり、その活動時期を類推することができる。

#### ② 桿秤関連遺物

桿秤の桿は箱に入った状態で出土したものである。本来、セットで納められているはずの皿および分銅は出土していない。箱の構造からみて、桿を残した状態で皿と分銅が脱落するとは考えがたく、少なくとも埋没段階においては容れられていなかったものと判断できる。

桿は三方向に目盛を施し、上目で1匁～1匁(1目盛:1匁)まで、前目で1匁～10匁(1目盛:1分)まで、向目で10匁～50匁(1目盛:1匁)まで量ることができるものである。3本の取緒、皿を吊す穿孔が4箇所認められる。目盛はX線写真によって円錐状に刻んだ中に金属を注入している状況が看取される。なお、注入された金属についてはエネルギー分散型微小部蛍光X線分析装置によって分析を行い、Snを主成分とする金属であることが判明している。

一方の箱は皿・桿・分銅を入れる割り込みがあり、蓋は木釘とそれに対応する身の穴で留めるようになっている。現存する桿秤の箱では分銅を容れるための割り込みが桿の横に穿たれることが多いが、本例は桿の下に収納するように作られている。したがって、付随する分銅はさほど厚みのあるものではないと判断できる。

なお、蓋の外表面には皿・分銅を入れる部分に桐油が塗られている。樹種はスギである。

143-10は桿秤の真鍮製の木瓜であり、針の部分は400年を経た現在にあっても可動状態である。

143-11は鹿角や象牙等に金属を継ぎたしたつなぎ桿の一部である。真鍮の薄板を筒状にし、三方向に目盛を刻んでいる。3本の取緒と皿を吊す穿孔があり、右端には連結されていた桿の一部が折損して残存している。現存資料から復元した長さは約32cmになり、上目で1分～15匁(1目盛:1分)、前目で10匁～50匁(1目盛:1匁)まで、向目で50匁～160匁(1目盛:1匁)まで量ることができるものと推定される。

表 62 秤関係遺物一覧

図版番号	写真番号	トシ	層位	種別	径	長さ	幅	厚さ	高さ	質量	実測番号	
143	131	1-2	7B	6層	桿秤容器		24.9	5.9	2.9		Tむ 73	
	132	1										
143	2	131	3	7B	6層	桿	0.6	20.0				
143	3	132	5	7B	7~10層	分銅「三分」		0.7	0.3	1.0	1.29	Tめ 17
143	4	132	6	7B	6層	分銅「三分」		0.7	0.4	1.1	1.50	Tめ 9
143	5	132	7	7B	7~10層	分銅「四分」		0.7	0.4	1.2	1.73	Tめ 16
143	6	132	8	7B	7~10層	分銅「四匁」		1.4	0.9	2.0	14.57	Tめ 19
143	7	132	9	7B	6層	分銅「五匁」		1.5	1.0	2.1	17.94	Tめ 52
143	8	132	10	7B	6層	分銅		1.5	1.6	1.8		Tめ 10
143	9	132	11	7A	4c層	分銅「四匁」		3.4	1.7	4.4	136.61	Tめ 1
143	10	132	12-13	7B	7層	木瓜(桿秤)		1.8	1.4	0.1		Tめ 18
143	11	132	2-3-4	7B	7~10層	つなぎ桿	0.4	11.7				Tめ100

## 第8章 徳川大坂城の遺構と遺物

### 第1節 遺構

#### 1. 前提

今回の調査では4層上面において江戸時代の遺構を検出している。しかしながら、当該面は近代以降の遺構や現代にまで存続していた建物の基礎などによって壊された部分も少なくない。

また、今回の調査地は後述するように、土地利用の関係からさほど遺構が密集する場所ではなかった状況も看取される。

#### 2. 4層上面

当該遺構面は豊臣大坂城三の丸の跡地を整地して造成された遺構面であり、層位および出土遺物の関係から江戸時代に帰属するものと考えられる。かなりの範囲に攪乱がおよんでいるが、地形的には比較的平坦である。レベル的には南側では19.2m前後、北側で18.7m前後を測り、南から北に向かって緩やかに傾斜している。

主な検出遺構は柵列、井戸、土坑、ピットなどである。

##### (1) 柵列

柵列は南北方向を指向するもので5条を検出している。東から柵列1～5とした。これらの柵列はほぼ平行して検出したこともあり、切り合い関係をもたないが、微妙に方向にズレがみられることから、時期差がある可能性も高い。

柵列1は最も東側で検出した掘立柱の柵列である。方向はN-3°-W前後である。南北端ともに攪乱で不明瞭となっているため、総延長は不明であるが、現状では約48mにわたって確認している。北側では攪乱によって柱列が不明瞭となっているが、南側の残りのよい部分では整然と並ぶ柱列を確認している。各柱の心々距離は若干の長短はあるものの、平均1.93mでほぼ等間隔に配置されている。各柱穴は掘り方の直径が30cm前後、柱径は10～15cmを測り、深さは残りのよいもので50cm前後である。なお、各柱穴ともに柱の抜き取り痕は見出せず、規模については各柵列ともに共通している。

柵列2は柵列1の西側5.9mで平行して検出したものである。検出長は約27mである。方向は柵列1と正確に平行し、柱間寸法はもとより、東西に呼応して並んでいる状況が看取される。したがって、当該柵列は柵列1と同時に造営されたものであると判断できる。

柵列3は柵列2の西側約2.5mで検出した。検出長は約25mを測る。上記の柵列1・2とは方向を異にし、N-5°-W前後である。柱間は基本的に平均1.91mの等間である。

柵列4は柵列3の西側3.3～3.6mで検出したものである。柵列3とは微妙に方向を異にするが、柱の間隔や配列はほぼ対応している。

柵列5は柵列4の西側5.9mで柵列4と平行して検出したものである。攪乱によって寸断されているが、残存部分での柱間寸法をみるとおよそ1.9m前後を測るものであることが看取される。柱の配列は柵列4と対応しており、方向が一致することなどから、同時に存在していたものであると判断される。なお、蛇足ながら、柵列1・2の間隔と柵列4・5の間隔は等間隔であり、柵列2と柵列4の間隔も5.9mを測り、等間隔である。したがって、柱の配列などが対応しないものの、上記の柵列は同時もしくは比較的近接した時期に造営されたものであると判断できる。

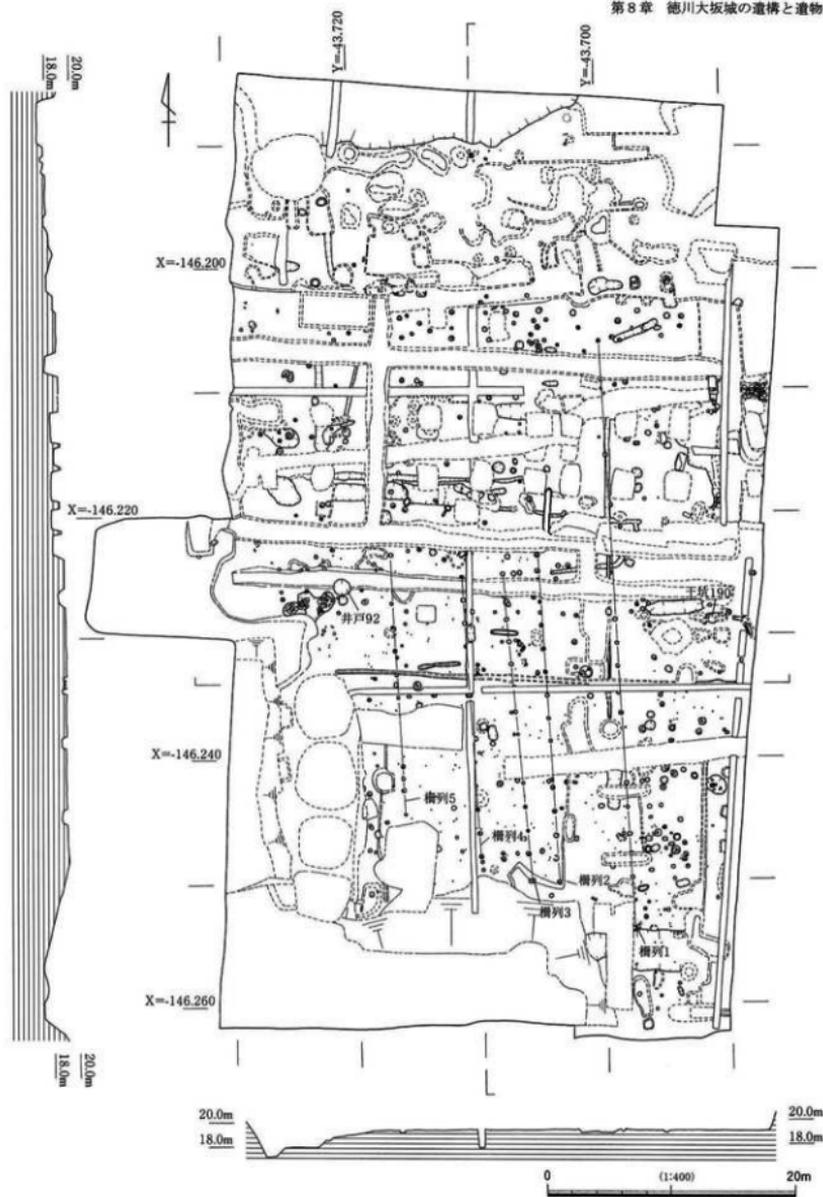


図144 江戸時代遺構面（4層上面）

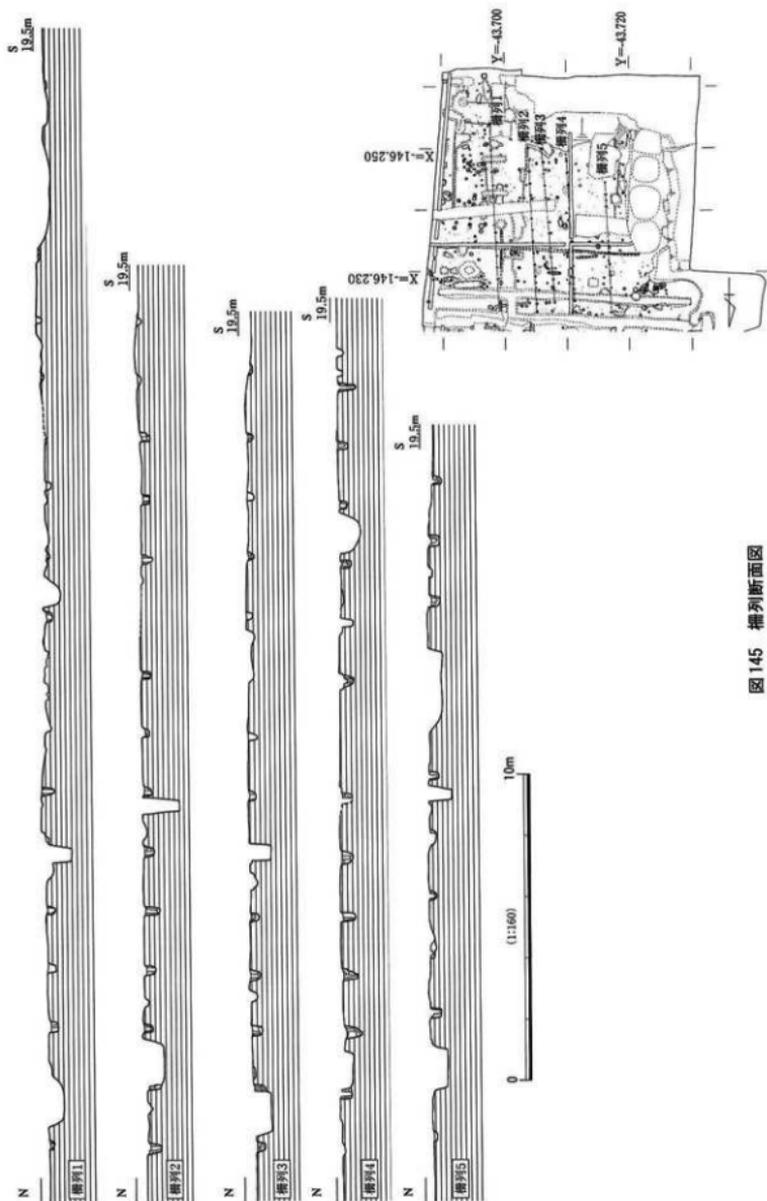


图 145 走廊断面图

(2)ピット

ピット20は7A地区の南東で検出したものであり、上層を中心に焼土塊を検出している。寛永通寶が1点出土している。ピット64は柵列5の東側から検出した。底面付近から軒平瓦と人頭大の礫が出土している。

(3)土坑

土坑136は7A地区の東端部で検出した。浅い不定形の土坑であるが、瓦片が出土している。土坑161は7A地区の南東部で検出した。長方形を呈する土坑であり、瓦や陶磁器のほかにも多量の炭化物を埋土に含んでいる。土坑190は7A地区の北東部で検出した長方形の土坑である。東西両辺を攪乱で破壊されているが、底面からは陶磁器などがまとまって出土している。7A地区の東端で検出した土坑391は廃棄土坑と考えられるものであり、陶磁器や瓦、金属製品などがまとまって出土している。

(4)井戸

井戸は確実に当該期に帰属する井戸92と当該期に下る可能性が残る井戸539の2基を検出している。



図146 ピット20

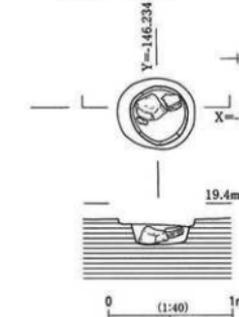


図147 ピット64

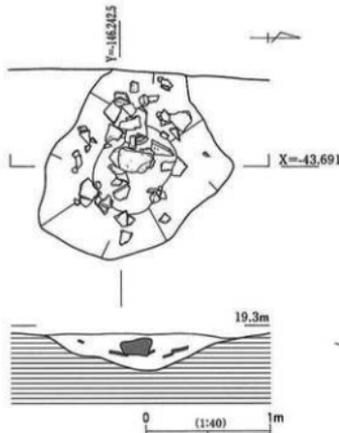


図148 土坑136

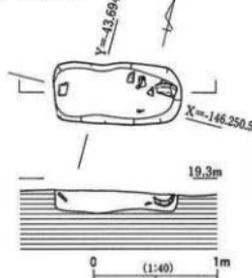


図149 土坑161



図150 土坑190

- 1.10YR4/3 に灰・黄褐色 シルト(焼土, 2cm 大の礫含む, 全体的に灰・赤褐色化した礫砂含む)
- 2.2.5Y4/3 オリーブ褐色 細砂(炭多く含む)
- 3.2.5Y5/2 暗灰黄色 細砂混じりシルト
- 4.10YR5/3 に灰・黄褐色 細砂混じりシルト(3cm大の礫含む)

- 1.2.5Y5/2 暗灰黄色 細砂(1cm大の礫含む)
- 2.10YR4/2 灰黄褐色 細砂混じりシルト(地山アース, 長, 1cm大の礫含む)
- 3.10YR6/3 に灰・黄褐色 粘土(炭含む)
- 4.2.5Y5/2 暗灰黄色 細砂混じり粘土(炭含む)

井戸92は7A地区の北西部で検出したものであり、上層では井戸枠が抜き取られて人為的に埋め戻されていたが、下層では桶を転用した井戸枠が2段残存していた。井戸の下面のレベルは15.9mであり、検出面からの深さは3.4mを測る。井戸底面には礫が敷き詰められており、その礫に混じて寛永通寶が出土している。出土した寛永通寶はいずれも「古寛永」であり、他にほとんど出土遺物がない中において重要な意味をもつ。

井戸539は7Bトレンチの南西、谷の法面部分から検出した井戸である。地山面で検出しているとともに、完掘することができなかったために年代決定が困難な井戸である。直径約1.0m、長さ約2.1mの桶を井戸枠に転用し、少なくとも4段以上にわたって積み上げていた状況が看取される。

井戸枠内には完全に土砂が流入していなかったことや、井戸枠に転用された桶が豊臣期の井戸枠の桶とは様相を異にすることなどから、当該期以降の井戸として報告した。

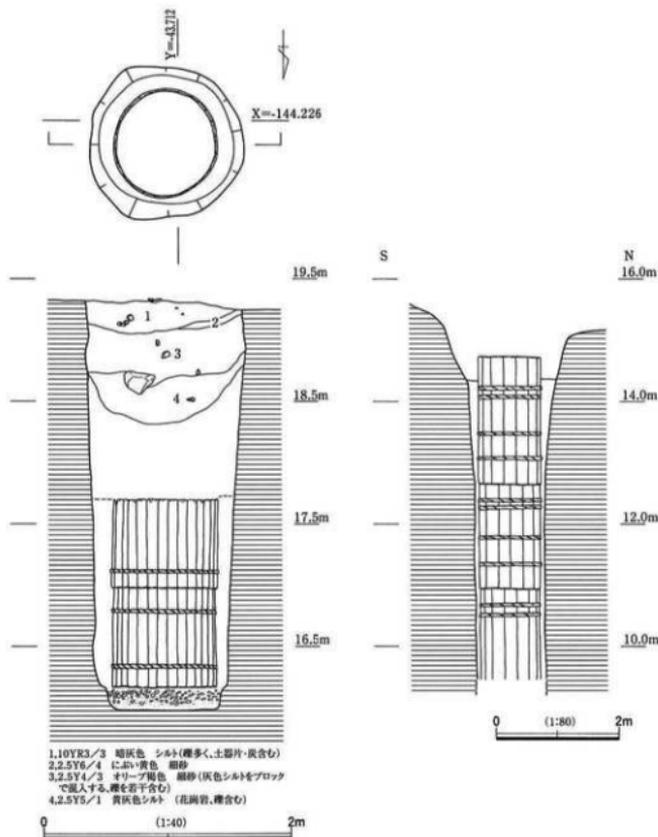


図 151 井戸 92

図 152 井戸 539

## 第2節 遺物

### 1. 前提

江戸時代、徳川大坂城に関連する遺構はすでに記してきたようにさほど多くない。出土遺物に関しても遺構密度と呼応し、豊臣大坂城段階の出土遺物と比較するとその数は限られている。出土した遺物には陶磁器・瓦・石製品・金属製品・骨製品などがある。井戸枠に転用された桶以外には木製品は出土していない。また、近隣の調査区では多数出土している型押し土製の玩具は1点も出土していない。以下、本報告では遺構から出土した一括性の高い一部の遺物を抽出して掲載するに留める。

### 2. 陶磁器

瓦とともに多量の陶磁器が出土した土坑391の遺物を中心に図化作業を行った。掲載した陶磁器はごくわずかではあるが、いずれもカラー画像を添付した実測図を掲載しているため、ここでは個々に報告はしない。なお、図153・154に掲載した陶磁器の大半は土坑391出土のものであるが、154-5は4層から出土した唐津焼碗、154-10の肥前瓶子は土坑196、154-14の急須は土坑190から出土したものである。なお、これ以外では図示は行っていないが、土坑190などから出土した陶磁器を写164に掲げている。

### 3. 瓦類

当該期の遺構から出土した瓦については、基本的に豊臣期の瓦と同様の基準で分類作業を行っているため、分類基準等についてはここでは繰り返さない。また、わずかながら椀瓦も出土しているが、本報告では非掲載である。

なお、ここで扱う瓦は江戸時代の遺構から出土したものであり、埋没年代と実際の瓦の年代にズレがあるものについてもここで報告しているので留意されたい。

**軒丸瓦** 12種15点が出土している。大半は巴文であるが、全容は不明ながらも155-11のみ巴文ではない。また、155-3は隅巴である。

**軒平瓦** 10種12点が出土している。中心飾りが三葉の平1-4類が3点出土している以外、まとまって出土するものはない。

**道具瓦** 道具瓦は鬼瓦・棟込瓦などが出土している。鬼瓦については残りが悪いものが多く非掲載である。一方、棟込瓦は9点が同定不能であるが、それを除けば5種16点が出土している。いずれも菊文である。各種とも2点以上出土しており、上記の軒丸・軒平瓦と同様に土坑391からの出土が目立つ。豊臣期に遡る可能性もある。

### 4. 銭貨

江戸時代の遺構および包含層からは55点の銭貨が出土している(表66)。うち30点は井戸92の底面からの出土である。28点は寛永通寶であり、いずれも「古寛永」である。残り2点は北宋銭である。

### 5. その他

上記の遺物以外に石製品、金属製品、骨製品が出土しているが、それぞれ出土点数が少ないので一括して扱う。写164-6・7は土坑391から出土した銅製の鋳である。前者は長さ6.2cm、頭部径2.3cm、後者は長さ5.8cm、頭部径2.8cmを測る。石製品では砥石なども出土しているが、写164-9～12の硯のみを掲載している。写164-12は長さ13.7cm、幅6.1cmで裏面はわずかに抉り込まれている。そのほか、骨製品としては写164-8に掲げた櫛払いが4層から出土している。先端を欠損しているが、残存長10.7cmである。

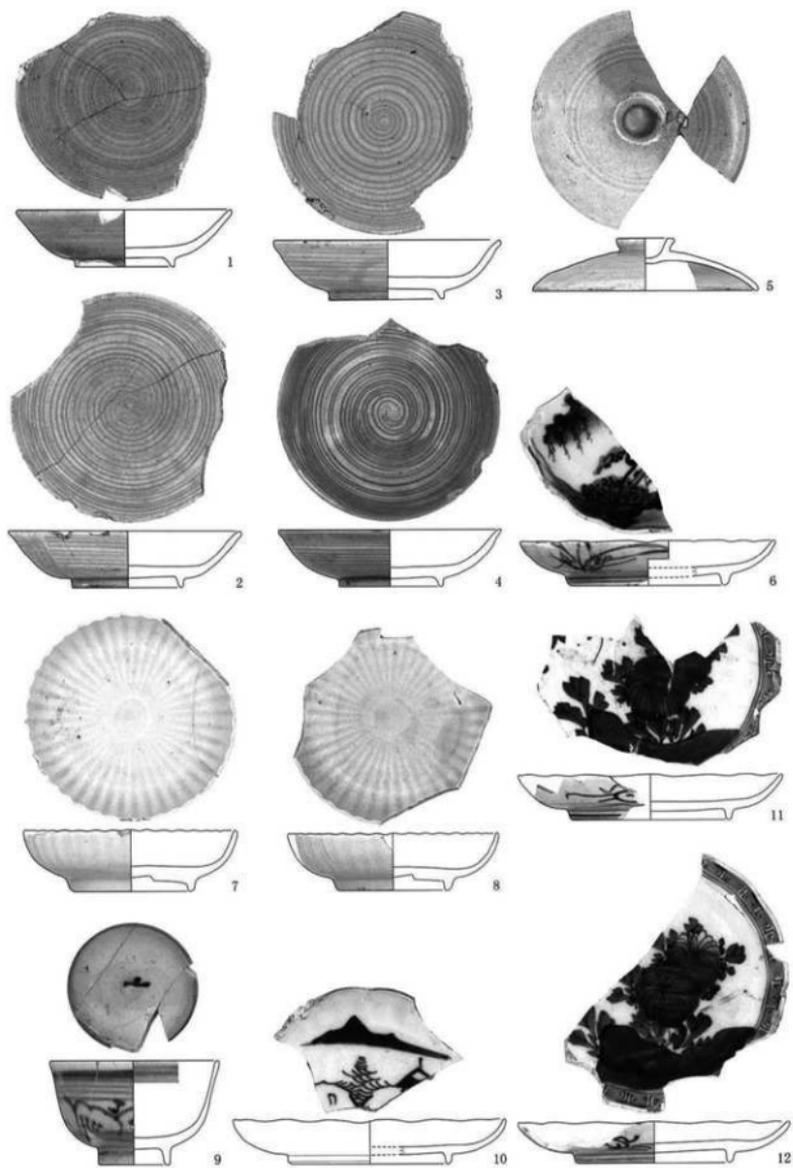


图 153 土坑 391 出土陶磁器(1 : 3)

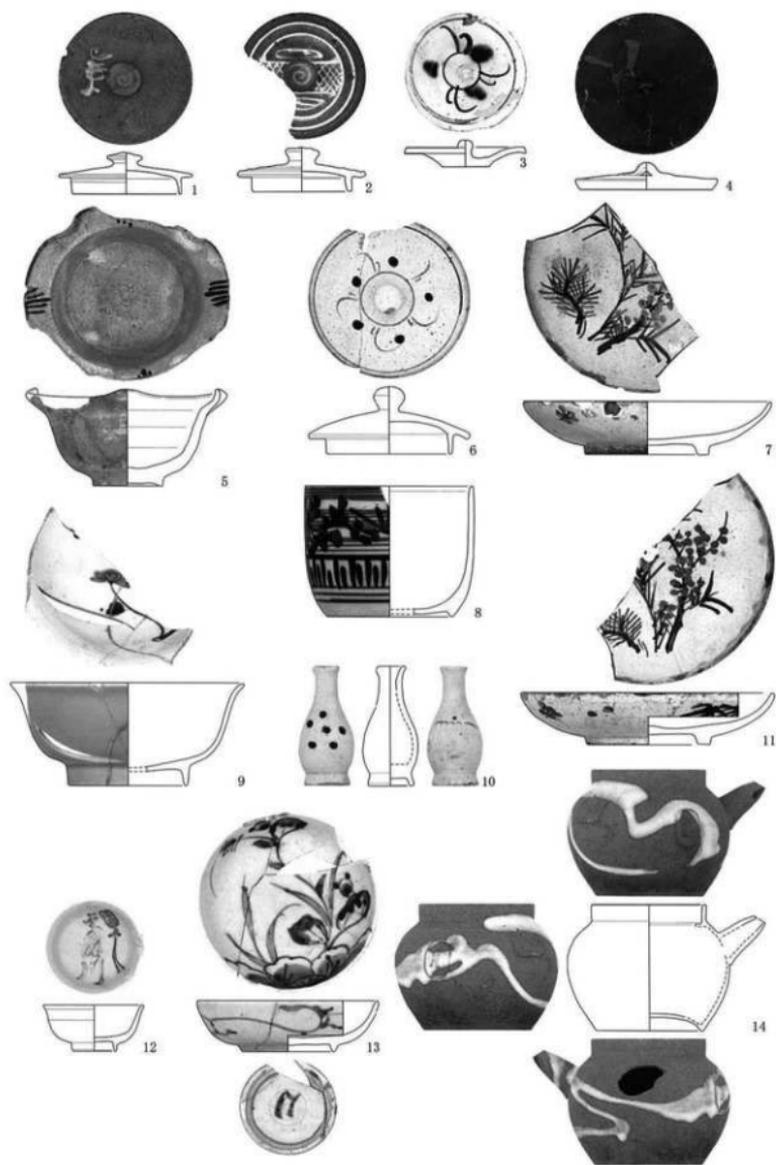


図154 土坑出土陶磁器(1:3)

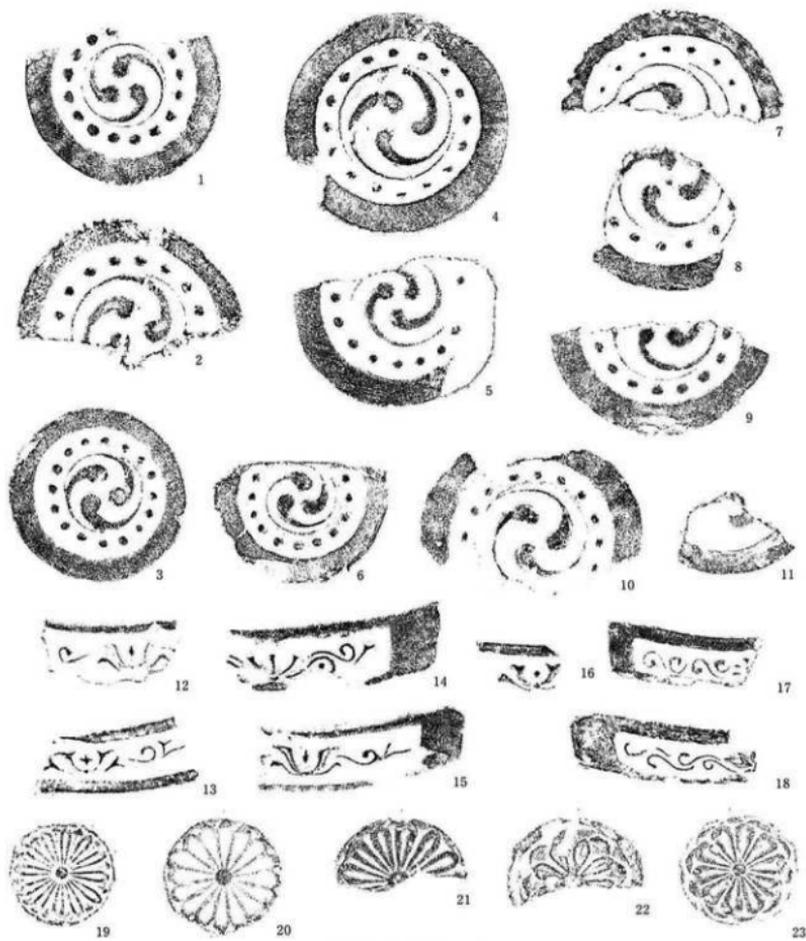


図 155 江戸瓦(1:4)

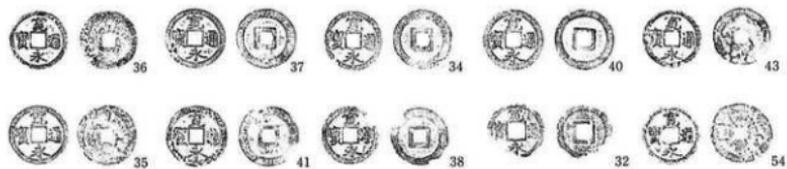


図 156 銭貨(1:2)



表 66 江戸時代銭貨一覧

番号	調査区	遺構	層位	種類	直径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	質量(g)	残存率	登録番号	備考
31	7A	ビット94	埋土	寛永通寶	—	—	0.86	—	3/4	365	江戸・新寛永
32	7A	井戸92	最下層	聖宋元寶	23.74	7.13	1.01	1.7	完存	554	江戸・鎌倉
33	7A	井戸92	最下層	熙寧元寶	—	—	1.08	0.9	3/4	554	江戸・真書
34	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	24.17	5.66	1.12	2.3	完存	554	江戸・古寛永
35	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	24.22	5.75	1.21	1.8	完存	554	江戸・古寛永
36	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	23.83	5.93	0.97	2.4	完存	554	江戸・古寛永
37	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	24.45	5.44	1.29	3.4	完存	554	江戸・古寛永
38	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	23.77	5.68	1.02	1.5	3/4	554	江戸・古寛永
39	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	25.31	—	1.19	1.5	完存	554	江戸・古寛永
40	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	24.58	6.16	0.97	2.3	完存	554	江戸・古寛永
41	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	24.71	5.63	0.82	2.2	完存	554	江戸・古寛永
42	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	—	—	—	2.1	3/4	554	江戸・古寛永
43	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	23.84	5.35	1.23	2.1	完存	554	江戸・古寛永
44	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	23.55	—	1.04	0.9	3/4	554	江戸・古寛永
45	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	—	—	—	0.9	3/4	554	江戸・古寛永
46	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	—	—	—	1.3	3/4	554	江戸・古寛永
47	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	—	—	—	2.0	完存	554	江戸・古寛永
48	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	24.61	5.89	1.18	1.8	完存	554	江戸・古寛永
49	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	24.00	6.19	1.26	1.7	完存	554	江戸・古寛永
50	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	23.41	5.67	0.99	2.0	完存	554	江戸・古寛永
51	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	24.77	—	1.31	2.1	3/4	554	江戸・古寛永
52	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	24.53	6.03	1.16	1.8	完存	554	江戸・古寛永
53	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	—	—	—	1.1	細片	554	江戸・古寛永
54	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	—	—	—	—	完存	554	江戸・古寛永
55	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	—	—	—	—	3/4	554	江戸・古寛永
56	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	—	—	—	0.5	細片	554	江戸・古寛永
57	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	—	—	0.92	0.5	1/4	554	江戸・古寛永
58	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	—	—	1.24	0.2	細片	554	江戸・古寛永
59	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	—	—	—	0.3	細片	554	江戸・古寛永
60	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	—	—	—	0.7	1/4	554	江戸・古寛永
61	7A	井戸92	最下層	寛永通寶	—	—	—	0.8	1/4	554	江戸・古寛永
62	7A		1層	寛永通寶	23.61	5.98	1.26	2.1	3/4	364	江戸・新寛永
63	7A		4層	寛永通寶	—	—	—	1.0	細片	366	江戸・新寛永
64	7A		4層(中)	寛永通寶	23.72	6.51	1.04	1.7	3/4	367	江戸・新寛永
392	7B	土坑391	埋土	寛永通寶	—	5.67	1.41	0.2	3/4	652	江戸・新寛永
393	7B		1層	寛永通寶	23.24	6.21	1.25	2.1	3/4	631	江戸・新寛永
394	7B		1層	寛永通寶	22.95	6.87	1.08	2.5	完存	631	江戸
396	7B	溝383	埋土	寛永通寶	22.55	6.26	0.84	1.1	3/4	643	江戸・新寛永
397	7B	440	埋土	寛永通寶	—	5.79	1.26	2.0	3/4	653	江戸・新寛永
398	7B	464	埋土	寛永通寶	—	—	1.22	1.4	1/2	773	江戸・新寛永
407	7A		1層	寛永通寶	—	—	—	—	完存	640	
65	7A		4層(中)	熙寧元寶	23.76	6.38	1.27	2.7	完存	367	真書
66	7A		4層(中)	熙寧元寶	23.60	6.13	1.24	3.3	完存	367	真書
67	7A		4層(中)	祥符元寶	24.09	5.54	0.84	—	完存	367	真書
68	7A		4層(中)	永樂通寶	24.09	5.54	1.13	—	完存	367	
408	7A		1層	不明	—	—	—	—	完存	640	緋銭
409	7A		1層	不明	—	—	—	—	完存	640	緋銭
410	7A		1層	不明	—	—	—	—	完存	640	緋銭
411	7A		1層	不明	—	—	—	—	完存	640	緋銭
412	7A		1層	不明	—	—	—	—	完存	640	緋銭
413	7A		1層	不明	—	—	—	—	完存	640	緋銭
414	7A		1層	不明	—	—	—	—	完存	640	緋銭
415	7A		1層	不明	—	—	—	—	完存	640	緋銭
416	7A		1層	不明	—	—	—	—	完存	640	緋銭
417	7A		1層	不明	—	—	—	—	完存	640	緋銭

## 第9章 近・現代の遺構と遺物

### 第1節 遺構

#### 1. 前提

今回の調査で検出した近・現代の遺構は切り合い関係や遺構の軸線から2時期に大別でき、古い一群はN-5°-W、新しい一群はN-3°-Eの方向を指向する。ここでは前者をI期、後者をII期として記述を進める。

#### 2. 調査成果

I期 当該期の遺構には、溝2・333・463、レンガ列468、石列475のほか、溝463と一連の施設である集水枡469・472などがある。

3条の溝はいずれも基本的には東西方向にのびるものであり、溝2は幅0.5m、西半では土管の暗渠となる。底面は石敷きで、目地にはモルタルを用いている。

溝333は幅0.6m、深さ0.2mの石組み暗渠であり、調査地の東端部分では南北方向に分岐する。底面には埴を敷いている。

溝463は花崗岩の側石をもち、底面にレンガを敷いたものである。この溝に伴う集水枡496・472を南側の2箇所を確認、ここから溝463の下を北に向けて土管の排水管が通っている。

石列475は面をもった花崗岩を並べたものであり、溝463と同じ構造物に付随するものと考えられ、同様にこれらに直交して検出したレンガ列468も一連の遺構であると考えられる。

遺構の遺存状態がわるいことや出土遺物が少ないために遺構の時期は不明であるが、明治21年の地図には同じ方向を指向する建物が看取され、間接的ながらI期の遺構群の帰属時期を推定する上で参考となる。

II期 この時期に帰属する遺構は、図157中でトーンで示したレンガ基礎建物跡、土坑1・4・5・6、埋桶3、し尿浄化槽464がある。

建物跡は基礎部分のみ遺存し、礎を下に敷いたコンクリート塊上にレンガを積み上げた基礎をもつ建物である。なお、レンガの積み方はイギリス積みである。

土坑1は長さ4.3m、幅0.8m、深さ0.7mを測る。板材による木枠が残り、東側からは鉄帽、西側から防毒マスクがかたまって出土している。土坑5も同様の構造物であるが、遺物は出土していない。腐朽する有機物が埋められていた可能性も考えられるが詳細は不明である。埋桶3は直径1.6m、深さ1.0mの桶を埋め込んでいる遺構であり、水溜めとしての機能をもつものと考えられる。トイレに関わる遺構である可



写真15 昭和28年当時の検出建物

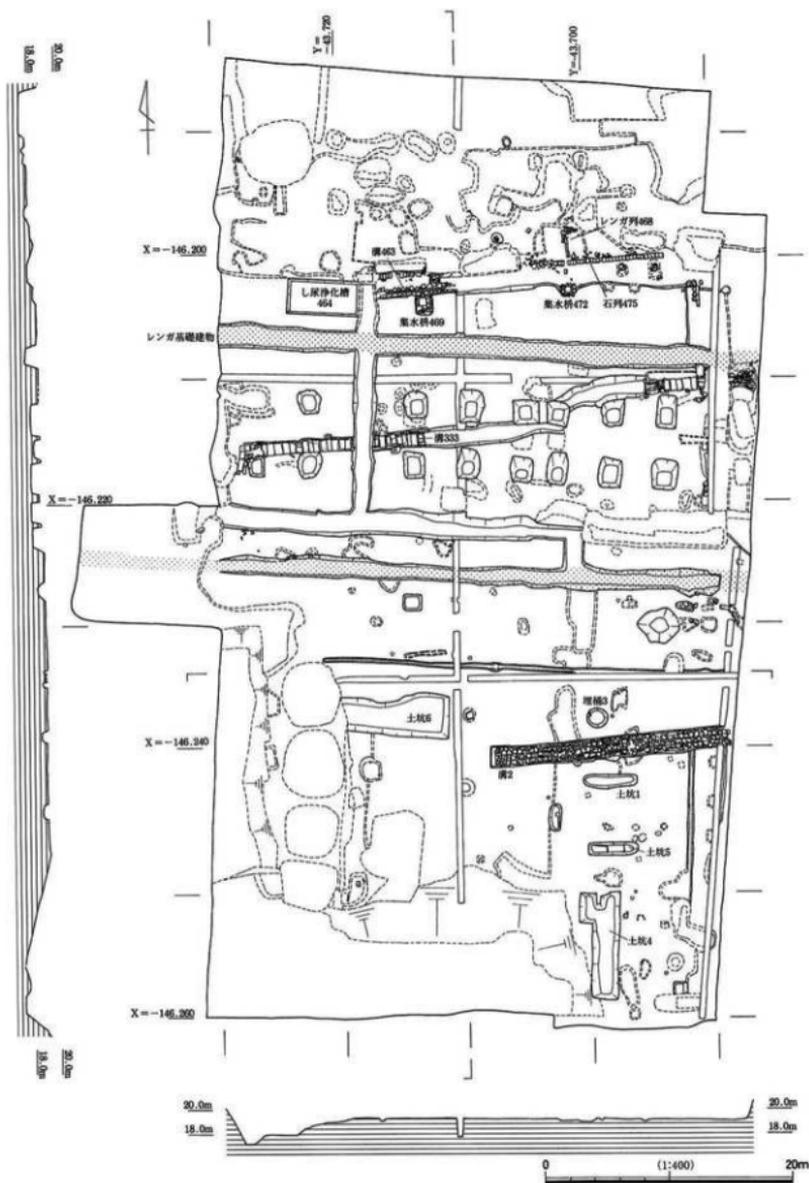


図 157 近・現代遺構面

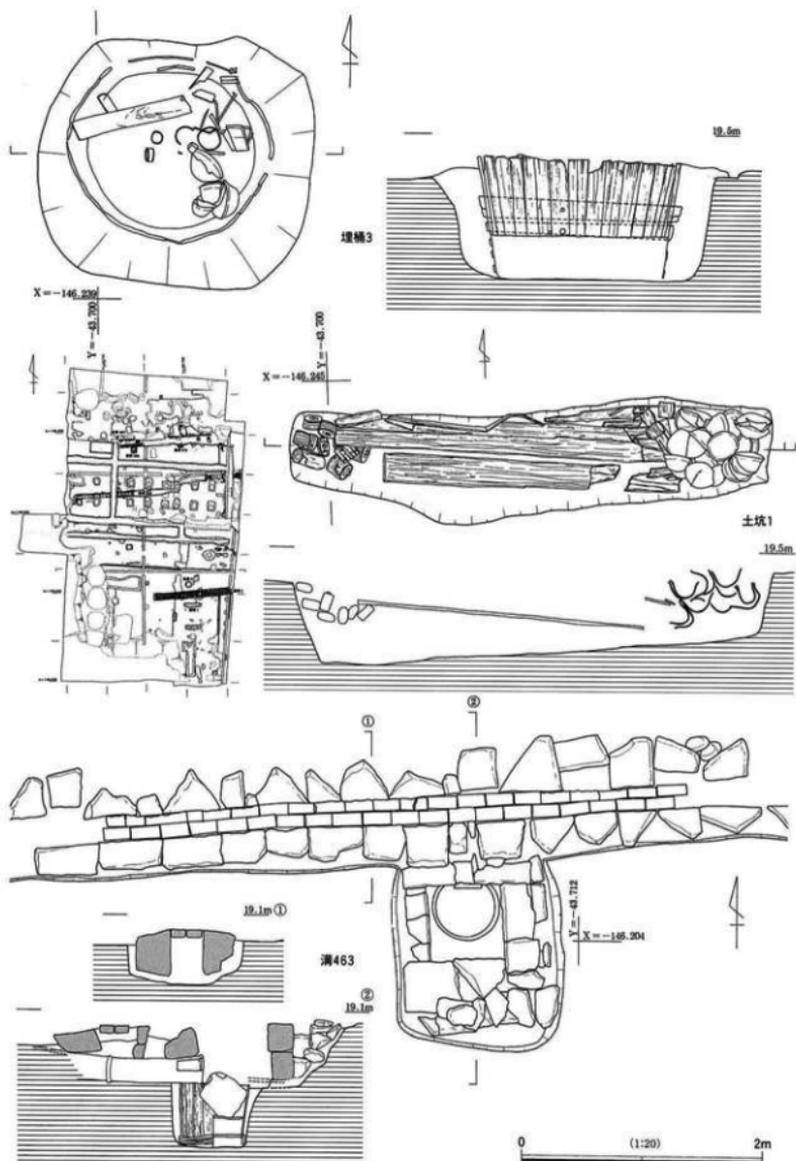


图158 近・現代主要遺構

能性も皆無ではないが、埋土の状況からその可能性は低く、防火水槽などの水溜りであった可能性が高いものと判断する。当該遺構にも多数の遺物が廃棄されており、襟徽章や認識票などのほか、新聞片や陸軍用箋なども出土している。

土坑4・6は壁面を縦柱と横板によって保護した土坑である。深さは不明であるが、規模からみて小型の簡易な防空壕であった可能性もある。し尿浄化槽464はレンガ基礎建物跡に付随するものである。中から東洋陶器製の小便器片や国民食器、ビール瓶などが出土している。

検出した建物跡の建造時期は不明であるが、おおむね大正年間である可能性が高いものと判断している。なお、この建物は元来は陸軍第四師団経理部の所管する被服倉庫建物であり、昭和41年に家庭裁判所の拡張工事に伴って取り壊されるまで残っていた（写真15）。なお、昭和22年の米軍撮影の航空写真をみると、南北に直列する土坑1・5や埋桶3などは建物から南側の本町通に開く門までの通路沿いに位置していることが看取される。

## 第2節 遺物

出土した遺物は多種多様であるが、以下では特徴的な遺物を中心として個々に記述を進めることにする。なお、出土遺物の大半は先に報告したⅡ期の遺構に伴うものであり、以下では文中において適宜触れることとして一括して報告してゆく。

**認識票** 認識票は埋桶3から7点がまとまって出土しているが、5点を図示したのみである。

いずれも真鍮製で製法は打ち抜き。159-1はタガネで右列に「四高砲二」、左列に「番八四」と刻む。同様に159-2はタガネで右列に「四高砲二」、左列に「番一〇」と刻んでいる。なお、図示していないが、これ以外にも同じものが2点あり、それぞれ番号は「一二五」と「一五一」である（写166-3・4）。159-4は文字を意図的に消しているが、刻印によって同じ部隊番号を記していたことが看取できる。

159-5は表面右列に「歩百五」、中央に「中三」、右列に「番一二」と刻印し、裏面には意図的に消されているが、右から順に「四兵輻」、「二」、「番二四七」と読みとることができる。159-3は刻印によって右列に「四兵輻二」、左列に「番六二三」と記す。なお、本例のみ平面形態がやや丸みを帯びる。

出土した認識票は159-5の表面のみが昭和18年の「認識票制式並其ノ取扱手續」と対応し、これは「歩兵第五聯隊第三中隊」を示すものと考えられる。

なお、159-1・2・4については「高射砲第四聯隊」に帰属するものである可能性もあるが、同聯隊は西部軍管区に属し、九州甘木を衝成地とする点で疑問が残る。むしろ、冒頭の「四」については高崎城跡で出土した認識票にも師団名を冠したものの存在が確認できることから、第四師団との関係で捉えるのが穏当であると判断する（高崎市教委1994）。

また、159-3裏面は「輻重兵第四聯隊」に帰属するものと考えられる。ちなみに各高射砲聯隊は昭和10年編成であり、打刻内容や素材・製法などから昭和10年から16年の間に使われた認識票である可能性が高い。

**襟徽章** 襟徽章は大半が埋桶3から出土したものであり、丸に星印の見習士官、幹部候補生の徽章（159-7、写168-4）、五旭光の教導学校の徽章の可能性のあるもの（159-6、写168-3）以外はいずれも聯隊番号の徽章である。連隊番号についてはアラビア数字の1・3・4・6～8が総数3177点出土している（161、写168-5）。出土点数の内訳は1が1576点、3が39点、4が13点、6が1484点、7が33点、8が32点である。出土数の対応関係などから、いずれも第四師団隷下の歩兵第八聯隊、歩兵第三七聯

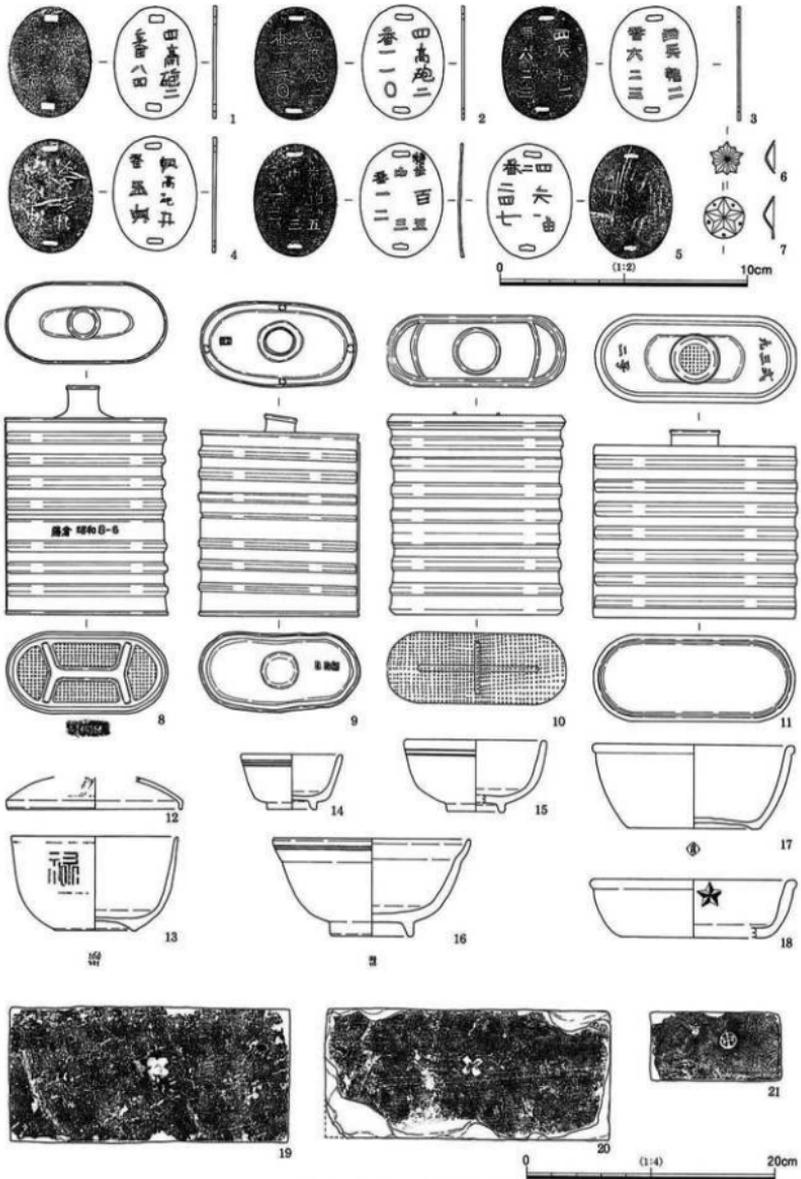


図159 近・現代遺物(1)

隊、歩兵第六一聯隊、その他各種兵科第四聯隊に関連するものとみて矛盾はない。

なお、上記の五旭光襟徽章は大正中期ころから昭和13年まで使用、連隊番号は2点を除いていずれも昭和13年の軍服の変更で小型化する以前のものであり、その所属年代はおおむね大正から昭和初期までのものと考えられる。

**防毒マスク** 陸軍防毒マスクには藤倉ゴム工業製と昭和化工製があり、九一式・九三式・九五式等が出土している。防毒面のレンズや排気弁などの部品のほか、吸収缶が多数出土している。

吸収缶のうち、藤倉製(159-8、写167-3)の九三式防毒面吸収缶側面には「藤倉 昭和8-6」の陽刻とその反対側に6桁の製造番号が刻印されている。藤倉は昭和8年に陸軍から防毒面1万と防毒衣2千を受注しており、出土したものはこの時に生産されたものと考えられる(藤倉ゴム工業1990)。

昭和化工製の九五式防毒面の吸収缶(159-9、写167-2)には上面に「化工」、底面に「昭和10」の陽刻がある。また、一部の吸収缶には「軍事機密」、「京」のスタンプがある。

また、一点のみであるが、海軍九三式二号防毒マスクの吸収缶(159-11、写167-1)が出土し、防毒面のレンズや排気弁にも海軍のものが数点出土している点は非常に興味深い事実である(写167-5・6)。

**鉄帽** 土坑1・埋桶3を中心に50点以上出土している(写167-8)。

いずれも内装をはずし、頂部を意図的に穿孔している。陸軍九〇式鉄帽、民間防空鉄帽が主流を占めるが、サクラヘルメットと仮称される旧式鉄帽を数点含んでいる。

九〇式鉄帽の一部の後方内面には「令」の刻印があり、神戸製鋼製であることが分かる。民間用防空鉄帽は民間の事務職員などの一般職員が使用していたものであり、また、旧式鉄帽は1930年前後、満州事変のころ使用のものである。後者は別として、陸軍の鉄帽と民間用鉄帽がほぼ同比率で廃棄されている点は当地における軍関係者の職掌の比率を反映している可能性も高く、検出建物の性格を考える上で興味深い事実である。

**刷り込み板** 埋桶3からは木箱等に文字を刷り込むための金属の薄板が5点以上出土している(図161)。そのうちの大型の2点には「大正」とともに「大阪被服支廠」の文字がある(写168-1・2)。また、小型の二点は一部が欠損しているものの、残存している文字から「輻重兵第四聯隊行」と読みとることができ、これ以外には「六〇七」と数字のみを記したものもある。

固有名詞と年号が記されており、さらには箱書きのための道具であるという性格からみて、陸軍大阪被服支廠に関わる施設の存在を証左する資料として重要である。

**食器類** 尿浄化槽464からは国民食器や陸軍食器、サバルなどの食器類が多数出土した(159-12～18)。

国民食器には碗・皿など様々な器種がある。底部外面には戦時統制番号もしくは商標が記されている。ちなみに159-13には「瀬202」、159-16には「瀬925」の戦時統制番号が記される。

陸軍食器は口縁内面に軍徽章である星印を記し、底部外面には「名陶」の商標が記され、鳴海製陶の前身である名古屋製陶製である(写168-9・10)。159-12・13は朝鮮半島特有の真鍮製日常食器であるサバルを陶器で代用したものである。外面には「福祿寿」、底部外面には「瀬202」と戦時統制番号が記されている。瀬戸でも1943年頃から代用サバルの生産が始まっている。その他に「大日本麦酒会社」(1906～1949年)と陽刻されたビール瓶の破片も出土している。

**レンガ** 刻印を有するものが数点出土している(159-19～21、160)。159-19・20および160-7は「筧」の工場印があり、岸和田煉瓦株式会社で生産されたものである(写166-11)。また、160-1～5は

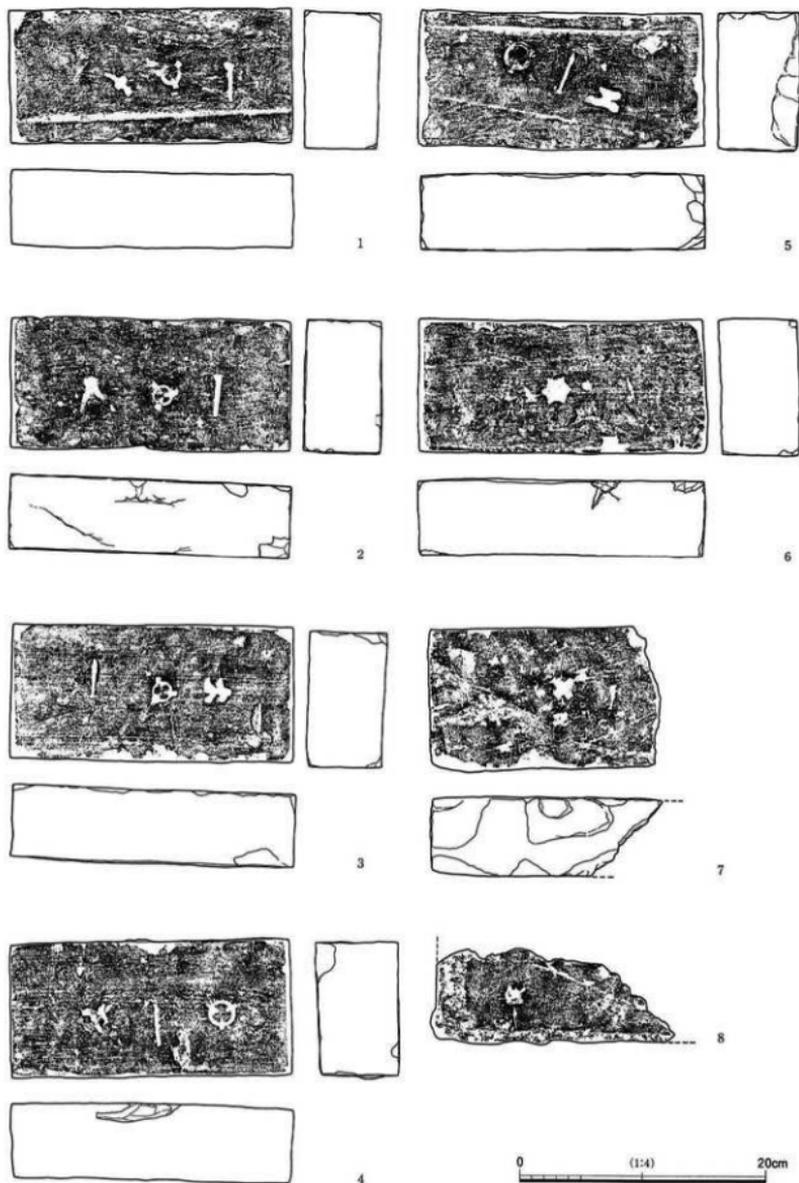


図 160 近・現代遺物 (2)

3種の刻印が直列するものあり、大阪窯業株式会社の工場印である「△」のほか、職人印がある(写166-10)。

そのほか、159-21は小口部にのみ「㊤」の刻印がある。レンガ列468に使われていたレンガであり、I期に帰属する古い段階のものである(写166-8)。

**新聞等の紙片** 埋桶3からは封筒や便箋、新聞などの活字印刷物のほか、ガリ版刷りの断片等が出土している。

このうち、新聞片についてはその一部が昭和20年10月22日の毎日新聞を含んでいることが判明している(写167-9)。

これ以外では「扶助廢」・「□實施」の文字が残る印刷物、「□□却下スルモノトス」・「學校□」などの文字が残るガリ版刷り、「陸軍用箋」の破片等が出土している。また、藁半紙に「□市阿倍野区□」・「(九)年六月九日」などと鉛筆書きした紙片も出土している。このうちの「阿倍野区」紙片は性格不明ながらも、阿倍野区が昭和18年に住吉区から分区していることから、その年紀は昭和19年6月9日である可能性が高い。

なお、出土した新聞片については遺物の埋没年代の上限を示しており、多様な遺物の廃棄が終戦から2ヶ月を経た後の行為であることを示す点で非常に重要な意味をもつ。

**衛生陶器** し尿浄化槽464から出土した2点の衛生陶器と表土から出土した1点がある。前二者は鷺の商標に「TOYO TOKI KAISYA」の文字がある(巻頭カラー45)。現TOTO製の便器片であり、この商標は昭和18年から23年に限定される。現存する衛生陶器との照合の結果、小便器下部の破片であると考えられる。

そのほか、表土からはマークとともに「MEITO」と記された衛生陶器片も出土している(巻頭カラー44)。形態から洗面台の破片と考えられ、生産年代は不明であるが、名古屋市西区に所在した名古屋製陶で生産されたものである。

**その他の遺物** 以上、主要な遺物について記述を行ってきたが、これ以外にも地下足袋の底や営内靴、剣吊りフック、剣差し、バックル、ボタン、背囊等の金具、刃部を欠損した銃剣などが出土している(写167-7)。

このうち、バックルには九四式水筒のものがあり、ボタンは昭和17年以前の陸軍第一種作業衣のものとなる。また、剣吊りフックも昭和13年に廃止されることから、それ以前のものである。また、銃剣は名古屋工廠の刻印をもつ三〇年式銃剣で、刃部は黒染め、柄尻にはシリアル番号があるが読みとることはできない。



図161 近・現代遺物(3)

## 第10章 自然科学的分析

### 第1節 7B地区谷部における古環境分析

株式会社 古環境研究所

#### 1. プラント・オパール分析

##### (1) はじめに

植物珪酸体は、ガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が植物の細胞内に蓄積したものであり、植物が枯死した後も微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール (植物珪酸体) 分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出し、その組成や量を明らかにする方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている。

今回の発掘調査では、11層上面において水田面と考えられる遺構面が検出された。そこで、同遺構における稲作を検証する目的でプラント・オパール分析を行うことになった。

##### (2) 試料

分析試料は、調査区西壁面の11層 (試料③) と12層 (試料⑤)、11層検出面の水田775 (中央)、水田776 (中央)、水田777 (中央)、水田778 (東) の6点である。

##### (3) 方法

プラント・オパールの抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976)」をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料土を絶乾 ( $105^\circ\text{C} \cdot 24$ 時間) する。
- 2) 試料土約1gを秤量後、ガラスビーズ (直径約  $40\mu\text{m}$ , 約0.02g) を添加する。  
※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法により有機物を処理する。
- 4) 超音波 ( $300\text{W} \cdot 42\text{kHz} \cdot 10$ 分間) により試料を分散する。
- 5) 沈底法により微粒子 ( $20\mu\text{m}$ 以下) を除去後乾燥する。
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散しプレパラートを作成する。

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞 (葉身にのみ形成される) に由来するプラント・オパール (以下、プラント・オパールと略す) を同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料1g中のプラント・オパール個数 (試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める) に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重 (1.0と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重, 単位:  $10^{-8}\text{g}$ ) を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。換算係数は、イネ (赤米) は2.94、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属型 (ススキ) は1.24、ネザサ節型は0.48、クマザサ属型 (チシマザサ節・チマキザサ節) は0.75である。

##### (4) 分析結果

採取された試料すべてについて分析を行った結果、イネ、ヨシ属、ウシクサ族 (ススキ属型)、シバ属およびタケ亜科 (ネザサ節型、クマザサ属型、その他) のプラント・オパールが検出された。これらについて定量を行い、その結果を表67、図162と図163に示した。主要な分類群については顕微鏡写真を

付す。

(5) 考察

稲作跡(水田跡)の検証や探査を行う場合、イネのプラント・オパールが試料1gあたりおよそ3,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断される。また、当該層においてプラント・オパール密度にピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくく、密度が基準値に達していなくても稲作が行われていた可能性は高いと考えられる。以上のことを基準として稲作の可能性について検討を行う。11層上面で検出された水田遺構では、すべての試料からイネのプラント・オパールが検出された。プラント・オパール密度は2,700~4,700個/gであり、水田跡の判断基準を概ね満たしている。したがって、これらにおいて稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。こうしたことから、分析的にも当該遺構が水田跡であると判断される。11層中部(試料③)や12層上部(試料⑤)からもイネのプラント・オパールが検出されているが、プラント・オパール密度は1,000個/g前後と低い。よって、これらにおいて稲作が行われていた可能性を否定することはできないものの、ここで検出されたプラント・オパールは他所からの混入である可能性が高い。

なお、水田の周辺には、多くはないがヨシ、スキ、シバさらにネザサ等が生育していたと推定される。

(6) まとめ

今回の調査で検出された水田跡について、プラント・オパール分析を行い稲作の検証を試みた。その結果、水田面と考えられる11層上面の遺構面より採取された試料のすべてから、稲作跡と判断できる量のイネのプラント・オパールが検出され、当該遺構面が水田跡であることが確認された。

参考文献

杉山真二(1987) タケ亜科植物の機動細胞珪酸体。富士竹類植物園報告, 第31号, p. 70-83.

藤原宏志(1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)

—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—, 考古学と自然科学, 9, p. 15-29.

藤原宏志・杉山真二(1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)

—プラント・オパール分析による水田址の探査—, 考古学と自然科学, 17, p. 73-85.

表 67 プラント・オパール分析結果

検出密度(単位: ×100個/g)

分類群(和名・学名)	地点 試料	西壁		11層水田			
		11層	12層	775	776	777	778
イネ科 Gramineae (Grasses)							
イネ <i>Oryza sativa</i> (domestic rice)		12	6	27	47	28	36
ヨシ属 <i>Phragmites</i>				5	6	6	6
スキ属型 <i>Miscanthus</i> type		6	6	5	12	11	6
シバ属 <i>Zoisa</i>		6	6	5	6		6
タケ亜科 Bambusoideae (Bamboo)							
ネザサ節型 <i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i> type		43	45	27	52	51	53
クマザサ属型 <i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i> ) type				9			
その他 Others		18	17	23	6	23	18
未分類等 Unknown		163	166	207	233	180	137
プラント・オパール総数		227	229	279	315	271	226

主な分類群の推定生産量(単位: kg/m<sup>2</sup>・cm)

イネ <i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.36	0.16	0.79	1.37	0.83	1.05
ヨシ属 <i>Phragmites</i>	0.28	0.37	0.36	0.37	0.36	0.37
スキ属型 <i>Miscanthus</i> type	0.08	0.07	0.06	0.14	0.14	0.07
ネザサ節型 <i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i> type	0.21	0.21	0.13	0.25	0.24	0.26
クマザサ属型 <i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i> ) type			0.07			

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

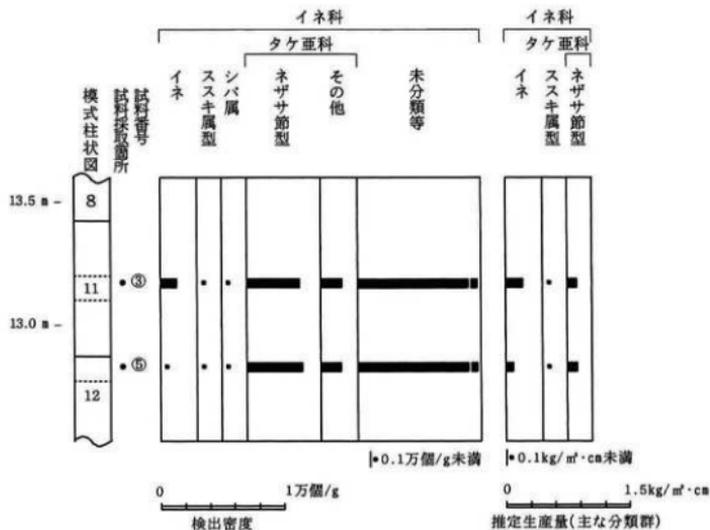


図162 11・12層のプラント・オバール分析結果

※主な分類群について表示

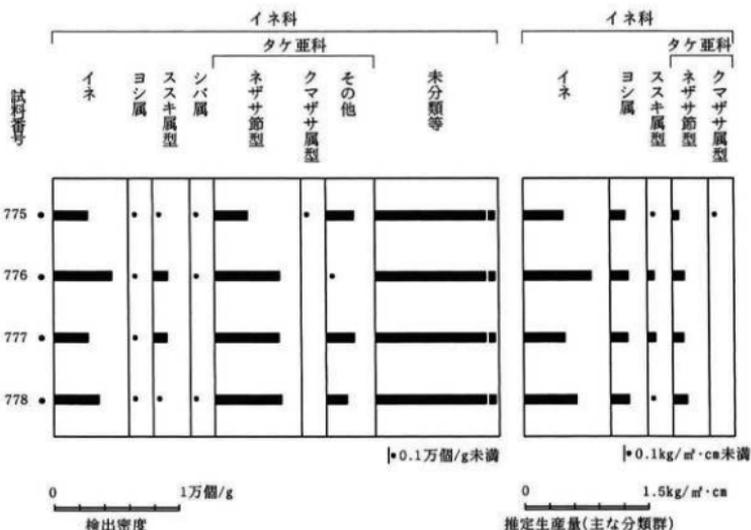


図163 11層上面水田面のプラント・オバール分析結果

※主な分類群について表示

## 2. 花粉分析

### (1) はじめに

花粉分析は、一般に低湿地堆積物を対象として比較的広域な地域の植生や古環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。なお、乾燥的な環境下の堆積物では、花粉などの植物遺体が分解されて残存しないこともある。

### (2) 試料

試料は、上位より中砂（8層、試料①）、細砂混じりシルト（9層、試料②）、シルト混じり細砂（10層、試料③）、細砂混じりシルト（11層、試料④）、中砂（12層、試料⑤）、細砂混じりシルト（13層、試料⑥）、細砂混じりシルト（14層、試料⑦）、細砂混じりシルト（15層）、中砂（16層）、シルト混じり細砂（17層）、18層（上）（細砂～中砂）の11点および井戸728の埋土（細砂混じりシルト）の合計12点である。

### (3) 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村（1973）を参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈澱に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、遠心分離（1500rpm、2分間）の後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（—）で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村（1974、1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

### (4) 結果

#### ・分類群

出現した分類群は、樹木花粉35、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉31、シダ植物胞子2形態の計71である。これらの学名と和名および粒数を表68に示し、主要な分類群を写真に示す（写真17）。花粉数が200個以上計数できた試料は、花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した（図164）。200個未満であっても100個以上の試料については傾向をみるため参考に図示した。以下に出現した分類群を記す。

#### 〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科、ヤマモモ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属





ーアサダ、クリーシイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属ーケヤキ、エノキ属ームクノキ、サンショウ属、センダン属、キハダ属、ウルシ属、モチノキ属、カエデ属、トチノキ、ブドウ属、カキ属、ハイノキ属、エゴノキ属、モクセイ科、ツツジ科、ニワトコ属ーガマズミ属  
〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科ーイラクサ科、マメ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属ーミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ホシクサ属、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科ーヒユ科、ナデシコ科、キンボウグ属、アブラナ科、ワレモコウ属、アカバナ科、アリノトウグサ属ーフサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、シソ科、ナス科、オオバコ属、オミナエシ科、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属、ペニバナ

〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子、三条溝孢子

・花粉群集の特徴

下位より順に花粉群集の特徴を記す。

### 1) 18層(上)

樹木花粉の出現率が極めて高く、クリーシイ属が優占する。他にコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属がやや多く検出され、スギ、マツ属複雑管束亜属、モミ属などが伴う。草本花粉では、低率ではあるがヨモギ属、カヤツリグサ科が検出される。

### 2) 15層、16層、17層

樹木花粉と草本花粉は同程度の割合で出現する。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、スギ、マツ属複雑管束亜属、クリーシイ属、イチイ科ーイスガヤ科ーヒノキ科が低率に同程度出現する。草本花粉では、イネ属型を含むイネ科が比較的多く検出され、カヤツリグサ科、ヨモギ属、ミズアオイ属などが伴われる。

### 3) 8層、9層、10層、11層、

### 12層、13層、14層

14層では、樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜

横式層序図	主要な植生と環境の変遷	
8層	水田の拡大 畑地化(ソバ、アブラナ科)	マツ林
9層		
10層		
11層		
12層		
13層		二次林化
14層	イネ科を主にカヤツリグサ科、ヨモギ属の人里植物ないし耕地雑草が繁茂し、近隣で水田が営まれる。 ミズアオイ属などの水生植物が生育し滞水する。	カシ ナラ マツ スギ
14層		
15層		
16層		
17層		
18層(上)	シイ林(シイを主にカシ、ナラ)	
18層(下)		

図165 花粉分析から想定される植生と環境の変遷

属、スギ、マツ属複雑管束亜属、クリーシイ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科が低率に同程度出現する。草本花粉では、イネ属型を含むイネ科が比較的多く検出され、カヤツリグサ科、ヨモギ属、ミズアオイ属などが伴われる。

13層、12層は、樹木花粉より草本花粉の占める割合が大きいく。イネ属型を含むイネ科の出現率が高く、ヨモギ属、カヤツリグサ科、ミズアオイ属が伴われる。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属、スギ、マツ属複雑管束亜属、クリーシイ属、コナラ属コナラ亜属などが同程度に検出される。11層は、花粉がほとんど検出されなかった。

9層、10層では、草本花粉の占める割合が下層より大きくなり、イネ科、アブラナ科の出現率が高くなり、ソバ属が伴われる。樹木花粉ではマツ属複雑管束亜属が多く出現するほかは、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、クリーシイ属、スギが低率に出現する。最上部の8層では花粉が検出されなかった。

#### 4) 井戸 728 の埋土

ほとんど花粉が検出されなかった。

#### (5) 花粉分析から推定される植生と環境

下位より順に植生と環境の推定を行う。

#### 1) 18層(上)の時期

樹木花粉の出現率が極めて高く、周囲は森林状態であった。クリーシイ属が主に分布し、生態上からシイとみられ、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属などを構成要素とする照葉樹林が分布していた。草本はヨモギ属、カヤツリグサ科などが生育していたが、極めて少ない。以上から周辺は、台地や丘陵地上のやや乾燥したところに分布するシイ林が成立し分布していたと推定される。

#### 2) 14層、15層、16層、17層の時期

樹木花粉と草本花粉が同程度の割合で出現するが、下部の18層(上)と比較して、クリーシイ属が極めて減少し草本花粉が増加する。周辺の樹木は、森林の状態ではなく、やや疎に分布していたと考えられ、カシ(コナラ属アカガシ亜属)、ナラ(コナラ属コナラ亜属)の広葉樹とスギ、マツ(マツ属複雑管束亜属)などの針葉樹が主要素であり、特定の優勢種をもたない特徴を示す。

堆積地周辺は、カヤツリグサ科、ヨモギ属などの人里植物ないし耕地雑草の性格を持つ草本が生育し、人為的環境が分布していた。堆積地は水生植物のミズアオイ属などが生育し、浅い水域から湿地の環境であり、堆積ないし周囲に水田も分布していたと推定される。

#### 3) 8層、9層、10層、12層、13層の時期

この時期の大きな特徴は、樹木花粉ではマツ属複雑管束亜属が増加し、草本花粉ではイネ属型を含むイネ科、ソバ属が伴われ、上部でアブラナ科が増加することである。周辺地域はマツ(マツ属複雑管束亜属)林が成立し分布し、二次林化が行われる。堆積地ないし周囲は水田が拡大し、ソバやアブラナ科などの畑が営まれる。堆積地は上位に向かって徐々に乾燥化する。9層の時期には本地点自体でアブラナ科の畑が営まれていたと推定される。

#### 4) 井戸 728

埋土からは、ほとんど花粉が検出されなかった。花粉の密度が極めて低く、堆積速度が速かったことがと考えられ、短期間に堆積した可能性が示唆される。

## (6) まとめ

今回の調査地において花粉分析を行った結果、以下のような植生と環境の変遷が認められた。すなわち、下部の18層(上)の時期は、シイ林が成立して分布していたが、14層、15層、16層、17層の時期ではシイ林が少なくなり、堆積地は浅い水域から湿地の環境となり、周囲には人里植物ないし耕地雑草が生育していた。8層、9層、10層、12層、13層の時期になると、水田が拡大し、畑作も営まれ、周辺地域の森林植生はマツ林が成立し二次林化したと推定された(図165)。

## 参考文献

- 中村純(1973)花粉分析。古今書院。p.82-110。  
 金原正明(1993)花粉分析法による古環境復原。新版古代の日本 第10巻 古代資料研究の方法、角川書店、p.248-262。  
 島倉巳三郎(1973)日本植物の花粉形態。大阪市立自然史博物館収蔵目録第5集、60p。  
 中村純(1980)日本産花粉の標徴。大阪市立自然史博物館収蔵目録第13集、91p。  
 中村純(1974)イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として。第四紀研究、13、p.187-193。  
 中村純(1977)稲作とイネ花粉。考古学と自然科学、第10号、p.21-30。

## 3. 珪藻分析

## (1) はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域から淡水域のほぼすべての水域および湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。また、珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、固有にまたは許容範囲をもって分布している。堆積物中に含まれる珪藻遺骸の構成や組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境の復原に用いられている。

## (2) 試料

試料は、大坂城の遺構より採取された14層(細砂混じりシルト)、15層(細砂混じりシルト)、16層(中砂)、17層(シルト混じり細砂)、18層(上)(細砂～中砂)の堆積物各1点の計5点である。

## (3) 方法

試料には以下の物理化学処理を施し、プレパラートを作成した。

- 1) 試料から乾燥重量1gを秤量する。
- 2) 10%過酸化水素水を加え、加温し反応させながら、1晩放置する。
- 3) 上澄みを捨て、細粒のコロイドおよび薬品の水洗を行う。水を加え、1.5時間静置後、上澄みを捨てる。この操作を5、6回繰り返す。
- 4) 残渣をマイクロピペットでカバーガラスに滴下し乾燥させる。マウントメディアによって封入しプレパラートを作成する。

プレパラートは生物顕微鏡で600～1000倍で鏡検し、直線視野法により計数を行う。計数は、同定・計数は珪藻被殻が100個体以上にまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った(写真18)。

## (4) 結果

試料から出現した珪藻は、貧塩性種44分類群、広塩性種1分類群、真一中塩性種1分類群の計46分類群である。計数された珪藻の学名と個数を表69に示す。また珪藻総数を基数とする百分率を算定したダイアグラムを図166に示す。16層は珪藻総数が100未満であったが、参考に図示した。

下位より、最下位の18層(上)では珪藻は検出されなかった。17層は、特に止水性種の *Aulacoseira* spp.

が優占する。他に止水性種では *Amphora ovalis*, *Fragilaria pinnata* v. *lancecttula*, *Fragilaria construens* v. *venter*, *Gomphonema grovei* v. *lingulatum*, 湖沼沼沢湿地指標種群の *Aulacoseira ambigua*などが検出される。また、流水性種の *Gomphonema parvulum*, 広塩性種の *Rhopalodia gibberula*, *Diploneis ovalis*も低率で出現する。16層は珪藻の出現数は少ない。流水性種の *Gomphonema parvulum*, 陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys*などの検出数が比較的多い。15層では貧塩性種の出現率が極めて高い。特に止水性種の *Amphora ovalis*が多く、*Aulacoseira* spp.が伴われる。他に、*Gomphonema parvulum*の流水性種、*Navicula mutica*, *Hantzschia amphioxys*, *Amphora montana*などの陸生珪藻、各生態性が不定性の *Navicula arvensis*, *Navicula cuspidata*, *Navicula kotschyi*, *Stauroneis anceps*などが低率に検出される。また、広塩性種の *Anomeoneis sphaerophora*が出現する。

上部の14層では珪藻の破片が少量認められた。

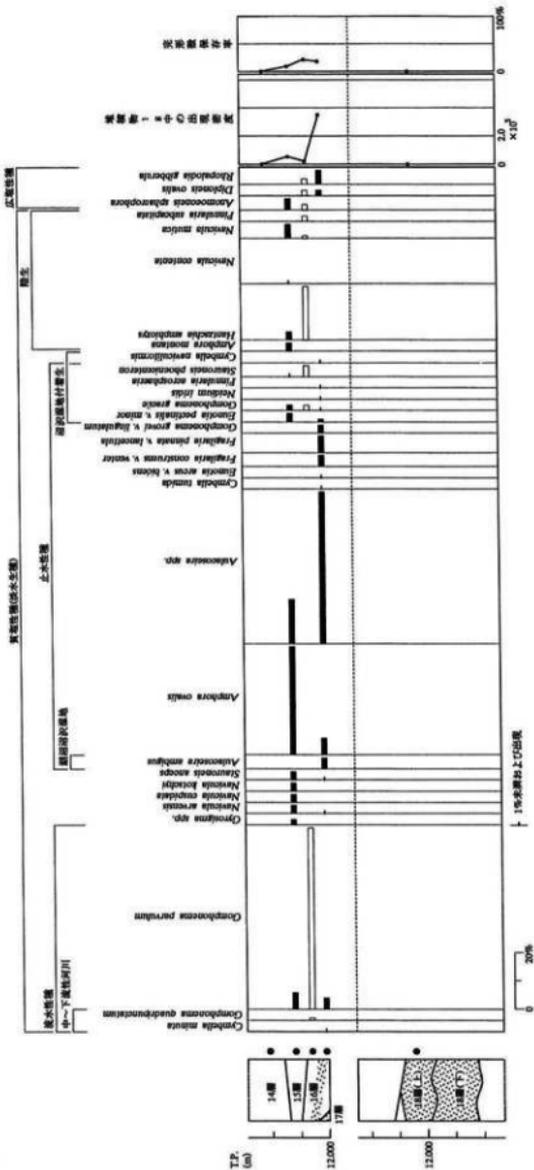


図 166 主要珪藻ダイアグラム

表 69 珪藻分析結果

種類	14層	15層	16層	17層	18層(上)
貧塩性種(淡水生種)					
<i>Amphora montana</i>		4			
<i>Amphora ovalis</i>		47		13	
<i>Amphora spp.</i>				1	
<i>Aulacoseira ambigua</i>				8	
<i>Aulacoseira spp.</i>		19		121	
<i>Caloneis hyalina</i>				1	
<i>Cymbella gracilis</i>				1	
<i>Cymbella minuta</i>				2	
<i>Cymbella naviculiformis</i>				2	
<i>Cymbella subaequalis</i>				1	
<i>Cymbella tumida</i>				2	
<i>Eunotia arcus v. bidens</i>				1	
<i>Eunotia pectinalis v. minor</i>		4		3	
<i>Eunotia praerupta v. bidens</i>		1			
<i>Fragilaria construens v. venter</i>				9	
<i>Fragilaria pinnata</i>				1	
<i>Fragilaria pinnata v. lancettula</i>					13
<i>Gomphonema affine</i>				1	
<i>Gomphonema gracile</i>		2	2	1	
<i>Gomphonema grovei v. lingulatum</i>					7
<i>Gomphonema parvulum</i>		7	58	8	
<i>Gomphonema quadripunctatum</i>			2		
<i>Gyrosigma spp.</i>		2			
<i>Hantzschia amphioxys</i>		4	18		
<i>Navicula arvensis</i>		3		2	
<i>Navicula contenta</i>		1			
<i>Navicula cuspidata</i>		3			
<i>Navicula kotschy</i>		3			
<i>Navicula mutica</i>		7	1		
<i>Navicula mutica v. ventricosa</i>		1			
<i>Navicula notanda</i>		1			
<i>Navicula recens</i>		1			
<i>Neidium iridis</i>					1
<i>Neidium iridis v. amphigomphus</i>					1
<i>Pinnularia acrosphaeria</i>					1
<i>Pinnularia borealis</i>		1			
<i>Pinnularia gibba</i>					1
<i>Pinnularia microstauron</i>					1
<i>Pinnularia subcapitata</i>			2		
<i>Stauroneis anceps</i>		3			1
<i>Stauroneis phoenicenteron</i>		1	4		
<i>Synedra ulna</i>					1
広塩性種(汽水・淡水生種)					
<i>Anomooneis sphaerophora</i>		5	2		
<i>Diploneis ovalis</i>			2	4	
<i>Rhopalodia gibberula</i>			2	10	
真・中塩性種(海水・汽水生種)					
<i>Navicula salinarum</i>		1			
合計	0	121	93	219	0
未同定	0	15	2	8	0
破片	6	1321	332	1033	8
試料 1 g 中の殻数密度	0.0	4.8	1.9	3.5	0.0
		4	4	5	
		×10	×10	×10	
完形殻保存率 (%)	0.0	9.3	22.2	18.0	0.0

#### (5) 珪藻分析から推定される堆積環境

最下位の18層(上)では珪藻は検出されず、珪藻の生育しにくい乾燥した堆積環境であったと推定される。18層(上)は、流木が多くラミナが顕著であり流水環境が示唆されるが、珪藻が検出されず、極めて短期間の流水によって再堆積した可能性が示唆される。

17層の時期は、特に止水性種が優占し、湖沼沼沢湿地指標種群なども検出されることから、止水域の環境が示唆される。流水性種や広塩性種も出現する。以上から、流水の影響のある止水域の環境が推定される。広塩性種が生育するのは、生活排水の流入により、塩分濃度のやや高いところが存在したためと考えられる。

16層では、流水性種、陸生珪藻が混在して出現する。流水の環境と湿った土壌の環境が繰り返されたと推定される。

15層では、貧塩性種の止水性種が多く、流水性種、陸生珪藻、各生態性が不定性種、広塩性種などが低率に伴われる。よほど止水域の環境であり、流水の影響があり、近接して湿った土壌の環境が分布していたと考えられる。

上部の14層では珪藻の破片が少量認められる程度であり、珪藻の生育しにくい乾燥した堆積環境の可能性などがある。

#### (6) まとめ

今回の調査地における珪藻分析の結果、17層、16層、15層において珪藻が検出され、珪藻の生育する水成の環境が認められた。17層は滞水した止水の環境、16層は流水域と湿った土壌の環境の繰り返し、15層は滞水した止水の環境が示唆された。

#### 参考文献

- Lowe, R. L. (1974) Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh-water diatoms. 333p., National Environmental Research Center.
- Hustedt, F. (1937-1938) Systematische und ologische Untersuchungen über die Diatomeenflora von Java, Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch. Hydrobiol., Suppl. 15, p. 131-506.
- Asai, K. & Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, p. 35-47.
- Hustedt, F. (1930) Bacillariophyta, Die Süsswasser Flora Mitteleuropas, 10 Gustav Fischer, Jena, 466p.
- Patrick, R. eimer, C. W. (1966) The diatom of the United States, vol. 1. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No. 13, The Academy of Natural Sciences of Philadelphia, 644p.
- Patrick, R. eimer, C. W. (1975) The diatom of the United States, vol. 2. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No. 13, The Academy of Natural Sciences of Philadelphia, 213p.
- 小杉正人 (1986) 陸生珪藻による古環境解析とその意義—わが国への導入とその展望—。植生史研究, 第1号, 植生史研究会, p. 29-44.
- 小杉正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用。第四紀研究, 27, p. 1-20.
- 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用。東北地理, 42, p. 73-88.
- 伊藤良永・堀内誠示 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用。珪藻学会誌, 9, p. 23-45.

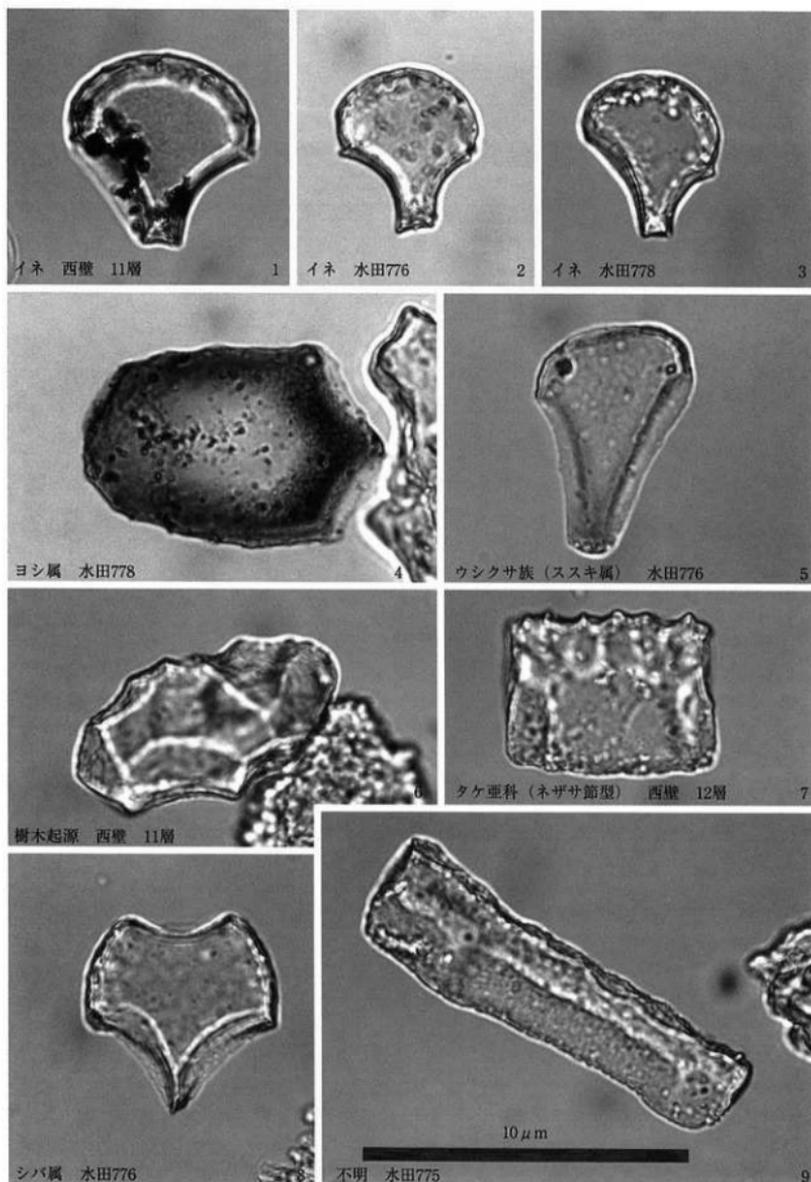
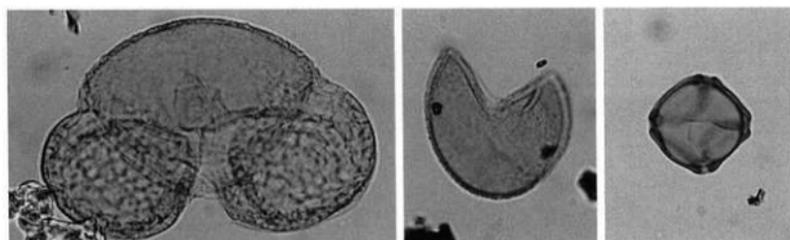


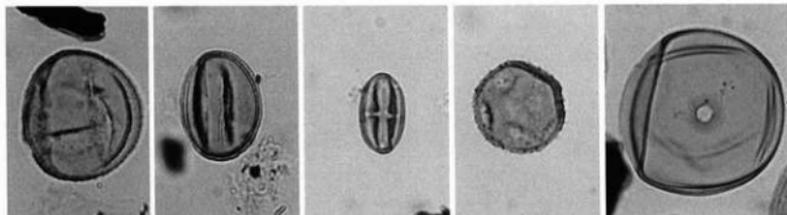
写真16 プラント・オパール (植物珪酸体) の顕微鏡写真



1 マツ属複維管束亜属

2 スギ

3 ハンノキ属



4 コナラ属コナラ亜属

5 コナラ属アカガシ亜属

6 シイ属

7 オモダカ属

8 イネ属型



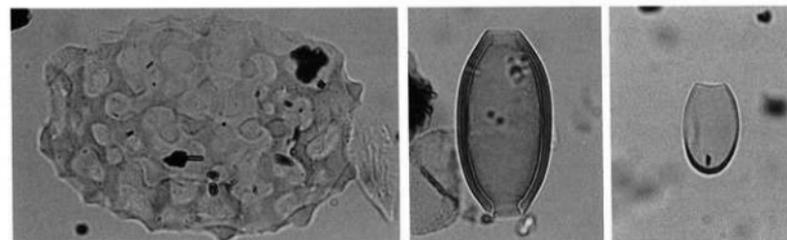
9 カヤツリガサ科

10 ソバ属

11 ソバ属

12 アブラナ科

13 ベニバナ



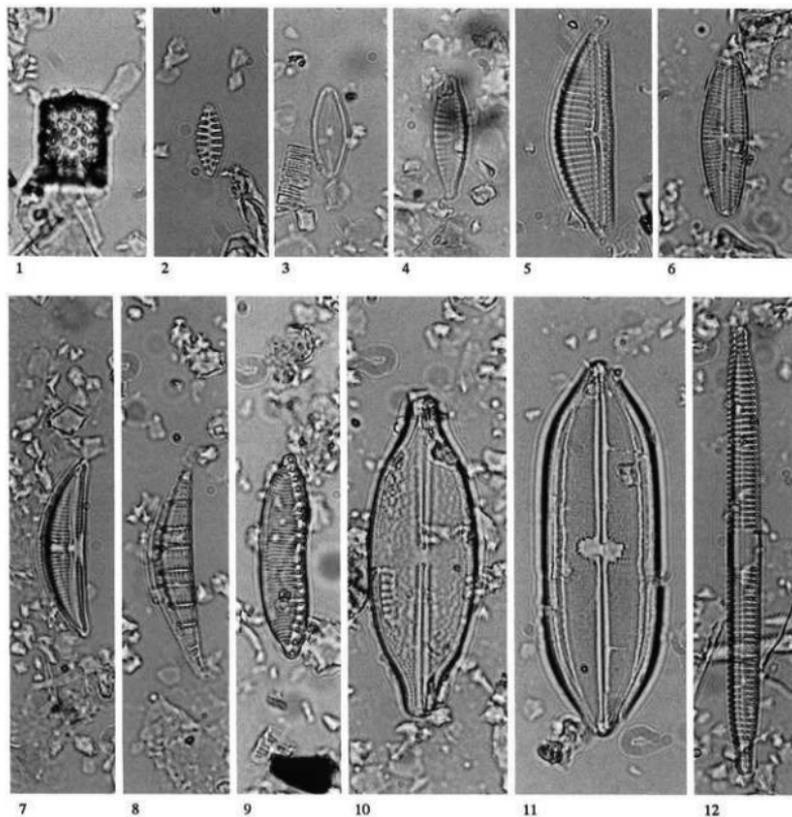
14 回虫卵

15 鞭虫卵

16 異形吸虫卵

10μm

写真17 花粉・孢子・寄生虫卵の顕微鏡写真

— 10 $\mu$ m

1. *Aulacoseira* sp. 2. *Fragilaria pinnata* v. *lancettula* 3. *Navicula arvensis* 4. *Gomphonema parvulum*  
 5. *Cymbella minuta* 6. *Cymbella subaequalis* 7. *Amphora ovalis* 8. *Rhopalodia gibberula*  
 9. *Hantzschia amphioxys* 10. *Anomooneis sphaerophora* 11. *Neidium iridis* v. *amphigomphus*  
 12. *Synedra ulna*

写真18 珪藻の顕微鏡写真

## 第2節 豊臣大坂城跡関連の金属分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

### 1. はじめに

大坂城跡は、和泉山地から半島状に北に伸びた上町台地の北端部に位置する。今回の調査地点を含む大坂城跡周辺では、明治時代以降の旧陸軍関係の遺構、徳川大坂城に関わる遺構、豊臣大坂城の遺構、大坂城築城以前の古代の遺構などが検出されている。

本報告では、豊臣大坂城時代の遺構より出土した遺物の分析を行い、当時の城内の状況に関わる資料を得ることを目的とする。今回対象とされた遺物は、溶融した金属のような付着物のあるトリベとそれが出土した遺構（トリベ集積遺構491）と同時期とされる包含層から出土した地金である。ともに金属製品の製作・加工に関わる遺物である可能性のあることが指摘されており、本分析によりこれらの遺物の性状を明らかにすることができれば、当時の城下町の様子を伝える貴重な資料になり得る可能性がある。なお、地金の分析については大澤正己氏と鈴木瑞穂氏に依頼した。本報告では記名原稿として掲載する。

### 2. 試料

試料は、7B地区で検出した谷部の肩部から検出したトリベ集積遺構491から出土したトリベ3点（491-33・491-68・491-73）と地金2点である。地金については便宜的に板状のものを地金1、不定形のを地金2とする。

トリベ集積遺構491は地山直上から検出したものであり、層位的にみると豊臣大坂城段階の遺構であるといえる。厳密には帰属年代を明確にはしにくい、当該遺構の埋土面からは礎石列が検出されていることから豊臣前期に遡る遺構である可能性が高いものとされる。なお、トリベ集積遺構491からは、トリベのほかにも輪羽口や木製品が集中して出土している。

今回のトリベ3点の試料は小形のトリベに類するものと思われ、したがって本報告では試料名としてトリベという語を使用する。地金は、トリベ集積遺構491から出土したものではないが、同遺構と同時期とされる包含層から出土したものである。

### 3. トリベの分析

#### (1) 分析方法

##### ①薄片作製鑑定

ここでは、トリベの材質および付着物の状態、さらにトリベの被熱状態を岩石学・鉱物学の視点から検証することとし、試料の薄片作製と顕微鏡観察を行う。

薄片は、試料の一部をダイヤモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製する。薄片を顕微鏡下で観察すると、炉壁を構成する基質と含有される砕屑片（鉱物片と岩片）およびその組織を観察することができる。高温被熱した試料は、その被熱温度に応じて、鉱物や組織に被熱変化を生ずる。ここでは一般的な陶磁器等にみられる鉱物やその組織の熱的变化をもとにして被熱温度の推定を試みたが、被熱時間が不明であるために必ずしも熱的に平衡関係にある結果となっているとは限らず、被熱時間が短い場合は被熱温度を低く見積もる可能性が高い。

##### ②蛍光X線分析

前述のようにトリベの付着物については金属の溶融物である可能性のあることから、成分を検出することをねらいとして蛍光X線分析を行う。

使用した蛍光X線分析装置は理学電気工業製RIX1000である。本方法は試料にX線（一次X線）を照射し、含有される元素が発する固有X線（二次X線）を測定することにより、その成分を知ろうとするものである。サンプリングが困難な文化財の材質調査に広く用いられている手法である。従来、蛍光X線分析は試料形状を描えない限り、含有量を知ることはできないとされていたが、本装置におけるオーダー分析を適用することによって、構成元素およびその概略の含有量を求めることが可能である。以下に分析条件を記した。

## 1) 装置

理学電機工業社製 RIX1000 (FP法のオーダー分析プログラム)

## 2) 試料調製

トリベ内部の付着物を剥離し、105℃で2時間乾燥させた後、ダブルレイヤーペレット法にて以下の条件でブリケット試料を作製した。

加圧装置；電動式試料成型機（理学電機工業社製 9302-D3）

成形リング；塩化ビニル（30mm φ）

加圧力；10ton（100kN）

## 3) 測定条件

X線管；Cr（50Kv - 50mA）

分光結晶；LiF, PET, TAP, Ge

検出器；F-PC, SC

## (2) 結果

## ① 薄片作製鑑定

顕微鏡観察の結果は表70に示した。以下に各試料について観察事項を述べる。

## 1) トリベ（491-33；写真19）

顕微鏡下で黄灰色～褐色を呈し、一部は溶融して発泡して

いる。鉱物片として石英・カリ長石・斜長石・単斜輝石、岩片としてチャート・砂岩・石英片岩が認められる。

## i) 鉱物片

鉱物片として石英・カリ長石・斜長石・単斜輝石が含まれる。

石英 石英は少量存在し、最大粒径1.0mmの他形粒状を呈する。結晶内部に高温被熱によるクラックが発達し、部分的に溶融した組織が認められる。

カリ長石 微量で存在し、最大粒径0.6mmの他形粒状を呈する。結晶外縁および内部の劈開に沿って溶化が進み、一部は完全に溶化してガラスとなっている。

斜長石 微量で存在し、最大粒径0.25mmの他形板状を呈する。外縁および劈開に沿って針状ムライト化しているが、多くは残晶を留めている。

単斜輝石 きわめて微量で存在し、粒径0.15mmの破片状粒状を呈する。淡黄褐色で劈開が発達し、斜消光する。

表70 胎土薄片観察結果

試料名	491-33	491-68	491-73	
砂粒の種類構成	鉱物片			
	石英	△	○～△	○～△
	カリ長石	+	△	△
	斜長石	+		+
	単斜輝石			±
	珪線輝石	±		
	ジルコン			±
	チャート	±～±	△～+	+
	砂岩			±～±
	石英片岩	±～±		
花崗岩類		+		
石英片岩	±～±	+	+	
ムライト	+			
素地鉱石	石英	±～±	+	+
	酸化鉄			△～+
	孔隙	○	△～+	△
素地の色調	△～+	○～△	○	
素地の配向性	+	+	+	
素地の粘土量比	△～+	△	△	
焼法の精度	△～+	+	+	
焼定被熱温度	1,200℃	1,150℃	1,150℃	

量比 ○：中量、○～△：中量～少量、△：少量、△～+：少量～微量、+：微量、±：きわめて微量、+～±：微量～きわめて微量、±：きわめて微量  
素地の色調 ○：褐色、○～△：褐色～中間、△：中間、△～+：中間～灰色、+：灰色  
素地の配向性 ○：強い、○～△：強い～中程度、△：中程度、△～+：中程度～弱い、+：弱い  
素地の粘土量比 ○：多い、○～△：良好～中程度、△：中程度、△～+：中程度～不良、+：不良

## ii) 岩片

岩片としてチャート・砂岩・石英片岩が認められる。

チャート 微量〜きわめて微量で存在し、最大粒径0.40mmの亜角礫状を呈する。隠微品質のものから熱変成を受けて細晶質となったものまであり、いずれも石英の集合体で構成されている。

砂岩 微量〜きわめて微量で存在し、最大粒径0.45mmの亜角礫状を呈する。細粒石英質砂岩である。

石英片岩 微量〜きわめて微量で存在し、最大粒径0.68mmの角礫状を呈する。片理組織が発達した中晶質〜細晶質石英で構成されている。

## iii) 素地鉱物等

石英 微量〜きわめて微量で存在する。粒径0.02mm以下の破片状を呈し、素地中に点在している。

ムライト 微量存在し、主として斜長石中に析出し、素地中では確認されない。長さは最長0.02mmの針状を呈している。

孔隙 中量存在し、粒径2.4mm〜0.1mmまでの不規則形の孔隙が形成されている。素地が加熱溶解して発泡したために生じた孔隙である。

## iv) 素地の性状

顕微鏡下で灰黄色〜褐色を示し、配向性はほとんど認められない。大型の碎屑片に富む砂質粘土で、粘土分が比較的乏しく、淘汰度は中程度〜不良である。本試料は、カリ長石が溶化し、斜長石（曹長石）がムライト化している状況から1200℃程度の被熱であると判定される。

## 2) トリベ (491-68 : 写真 20)

本試料には粗粒の碎屑片が含まれている。鉱物片として石英・カリ長石、岩片としてチャート・石英片岩・花崗岩が認められるほかに、鱗片状緑色鉱物が検出される。

### i) 鉱物片

石英 中量〜少量存在する。最大粒径1.10mmの他形粒状を呈する。大部分の石英粒には加熱変化はみられないが、一部に高温被熱で生成されるクラックが形成されている。

カリ長石 少量で存在し、最大粒径0.66mmの他形粒状または板状を呈する。カリ長石の外縁に沿って微溶化が認められ、リム状にガラスが生成されている。

緑色鉱物 微量で存在し、最大粒径0.10mmの他形粒状を呈し、鱗片状微細鉱物の集合体で構成されている。試料の表面および割れ目に沿って不規則に分布している。粘土質原料に含まれる天然鉱物には該当しない人工的な鉱物で、釉薬あるいは他の塗布物と考えられる。化学分析結果を参照しないと鉱物名は決定されない。

### ii) 岩片

チャート 少量〜微量で存在し、最大3.8mmの亜角礫状を呈する。隠微品質石英の集合体で、放散虫化石痕を有するものと再結晶して細晶質石英集合体となっているものがある。

石英片岩 微量で存在し、最大粒径0.42mmの角礫状を呈する。片理組織が発達した細晶質石英で構成されている。

花崗岩 微量で存在し、粒径0.55mmの亜角礫状を呈する。石英・カリ長石で構成される深成岩の岩片でカリ長石は微溶化している。

### iii) 素地鉱物等

石英 微量で存在し、粒径0.02mm以下の破片状を呈して素地中に点在する。

粘土鉱物 素地を構成する粘土鉱物は完全に非晶質化しているために粘土鉱物を検出することはできない。表面に近い部分の素地には素地が溶融した際に生じた孔隙が認められる。

孔隙 少量～微量で存在する。高温被熱により主としてカリ長石の溶化に伴ってガラス化した部分や素地の一部に最大粒径0.10mm程度の円形の孔隙を生じている。

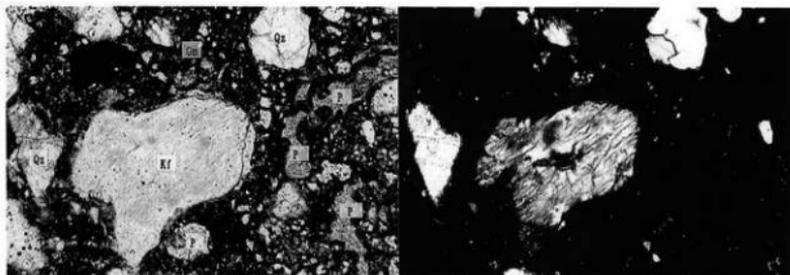


写真19 トリベ胎土薄片 (491-33)

Qz: 石英 Kf: カリ長石 P: 孔隙 Gm: 基質 (写真左は下方ポーラー、写真右は直交ポーラー下)

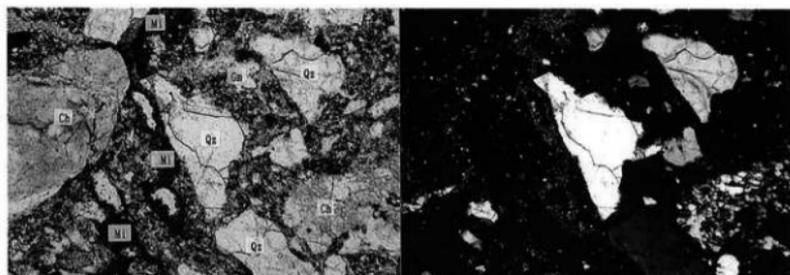


写真20 トリベ胎土薄片 (491-68)

Qz: 石英 Ch: チャート Mi: 緑色鉱物 Gm: 基質 (写真左は下方ポーラー、写真右は直交ポーラー下)

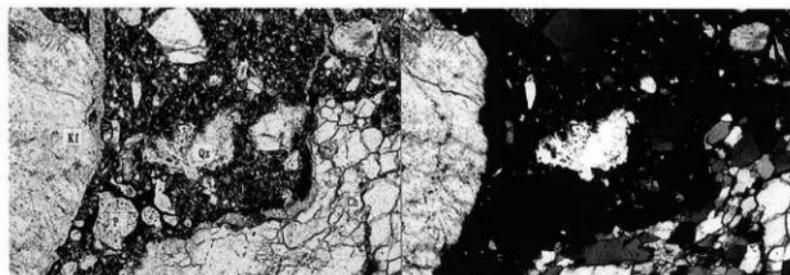


写真21 トリベ胎土薄片 (491-73)

Qz: 石英 Kf: カリ長石 Ch: チャート P: 孔隙 (写真左は下方ポーラー、写真右は直交ポーラー下)

#### iv) 素地の性状

素地の顕微鏡下の色調は濃色～中間調で暗灰色から灰色を呈している。素地の鉱物や碎屑片の配列には配向性は認められない。素地の粘土量は中程度のランクに入るが完全に非晶質化している。大型の岩片や鉱物片を含むために淘汰度は不良と判定される。カリ長石が微溶化していることから1150℃以上に加熱されたことは確実であるが、1150℃を大きく超えることはないかと判定され、1150℃±とした。

#### 3) トリベ (491-73: 写真21)

顕微鏡下で暗灰褐色を呈する。鉱物片として石英・カリ長石・斜長石・斜方輝石・ジルコン、岩片としてチャート・石英片岩・頁岩が認められる。

##### i) 鉱物片

石英 中量～少量存在し、最大粒径1.55mmの他形粒状を呈する。一部の石英粒の内部にクラックが多く形成され、部分熔融組織が観察される。これらは高温加熱による変化と判定される。

カリ長石 少量存在し、最大粒径2.40mmを示す粗粒で他形粒状を呈し、花崗岩を原岩とすることを示唆している。正長石・パーサイトで、大部分は外縁に沿って微溶化現象がみられる。

斜長石 微量で存在し、最大粒径0.15mmの破片状板状を呈する。集片双晶および累帯組織が発達し、加熱変化はみられない。

斜方輝石 きわめて微量で存在し、粒径0.08mmの破片状粒状を呈する。淡緑色を帯びた透明に近い淡色の色調を有し、直消光するが多色性は認められない。

##### ii) 岩片

チャート 微量で存在し、最大粒径1.20mmの角礫状を呈する。隠微晶質石英の集合体で、放散虫化石痕を有するものと、軽度の熱変成作用を受けて再結晶した細晶質石英の集合体で構成されているものがある。

石英片岩 微量で存在し、最大粒径0.90mmの角礫状を呈する。片理組織が発達した細晶質石英で構成されている。

頁岩 微量～きわめて微量で存在し、最大粒径0.80mmの扁平状を呈する。本来セリサイト質粘土鉱物で構成された組織を示すが、高温被熱により非晶質化し脱色している。

##### iii) 素地鉱物

石英 微量で存在し、粒度0.02mm以下の破片状を呈し、素地中に点在している。

粘土鉱物 素地は高温被熱を受けて完全に非晶質化しているために粘土鉱物は検出されない。

酸化鉄 少量～微量で存在し、一部の素地の粒間を充填し、赤鉄鉱で膠結している。一部は筋状に鉱染した産状を示す。

孔隙 少量で存在し、最大粒径1.7mmの不規則形または円形を呈し、一部は割れ目状である。

#### iv) 素地の性状

素地の顕微鏡下の色調は濃色で暗灰褐色を呈している。素地の鉱物や碎屑片の配列には配向性は認められない。素地の粘土量は中程度のランクに入るが完全に非晶質化している。大型の岩片や鉱物片を含むために淘汰度は不良と判定される。試料491-68と同様に、カリ長石が微溶化していることから1150℃以上に加熱されたことは確実であるが、1150℃を大きく超えることはないかと判定され、1150℃±とした。

#### ②蛍光X線分析

分析結果を表71に示す。3点の試料は、ともにSiO<sub>2</sub>が最も多く、40～60%を占める。次いで多いのは

試料 491-33 と 491-73 では  $Al_2O_3$  であり、13～18%程度含まれる。試料 491-68 でも  $Al_2O_3$  は同量程度含まれるものの、 $CuO$  が約20%も含まれており、 $SiO_2$  に次いで  $CuO$  が多い成分となっている。他の2点における  $CuO$  の含量も比較的高く、試料 491-33 では  $Fe_2O_3$  に次いで多く、試料 491-73 では  $Al_2O_3$  に次いで多い。さらに、試料 491-33 で多く含まれる  $Fe_2O_3$  も、他の試料中でも比較的多く含まれる。他に3点の試料で比較的多く含まれる成分は、 $P_2O_5$ 、 $SO_3$ 、 $K_2O$ 、 $CaO$  の各成分である。また、各試料ともに微量ではあるが  $Ag_2O$  が検出されたことも注目される。

### (3) 考察

#### 1) 被熱温度の推定

一般に粘土を高温で加熱すると、その温度条件と化学組成に対応した鉱物の晶出(代表的な鉱物はムライト)、熔融・非晶質化などの現象がみられる。観察試料では、加熱温度の推定に次の現象について検討して指針として適用した。

- i) 角閃石が酸化角閃石に変化している試料は800℃以上の加熱を受けている。
- ii) 素地を構成する主要粘土鉱物のセリサイトが加熱変化を受けていない試料の焼成温度は900℃+と推定される。
- iii) 粘土鉱物の一種であるセリサイトの一部は加熱変化を受けて非晶質化しているが、大部分は残留している状態を900℃±の焼成温度と推定する。
- iv) セリサイトの大部分は加熱変化を受けて非晶質化しているが、石英・長石類に加熱変化がみられない試料の焼成温度は900℃+と見積もる。
- v) セリサイトは加熱により非晶質化しているが、石英・長石類にあまり加熱変化がみられない試料の焼成温度は1150℃-と推定される。
- vi) 石英に高温加熱で生じたクラック(高温クラック)がみられ、カリ長石の周縁部が微溶化している状態の試料の焼成温度は1150℃±と推定される。
- vii) 石英に高温クラックと熔融組織がみられ、カリ長石に顕著な熔融組織が認められるが、曹長石のムライト化は明瞭ではない試料の焼成温度は1150～1200℃と推定される。
- viii) ムライトの生成が褐色リムまたは短針状で顕在化した試料の加熱温度を1200℃±と推定する。
- ix) 針状ムライトが粗に生成している試料は1200～1250℃の焼成温度と見積もられる。
- x) 針状ムライトが密に生成する試料は1250℃+の焼成温度と見積もられる。

上記の基準に従えば、491-33 はviii) 段階で1200℃±、491-68 と 491-73 はvi) の段階で1150℃±の被熱温度と判定される。

#### 2) 付着物について

結果の項で多く含まれると指摘した付着物の成分のうち、 $SiO_2$ 、 $Al_2O_3$ 、 $K_2O$ 、 $CaO$  は、おそらくトリベの胎土を構成している鉱物片や岩片および素地などに由来すると考えられる。また、 $Fe_2O_3$  は胎土に由来するとも考えられるが、各試料ともに胎土中に認められる鉱物片や岩片に鉄の多く含まれる種類は認めら

表 71 トリベ付着物の  
化学組成 (単位: %)

化学成分	試料名		
	491-33	491-68	491-73
$Na_2O$	0.155	0.115	0.189
$MgO$	0.231	0.199	0.382
$Al_2O_3$	18.335	13.664	12.572
$SiO_2$	42.957	49.667	63.656
$P_2O_5$	3.228	1.070	0.502
$SO_3$	3.897	5.424	0.117
Cl	0.126	0.169	0.044
$K_2O$	2.426	2.193	4.385
$CaO$	4.476	1.102	3.280
$TiO_2$	0.657	0.489	0.462
$Cr_2O_3$	0.062	0.127	0.104
$MnO$	0.057	0.095	0.152
$Fe_2O_3$	15.652	5.434	3.804
$NiO$	0.040	0.047	0.013
$CuO$	6.374	19.667	9.743
$ZnO$	0.651	0.063	0.011
$As_2O_3$	0.137	0.267	0.080
$SrO$	0.020	0.010	0.017
$ZrO_2$	-	-	0.016
$MoO_3$	-	0.029	0.040
$Ag_2O$	0.032	0.050	0.008
$SaO_2$	-	-	0.133
$BaO$	0.194	0.049	0.131
$PbO$	0.292	0.070	0.156

れず、また素地にも酸化鉄などが多く含まれる状況は認められない。

したがって、胎土に由来する鉄分以外の鉄分が付加されている可能性がある。そして、CuOについては、胎土に由来するものではなく、明らかに付着物に由来するものであるといえる。

薄片観察により、トリベの表面が溶融し発泡している状況が認められ、また1200℃に近い高温を受けていることなども考慮すると、トリベの付着物は鉄または銅が溶融したものとトリベの表面が溶けたものが混在した物質であるといえる。したがって、トリベは鉄製品や銅製品を製作・加工する際に使用した道具である可能性が高い。

#### 4. 地金の分析—大坂城出土銅板の金属学的調査 大澤正己・鈴木瑞穂

大坂城跡の発掘調査でトリベと共伴して出土した地金様の銅板2点の金属学的調査を実施した。

##### (1) 調査方法

###### ① 供試材

表72に示す。地金様の銅板2点の調査である。

###### ② 調査方法

###### 1) 肉眼観察

遺物の肉眼観察所見。これらの所見をもとに分析試料採取位置を決定する。

###### 2) 顕微鏡組織

切り出した試料をペークライト樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000と順を追って研磨し、最後は被研磨面をダイヤモンド粒子の3μと1μで仕上げた後光学顕微鏡観察を行った。なお、銅は10%過硫酸アンモニウムで腐食(Etching)している。

###### 3) ビッカース断面硬度

金属銅の組織同定を目的として、ビッカース断面硬度計(Vickers Hardness Tester)を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除いた商を硬度値としている。試料は顕微鏡を用いた。

###### 4) CMA(Computer Aided X-Ray Micro Analyzer)調査

EPMA(Electron Probe Micro Analyzer)にコンピューターを内蔵させた新鋭分析機器である。旧式装置は別名X線マイクロアナライザーとも呼ばれる。分析の原理は、真空中で試料面(顕微鏡試料併用)に電子線を照射し、発生する特性X線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。さらに標準試料とX線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理してデータ解析を行う方法である。化学分析を行えない微量試料や鉱物組織の微小域の組織同定が可能である。

##### (2) 調査結果

###### ①地金1(板状銅地金)

###### 1) 肉眼観察

平面不整長方形状でごく薄い板状(板厚0.2~0.4mmの変動を持つ)の試料である。表面は錆化しているが、わずかに赤銅色の光沢がある個所がみられ、銅関連の遺物と考えられる。側面は直線状でなく不規則に緩やかな曲線状を呈する。表面は僅

表72 供試材の履歴と調査項目

試料名	遺物形状	計測値		メタル度	調査項目		
		大きさ (mm)	重量 (g)		顕微鏡 組織	ビッカース 断面硬度	CMA
地金1	板状銅地金	26×15×0.3	1.0	L(●)	○	○	○
地金2	不定形銅地金	23×21×1.3	2.4	L(●)	○	○	○

かに凸凹が認められる。鋸打ち痕であろうか。

## 2) 顕微鏡組織

写真22～24に示す。10%過硫酸アンモニウムで腐食 (Etching) して表れた組織である。ほぼ再結晶を完了させて双晶を伴う多角形結晶 (α相) が認められる。このことから鍛造 (冷間加工) 後、焼きなまし処理を施したものと推定される。現状の薄板様に展伸する程度のごく弱い加工痕跡といえよう。また、小球状の介在物は酸化銅 (Cu<sub>2</sub>O) である。

## 3) ビッカース断面硬度

写真22-③に銅素地の硬度測定の際の圧痕を示す。硬度値は109Hvであった。常温加工後の焼鈍を施した材質としては妥当な値と考えられる。

## 4) CMA 調査

銅素地部分の高速定性分析結果を図167に示す。A-Rankで検出された元素は銅 (Cu)、燐 (P)、硫黄 (S)、酸素 (O) であった。また、酸化物及び偏析夾雑物の高速定性分析結果を図168に示す。A-Rankで検出された元素は銅 (Cu)、錫 (Sn)、硫黄 (S)、酸素 (O) であった。

この高速定性分析結果を視覚化した面分析の特性X線像と定量分析値が写真23である。COMP (反射電子像) に1の番号をつけた素地部分の定量分析値は99.5%Cuであった。純銅である。また、1'の番号をつけた個所の定量分析値は70.9%CuO-26.9%SnO<sub>2</sub>-1.2%PbOであった。錫の人為的な添加があったか否かが問題であるが、素地部分に錫の固溶が認められないことから人為的な添加ではないと考えられる。原料鉱石に帰属する不純物としての錫 (Sn) と鉛 (Pb) の偏析個所といえよう。2'の番号をつけた個所の定量分析値は99.3%CuOであった。酸化銅 (Cu<sub>2</sub>O) に同定される。

## ②地金2 (不定形銅地金)

### 1) 肉眼観察

地金1と同様に表面は錆化しているが、僅かに赤銅色の光沢がある個所がみられ、銅関連の遺物と考えられる。薄い板状のもの (1.3mm厚み) を鑿で切断後、軽く曲げた形状の不定形の試料である。特に円弧状の内側の縁部は切断痕が顕著に認められる。製品作製時に派生した切り屑であろうか。

### 2) 顕微鏡組織

写真22-④～⑥に示す。④は腐食 (Etching) なしの状態で、鍛打によりやや展伸した形状の酸化物及び偏析夾雑物が多数認められる。⑤～⑥は10%過硫酸アンモニウムで腐食 (Etching) して表れた組織である。⑤⑦では腐食 (Etching) により層状に凹凸が生じている。これはマイクロ偏析であり、繰り返し鍛造 (冷間加工) をうけた痕跡といえる。また⑥は⑤の拡大である。再結晶化しており、焼きなましが行われたものと考えられる。

### 3) ビッカース断面硬度

写真22-⑥に硬度測定の際の圧痕を示す。硬度値は96Hvであった。常温加工後の焼鈍を施した材質として妥当な値といえる。

### 4) CMA 調査

銅素地部分の高速定性分析結果を図169に示す。A-Rankで検出された元素は銅 (Cu)、燐 (P)、硫黄 (S)、酸素 (O) であった。また、酸化物及び偏析夾雑物の高速定性分析結果を図170に示す。A-Rankで検出された元素は銅 (Cu)、鉛 (Pb)、硫黄 (S)、砒素 (As)、酸素 (O) であった。

この高速定性分析結果を視覚化した面分析の特性X線像と定量分析値が写真24である。COMP (反射電

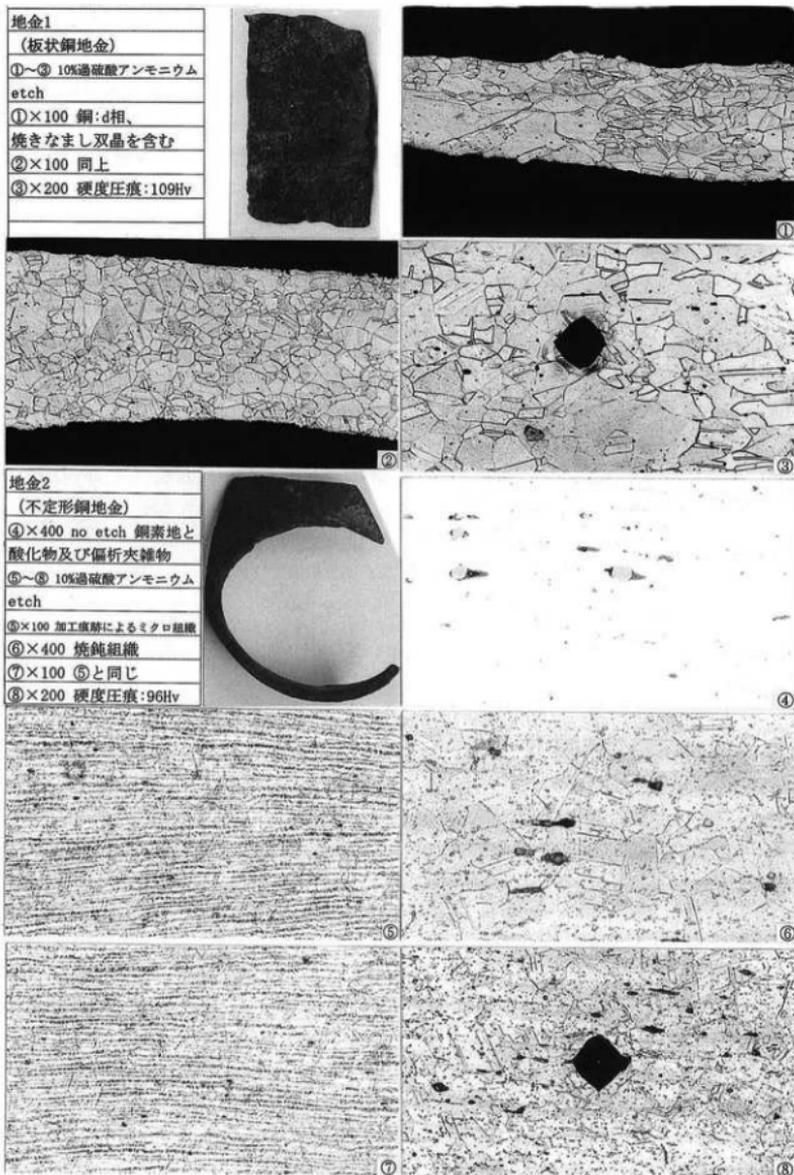


写真 22 地金 1・2 の顕微鏡組織

子像)に2の番号をつけた素地部分の定量分析値は99.0%Cuであった。これも純銅とみなされよう。また3'の番号をつけた個所の定量分析値は99.3%Cu0であった。酸化銅(Cu<sub>2</sub>O)に同定される。そして4'の番号をつけた個所の定量分析値は21.1%Cu0-44.2%Pb0-34.1%As<sub>2</sub>O<sub>3</sub>であった。鉛(Pb)と砒素(As)の偏析個所であった。これらはやはり人為的な添加というより原料の鉱石等に由来する脈石の可能性が考えられる。

### (3) まとめ

2点の地金様遺物の鉱物相は、2点とも軟らかく延性が高い多角形結晶のα相のみで構成され、純銅であった。地金1には錫(Sn)の、地金2には鉛(Pb)と砒素(As)の偏析個所が認められる。これらは原料鉱石からの由来が考えられ、その成分系の違いから原料鉱石の産地が異なる可能性がある。

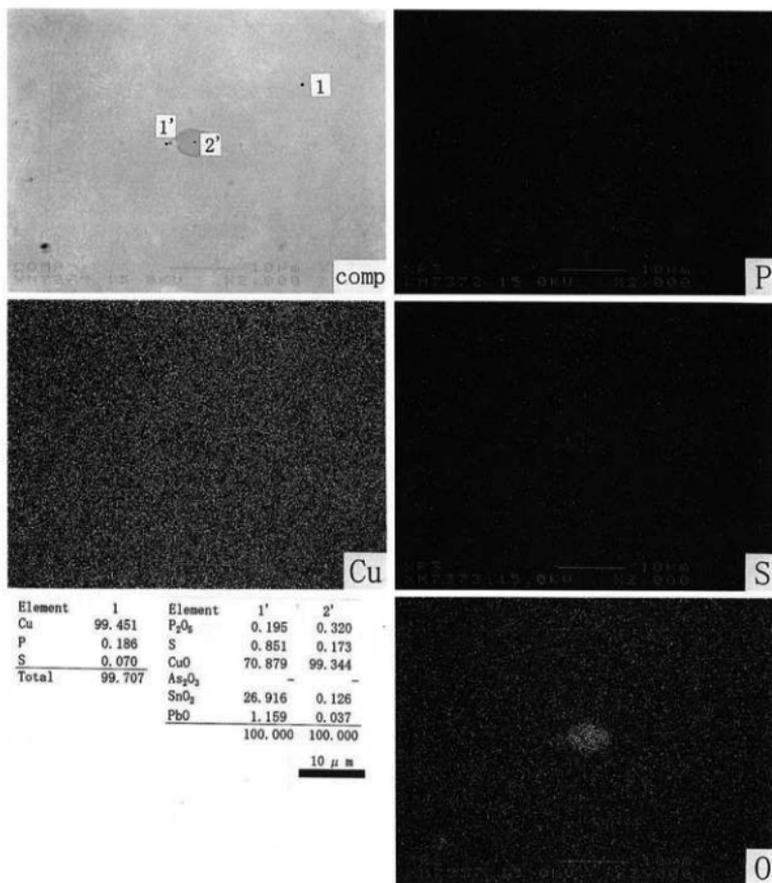


写真23 地金1銅素地及び酸化物と偏析夾雑物の特性X線像と定量分析値

また、地金1・2ともに鍛造（冷間加工）後、焼鈍を施しているが、加工度の強弱が組織から明らかになった。地金1がごく弱い鍛打痕跡を留めるのみであるのに対し、地金2は繰り返し折り曲げ鍛接の結果としてマイクロ偏析が顕著に認められる。

## 5. まとめ

トリベの付着物は、成分分析の結果から、鉄および銅が溶けたものとトリベ表面の胎土との混合物である可能性が高い。とくに試料491-68の付着物は銅の含量が高い。一方、これらのトリベと同時期とされる金属製品は、鍛造痕跡の認められる鈍銅製品であった。このような遺物の出土は、豊臣大坂城時代の城下町に金属製品を製作加工する工房のような施設があったことを示唆する。

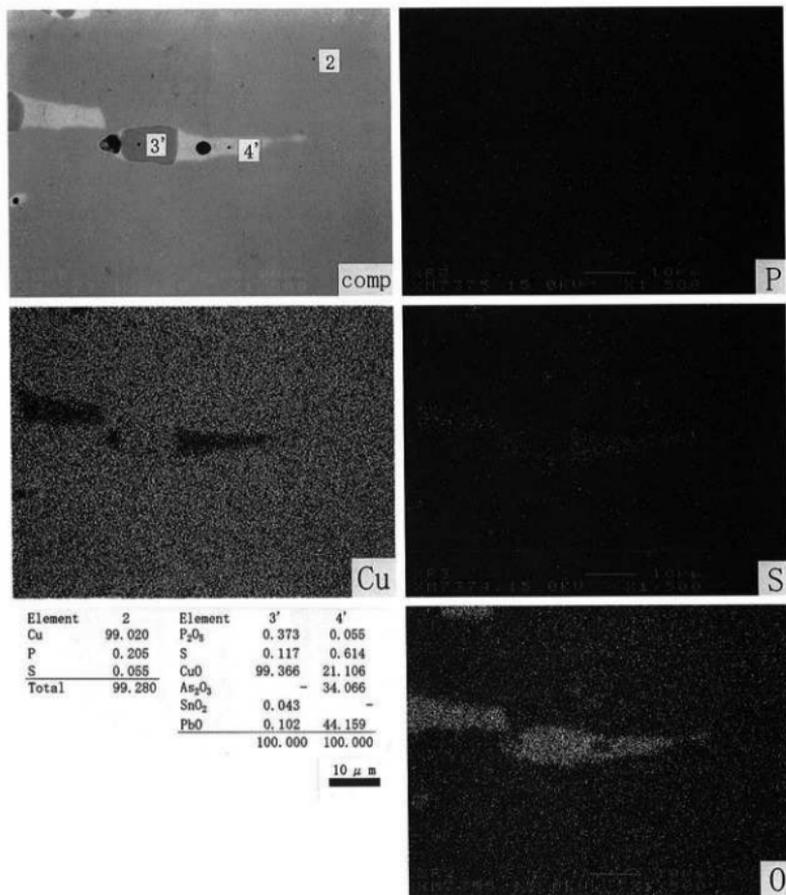


写真24 地金2 銅素地及び酸化物と偏析夾雑物の特性X線像と定量分析値

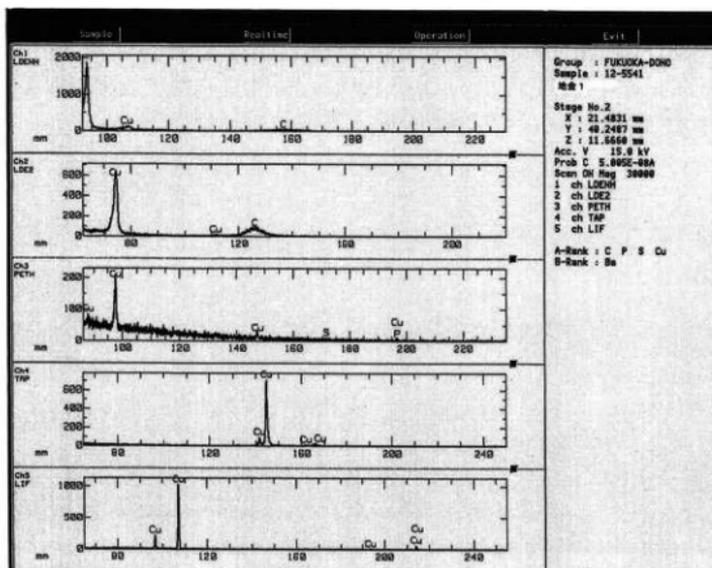
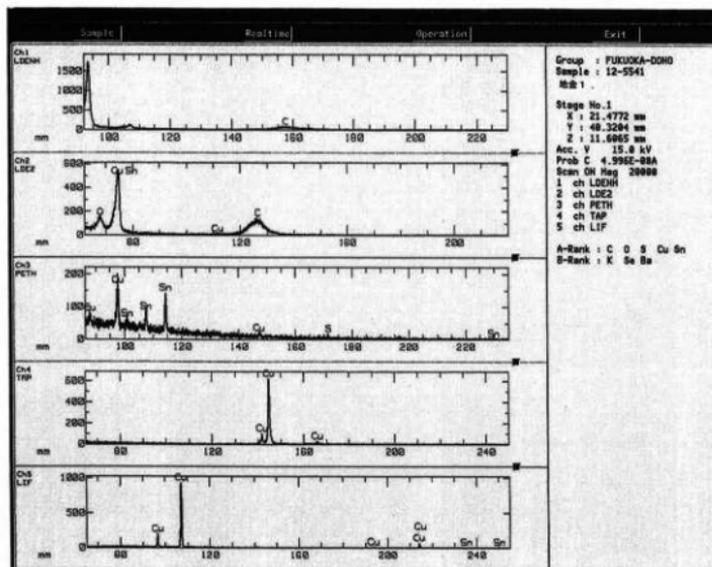


図167 地金1銅素地と偏析夾雜物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果

図168 地金1酸化銅と偏析夾雜物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果  
(写真23に対応)

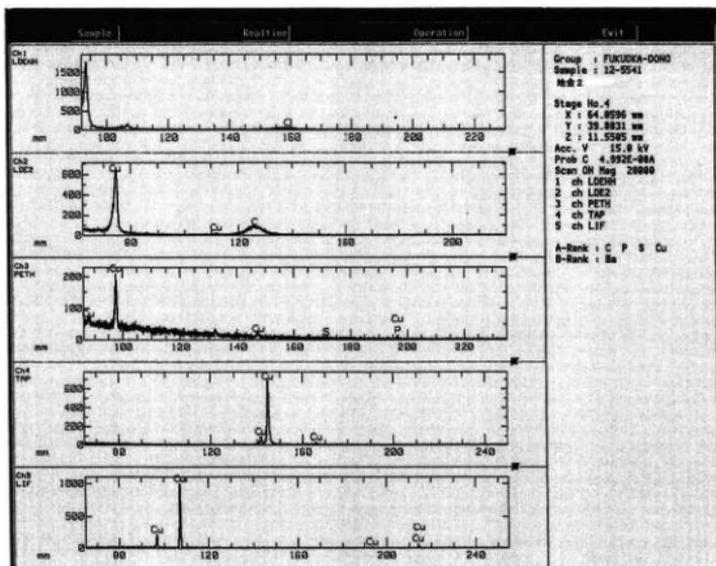


図 169 地金 2 銅素地と偏析夾雑物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果

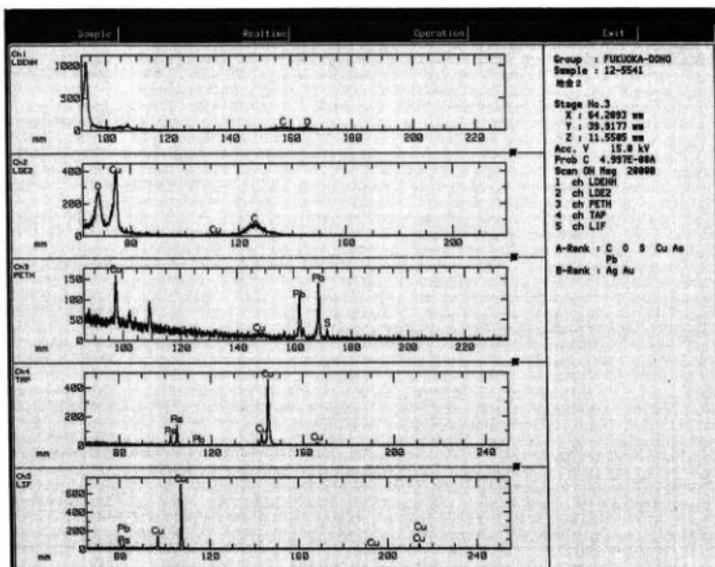


図 170 地金 2 酸化物と偏析夾雑物のコンピュータプログラムによる高速定性分析結果

(写真 24 に対応)

## 第3節 7B地区谷部16層等検出の石材鑑定

田結庄良昭 (神戸大学発達科学部)

佐藤隆春 (大阪市立大学理学部)

## 1. はじめに

本遺跡の7B地区16層において検出した集石遺構1・2出土の石材を中心にその岩石学特徴とそれをもとに産地を推定した。鑑定した石材の概略は表73に示した通りであり、また、鑑定対象とした石材は図171に示した。

## (1) 集石遺構1-No.6 (花崗岩)

この花崗岩はカリ長石がピンク色の特徴を有しており、領家帯の花崗岩類は灰色のカリ長石をもつのに対し、山陽帯の花崗岩の多くはピンクのカリ長石を有し、山陽帯の花崗岩類の可能性をもっている。はっきりとした場所は断定できないが、中粒から細粒で、等粒状組織をなすことや粒状の石英、散点状に産する黒雲母を有すること、化学組成が高いSiO<sub>2</sub>と低いCaOなどの特徴からみて、おそらく能勢山地の剣尾山あるいは妙見山から運ばれたものであると思われる。また、剣尾山には近畿地方では珍しくたくさんの石切場を有し、現在も稼働していることから、可能性が高い。

## (2) 集石遺構1-No.16 (斑レイ岩)

このサンプルは角閃石と斜長石を主とする角閃石斑レイ岩である。角閃石は褐色で、他形で、領家帯の斑レイ岩類、特に生駒山斑レイ岩類の特徴を有している。また、斜長石は自形で、累帯構造がなく、全体に集積構造を有することなどから生駒山斑レイ岩類の中で、角閃石斑レイ岩に属する。また、全岩化学分析値(表74)からも生駒山の斑レイ岩に似る(表75)。なお、ややK<sub>2</sub>Oが高く、CaOが低いが、岩相変化であろう。

## (3) 集石遺構1-No.19 (斑レイ岩)

このサンプルの主な構成鉱物は斜長石、角閃石、斜方輝石からなり、輝石-角閃石-斑レイノーライトに分類される。角閃石が他形、褐色であること、斜長石が自形、累帯構造がなく、輝石は角閃石の核部に産することなどから、領家

帯の斑レイ岩類に特徴的なノーライトである。化学組成はSiO<sub>2</sub>が低く、塩基性岩に属し、高いMgO、FeOを有し、生駒山の生駒山斑レイ岩の特徴をもつ(表75)。

なお、やや、K<sub>2</sub>OやNa<sub>2</sub>Oが高いが、岩相の変化であろう。これら顕微鏡下での特徴および全岩化学分析値(表74)から生駒山に産する輝石-角閃石-斑レイノーライトであると

表73 石材鑑定結果一覧

石材番号	岩石名	推定産地(〃は可能性が高い場合)
集石遺構1-No.6	花崗岩	剣尾山・妙見山
集石遺構1-No.16	角閃石斑レイ岩	生駒山
集石遺構1-No.19	輝石角閃石斑レイ岩	生駒山
集石遺構1-No.20	中粒黒雲母花崗岩	剣尾山・妙見山
集石遺構1-No.26	細粒斑状角閃石黒雲母花崗岩	妙見山
集石遺構2-No.36	中粒黒雲母花崗岩	六甲山
集石遺構2-No.37	細粒角閃石斑レイ岩	生駒山
集石遺構2-No.46	粗粒花崗岩	滋賀県田上山、比良山
集石遺構2-No.50	文象斑岩	能勢 三草山
集石遺構2-No.51	文象斑岩	能勢 三草山
16層-No.1	輝石安山岩	能勢山地、龍坊温泉付近
14~16層-No.2	溶結凝灰岩	室生(奈良・三重県)
16層-No.3	輝石安山岩	亀の瀬(柏原市・王寺町)
豊臣大坂城礎石	花崗岩	生駒山鳴川、笠置地域

思われる(表75)。

(4) 集石遺構 1 - No. 20 (花崗岩)

このサンプルは中粒の黒雲母花崗岩で、半自形等粒状組織をなす。主な構成鉱物は石英・斜長石・カリ長石・黒雲母である。カリ長石が薄いピンク色をし、パーサイト組織が顕著である。また、黒雲母が半自形、散点状であり、石英が粒状で波動消光やサブグレイン化がみられないこと、さらに斜長石は弱い累帯構造をもち、核部の綿雲母化がみられるなど、山陽帯の特徴をもつ。これら、粒状の石英とピンクのカリ長石などの肉眼鑑定と顕微鏡観察から、この花崗岩は山陽帯の花崗岩で、能勢山地の剣尾山あるいは妙見山から採取されたものと酷似する。

(5) 集石遺構 1 - No. 26 (花崗岩)

このサンプルは細粒で、一部カリ長石の斑晶を含む弱い斑状組織をなす。また、領家帯特有の片麻状構造や片状組織はなく塊状組織である。カリ長石はピンク色で、さらにパーサイト組織が発達する。黒雲母は弱い緑泥石を示す。石英の一部は集斑状をなし、波動消光はみられない。このようなカリ長石斑晶を含む、細粒状組織を示すものは、能勢、妙見岩体の細粒斑状角閃石含有黒雲母花崗岩と類似したものである。このような肉眼、顕微鏡観察結果から、この岩石は山陽帯に属する妙見岩体の周縁部を構成する花崗岩に比較される。

(6) 集石遺構 2 - No. 36 (花崗岩)

このサンプルは中粒の黒雲母花崗岩で、構成鉱物は石英・斜長石・カリ長石・黒雲母で、角閃石を含まない。等粒状組織をもち、カリ長石がピンクで、パーサイトが顕著で、斜長石が半自形、核部の白濁化などの特徴は六甲山の花崗岩類に似る。また、チタン鉄鉱を含む点も酷似する。化学組成は高い $SiO_2$ 、 $K_2O$ 、低い $MgO$ や $CaO$ を示し、六甲山の花崗岩類と似ている。これら肉眼および顕微鏡下での特徴と全岩化学分析値(表74)から推測するとNo.36は六甲山花崗岩であると思われる(表77)。

(7) 集石遺構 2 - No. 37 (斑レイ岩)

このサンプルは優黒色で、褐色の角閃石を有し、しかも角閃石は他形、斜長石は自形、累帯構造は弱い。これら特徴は集積岩の特徴をもち、領家帯斑レイ岩類の特徴を有する。この岩石は生駒山斑レイ岩に少量産する細粒角閃石斑レイ岩に似ている。また、化学組成は $SiO_2$ が低く、高い $FeO$ 、 $MgO$ や低い $K_2O$ など、生駒山斑レイ岩のそれに類似する。顕微鏡下での特徴、鉱物組み合わせおよび全岩化学分析値(表

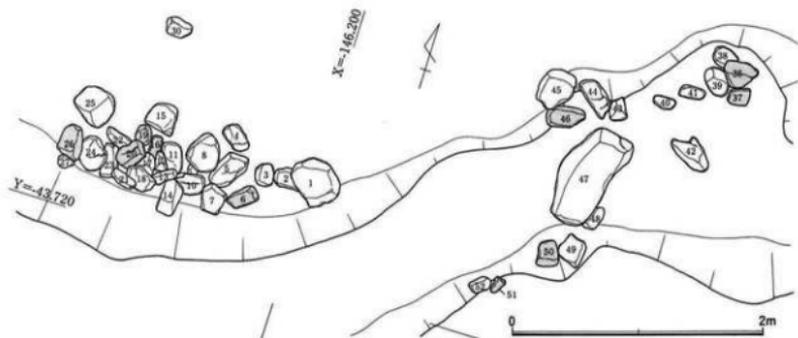


図 171 集石遺構 1・2における鑑定対象石材(トーンをかけた石材)

74) から生駒山に産する細粒角閃石斑レイ岩であると思われる(表76)。

(8) 集石遺構2 - No.46 (花崗岩)

この岩石は優白質な粗粒花崗岩である。粒状組織で、片麻状構造や片状構造がなく、塊状で、石英が集斑状をなしており、山陽帯の花崗岩に比較される。

また、カリ長石がピンクで、結晶周縁部が他形の特徴を有する。この肉眼の特徴は、滋賀県上山や比良山の花崗岩に酷似し、これら花崗岩に対比される。

(9) 集石遺構2 - No.50・51 (文象斑岩)

このサンプルは細粒で、石英とカリ長石が連晶する微文象構造をなす。この構造は石英とカリ長石の同時結晶で形成される。このような文象斑岩の産出はきわめて珍しく、近畿地方では唯一、能勢の三草山複合花崗岩体中の文象斑岩に対比される。このようなサブボルカニックな特徴、すなわちマグマからの急冷生成物は上記の三草山複合花崗岩体以外あり得ない。

(10) 16層 - No.1 (安山岩)

この試料は拍子木状の斜長石とごく少量の輝石を有する火山岩、しかも安山岩溶岩である。石基は緻密で、ガラスは変質してみられず、年代は比較的古いものである。また、まれに石英の捕獲結晶を有する場合がある。斜長石は方向性を有し、流理構造をもつ。この特徴、とくに、石英の捕獲結晶や斜長石の流理構造は、能勢山地の奥、籠坊温泉付近に少量産する安山岩によく似ており、対比が可能である。

(11) 14～16層 - No.2 (登録番号793)

石英・長石・黒雲母の斑晶を含む溶結凝灰岩である。明瞭ではないが溶結レンズが肉眼でも確認される溶結凝灰岩である。類似の溶結凝灰岩は奈良県から三重県に分布する室生火砕流堆積物(溶結凝灰岩)である(表78)。化学組成も $K_2O$ 含有量が高いなど、類似する。顕微鏡で観察すると、黒雲母に微細な不透明鉱物が生じている。この特徴を示すものは三重県名張市西方の笠間地域および、南の赤目南部で確認している。

(12) 16層 - No.3 (登録番号2286)

輝石斑晶をもつ安山岩の溶岩である。変質などはみられず、新生代のものと推定される。化学組成は $SiO_2$  60.62%に対し、 $MgO$  5.48%とマグネシウムに富む。この特徴は約1500万年前に活動した瀬戸内火山岩類にしばしばみられる。本遺跡に近い産地には柏原市・奈良県王寺町の大和川北域(亀の瀬)があげられる。しかし、亀の瀬の安山岩に輝石の反応縁を確認されておらず、他の産地の可能性もある。また、大阪・奈良府県境の二上山の畑火山岩、寺山火山岩にも輝石を含む火山岩があるが、前者は角閃石、後者は黒雲母と石英斑晶を含む点で本石材と異なる。なお、板状節理と輝石斑晶を含む特徴から、本石材が鉄平石(長野県霧ヶ峰火山)である可能性を検討したが、輝石斑晶がやや小さい、化学組成が $CaO$ に乏しく、 $MgO$ に富むなどの点で異なる(表79)。

(13) 豊臣大坂城礎石 (花崗岩)

主な構成鉱物は斜長石、石英、カリ長石、黒雲母である。粗粒～中粒で、等粒状組織をなす。黒雲母が弱い定方向配列をなす、片状組織を示す。このような組織は山陽帯ではみられず、領家帯の特徴、特に新期花崗岩の特徴をなす。

石英は弱いサブグレイ化をなし、斜長石は累帯構造が弱い。このような特徴は領家帯で最も広く分布する柳生花崗岩に似ており、笠置や奈良、生駒山周辺の花崗岩に比較される。産地は生駒山鳴川周辺の可能性が高い。

## 2. 岩石記載 (肉眼鑑定)

### (1) 集石遺構 1 - No. 6 (花崗岩)

構成鉱物；石英・斜長石・カリ長石・黒雲母

細粒の花崗岩で、全体的にみると灰色を示す。石英と黒雲母は1mm以下のものが多い。斜長石は白色を呈し、大きいもので5mmに達する。カリ長石はピンク色で3mm程度の大きさである。黒雲母は散点状に産する。

### (2) 集石遺構 1 - No. 16 (斑レイ岩)

構成鉱物；斜長石・角閃石

優黒色で、角閃石は6mm程の大きさの、ポイキロ斑晶をなすものみられる。

斜長石は白色で3mm程度の大きさを示す。典型的な角閃石斑レイ岩である。

### (3) 集石遺構 1 - No. 19 (斑レイ岩)

構成鉱物；斜方輝石・角閃石・黒雲母・斜長石

優黒色で、有色鉱物が多いが、斜長石が濃集する部分のみみられ、弱い層状組織をなす部分のみみられる。

### (4) 集石遺構 1 - No. 20 (花崗岩)

構成鉱物；石英・斜長石・カリ長石・黒雲母

石英は5mm以下のものも多く、灰色を示す。斜長石は白濁色をなすが、変質しているものは淡褐色である。カリ長石はピンク色で3mm程度の大きさのものが多い。黒雲母は集合して、クロットをなし、5mmに達するものもある。

### (5) 集石遺構 1 - No. 26 (花崗岩)

構成鉱物；石英・斜長石・カリ長石・黒雲母・角閃石

優白質で一部カリ長石の斑晶を含む花崗岩である。石英は3mm以下で結晶粒子が丸い形状で、時に集斑晶をなす。斜長石は1mm以下のものも多く、白色を呈する。カリ長石はピンク色で、4mm程度のものもある。黒雲母は3mm程度で角閃石とクロットをなす。角閃石は1mm以下の細粒結晶である。

### (6) 集石遺構 2 - No. 36 (花崗岩)

構成鉱物；石英・斜長石・カリ長石・黒雲母

優白質の中粒花崗岩で、石英は5mm以下の大きさと灰色を示す。斜長石は白色で大きさは2mm程度、カリ長石はピンク色で5mmに達する、大きなものもある。黒雲母は2mm程度の大きさと散点状である。

### (7) 集石遺構 2 - No. 37 (斑レイ岩)

構成鉱物；斜方輝石・角閃石・斜長石

細粒で、優黒色の輝緑岩様岩石。斜長石、角閃石と少量の小型輝石からなる。どちらも1mm以下の細粒な鉱物である。斑晶は含まれていない。

### (8) 集石遺構 2 - No. 46 (花崗岩)

構成鉱物；石英・カリ長石・斜長石・黒雲母

優白質の粗粒花崗岩。石英は5mm以下の大きさと灰色を示す。カリ長石は3mm程度のものも多く、ピンク色で、石英と同量程度含まれる。斜長石は2mm以下で、他の鉱物と比べ容量が少ない。黒雲母は3mm程度のものが散点して産する。

### (9) 集石遺構 2 - No. 50・51 (花崗岩)

構成鉱物；石英・斜長石・カリ長石・黒雲母

優白質の細粒で、文象組織を持つ花崗岩。カリ長石と石英が多いため、白乳色が強い。石英・斜長石・

カリ長石・黒雲母は1mm以下の細粒な岩石である。石英は丸い形状を示すものが多い。斜長石は少ない。黒雲母は散点状に分布している。

(10) 16層-No.1 (安山岩)

構成鉱物；斜方輝石・斜長石

石基部分は灰色を示し、斑晶として斜長石、黒雲母、輝石を含む。斑晶の大きさは3mm以下で楕円状の形態をしている。斑晶に流状組織が認められる。

(11) 14～16層-No.2 (登録番号793)

溶結凝灰岩；高温型石英、長石、黒雲母と少量のザクロ石が含まれる。いずれも結晶粒の直径は1～2mmであるが、石英は最大5mmに達する。風化の影響で石英はやや黄色に、長石は褐黄色となる。石基は灰色で微晶質である。結晶量が多く、石基は少ない。2cm厚の平板状の形態は、板状節理によるものと判断される。

(12) 16層-No.3 (登録番号2286)

輝石安山岩；0.5～1mmの輝石、長石を含む。石基は暗灰色で緻密である。1cm厚の平板状の形態は、板状節理によるものと判断される。平板の表面から1mm程度風化により、灰白色を呈する。

(13) 豊臣大坂城礎石 (花崗岩)

構成鉱物；石英・斜長石・カリ長石・黒雲母

優白質の中粒薄片状花崗岩。7mm程度のカリ長石斑晶が見られ、白濁色を呈する。内部に1mm以下の黒雲母を有する。斜長石は白色を呈し、風化した部分は茶褐色となっている。黒雲母の弱い定向配列が認められる。

### 3. 顕微鏡記載

(1) 集石遺構1-No.6 (花崗岩)

構成鉱物；石英・斜長石・カリ長石・黒雲母

黒雲母は変質が激しく、緑泥石化している。一部、クロットをなす。カリ長石は他形、間隙充填型、カオリンなどの粘土化が激しい。石英は粒状、一部間隙充填型で弱くサブグレン化している。斜長石は半自形でアルバイト双晶が認められ、弱い累帯構造が認められる。全体に風化が著しい。

(2) 集石遺構1-No.16 (斑レイ岩)

構成鉱物；斜長石・角閃石

斜長石はアルバイト双晶が顕著であり、累帯構造はほとんど認められない。角閃石は茶色と無色のものが認められるが、無色のものは角閃石結晶の中心部で輝石が分解して生じたものである。茶色のものは結晶の周縁部にみられる。

(3) 集石遺構1-No.19 (斑レイ岩)

構成鉱物；斜方輝石・角閃石・黒雲母・斜長石

斜長石はアルバイト双晶が顕著であり、累帯構造は認められない。角閃石は茶色であり、少量であるが斜方輝石と黒雲母が認められる。斜方輝石はレリックであり、黒雲母は花崗岩の影響で後でできたものである。

(4) 集石遺構1-No.20 (花崗岩)

構成鉱物；石英・斜長石・カリ長石・黒雲母・スフェーン

斜長石はアルバイト双晶、弱い累帯構造が認められ、絹雲母化が著しい。石英はサブグレン化しており、カリ長石は間隙充填型で、格子状の微斜長石構造が認められる。黒雲母は半自形から他形で緑泥石

化している。副成分鉱物として、スフェーンも認められる。

(5) 集石遺構 1 - No. 26 (花崗岩)

構成鉱物；石英・斜長石・カリ長石・黒雲母・角閃石

カリ長石はポイキロ斑晶をなし、大型をなす。パーサイト、カールスバド双晶が顕著に認められる。角閃石、黒雲母はクロットをなす。石英は粒状で、一部、間隙充填型である。斜長石は半自形でアルバイト双晶が認められる。

(6) 集石遺構 2 - No. 36 (花崗岩)

構成鉱物；石英・斜長石・カリ長石・黒雲母

カリ長石は3mmほどのものが多く、弱いパーサイトが認められる。斜長石は半自形でアルバイト双晶が認められ、累帯構造もみられる。石英は0.2mmほどの粒状のものが多く、4mm前後の大型結晶もみられる。黒雲母は緑泥石化している。

(7) 集石遺構 2 - No. 37 (斑レイ岩)

構成鉱物；斜方輝石・角閃石・斜長石

等粒状で、0.2mm前後の細粒斑レイ岩。斜長石はアルバイト双晶が顕著で、累帯構造をもたない。角閃石は他形で、茶色で斜方輝石とクロットで産する。斜方輝石は角閃石の核部に産する。

(8) 集石遺構 2 - No. 50・51 (花崗岩)

構成鉱物；石英・斜長石・カリ長石・黒雲母

黒雲母は0.1mm程度で一方向に長い針状のものがみられ、散点状である。斜長石は少なく、0.5mm前後で半自形～自形、アルバイト双晶が認められる。カリ長石と石英の文象構造が認められる。これらのことは急冷生成物であることを示している。

(9) 16層 - No. 1 (安山岩)

構成鉱物；斜方輝石・斜長石

石基部分は針状の斜長石からなり、時に流状組織をなす。斑晶は斜長石と斜方輝石からなる。斑晶は融食しており、角がとれて丸みを帯びている。また石基と斑晶の長軸方向に定向性が認められる。なお、まれに石英の捕獲結晶がみられる。

(10) 14～16層 - No. 2 (登録番号 793)

溶結凝灰岩；長石・石英・黒雲母の結晶を含む。

ユークシティック構造がみられる。基質のガラスは微細な鉱物に置換されている。カリ長石の破片がふくまれる。黒雲母は自形を示し、一部鉄鉱物が生成している。

(11) 16層 - No. 3 (登録番号 2286)

輝石安山岩；構成鉱物；斜方輝石（シソ輝石）・単斜輝石・斜長石

石基は長柱状の斜長石、輝石とその間を微細な長石などが埋める、塊間状組織をもつ。斜方輝石斑晶はときに単斜輝石の反応縁をもつ。斑晶量、とくに斜方輝石が多く含まれる。

#### 4. 全岩化学分析

##### (1) 試料調整と分析方法

集石遺構 1 - No. 16から豊臣大坂城礎石までの7試料は神戸大学で分析を行った。岩石試料を洗浄し、よく乾燥させる。乾燥した試料は乳鉢で細かく砕き、ボールミルを用いて粉末にした。ボールミルは神戸大学発達科学部のものを使用した。主成分元素については岩石の粉末試料0.5グラムに四ホウ酸リチウム5.0gを加え、高温にして溶かしガラスビードを作成した。分析には神戸大学自然科学研究科の蛍光X

線装置、Rigaku3270E（理学電機社製）を使用した。

14～16層-No.2と16層-No.3は大阪市立大学で分析を行った。試料調整は乳鉢で粉碎後、メノウ乳鉢で粉末にした。岩石の粉末試料0.1800gに四ホウ酸リチウム3.6000gを加え、ガラスビードを作成した。分析は大阪市立大学理学部の蛍光X線装置、RigakuRIX2100（理学電機社製）を使用した。

試料調整と分析は高田和明（神戸大学）、佐藤隆春（大阪市立大学）が行った。

## (2) 測定結果

化学分析結果を表74に示す。

また、関連する花崗岩類やその他岩石の化学組成も文献から探し求め対比した（表75～79）。

表74 全岩化学分析の測定結果

sample No.	集石遺構1 No.16	集石遺構1 No.19-13	集石遺構1 No.19	集石遺構2 No.36-36	集石遺構2 No.37-37	16層 No.1	14～16層 No.2	16層 No.3	豊臣大坂城 礎石
SiO <sub>2</sub>	48.70	47.80	48.28	76.49	44.21	59.49	74.55	60.62	68.88
TiO <sub>2</sub>	1.46	0.82	0.84	0.08	2.21	0.57	0.31	0.58	0.43
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	16.82	18.49	18.42	12.15	18.29	17.31	13.52	15.69	15.15
FeO <sup>t</sup>	12.70	11.01	10.87	1.17	13.48	6.25	1.65	5.86	4.04
MnO	0.11	0.07	0.10	0.00	0.18	0.00	0.02	0.08	0.00
MgO	5.93	6.15	6.09	0.09	5.64	3.29	0.31	5.48	0.86
CaO	9.81	10.87	10.93	0.51	10.64	4.40	1.16	4.98	2.90
Na <sub>2</sub> O	1.90	1.61	1.62	3.50	1.73	3.70	2.95	3.48	3.17
K <sub>2</sub> O	0.43	0.35	0.31	4.32	0.28	2.47	4.50	1.7	3.99
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.28	0.04	0.06	0.02	0.45	0.20	0.11	0.1	0.11
Total	98.14	97.21	97.52	98.33	97.11	97.68	99.08	98.57	99.53
岩石名	斑レイ岩	斑レイ岩	斑レイ岩	花崗岩	斑レイ岩	安山岩	溶結凝灰岩	安山岩	花崗岩

表75 斑レイ岩の化学組成の比較

sample	角閃石 斑レイ岩	輝石角閃石ガ ブロノーライト	sample No.	集石遺構1 No.16	集石遺構1 No.19-13	集石遺構1 No.19
SiO <sub>2</sub>	46.77	46.44	SiO <sub>2</sub>	48.70	47.80	48.28
TiO <sub>2</sub>	0.42	0.90	TiO <sub>2</sub>	1.46	0.82	0.84
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	21.49	24.70	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	16.82	18.49	18.42
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.62	0.86				
FeO	3.84	6.55	FeO	12.70	11.01	10.87
MnO	0.09	0.13	MnO	0.11	0.07	0.10
MgO	6.36	3.76	MgO	5.93	6.15	6.09
CaO	16.82	13.86	CaO	9.81	10.87	10.93
Na <sub>2</sub> O	0.75	1.41	Na <sub>2</sub> O	1.90	1.61	1.62
K <sub>2</sub> O	0.18	0.15	K <sub>2</sub> O	0.43	0.35	0.31
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	-	0.38	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.28	0.04	0.06
H <sub>2</sub> O <sup>+</sup>	1.68	1.06	H <sub>2</sub> O <sup>+</sup>			
H <sub>2</sub> O <sup>-</sup>	0.18	0.05	H <sub>2</sub> O <sup>-</sup>			
Total	99.20	100.25	Total	98.14	97.21	97.52

生駒山地領家帯研究グループ（1986）による

表 77 六甲花崗岩と集積遺構 2 - No. 36 の化学組成

sample	六甲花崗岩 (空閑1968)			sample No.	集石遺構2	集石遺構2
	74.91	75.44	74.58		No.36-44	No.36-38
SiO <sub>2</sub>	74.91	75.44	74.58	SiO <sub>2</sub>	73.95	76.49
TiO <sub>2</sub>	0.04	0.03	0.06	TiO <sub>2</sub>	0.06	0.08
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	13.87	14.73	14.92	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	13.12	12.15
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.68	0.61	1.43	FeO	1.24	1.17
FeO	1.42	0.18	0.04	MnO	-	-
MnO	0.05	-	-	MgO	0.09	0.09
MgO	0.28	0.01	0.01	CaO	0.60	0.51
CaO	0.94	0.25	0.44	Na <sub>2</sub> O	3.55	3.50
Na <sub>2</sub> O	2.10	2.41	3.39	K <sub>2</sub> O	5.12	4.32
K <sub>2</sub> O	4.05	4.58	3.88	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.02	0.02
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.10	0.01	0.01	H <sub>2</sub> O+		
H <sub>2</sub> O+	1.24	1.73	1.14	H <sub>2</sub> O-		
H <sub>2</sub> O-	0.22	0.72	0.62	Total	97.75	98.33
Total	99.90	100.70	100.52			
分析者	柴田秀賢		北野 康			

表 76 生駒山に分布する斑レイ岩と集積遺構 2 - No. 37 の化学組成

sample	細粒斑レイ岩	sample No.	集石遺構2 No.37-37
SiO <sub>2</sub>	44.94	SiO <sub>2</sub>	44.21
TiO <sub>2</sub>	1.10	TiO <sub>2</sub>	2.21
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	19.99	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	18.29
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	1.22	FeO	13.48
FeO	7.69	MnO	0.18
MnO	0.19	MgO	5.64
MgO	7.38	CaO	10.64
CaO	13.40	Na <sub>2</sub> O	1.73
Na <sub>2</sub> O	1.81	K <sub>2</sub> O	0.28
K <sub>2</sub> O	0.20	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.45
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.08	H <sub>2</sub> O+	
H <sub>2</sub> O+	1.44	H <sub>2</sub> O-	
H <sub>2</sub> O-	0.32	Total	97.11
Total	99.76		

生駒山地領家帯研究グループ (1986) による

表 78 室生溶結凝灰岩との比較

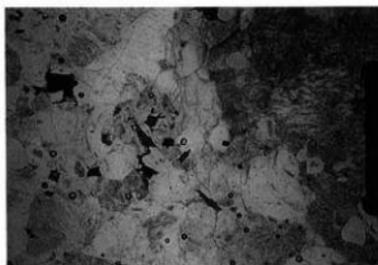
sample	室生溶結凝灰岩 (志井田ほか1960)				sample No.	14~16層 No.2
	黒雲母流紋岩質溶結凝灰岩	73.46	72.24	71.15		
SiO <sub>2</sub>	72.55	73.46	72.24	71.15	SiO <sub>2</sub>	74.55
TiO <sub>2</sub>	0.24	0.15	0.15	0.27	TiO <sub>2</sub>	0.31
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	13.17	12.55	12.83	13.03	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	13.52
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	1.84	1.65	1.77	1.15	FeO	1.65
FeO	0.88	1.35	1.44	1.43	MnO	0.02
MnO	0.05			0.05	MgO	0.31
MgO	0.61	0.34	0.36	0.53	CaO	1.16
CaO	1.19	1.24	1.43	1.28	Na <sub>2</sub> O	2.95
Na <sub>2</sub> O	2.87	3.70	3.64	3.28	K <sub>2</sub> O	4.50
K <sub>2</sub> O	3.97	4.13	4.10	4.23	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.11
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.10			0.17	H <sub>2</sub> O+	
H <sub>2</sub> O+	0.97	0.71	0.09	0.32	H <sub>2</sub> O-	
H <sub>2</sub> O-	1.48	1.13	2.15	2.63	Total	99.08
Total	99.92	100.41	100.20	99.52		

表 79 16層 - No. 3 安山岩と瀬戸内火山岩類との比較

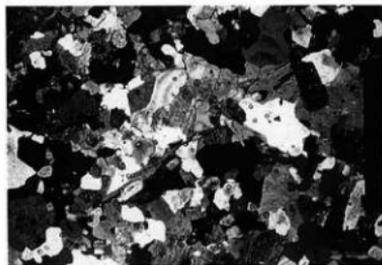
出典	山崎・大貫 1969	依藤・茅原 1993	山崎・大貫 1969	北原 1949	sample No.	16層 No.3
sample	畑火山岩	寺山火山岩	竜の瀬	霧ヶ峰・鉄平石		
SiO <sub>2</sub>	66.95	66.98	60.50	67.82	SiO <sub>2</sub>	60.62
TiO <sub>2</sub>	0.43	0.42	0.49	0.71	TiO <sub>2</sub>	0.58
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	15.80	15.09	15.39	17.67	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	15.69
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.55	4.06	2.15	1.97	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	
FeO	2.02		3.40	4.53	FeO	5.86
MnO	0.09	0.07	0.12	0.09	MnO	0.08
MgO	0.79	6.04	5.22	3.09	MgO	5.48
CaO	3.27	3.57	5.95	8.01	CaO	4.98
Na <sub>2</sub> O	2.96	3.29	2.79	2.72	Na <sub>2</sub> O	3.48
K <sub>2</sub> O	2.77	2.48	1.72	1.41	K <sub>2</sub> O	1.70
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.11	0.11	0.10	1.90	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.10
H <sub>2</sub> O+	3.62		1.54	0.20	H <sub>2</sub> O+	
H <sub>2</sub> O-	0.33		0.85	0.20	H <sub>2</sub> O-	
Total	99.69	102.11	100.22	100.32	Total	98.57

角閃石輝石安山岩 黒雲母輝石デイサイト 輝石安山岩 輝石安山岩

輝石安山岩



集石遺構1-No. 6



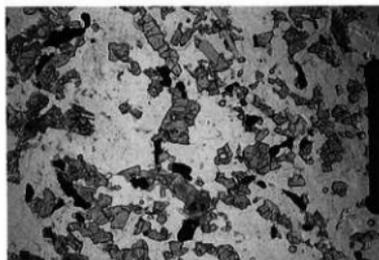
集石遺構1-No. 6



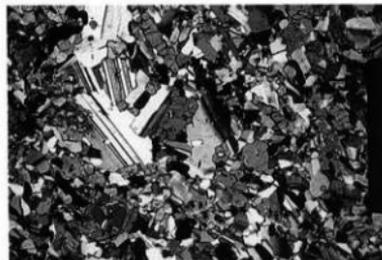
集石遺構1-No.16



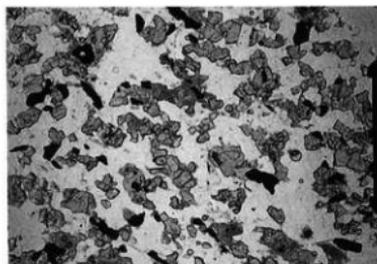
集石遺構1-No.16



集石遺構1-No.19



集石遺構1-No.19

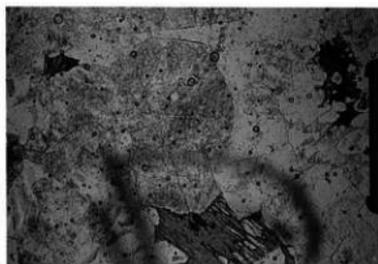


集石遺構1-No.19

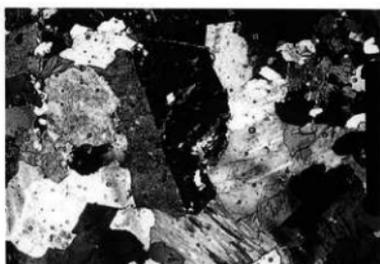


集石遺構1-No.19

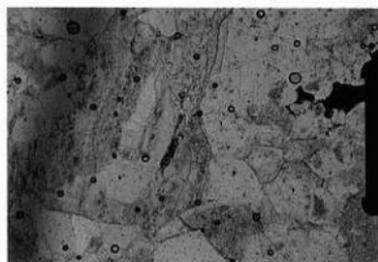
写真25 石材の顕微鏡写真(1)



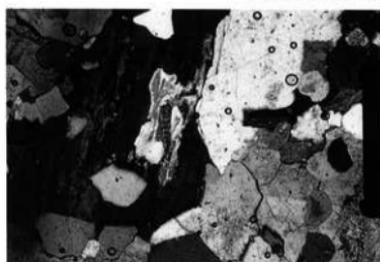
集石遺構1-No.20



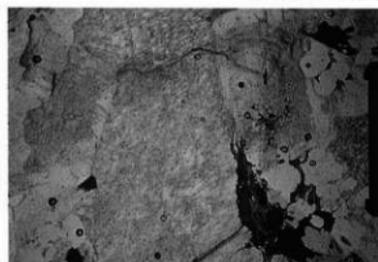
集石遺構1-No.20



集石遺構1-No.20



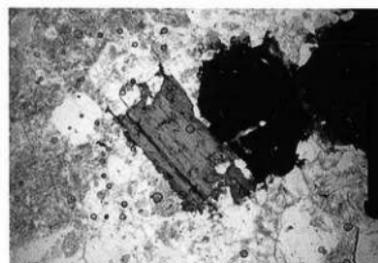
集石遺構1-No.20



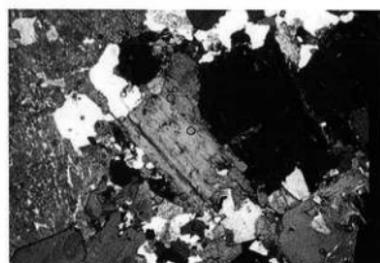
集石遺構1-No.26



集石遺構1-No.26

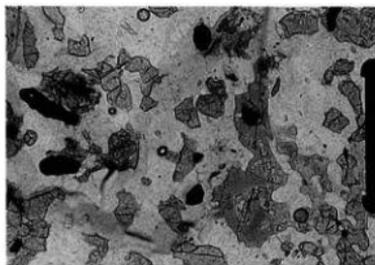


集石遺構2-No.36

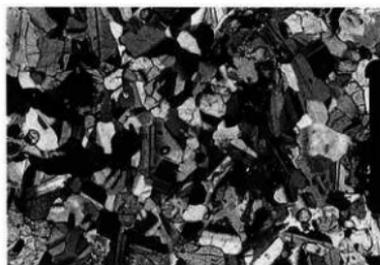


集石遺構2-No.36

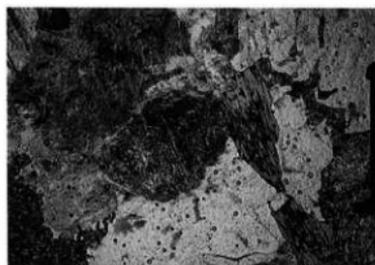
写真 26 石材の顕微鏡写真(2)



集石遺構2-No.37



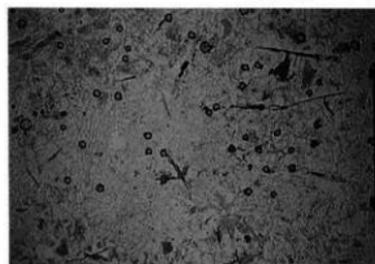
集石遺構2-No.37



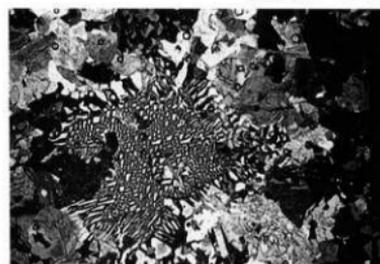
集石遺構2-No.46



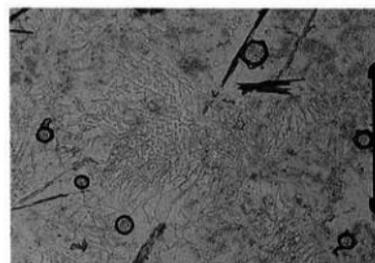
集石遺構2-No.46



集石遺構2-No.50



集石遺構2-No.50

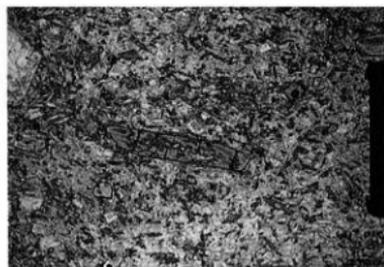


集石遺構2-No.51

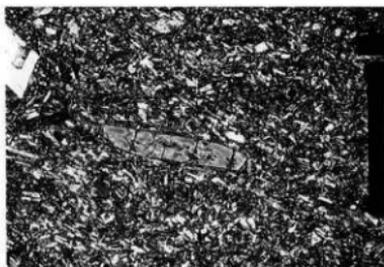


集石遺構2-No.51

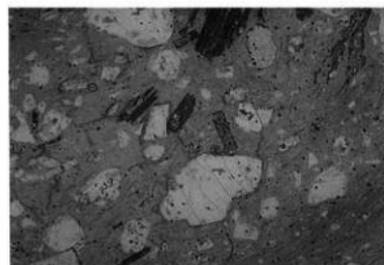
写真27 石材の顕微鏡写真(3)



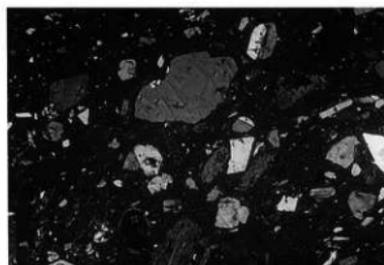
16層 - No. 1



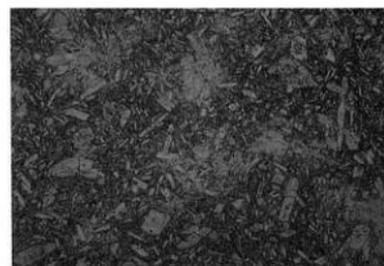
16層 - No. 1



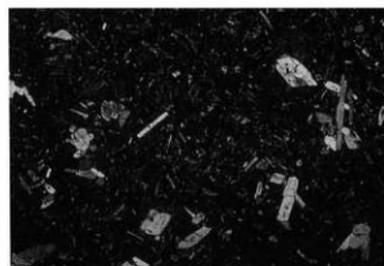
14~16層 - No. 2



14~16層 - No. 2



16層 - No. 3



16層 - No. 3

写真 28 石材の顕微鏡写真 (4)

## 第4節 出土無文銭・小形トリベ付着金属の蛍光X線分析

山口誠治

## 1. はじめに

大坂城三の丸跡の発掘調査において、調査区北側の谷部（7B地区）の遺構や遺物包含層から輪羽口などともに小形トリベ100点以上と無文銭55点が出土した。この小形トリベは、トリベ集積遺構491からの出土であり、分析に供した無文銭は6層・10層からの出土であり、いずれも豊臣前期（16世紀末）の遺物と考えられている。また、小形トリベには金属粒が付着していることを観測している。そこでこの付着している金属粒および無文銭の材質を調査する目的で蛍光X線分析を行った。

## 2. 蛍光X線分析による金属遺物の材質調査

蛍光X線分析は、非破壊分析にて金属遺物の化学特性を確かめることができる。金属遺物を分析して得られる化学特性は金属材質を表しており、どんな金属から作られた遺物なのかを判明する。また、最近の金属分析の傾向としては、産地同定ができる鉛同位体分析が盛んに実施されている。

- (1) 分析装置：エネルギー分散型微小部蛍光X線分析装置
- (2) 分析装置使用施設：奈良大学文化財学科 保存科学実習室
- (3) 分析試料の概要（詳細については第7章を参照のこと）

表80 トリベ一覧

登録番号	地区	遺構	口縁長さ (cm)	重さ (g)
1575	7B	トリベ集積遺構 491	6.0	48.99
491-21	7B	トリベ集積遺構 491	6.5	46.83
491-52	7B	トリベ集積遺構 491	6.5	49.64

表81 無文銭一覧

番号	地区	層位	銭幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)
91	7B	6層	23.11	0.62	1.17
144	7B1	7層	22.20	1.11	1.69
325	7B	7・8層	22.81	0.94	1.79
538	7B	8～10層	20.98	0.80	1.28
555	7B	7～9層	21.20	0.87	1.98
657	7B	7～10層	21.01	0.64	1.17
895	7B	7～10層	22.33	0.77	1.77

表82 トリベの分析結果（単位：X線強度 cps）

検出元素	No.1575	No.491-21	No.491-52
Al	14.28	15.17	16.21
Si	61.50	55.78	104.50
Sr	0.96	0.18	1.46
S	2.18	3.14	0.43
K	116.31	104.95	289.04
Ca	423.94	20.28	263.39
Ti	57.50	37.97	25.42
Mn	11.02	8.63	21.60
Fe	89.69	59.74	6.94
Cu	0.92	1.36	16.79
Au	2.97	7.25	1.50
As	0.23	0.39	0.62

表 83 無文銭の分析結果 (単位: X線強度 cps)

検出元素	No.91	No.144	No.325	No.538	No.555	No.657	No.895
R b	2.61	3.17	*	*	*	*	*
S	2.31	8.66	15.45	16.06	8.99	34.65	23.57
S n	31.37	0.96	*	*	7.96	64.68	163.87
T i	2.14	1.87	5.11	1.98	6.06	10.14	3.64
F e	16.95	9.78	35.10	13.60	296.06	18.26	35.09
C u	614.05	746.25	499.78	469.57	448.39	460.73	300.62
Z n	3.80	4.49	2.87	3.06	2.91	2.31	1.56
A s	1.35	1.03	1.68	1.12	0.73	2.80	2.05
P b	3.41	2.22	5.86	5.58	1.90	10.04	13.38
S r	0.14	0.11	0.11	0.15	0.23	0.22	0.21
C l	*	2.31	1.95	3.95	1.16	2.05	2.74
A l	*	*	3.15	0.53	1.08	4.05	2.36
S i	*	*	11.12	2.89	9.29	15.04	11.70
K	*	*	11.14	8.55	7.19	*	*
C a	*	*	12.69	30.52	67.65	*	*
M n	*	*	*	*	*	0.43	0.29
P	*	*	*	*	*	2.53	5.02

\* ; 検出できなかったことを示す。X線強度値は、含有する物質が1秒間に蛍光X線を放出する計数値である。

c p s : count per second

3) 検出元素名: アルミニウム (A l)、ケイ素 (S i)、リン (P)、硫黄 (S)、塩素 (C l)、カリウム (K)、カルシウム (C a)、チタン (T i)、マンガン (M n)、鉄 (F e)、銅 (C u)、亜鉛 (Z n)、ヒ素 (A s)、ルビジウム (R b)、ストロンチウム (S r)、錫 (S n)、金 (A u)、鉛 (P b)

### 3. まとめ

分析した結果トリベに付着していた金属は、金 (A u) で不純物として銅 (C u)、砒素 (A s) などであった。

同時にトリベ胎土成分も検出した。胎土成分組成からは、約1200℃の熱を受けて発泡した状況も観察できた。この状態から、溶解した金を取ったことを実証できた。

無文銭の分析では、銭貨番号No.91、657、895が銅 (C u)、錫 (S n)、鉛 (P b) の青銅銭であり、銭貨番号No.144、325、538、555が銅 (C u)、鉛 (P b) の銅銭であることがわかった。

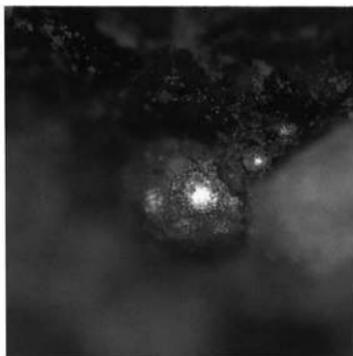
蛍光X線分析の場合には非破壊で行うことでもあり、金属部分と錆が含まれかなり錆の影響が強い。無文銭は錆に覆われており表面が不均一な状態であり、金属を分析しているのか錆を分析しているのか分析機器には判断できない。

そのため人為的判断ミスも多くなるが、分析解釈する時には多方面からの解析が必要と考えられる。今回は一つの分析方法の結果であり限界もあると考えている。

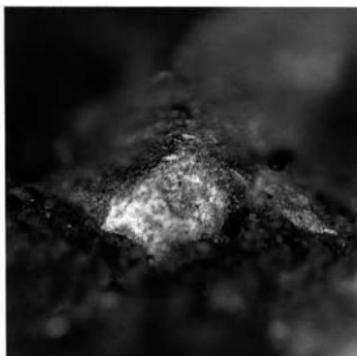
最後に、本調査に御協力頂いた奈良大学西山要一教授に感謝の意を表する次第である。

#### (参考文献)

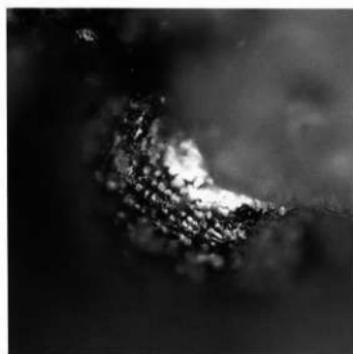
富沢威・横山哲也・米沢仲四朗・栗袋佳孝・富永健・嶋谷和彦. 中世銭貨の化学組成. 堺市文化財調査概要報告第61冊. p.22~30



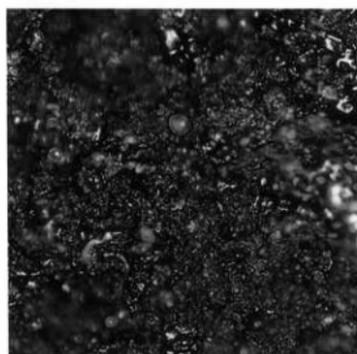
小型トリベNo.1575 金粒拡大 (6.5×)



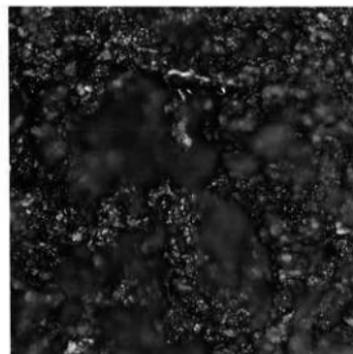
小型トリベNo.491-21 金粒拡大 (13×)



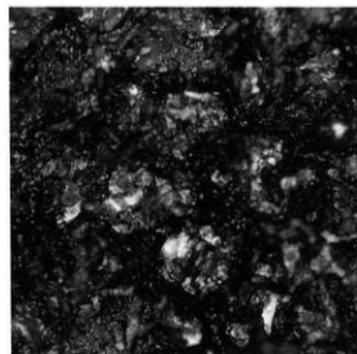
小型トリベNo.491-52 金粒拡大 (13×)



銭貨番号No.91 部分拡大 (13×)



銭貨番号No.144 部分拡大 (13×)



銭貨番号No.538 部分拡大 (13×)

写真29 トリベ・無文銭の顕微鏡拡大写真

## 第5節 大坂城跡出土の人骨・獣骨

安部みき子 (大阪市立大学大学院医学研究科)

豊臣期の層から出土した脊椎動物遺体は魚類から哺乳類まで多種にわたる。

魚類はマダイ、ハマなどの海産性の種が多く、出土部位は顎骨や椎骨が半数以上を占めている。爬虫類ではスッポンが多数出土し、在来種のカメ以外に輸入したと思われるものも見られる。

鳥類はワシカ類をはじめ、沼沢地や海岸に生息しているガンカモ類やシギやサギ類、山野に生息するキジや家畜種のニワトリなど、出土種数は多い。

哺乳類も野生種や家畜種など、多数の種が見られる。今回、哺乳類以外は同定標本が不足しているため、同定できた種の列記に留めたものもあり、当時の生活の復元は今後の課題である。

### 1. 人骨

人骨は7点出土しているが、それぞれの骨の関連は不明である(表84)。

歯は右上顎第1切歯(6~9層)と左上顎第1切歯(層位不明)が出土し、どちらも日本人に多いシャベル状切歯であった。右上顎第1切歯の保存状態は良好で破損が少なく、計測値より女性と思われる。左上顎第1切歯は歯冠が破損されていて計測ができなかった。

肋骨は2点出土し、右肋骨は完全な形で遺存し、第5肋骨から第8肋骨のうちの1つに相当するものと思われる。他方は肋骨体の破片であり、詳しい部位の特定はできなかった。

上肢は左上腕骨が出土し、三角筋粗面中央部より遠位が残存しているが、内側上顆、外側上顆ともに破損している。この骨は骨幹の中央より下方の外側縁に鋭利な刃物で付けられたと思われる痕跡があり、斜め上方から切り下ろされたと推測される。この上腕骨は三角筋粗面の発達が悪い。骨計測値を遠藤ほか(1967)の江戸時代人と比較すると、骨体最小径はほぼ男性の平均値に似るが、最大径は約2mm小さい(表84)。これらのことより若い男性であると思われる。

下肢は右大腿骨と右腓骨が出土している。右大腿骨は骨体中央より遠位が残存しているが、外側上顆と内側上顆が破損している。この骨には3カ所の殺傷痕と思われる傷があり、いずれも鋭利な刃物で付けられたものと思われる。最も上方にある傷は比較的浅く、骨体中央の外側にあり、下方から上方へ切られたと思われる。さらに外側上顆の約5cmと約3cm上方には、斜め上方から切られたと思われる傷があり、この2カ所の傷の幅は約4cmで平行して、いずれも骨髄まで達している。これらの刀傷は大腿骨遠位部に深くついていることより、騎乗時に受けたものと推測できる。大腿骨の計測値を遠藤ほか(1967)の江戸時代人と比較すると、骨体中央矢状径も横径も女性と男性の中間に位置する。さらに、粗線があまり発達していないことや、わずかながら骨端線が認められることから、この骨は若い男性と推測される。右腓骨は両骨端が破損しているが、殺傷痕は認められなかった。骨体中央の骨計測値を遠藤ほか(1967)の江戸時代人と比較した結果、大腿骨と同様に女性の平均値より大きいのが男性のものより小さかった。

本遺跡から出土した人骨が、同一人物であるかどうかは不明であるが、いずれの四肢骨も男性である場合は江戸時代人男性の平均より小さい。

## 2. 動物遺体

出土した動物遺体を遺構ごとにまとめた(表85~93)。

### (1) 魚類

魚類の出土量は魚類以外のものとはほぼ同量出土し、頭骨や椎骨の出現が高かった。同定できたものは、タイ科、スズキ科、ハモ科などで、種まで同定できたものはマダイ、スズキとハモである。これらは大阪湾に生息している代表的な魚類であり、多くは食されていたものと推測される。当時の食生活は魚類に依存する割合が高かったと思われる。

### (2) 爬虫類

#### ① スッポン

スッポンは包含層と井戸328から出土し(表85・92・93)、項骨板や肋骨板、腹骨板はすべて結合がはずれていたが、接合出来たものもあった。出土した骨の大きさはさまざまで、多数出土しているが、部位の特定ができないものが多く最小個体数の推定はできなかった。

#### ② イシガメ科

包含層から出土したカメは保存状態が悪く肋骨板は断片であったため、イシガメまたはクサガメと思われるが、種の特定はできなかった。また、ほぼ原形を留めているカメの背甲が出土している。これは背甲の形がイシガメやクサガメより楕円形で背甲の高さが高いためハコガメの一種と思われる。計測できた背甲の大きさは長径が約12cm、横径が約8cmであり、若い個体と推測される。現在日本列島に生息しているハコガメはセマルハコガメ1種で石垣島や西表島など南方に生息している。このカメの生息域は豊臣期でも大阪平野には生息していなかったため南方から持ち込まれたものと思われる。

井戸328からカメの骨片が出土しているが、骨片が小さく接合できなかったため種の同定はできなかった。

### (3) 鳥類

鳥類は7目8科13属が同定でき、遺存頻度の高かったものは上肢と下肢の長骨で、頭骨の出土はキジの上顎骨のみである。最も出現頻度の高かった部位は上腕骨で、次いで手根中手骨であった(表85・86・92~98)。

#### ① ワシタカ目 ハヤブサ科・ワシタカ科

ワシタカ目は包含層のみから出土し、同定できたものはハヤブサの一種と思われる大腿骨とトビの尺骨、ワシタカ科の鳥口骨であった。

これらの猛禽類が自然の混入によるものか、人為的に捨てられたものかは確定できない。古来よりハヤブサやオオタカは鷹狩に用いられていたことより、これらの猛禽類は鷹狩用に飼育されていたとも考えられる。

#### ② コウサギ目 サギ科

サギ科の骨は包含層から4点出土しているが、出土骨の種の同定ができたものはゴイサギの鳥口骨のみであった。現生のサギ科は16種生息しているが、種を同定するための現生標本が少ないため、他の3点はその大きさから小型のサギと思われる。サギは生息地が沼沢地であることより、堀や浅い川、田、沼地が近くにあったと思われる。

#### ③ ガンカモ目 ガンカモ科

ガンカモ科は現生鳥類のなかで種数が最も多く、同定標本も不十分である。また、種の特徴を表す部位

が少ないため主に骨格の大きさからガン、カモ、小型のカモに分類した。

ガンは包含層から8点と井戸731から1点出土している。包含層の最小個体数は右鳥口骨の3であり、左手根中手骨と右大腿骨がそれぞれ2点出土している。出土した鳥口骨には解体痕と思われる痕跡があった。井戸731から出土した脛骨は現生のガチョウの標本と同程度の大きさであった。

カモは包含層から30点、井戸328から5点と土坑592から1点出土している。包含層の最小個体数は左鳥口骨、左上腕骨、右手根中手骨の4で、出現頻度の高い部位は上肢骨であり、下肢骨は脛骨と中足骨のみ出土している。井戸328と土坑592の出土部位は上肢骨のみであり、両遺構の最小個体数は1であった。

小型のカモは包含層のみから14点出土し、最小個体数は右手根中手骨の5であり、ガンカモ科の中で最も多かった。出現頻度の高い部位は手根中手骨と中足骨に集中し、その他は尺骨が1点出土している。資料番号6-6の左中足骨はその計測値から見て小型カモの中でも特に小さい種と思われる。

鳥類の骨格の中で出現頻度の高い部位である大腿骨がカモと小型のカモともに出土していない。このような出土部位のかたよりの原因を解明することは今後の課題である。

#### ④ハト目ハト科

ハトは胸骨が出土しているのみで、種の特定はできなかった。出土した骨片が少ないことと、昭和20年代のものであることより、食用とされていた可能性は低いと思われ、ハトのなかでは大阪平野に最も多く生息し耕地や畑地に多く見られるキジバトか、ドバトが混入した可能性が高い。

#### ⑤シギ目シギ科

シギ科は包含層のみから3点出土し、大きさの異なるものが出土している。資料番号6の左上腕骨は小型のものと思われる。これらの種を特定することはできなかった。

#### ⑥ツル目クイナ科

クイナ科でパンの標本よりやや小型の左上腕骨が包含層から1点出土している。

#### ⑦ジュンケイ目キジ科

キジ科はキジとニワトリの2種が同定でき、キジは包含層のみ、ニワトリは包含層と溝686から出土している。

キジは25点出土し、出現頻度は下肢骨が高く最小個体数は左中足骨の6であった。このうち、現生標本よりやや小さいものが数点出土しているが、これらがキジの個体変異の範囲内なのか種が異なるのかは不明である。

ニワトリは包含層で25点、溝686で右脛骨が出土している。包含層での最小個体数は左尺骨と左右大腿骨の3で、出土部位の出現頻度は上肢骨と下肢骨でほぼ同率であり、カモやキジとは異なる傾向にある。包含層から出土したニワトリは大きさの変異が大きく、資料番号6の左手根中手骨は現生のナゴヤコーチンのメスと同程度の大きさであり、右中足骨に距突起(ケツメ)を持つオスである資料番号37はナゴヤコーチンのオスの最大長より数mm小さかった。一方、小型のニワトリはキジより小さく、資料番号6の大型のニワトリと小型のものを手根中手骨の計測値と比較すると約10mm差があった。

#### (4) 哺乳類

哺乳類は5目10科15種同定でき、保存状態も良く骨計測が出来たものが多かった(表86～93:95:96:99～109)。

#### ①ニホンザル

ニホンザルは包含層から5点、方形木組み遺構673と暗渠702から各1点出土している。包含層からは

上肢の骨格が出土し、方形木組み遺構や暗渠からは大腿骨と脛骨が出土している(表86・92・95・99・108・109)。

### ②ノウサギ

ノウサギは包含層のみから出土し、出土数は11点で最小個体数は1と少ない。出土部位の出現頻度は下肢骨の出土が上肢骨より多く、ウサギは上肢より下肢の発達が良いため遺存度が高いことを反映していると思われる(表86・87・99・108)。

### ③ネズミ

ネズミは魚類に次いで出土量が多く、出現頻度の高い部位は下顎骨、寛骨、大腿骨と脛骨であった。上肢の長骨の出土量は比較的少なかった(表87・88・92・93・95・96・100)。

ネズミの種の同定は主に歯の形態で行ったが頭骨の保存が良いものは頭骨形態をもちいた結果、クマネズミとドブネズミの同定ができた。出土量の多い四肢骨はネズミの種を決定する基準がないため、一括してネズミとし骨片数を数えた。ただし、長骨の骨端が閉鎖していないにもかかわらずネズミとした集団の大きさよりも大きいものをクマネズミまたはドブネズミとし、長骨の骨端が閉鎖しているにもかかわらずネズミの集団より小さいものを小型のネズミとして分けた。

ネズミが出土している地点は包含層、土坑482、土坑494、土坑538、井戸328の5カ所で、いずれもクマネズミかドブネズミは出土している。このうち最も多く出土した地点は包含層であり、クマネズミ、ドブネズミとネズミを合わせた最小個体数は右大腿骨の69で左大腿骨も61点出土していた。次いで出土が多い部位は下顎骨であり、脛骨、上腕骨と寛骨の出土数も30点前後と多かった。クマネズミとドブネズミの出土比を下顎骨よりもとめると、クマネズミが11個体に対しドブネズミが31個体で、ドブネズミが約3倍多かった。

井戸328は包含層に次いで出土量が多く、クマネズミが3点、ドブネズミが2点とネズミの椎骨や四肢骨が多数出土し、最小個体数は右大腿骨の7であった。この井戸からは少数ではあるが小型のネズミが出土している。その他の土坑や井戸ではネズミの出土数が少なかった。

### ④イヌ科

イヌ科は3種が同定でき、野生種であるキツネとタヌキは包含層のみから、イヌは包含層以外にも出土している(表88・89・91・92・93・95・96・99)。

キツネは頭頂骨と上腕骨の2点のみ出土し、最小個体数も1であった。頭頂骨は縫合の状態から若い個体と思われる。

タヌキは24点出土し、最小個体数は右大腿骨の3であった。タヌキの保存状態は良く、一般には出現頻度が低いとされている椎骨が9点出土している。頭骨の一部と下顎骨ならびに腕骨、大腿骨と脛骨の骨計測ができ(表102～107)、現生の近畿地方のものと比較した(安部 1983)。資料番号6の左腕骨の最大長は76.79mm、右は76.90mmであり、現生のオスの平均値が77.58mm、メスが75.37mmで、本遺跡のタヌキはオスとメスの中間値であり、近位端、骨幹、遠位端の値はすべてメスより小さかった。大腿骨は資料番号4-9と資料番号48について骨計測ができ、資料番号4-9は大腿骨最大長で現生メスの97.80mmより2.34mm小さかったが、近位端は矢状径がオスより0.42mm大きく横径もメスより大きかった。また、骨幹や遠位端はメスより大きい、オスより小さかった。資料番号48は遠位端矢状径と横径がメスより小さかったが、それ以外はメスに良く似た値であった。資料番号4-10は骨幹中央横径がメスよりやや大きい値を示した以外は全ての計測値でメスより小さかった。現生タヌキの性差は少ないため性的判定を計測値で行うことはできないが、本遺跡のタヌキの計測値は現生のものの範囲内であり、両集団間での

体格の差はないと思われる。

イヌは食肉目のなかでは出土量が49点とネコに次いで多く、出土地点は包含層、暗渠702、土坑538、土坑592、土坑773、井戸328で、包含層の最小個体数が4、その他の遺構の最小個体数はいずれも1である(表95・96・99)。出土部位は前頭骨と下顎骨の各1点を除きすべてが四肢骨であり、資料番号6の右第2中手骨と第3中手骨、右第4中足骨と第5中足骨-1、資料番号24の右第2中足骨から第5中足骨までの4本は関節面の適合性からそれぞれ同一個体と考えられる。また、四肢骨の長骨の骨端が未癒合のものや遊離した骨端が多く出土しているため、若い個体の比率が高かったと思われる(表88)。

骨計測できた部位は大部分が長骨で(表106・107)、計測値を弥生時代の中型犬のオスである亀井1号犬と中小型犬でメスの2号犬と比較した(宮崎 1982)。包含層出土の資料番号4-11の大腿骨は最大長で約3mm、骨幹や遠位端も約1mm亀井1号犬より小さく、やや小型であるが中型犬と思われる。しかし、同じ包含層から出土している資料番号24は大腿骨最大長で約10mm、その他の計測値でも約1mm亀井1号犬より大きく、中型犬の中でも大型犬に近い体格と思われる。脛骨は最大長で約1mm、骨幹部では約2mm亀井1号犬より大きい遠位端では1~2mm小さく、中型犬と思われる。井戸328の資料番号87の上腕骨は最大長で約4mm小さいが、2号犬より約4mm大きく中型犬と思われる。土坑592の資料番号120の上腕骨は亀井2号犬より最大長で約4mm、遠位端横径で約1mm小さかった。土坑538資料番号113の大腿骨は亀井1号犬より最大長で約6mmその他の部位でも1~2mm大きく、脛骨は最大長で約7mmその他の部位でも同じ程度かやや大きく、いずれも中型犬でも大きい部類のイヌと思われる。暗渠702資料番号134の大腿骨は亀井2号犬より最大長で約2mm小さく、中小型犬と推測される。資料番号154の左上顎犬歯は、近遠心径10.74mm、頬舌径6.48mmで、全長が40.80mm以上あり大型犬と推定される。本遺跡からイヌは中小型犬から大型犬まで出土しているが、この時代での大型犬は貴重品種と思われるが品種を特定することはできなかった。

資料番号25の右大腿骨は骨幹中央から遠位端にかけて複雑骨折をし、その後治癒したと思われる痕跡があった(写37-8)。

#### ⑤イタチ科

イタチ科はテンとホホンイタチの2種が包含層から出土し、テンは左上顎第1大臼歯と左尺骨が、ニホンイタチは環椎、左上腕骨と左寛骨が出土している(表99)。

#### ⑥ネコ科

ネコ科はイエネコのみが出土しているが、飼育個体が野性化していたものかの判定は骨格からはできない。イエネコはネズミに次いで出土量が72点と多かった。イエネコは約95%が包含層から出土し、最小個体数は左大腿骨の5であった(表96・99)。資料番号160は頭骨、下顎骨、椎骨の一部、肋骨、左右の肩甲骨、左上腕骨、左右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨と左右腓骨が出土し、骨の状況から同一個体と思われる。また、資料番号6の右第2中手骨-1と第3中手骨、左第3中足骨から第5中足骨は関節面の適合性からそれぞれ同一個体の組み合わせと考えられる。出土した長骨のなかには骨端は未癒合のものや寛骨のY軟骨が癒合していないものもあり、若い個体が含まれている。また標本番号6の右第2中手骨-2は近位部に骨病変が認められたが、原因は不明である(表89)。

包含層以外から出土したイエネコは、溝506が左上腕骨と左橈骨の2点と、井戸328の第1胸椎であった。

出土骨の保存は良かったため骨計測のできるものが多かったが、比較する資料がないため、詳細は検討

できなかった(表102～107)。

#### ⑦イノシシ科

イノシシ科では野生種のニホンイノシシと、その家畜種であるブタが出土している。

ニホンイノシシは35点出土し、出土量は比較的少なかった。包含層からの出土が最も多く約30点出土し、最小個体数は左尺骨、左大腿骨、右脛骨の2である。出土部位は四肢骨のみで、頭骨や下顎骨は出土していない。長骨は骨端が未癒合のものが多く、若い個体が多かった。肩甲骨と寛骨の骨計測ができたが、比較資料がないため性や年齢の判定ができなかった(表95・96・101・108・109)。

ブタは主に包含層から頭蓋骨、下顎骨、環椎、腰椎、寛骨が出土した。四肢骨の出土が見られないのは、イノシシとの判定が困難であるため、イノシシとして同定している可能性がある。肉眼観察において頭蓋骨は頬弓幅が広く前頭骨の傾斜が大きいというブタの特徴が見られた。出土骨はすべて骨計測できた(表95・101～105・108・109)、現生のニホンイノシシと比較した(安部 1989)。頭骨計測値をニホンイノシシの第1段階(1歳未満)の平均値と比較すると、脳頭蓋長は27.2mm小さいにもかかわらず頬弓幅は16.6mm大きく、肉眼観察と同様の結果であった。下顎骨は第2大臼歯が萌出第3大臼歯は未萌出であることより2、3歳と推定できるが、イノシシの同年齢のものと比較して第1大臼歯の摩耗度は大きかった。計測値は全ての値で第1段階のものより大きいが第2段階(約2歳)のものより小さかった。四肢骨は現生の比較資料がないため検討ができなかった。椎骨は第4腰椎と第5腰椎の椎体上方に異常骨増殖が見られ、同一個体と思われる。この椎骨は椎体板の癒合が見られないため若いと思われるので、この骨異常増殖は病変と考えられる。また、第6腰椎と第1仙椎は関節した状態で出土し、これも同一個体と思われる。今回出土したブタの品種は確定できなかったが、頭骨における形態はイノシシより現生のブタに近い。

#### ⑧シカ科

シカはニホンジカと小型のシカが出土し、出土量は包含層が約95%を占め、残りの5%が土坑538、土坑773と溝604から出土している(表95・96・101)。包含層のニホンジカの出現頻度は脛骨が高く最少個体数は5である。次いで出土量が多い部位は、寛骨と第3・4中足骨であり、頭骨は加工痕のある角が出土しているのみである。シカもイノシシと同様に長骨端や椎体板、踵骨隆起端の未癒合のものが含まれており、若い個体が存在していたことを示唆している。

包含層以外で出土したニホンジカは上腕骨と大腿骨で、土坑773出土の大腿骨には解体痕があり、溝604の上腕骨は近位端は未癒合で若い個体であった。

出土した骨の多くは計測ができたが(表108・109)、現生の比較資料がないため検討できなかった。

小型のシカと思われるものが包含層から左橈骨が、土坑581から右舟状立方骨が出土している。橈骨は骨端が閉鎖しているため成体であり、舟状立方骨も成体の形状をしていたが、ヤクシカと同程度の大きさであったため(表108)、ニホンジカより小さい種のシカと思われる。

#### ⑨ウシ科

ウシは包含層から左中足骨が出土しているのみで(表91)、保存状態も悪く骨計測はできなかった。

#### ⑩ウマ科

ウマは包含層から下顎臼歯と前腕骨と大腿骨のみ出土している。これらは保存状態が良く骨計測ができた(表91・101・108)。特に前腕骨は最大長が計測できたので体高の推定を林田(1957)の式を用いて行った。I式で推定した体高は121.5cm、II式では121.8cmであり、当時のウマの平均的な体格と思われる。

### 3. 各遺構の特徴

#### (1) 包含層

包含層は出土量、種ともに最も多い遺構である。スッポンは大阪平野では縄文時代から食用とされ、本遺跡でも大きさが異なるものが多数出土していることから、食されたものと思われる。

鳥類は、猛禽類であるワシタカ目が出土し、鷹狩などの狩猟文化がうかがわれる。狩猟の対象動物であるガンカモ類とキジは出土量も多く、ニワトリと同様に食用にしていたと思われる。ニワトリは出土数も多く出土骨の大きさの変異が大きいことより、多様な品種を飼育していたと推定される。ガン、カモ、サギ、シギやクイナなどの沼沢地や海岸に生息する鳥類が多く出土し、海岸や田、沼地などの低地である大阪平野の環境を表しているものと思われる。

哺乳類では、ネズミ類が6～9層に集中して多量に出土していることより、短期間で大量に捕獲されたと推測され、その目的としてネズミの駆除や飢饉などの非常時に食料としたと推測される。出土したネズミはドブネズミがクマネズミの約3倍出土し、地上性で比較的湿った場所を好むドブネズミが多数生息していたと思われ、小型のネズミが少ないことより、この地域では都市型の生活様式であったと思われる。ネコがイヌより出土量が多い原因の一つとして、ネズミの生息数との関係が考えられる。さらに、少数ではあるがニホンイタチが出土していることも、ネズミの捕食者であるイタチが人家周辺に生息していたと考えられる。

#### (2) 暗渠

暗渠ではサル1点とイヌが1点出土している。このサルが飼育されていたかどうかは不明であり、暗渠から出土した経緯も今後検討する必要がある。

#### (3) 木組み

木組みではサル1点とイノシシ2点が出土している。暗渠から出土したサルと同様に飼育個体かどうかは不明であり、出土数の少ないサルが木組みから出土したことの検討が必要である。

#### (4) 土坑

土坑からはネズミ、イヌ、シカ、イノシシやカモが出土しているが、骨の出土量が少ないため土坑間での比較検討はできなかった。

#### (5) 溝

溝からは、ネコ、キジ、シカ、ニワトリが出土しているが、骨の出土量が少ないためそれぞれの溝での検討はできなかった。

#### (6) 井戸

井戸328は堆積の層順が明確で堆積時期が特定できるため、層順ごとに出土遺体をまとめた(表92・93)。9段目はイヌ1点のみが出土している。10段目はカメ、スッポン、イヌとネズミが出土している。イヌは10点出土し、いずれも骨端が未癒合であり若いと思われるが同一個体かどうかは不明である。ネズミ類は10点出土し、ドブネズミ以外に小型のものも混入していた。11段目はカモとネズミ類がそれぞれ4点と出土量は少なかった。12段目はカメ2点、スッポン3点とネズミ類24点が出土し、この井戸の層順のなかで最も出土量が多かった。ネズミ類はクマネズミと同定できたものが6点、ドブネズミが3点、小型のネズミも3点出土している。13段目はクマネズミまたはドブネズミの骨が3点出土しているのみである。14段目はスッポン1点、カモ1点、ネコ1点、ネズミ類13点、ネズミ類のうちドブネズミが3点と小型ネズミも出土している。

この井戸はネズミ類の出土が多く、10段目から14段目まではすべてネズミ類が出土している。種の同定ができたネズミ類のうちドブネズミのほうがクマネズミよりやや出土数が多いかほぼ同率であり、また小型のネズミの出土が比較的多いことは、包含層のネズミの出土傾向と異なっている。クマネズミや小型のネズミは比較的乾燥した環境を好むため井戸が埋没していく過程で周辺の環境で乾燥した時期があったと思われる。ネズミの出土量が多い12段目や14段目はネズミが自然に混入したとは考え難いため、井戸の利用方法も検討する必要がある。

井戸518と井戸731からはイノシシとガンが出土しているが、骨の出土量が少ないためそれぞれの井戸の検討はできなかった。

#### 参考文献

- 安部みき子 1983 遺跡出土の動物遺体の基礎的研究(1)－現生タヌキの体重・頭胴長の推定－  
考古学と自然科学 16:129-142
- 安部みき子 1989 遺跡出土の動物遺体の基礎的研究(3)  
－イノシシの頭蓋骨からの体重・頭胴長および成長段階の推定－ 人類学報 48:27-63
- 遠藤万里、北条輝幸、木村賛 1967 四肢骨「増上寺徳川將軍とその遺品・遺体」  
鈴木尚、矢島恭介、山辺知行編 東京大学出版会 東京
- 宮崎泰史 1982 亀井遺跡のイヌについて「亀井遺跡」  
寝屋川南部流域下水道事業長吉ポンプ場築造工事関連埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ

## 出土種の学名

### REPTILIA

- TESTUDINATA カメ目  
Testudinidae カメ科  
Emydinae イシガメ亜科  
*Cyclemys flavomarginata flavomarginata*  
セマルハコガメ  
*Gen. et sp.* 属と種不明  
Trionychidae スッポン科  
*Trionyx sinensis japonicus* スッポン

### AVIS

- ACCIPITRES ワシタカ目  
Falconidae ハヤブサ科  
*Gen. et sp.* 属と種不明  
Accipitridae ワシタカ科  
*Milvus migrans lineatus* トビ  
*Gen. et sp.* 属と種不明  
GRESSORES コウサギ目  
Ardeidae サギ科  
*Nycticorax nycticorax nycticorax* ゴイサギ  
*Gen. et sp.* 属と種不明  
ANSERES ガンカモ目  
Anatidae ガンカモ科  
*Anser S.P.* 種不明  
*Anas S.P.* 種不明  
*Gen. et sp.* 属と種不明  
COLUMBAE ハト目  
Columbidae ハト科  
*Gen. et sp.* 属と種不明  
LIMICOLAE シギ目  
Scolopacidae シギ科  
*Gen. et sp.* 属と種不明  
ALECTORIDES ツル目  
Rallidae タイナ科  
*Gen. et sp.* 属と種不明

### GALLI ジュンケイ目

- Phasianidae キジ科  
*Phasianus colchicus tohkaidi* キジ

### MAMMALIA

- PRIMATES 霊長目  
Cercopithecidae オナガザル科  
*Macaca fuscata* ニホンザル  
LAGOMORPHA 兎目  
Leporidae ウサギ科  
*Lepus brachyurus* ノウサギ  
RODENTIA 齧歯目  
Muridae ネズミ科  
*Rattus norvegicus* ドブネズミ  
*Rattus rattus* クマネズミ  
*Gen. et sp.* 属と種不明  
CARNIVORA 食肉目  
Canidae イヌ科  
*Vulpes vulpes* キツネ  
*Nyctereutes procyonoides* タヌキ  
*Canis familiaris* イヌ  
*Gen. et sp.* 属と種不明  
Mustelidae イタチ科  
*Martes melampus* テン  
*Mustela itatsi* イタチ  
Felidae ネコ科  
*Felis catus* イエネコ  
ARTIODACTYLA 有蹄目  
Suidae イノシシ科  
*Sus scrofa* イノシシ  
Cervidae シカ科  
*Cervus nippon* ニホンジカ  
*Gen. et sp.* 属と種不明  
Bovidae ウシ科  
*Bos taurus* ウシ  
PERISSODACTYLA 奇蹄目  
Equidae ウマ科  
*Equus caballus* ウマ

表 84 人骨の出土表

層位	資料 年代 番号	出土部位		備 考	計測値	江戸時代人	
		左右	部位名			男性	女性
10	1580- 1598	18	左 上肋骨	三角筋断面中央より遠位が残存。二三 角筋断面の差違は悪い。内側・外側 上顆破損。骨幹約2/3の外側部に斜 め上方から切られたと思われる刀傷。	骨体中央最大径 20.64 最小径 17.56	骨体中央最大径 22.7 最小径 17.7	骨体中央最大径 19.6 最小径 14.9
10	1580- 1598	21	右 大腿骨	骨幹中央より遠位残存。遠位の骨端 端がわずかに残存。骨幹中央外側に 下方から切られたと思われる比較的 浅い刀傷。外側上顆の約5cmと約3 cm上方に斜め上から切られたと思わ れる刀傷。この2つの傷は約4cmお り、骨髄まで達している。	骨体中央最大径 26.10 横径 26.45	骨体中央最大径 28.3 横径 27.4	骨体中央最大径 24.8 横径 24.1
10-	1580- 1598	67	右 肋骨	中位の肋骨			
8-10	1580- 1598	50	右 肋骨	両骨端破損			
6-9	1580- 1598	7	不明 肋骨	骨体約3cm残存			
6-9	1580- 1598	153	右 上顎第1切歯	シャベル状	近遠心径 8.20 横径 7.33		
		162	左 上顎第1切歯	歯冠が破損 シャベル状			

計測単位はmm

表 85 動物遺体の同定表 (1)

資料 番号	遺体名	部位	年代	種 名	出土部位		備 考	計測値
					位置	部位名		
65	16	鳩鳥	不明		不明	長骨片	1	
64	15	奈良	不明		不明	長骨片	5	
2	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	左右	下脛骨		
4	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	右	肩甲骨と椎鳥口骨(継骨)		写30-21
4	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	左	大脛骨		両骨端破損 写30-22
7	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	—	頤骨	1	
7	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	—	頤骨と左第1肋骨	1	
7	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	左	第4から第7肋骨	2	
7	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	—	椎骨	1	椎体
7	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	右or左	肋骨	4	
7	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	右or左	肋骨	3	
7	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	不明	肋骨	多数	
8	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	不明	肋骨	12	
147	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	不明	肋骨	4	写30-23
7	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	右or左	肋骨(小型)	1	
7	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	右or左	肋骨(小型)	1	
8	包含層	6-9	1580-1598	スッポン	不明	肋骨	6	
41	包含層	7	1580-1598	スッポン	不明	脛骨の一部	1	
161	包含層	8	1580-1598	ハコガメ	不明	青甲	1	青甲長 117.94 青甲幅 31.72
161	包含層	8	1580-1598	インシヨウクサガメ	不明	肋骨	多数	
6	包含層	6-9	1580-1598	ハブツチの一種	右	大脛骨		骨幹中央から遠位まで残存 写30-10 表9
6	包含層	6-9	1580-1598	ウシタネ科	右	鳥口骨		写30-4 表9
6	包含層	6-9	1580-1598	トビの一種	右	尺骨		骨幹中央から遠位まで残存 写30-11 表9
6	包含層	6-9	1580-1598	サギの一種(小型)	左	脛骨		近位部破損 写30-13 表9
6	包含層	6-9	1580-1598	サギの一種(小型)	右	脛骨		骨幹中央から遠位まで残存
6	包含層	6-9	1580-1598	サギの一種(小型)	左	中足骨		遠位端幅 9.31 遠位端長さ 6.84
6	包含層	6-9	1580-1598	ゴイサギ	左	鳥口骨		写30-12 表9 内長長 46.45 趾間距離幅2.97
3	包含層	6-9	1580-1598	ガンの一種	左	上肢の第2指骨		
4	包含層	6-9	1580-1598	ガンの一種	右	鳥口骨		解体済み 写30-19 内長長 86.76
4	包含層	6-9	1580-1598	ガンの一種	右	鳥口骨		解体済み 骨節間距離から1/3残存
4	包含層	6-9	1580-1598	ガンの一種	右	鳥口骨		両骨端破損
4	包含層	6-9	1580-1598	ガンの一種	左	手根中手骨		第3中手骨破損 写30-20 表9
4	包含層	6-9	1580-1598	ガンの一種	右	大脛骨		骨幹1/3から遠位まで残存 写30-25 表9
4	包含層	6-9	1580-1598	ガンの一種	右	大脛骨		近位部残存
6	包含層	6-9	1580-1598	ガンの一種	左	手根中手骨		近位部破損 写30-21 表9
4	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	—	第1指骨		
4	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	—	胸骨		鳥口閉鎖
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	—	胸骨		閉鎖部残存
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	左	鳥口骨		表9
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	左	鳥口骨		近位端のみ残存
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	左	鳥口骨		閉鎖部破損
4	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	左	鳥口骨		胸骨間距離から1/2残存
6	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	右	鳥口骨		店頭閉鎖部破損 カルガメよりやや小型
13	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	右	鳥口骨		
6	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	右	肩甲骨		
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	左	上脛骨		最大長 86.03 閉鎖部長さ 19.27
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	左	上脛骨		遠位端のみ残存 外側部破損 遠位端最大幅 14.48
4	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	左	上脛骨		近位から骨幹1/2まで残存
4	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	左	上脛骨		骨幹1/3から遠位まで残存
4	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	左	上脛骨		遠位端のみ残存 外側部破損 遠位端最大幅 11.07
4	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	右	上脛骨		遠位端最大幅 13.89
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	右	上脛骨		近位から骨幹1/2まで残存
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	右	上脛骨		近位端のみ残存 遠位端最大幅 18.72
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	左	上脛骨		遠位端のみ残存 遠位端最大幅 14.48
6	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	右	上脛骨		近位端破損 遠位端最大幅 15.74 骨幹最小幅 6.43
6	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	左	尺骨		近位部破損
6	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	右	腕骨		1 遠位端破損
146	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	左	手根中手骨		表9
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	左	手根中手骨		骨幹中央から遠位まで残存
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	右	手根中手骨		両骨端破損 第1肋骨破損
4	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	右	手根中手骨		表9
4	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	右	手根中手骨		第3中手骨破損 遠位部一部破損
6	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種 - 6	右	手根中手骨		近位から骨幹中央まで破損 遠位端最大幅 6.50
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種(小型)	右	中足骨		遠位端のみ残存 外側部破損 写30-23 表9
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種(小型)	左	中足骨		近位部破損 第2趾との間部破損
6	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	右	中足骨		骨幹最小幅 3.84
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	右	中足骨		骨幹最小幅 4.88
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種	右	中足骨		遠位端のみ残存 遠位端最大幅 9.37 最大長 7.21
6	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種(小型)	右	尺骨		近位部破損
6	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種(小型)	左	手根中手骨		写30-17 表9
6	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種(小型) - 4	左	手根中手骨		手根閉鎖部と第1中手骨突起破損 遠位端破損 写30-18 表9
6	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種(小型) - 2	右	手根中手骨		第1中手骨突起破損
6	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種(小型) - 3	右	手根中手骨		第3中手骨突起と第3中手骨破損 遠位端破損
6	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種(小型) - 5	右	手根中手骨		遠位端のみ残存
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種(小型)	右	中手骨		遠位端破損 遠位端最大幅 5.13
3	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種(小型)	右	中手骨		遠位端のみ残存 遠位端最大幅 8.99
6	包含層	6-9	1580-1598	カモの一種(小型) - 6	左	中足骨		表9

表 86 動物遺体の同定表(2)

資料番号	通称名	層位	年代	種名	出土部位		備考	計測値
					左右	部位名		
6	包含層	6-9	1580-1598	カマの一種 (小型) -1	左	中足骨		
6	包含層	6-9	1580-1598	カマの一種 (小型) -2	左	中足骨		写30-24表98
6	包含層	6-9	1580-1598	カマの一種 (小型) -3	左	中足骨		表98
6	包含層	6-9	1580-1598	カマの一種 (小型) -4	右	中足骨		表98
6	包含層	6-9	1580-1598	カマの一種 (小型) -5	右	中足骨		遠位端最大幅 10.62 最大径 8.21
3	包含層	6-9	1580-1598	カマヤガシの一種	左	上腕の第2肋骨		遠位部破損
13	包含層	6-9	1580-1598	シマの一種?	右	肩甲骨		
6	包含層	6-9	1580-1598	シマの一種 (小型)	左	上腕骨		写30-14表97
13	包含層	6-9	1580-1598	シマの一種	右	腕骨		近位部破損
6	包含層	6-9	1580-1598	クイナの一種	左	上腕骨		パンノよりやや小型 写30-15表97
3	包含層	6-9	1580-1598	キジ	-	上腕骨		
3	包含層	6-9	1580-1598	キジ	右	鳥口骨		近位部破損のみ残存
3	包含層	6-9	1580-1598	キジ	-	腕骨		前腕骨中央の前面破損残存
3	包含層	6-9	1580-1598	キジ	-	腕骨		前腕骨の後方約1cm距離溝は解体時に切断
6	包含層	6-9	1580-1598	キジ	右	肩甲骨		
6	包含層	6-9	1580-1598	キジ	右	大腕骨		骨幹の遠位端のみ残存 遠位部破損
4	包含層	6-9	1580-1598	キジの一種	左	大腕骨		遠位部破損
4	包含層	6-9	1580-1598	キジ-1	右	腕骨		骨幹1/3から遠位端まで残存
4	包含層	6-9	1580-1598	キジ-2	左	腕骨		骨幹1/2から遠位端まで残存 写30-16表97
4	包含層	6-9	1580-1598	キジ-3	右	腕骨		骨幹1/3から遠位端まで残存
6	包含層	6-9	1580-1598	キジ	右	腕骨		近位部破損
3	包含層	6-9	1580-1598	キジ	右	腕骨		遠位部破損より上部が残存
3	包含層	6-9	1580-1598	キジ	右	腕骨		遠位端のみ残存 関節面破損
3	包含層	6-9	1580-1598	キジ	左	中足骨		近位から骨幹中央まで残存
3	包含層	6-9	1580-1598	キジ	左	中足骨		遠位端のみ残存
3	包含層	6-9	1580-1598	キジ	左	中足骨		近位部のみ残存 写30-17表98
6	包含層	6-9	1580-1598	キジ	左	中足骨		骨幹中央から遠位端まで残存
6	包含層	6-9	1580-1598	キジ	左	中足骨		遠位端のみ残存 キジよりやや小さい
3	包含層	6-9	1580-1598	キジ	右	中足骨		遠位部のみ残存
6	包含層	6-9	1580-1598	キジ	右	中足骨		遠位端最大幅 11.04 最大径 7.39
13	包含層	6-9	1580-1598	キジ	右	中足骨		表98
6	包含層	6-9	1580-1598	キジの一種	右	中足骨		遠位端最大幅 10.59 最大径 8.29
6	包含層	6-9	1580-1598	キジの一種	右	中足骨		両骨端の一部破損 最大径 38.79
13	包含層	6-9	1580-1598	キジ?	不明	膝骨		
4	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	-	第6 指骨		
4	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	-	第7 指骨		
3	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	-	尾椎骨		最大径 25.37
4	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	左	上腕骨		近位から骨幹1/3まで残存
4	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	右	上腕骨		近位部残存
47	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	右	上腕骨		骨幹中央から遠位端まで残存
4	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	左	尺骨		写30-18表98
6	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ-1	左	尺骨		骨幹中央から遠位端まで残存 骨幹中央まで残存 遠位端の関節 手根骨との関節面破損
6	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ-2	左	尺骨		骨幹1/3から遠位端まで残存
6	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	右	尺骨		骨幹中央から遠位端まで残存
6	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	左	中手骨		発生しゴキョウチンメスと同程度の大きさ
4	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	右	大腕骨		近位部残存
4	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	左	大腕骨		近位部残存
01	包含層	12	1580-1598	ニワトリ	左	大腕骨		近位部破損 写30-19表98
1	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	右	大腕骨		遠位端のみ残存 表98
4	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	右	大腕骨		骨幹1/2から遠位端まで残存 若い 遠位端最大幅 17.18 最大径 13.57
4	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	右	大腕骨		近位部残存 遠位端最大幅 20.45 最大径 14.09
4	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ	左	腕骨		近位から骨幹中央まで残存 写30-20表98
14	包含層	17	1580-1598	ニワトリ	右	腕骨		近位部破損 表98
37	包含層	17	1580-1598	ニワトリ	右	中足骨		ケブメあり オス 写30-21表98
6	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ (小型)	左	上腕骨		骨幹1/2より小型
6	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ (小型)	左	手根中手骨		最大径 35.63 近位端 最大径 10.74
6	包含層	6-9	1580-1598	ニワトリ (小型)	右	手根中手骨		写30-22表97
24	包含層	10	1580-1598	サル	左	上腕骨		表100
6	包含層	6-9	1580-1598	サル	右	第3中手骨		最大径 38.33
6	包含層	6-9	1580-1598	サル	右	第5中手骨		最大径 31.83
6	包含層	6-9	1580-1598	サル	不明	手の基礎骨		1
6	包含層	6-9	1580-1598	サル?	不明	中腕骨		1
6	包含層	6-9	1580-1598	ウサギ	左	上腕骨		骨幹中央から遠位端まで残存 写30-23表100
6	包含層	6-9	1580-1598	ウサギ	左	第2中手骨		写30-24表100 最大径 27.63
3	包含層	6-9	1580-1598	ウサギ	左	腕骨		最大径 14.06 最大幅 6.95
6	包含層	6-9	1580-1598	ウサギ	右	膝骨		写30-25表100 最大径 28.03 最大幅 12.13

表 87 動物遺体の同定表 (3)

資料番号	遺体名	層位	年代	種名	出土部位		備考	計測値
					左右	部位名		
6	包壳層	6-9	1580-1598	ウサギ	左	第3中足骨	写33-9	最大長 83.28
6	包壳層	6-9	1580-1598	ウサギ	右	第4中足骨		最大長 48.75
6	包壳層	6-9	1580-1598	ウサギ	左	第5中足骨	写33-10	最大長 42.92
6	包壳層	6-9	1580-1598	ウサギ	左	第5中足骨	近位から骨幹中央まで残存	
6	包壳層	6-9	1580-1598	ウサギ	左	第5中足骨	近位～骨幹中央まで	
6	包壳層	6-9	1580-1598	ウサギ	右	第5中足骨	写33-11	
6	包壳層	6-9	1580-1598	ウサギ	不明	足の基礎骨		
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ	左	上脛骨	I-M1	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ	右	上脛骨	I	
2	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ	左	下脛骨	I-M3 #4	
2	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ	左	下脛骨	M2-M3	
2	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ	左	下脛骨	I, M2-M3 #2	
2	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ	左	下脛骨	I-M1, M3	
2	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ	左	下脛骨	I-M1	
2	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ	左	下脛骨	M1-M3	
41	包壳層	7	1580-1598	タマネズミ	左	下脛骨	I-M3 #4	
2	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ	右	下脛骨	I-M1 #2	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ	右	下脛骨	M1-M3	
103	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ	右	下脛骨	I-M1	
3	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	左	前上脛骨	I	
2	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	上脛骨	M1-M3	
2	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	左	上脛骨	M1-M2	
3	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	左	上脛骨	M1-M3	
3	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	左	上脛骨	M1-M3	
7	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	左	上脛骨	M1-M3	
3	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	上脛骨	M1-M3	
3	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	上脛骨	M1	
2	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	左	下脛骨	I-M2 #2	
2	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	左	下脛骨	I-M3 #22	
2	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	左	下脛骨	M1-M2 #2	
3	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	左	下脛骨	I-M3	
3	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	左	下脛骨	M1-M2	
3	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	左	下脛骨	M1-M3	
3	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	左	下脛骨	M1-M3	
3	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	上脛骨	M3	
2	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	上脛骨	I-M2 #2	
2	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	下脛骨	I, M2-M3	
2	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	下脛骨	M1-M2	
2	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	下脛骨	M1-M3 #2	
2	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	下脛骨	I-M3 #15	
2	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	下脛骨	I-M1 #2	
2	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	下脛骨	I, M3	
3	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	下脛骨	M1-M2	
3	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	下脛骨	I-M2	
3	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	下脛骨	M1-M3	
3	包壳層	6-9	1580-1598	ドブネズミ	右	下脛骨	M2	
135	包壳層	6	1580-1598	ドブネズミ	右	上脛骨	I-M3	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	前脛骨	I	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	前脛骨	2	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	前脛骨	I	
1	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	—	前脛骨	3	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	—	前脛骨	2	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	不明	上脛切痕	1	
2	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	下腕M1	1	
2	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	下腕M2	1	
2	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	下腕M3	1	
2	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	下腕切痕	1	
2	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	下腕切痕	1	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	不明	上脛切痕	3	
1	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	—	歯槽	1	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	—	歯槽	4	
1	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	—	胸椎	1	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	—	腰骨	多数	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	上腕骨	2	
13	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	上腕骨	11	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	上腕骨	13	
13	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	上腕骨	2	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	寛骨	26	
6	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	寛骨	3	写38-6
6	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	寛骨	2	
7	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	寛骨	1	
13	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	寛骨	1	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	寛骨	25	
6	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	寛骨	2	写38-8
6	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	大腿骨	1	
135	包壳層	7-8	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	脛骨	1	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	大腿骨	8	
13	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	大腿骨	2	
29	包壳層	6	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	大腿骨	1	
41	包壳層	7	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	大腿骨	1	近位骨頭残断
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	大腿骨	13	
4	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	大腿骨	2	
13	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	大腿骨	2	
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	脛骨	14	近位骨節より近位した形のものもが 個体あり
13	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	脛骨	3	
41	包壳層	7	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	脛骨	1	近位骨頭残断
3	包壳層	6-9	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	右	脛骨	9	
2	包壳層	6-9	1580-1598	ネズミ	不明	脛骨	1	

表 88 動物遺体の同定表 (4)

資料番号	遺体名	期位	年代	種名	出土部位		備考	計測値
					左右	部位名		
2	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	不明	臼歯	3	
3	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	左	肋骨	1	
4	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	右	上腕骨	10	表30-11
6	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	右	上腕骨	12	表30-10
1	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	右	尺骨	1	近位へ骨幹中央
3	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	左	尺骨	1	
1	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	左	蹠骨	3	
6	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	左	大腸骨	49	表30-13
1	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	右	大腸骨	1	遠位端破損
3	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	右	大腸骨	2	
6	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	右	大腸骨	49	表30-12
3	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	不明	大腸骨	5	
0	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	不明	大腸骨	2	
6	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	左	脛骨	13	表30-15
1	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	右	脛骨	1	
6	包倉塚	6-9	1580-1590	ネズミ	右	脛骨	20	表30-14
149	包倉塚	7	1580-1590	キツネ	左	頰骨	若い	
4	包倉塚	6-9	1580-1590	キツネ	右	上腕骨	遠位部のみ残存	遠位矢状径 14.46 横径 18.35
3	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ?	左	前脛骨		
2	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	右	下脛骨	大骨直線より前部破損	表103
3	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	右	側頭骨	閉鎖部	
4	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	—	後脛骨		表30-1 表102
4	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	—	踵骨		表30-2 表104
4	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	—	第3趾骨		表30-3 表104
4	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	—	第4趾骨		表30-4 表104
3	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	—	第1胸椎		図P 12.88 表106
4	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	—	第1胸椎	離体椎末癒合 幼体	表30-5 椎体高さ 24.42
4	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	—	第3胸椎		表30-6 表104
4	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	—	第12胸椎		表30-7 表105
4	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	—	第7腰椎		表30-8 表105
4	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	—	1 仙骨	第2仙椎まで残存	表30-9 最大長 27.82 前部距離 12.77 前部距離 高 4.89
4	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	左	上腕骨	外科部まで残存	表30-10
4	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	左	尺骨	遠位端癒合	表30-11 表106
6	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	右	腕骨		表106
6	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	左	腕骨		表107
48	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	右	大腸骨		表107
4	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	右	大腸骨	小転子まで残存	近位矢状径 10.50 横径 26.23
4-9	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	右	大腸骨		表30-12 表107
4-10	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	左	脛骨		表30-13 表107
4	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	右	脛骨	遠位部残存 骨端癒合残存	遠位矢状径 8.92 横径 13.95
6	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	左	膝骨	遠位部残存	
6	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	右	第3中足骨		最大長 36.83
6	包倉塚	6-9	1580-1590	タヌキ	右	第4中足骨		最大長 34.44
154	包倉塚	7-10	1580-1590	イヌ	左	上顎大歯	大型犬	近遠心径 10.74 歯高径 6.43 全長 40.82
3	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	左右	前脛骨	一部	
4	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	左	下顎骨	下顎部のみ残存	歯高 16.30 歯高 24.58
4-14	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	左	肩甲骨	関節窩から1/3まで残存	肩甲骨最大径 24.68
4-15	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	左	肩甲骨	関節窩から1/3まで残存	肩甲骨最大径 24.35
4	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	左	上腕骨	遠位端癒合 一部破損	
4-12	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	右	上腕骨	近位部破損	表108
4-13	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	右	上腕骨	骨幹中央から遠位端まで残存	遠位端矢状径 21.64 横径 27.55
27	包倉塚	6	1580-1590	イヌ	左	尺骨	骨端癒合	表106
4	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	右	腕骨	骨幹中央から遠位部がやや平たい	
4	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	右	第2中手骨	骨幹近位から2/3まで残存 遠位端癒合	最大長 53.55
6	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	右	第2中手骨-1	近位から骨幹中央まで残存	
6	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	右	第2中手骨-2	同一個体 遠位端癒合	
6	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	右	第3中手骨	骨端癒合	
4	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	左	大腸骨	骨端癒合	
4	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	左	大腸骨	遠位端癒合 一部破損	
4-11	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	左	大腸骨		表107
33	包倉塚	7	1580-1590	イヌ	右	大腸骨	近位端破損	表107
39	包倉塚	7	1580-1590	イヌ	右	大腸骨	両骨端癒合	骨幹長 133.43
24	包倉塚	10	1580-1590	イヌ	右	大腸骨	大骨部に解離部	表30-6 表107
25	包倉塚	10	1580-1590	イヌ	右	大腸骨	骨幹中央から遠位にかけて破損	表30-7 近位端矢状径 17.24 横径 30.62
4	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	右	大腸骨	骨幹癒合している	
4	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	右	脛骨	両骨端癒合	骨幹長 141.85
24	包倉塚	10	1580-1590	イヌ	右	脛骨	外側部一部破損	表30-7 表107
24	包倉塚	10	1580-1590	イヌ	右	脛骨	遠位端破損	表30-6
4	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	右	脛骨		最大長 23.76 最大幅 15.53
4	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	左	踵骨	幼体	全長 35.52
24	包倉塚	10	1580-1590	イヌ	右	踵骨		表107
4	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	右	第4中足骨		表30-9 最大長 16.42
6	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	左	第2中足骨-1		最大長 54.42
6	包倉塚	6-9	1580-1590	イヌ	左	第2中足骨-2	遠位端癒合	
24	包倉塚	10	1580-1590	イヌ	右	第2中足骨		表30-10 最大長 53.82
24	包倉塚	10	1580-1590	イヌ	右	第3中足骨		表30-11 最大長 60.88
24	包倉塚	10	1580-1590	イヌ	右	第4中足骨	同一個体	表30-12 最大長 62.08
24	包倉塚	10	1580-1590	イヌ	右	第5中足骨		表30-13 最大長 96.21

表 89 動物遺体の同定表 (5)

資料番号	遺体名	層位	年代	種名	出土部位		備考	計測値
					左右	部位名		
4	包含層	6-9	1580-1598	イヌ	左	第3中足骨		最大長 87.03
4	包含層	6-9	1580-1598	イヌ	左	第3中足骨	近位端未癒合	
4	包含層	6-9	1580-1598	イヌ	左	第4中足骨		最大長 69.37
4	包含層	6-9	1580-1598	イヌ	右	第4中足骨	同一個体	最大長 66.72
6	包含層	6-9	1580-1598	イヌ	右	第5中足骨-1		最大長 69.15
6	包含層	6-9	1580-1598	イヌ	左	第5中足骨	遠位端未癒合	
6	包含層	6-9	1580-1598	イヌ	右	第5中足骨-2		最大長 57.01
6	包含層	6-9	1580-1598	イヌ	不明	肋骨	4	
3	包含層	6-9	1580-1598	テン	左	上顎骨第1大白歯		歯長径 4.94 近遠心幅 3.24
6	包含層	6-9	1580-1598	テン	左	尺骨	近位から骨幹中央まで残存 肘頭未癒合 総体	写33-12
3	包含層	6-9	1580-1598	ニホンイタチ	-	脛骨		
6	包含層	6-9	1580-1598	ニホンイタチ	左	上腕骨	メス?	写33-13表106
1	包含層	6-9	1580-1598	ニホンイタチ	左	恥骨と坐骨		
3	包含層	6-9	1580-1598	ニホンイタチ	左	腓骨	骨骨と恥骨癒合	
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	-	頭骨	両側の切歯と第1大白歯脱落	写36-1表102
4	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	前脛骨		
3	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	左	脛骨		
2	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	左	中足骨		
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	左	下脛骨	同一個体 両側の切歯脱落	写36-2表103
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	右	下脛骨		表103
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	-	脛骨		写36-3表103
1	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	-	脛骨		前関節部幅 15.15 前関節部幅 20.73
2	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	-	第3 指骨		表104
1	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	-	第4 指骨		表104
3	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	-	第6 指骨	幼体	前関節部突起間最大長 8.65 前関節突起間最大幅 15.33
4	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	-	第6 指骨		表104
4	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	-	第7 指骨		表104
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	-	第7 指骨		写36-4表104
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	-	第2 or 3 胸椎		写36-5
1	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	-	第3 or 4 胸椎		
1	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	-	第4 or 5 胸椎		
3	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	-	第3 胸椎		
3	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	-	第12胸椎	幼体	計測済み 前関節部突起間最大長 15.23 前関節突起間最大幅 9.41
4	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	-	第13胸椎		表105
4	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	-	第5 腰椎	脛体癒合癒合	表105
4	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	-	第6 腰椎	脛体癒合癒合	表105
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	不明	肋骨	4	写36-10-11
35	包含層	8-9	1580-1598	ネコ	左	肩甲骨		関節部長 14.27
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	左	肩甲骨	内関節癒合	写36-6表106
7	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	左	肩甲骨	関節部から肩甲端まで残存	関節部長 13.46
7	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	肩甲骨	肩甲縁から上縁まで残存	
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	右	肩甲骨		写36-7表106
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	左	上腕骨		写36-12表106
4-2	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	左	上腕骨	近位端未癒合	表106
29	包含層	6	1580-1598	ネコ	左	上腕骨	近位端癒合	表106
66	包含層	6	1580-1598	ネコ	右	上腕骨		表106
4-1	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	上腕骨		表106
4-3	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	上腕骨	遠位部のみ残存	遠位部矢状径 10.12 横径 18.25
159	包含層	6	1580-1598	ネコ	右	尺骨	滑車切痕のみ残存	表106
4-6	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	橈骨		表106
4-7	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	左	橈骨		表106
4-8	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	左	橈骨		表106
6	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	第2中手骨-1	第3中足骨と同一個体	最大長 29.52
6	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	第2中手骨-2	近位部癒合	最大長 29.31
6	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	第3中手骨	第2中足骨-1と同一個体	最大長 33.25
6	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	左	第5中手骨		最大長 32.19
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	左	底骨		写36-8表107
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	右	底骨		写36-9表107
4	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	腓骨	脛骨	
4	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	腓骨	Y状癒合癒合	
4	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	腓骨	腓骨管のみ残存	脛骨最大幅 16.46
4-4	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	左	大腸骨	遠位端未癒合	骨幹中央矢状径 7.16 横径 6.99
4-5	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	左	大腸骨	骨幹遠位部癒合	表107
44	包含層	6	1580-1598	ネコ	左	大腸骨	遠位部残存	
66	包含層	6	1580-1598	ネコ	左	大腸骨		表107
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	左	大腸骨		写36-14表107
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	右	大腸骨		表107
66	包含層	6	1580-1598	ネコ	右	大腸骨		表107
66	包含層	6	1580-1598	ネコ	左	肋骨		表107
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	左	肋骨		写36-17表107
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	右	肋骨		写36-18表107
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	右	肋骨	骨幹遠位1/3～遠位端まで残存	写36-19
160	包含層	8	1580-1598	ネコ	左	肋骨		写36-20最大長 104.10 最大長 18.94 最大幅 11.97
3	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	肋骨		最大長 15.94 最大幅 12.33
3	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	左	肋骨		
6	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	第3中足骨	同一個体	最大長 38.00
6	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	左	第3中足骨		最大長 49.01
6	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	第4中足骨		最大長 31.49
6	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	左	第4中足骨		最大長 50.47
6	包含層	6-9	1580-1598	ネコ	右	第4中足骨-1		最大長 40.07

表 90 動物遺体の同定表 (6)

資料番号	遺体番号	層位	年代	種名	姿勢	出土部位	備考	計測値
6	包含層 6-9	1580-1590	ネコ	右	第4中足骨-2		最大長 56.27	
6	包含層 6-9	1580-1590	ネコ	右	第4中足骨-3		最大長 36.31	
6	包含層 6-9	1580-1590	ネコ	右	第5中足骨		最大長 48.89	
160	包含層 8	1580-1590	ネコ	不明	骨片	1		
3	包含層 6-9	1580-1590	ネコ?	右	肩甲骨	肩甲骨基部		
3	包含層 6-9	1580-1590	ネコ?	右	坐骨	Y軟骨未癒合 幼体		
3	包含層 6-9	1580-1590	ネコ?	右	脛骨	Y軟骨未癒合 幼体		
13	包含層 6-9	1580-1590	ネコ?	-	第3? 腕骨			
142	包含層 6-9	1580-1590?	イノシシ	右	脛骨	後端のみ残存		
2	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	不明	第3大臼歯	未磨出		
60	包含層 13	1580-1590	イノシシ	-	第1胸椎	両側椎体未癒合 椎突起短縮	写33-1	
53	包含層 8-9	1580-1590	イノシシ	右	肋骨	4? 骨端から体の約1/2程度残存		
53	包含層 8-9	1580-1590	イノシシ	不明	肋骨	1 骨体		
41	包含層 7	1580-1590	イノシシ	左	肩甲骨	棘上窩と棘下窩破損	写33-2	
4	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	右	上腕骨	距離近位端	矢状径 63.47 横径 41.43	
4	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	左	尺骨	脛骨切痕下方~背靜脈窩まで残存 遠位端未癒合		
4	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	左	尺骨	距離遠位端	遠位端矢状径 20.17 横径 16.66	
4	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	右	第2中手骨	骨幹1/2~遠位まで残存		
4	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	左	第3中手骨	遠位端未癒合	遠位・骨幹長 42.21	
4	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	左	大腸骨	距離大転子		
29	包含層 6	1580-1590	イノシシ	左	大腸骨	距離遠位端	遠位・骨幹長 49.47	
22	包含層 10	1580-1590	イノシシ	左	大腸骨	大転子破損	写33-4	
19	包含層 10	1580-1590	イノシシ	右	大腸骨	骨幹破損	骨幹矢状径 22.66 横径 18.68	
4	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	左	脛骨	遠位部破損		
22	包含層 10	1580-1590	イノシシ	左	脛骨	遠位部破損	遠位・骨幹長 22.18	
4	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	右	脛骨	距骨表面のみ残存	表109	
4	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	右	脛骨	距離遠位端		
35	包含層 7	1580-1590	イノシシ	右	脛骨	右位部破損 遠位端未癒合	表109	
4	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	左	脛骨	骨幹遠位から1/3残存 近位端未癒合		
4	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	右	第3中足骨	遠位端未癒合	遠位・骨幹長 66.70	
4	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	左	第4中足骨	遠位端未癒合	遠位・骨幹長 61.02	
4	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	不明	中趾骨	2		
3	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	不明	末趾骨	大1		
3	包含層 6-9	1580-1590	イノシシ	不明	末趾骨	小1		
15443	包含層 7	1580-1590	ブタ	左右	前肢骨から後肢骨	イリオモテイノシシのメス種属の大きさ	写32-1 表102	
15443	包含層 7	1580-1590	ブタ	左右	下顎骨	メス? 2-3歳 第1大臼歯の磨耗が大きい 両側歯突起切痕	写32-6 表103	
15443	包含層 7	1580-1590	ブタ	-	一 脛骨		写32-2 表104	
15443	包含層 7	1580-1590	ブタ	-	第4 趾骨	同一個体 第4 趾骨右側上方と第5 趾骨左側上方に異常骨増殖 異種椎体未癒合	写32-3 表105	
15443	包含層 7	1580-1590	ブタ	-	第5 趾骨		写32-4 表105	
15443	包含層 7	1580-1590	ブタ	-	第6 趾骨	同一個体 関節している 両種	写32-5 表105	
15443	包含層 7	1580-1590	ブタ	-	第1 趾骨	骨板未癒合	写32-6 表107	
15443	包含層 7	1580-1590	ブタ	右	脛骨		写32-7 表109	
15443	包含層 7	1580-1590	ブタ	左	脛骨		写32-8 表109	
154	包含層 8	1580-1590	イノシシ?ブタ	右	上腕第1切痕	異常方向に磨耗		
34	包含層 7	1580-1590	イノシシ?ブタ	左	尺骨		表108	
23	包含層 10	1580-1590	イノシシ?ブタ	右	脛骨	脛骨後と坐骨結節未癒合	表109	
162	包含層 7	1580-1590	シカ	不明	角	先端のみ 加工あり		
4	包含層 6-9	1580-1590	シカ	不明	角	一部 磨けている		
4	包含層 6-9	1580-1590	シカ	-	第3 or 4 趾骨	前部下方より前部上方に切痕		
4	包含層 6-9	1580-1590	シカ	-	第4 趾骨	両側椎体未癒合	写34-1	
4	包含層 6-9	1580-1590	シカ	-	一 趾骨	2 右前部突起と左前部突起		
19	包含層 10	1580-1590	シカ	左	肩甲骨	肩甲骨から内側約8cm	距離長 23.28	
30	包含層 10	1580-1590	シカ	右	肩甲骨	右口変異	写34-2	
4	包含層 6-9	1580-1590	シカ	右	肩甲骨	距離腕~1/2まで残存	表108	
56	包含層 9	1580-1590	シカ	左	上腕骨	右位部脛骨破損残存 脛骨部に脛骨解離	遠位矢状径 52.20	
54	包含層 9	1580-1590	シカ	右	上腕骨	右位部小結節破損 上腕骨小頭破損	表108	
62	包含層 11-12	1580-1590	シカ	右	上腕骨	右位部破損 遠位端未癒合 若い	表108	
58	包含層 10	1580-1590	シカ	左	尺骨	骨体未癒合	表108	
4	包含層 6-9	1580-1590	シカ	右	尺骨	遠位~骨幹1/3まで残存	写34-3 表108	
62	包含層 11-12	1580-1590	シカ	右	脛骨	遠位部未癒合 上腕骨と同一個体?		
3	包含層 6-9	1580-1590	シカ	左	尺骨手関節 (三角骨)			
50	包含層 11	1580-1590	シカ	左	中手骨	遠位部破損		
3	包含層 6-9	1580-1590	シカ	右	中手骨	右位部のみ残存		
4	包含層 6-9	1580-1590	シカ	左	掌骨	坐骨と寛骨臼窩		
4	包含層 6-9	1580-1590	シカ	左	掌骨	寛骨臼窩を含む骨体残存	写34-4	
38	包含層 7	1580-1590	シカ	左	掌骨	脛骨翼と尺骨の一部破損	表109	
38	包含層 7	1580-1590	シカ	右	掌骨	脛骨翼破損	表109	
4	包含層 6-9	1580-1590	シカ	右	掌骨	骨片残存		
4	包含層 6-9	1580-1590	シカ	左	大腸骨	骨幹1/2から遠位まで残存 遠位端未癒合	写34-1	
22	包含層 10	1580-1590	シカ	左	大腸骨	両骨端未癒合 骨幹と遠位端残存	写34-9 表109	
4	包含層 6-9	1580-1590	シカ	右	膝蓋骨	右位部破損	写34-5	
4	包含層 6-9	1580-1590	シカ	左	脛骨	距離遠位端	矢状径 25.23 横径 29.80	
4	包含層 6-9	1580-1590	シカ	左	脛骨	距離遠位端	矢状径 26.66 横径 24.75	
21	包含層 10	1580-1590	シカ	左	脛骨	両骨端破損		
22	包含層 10	1580-1590	シカ	左	脛骨	両骨端未癒合	写34-1	
46	包含層 7-8	1580-1590	シカ	左	脛骨	近位部破損 遠位端未癒合	骨幹中矢状径 18.37 横径 18.59	
38	包含層 7	1580-1590	シカ	右	脛骨	両骨端未癒合 若い	表109	

表 91 動物遺体の同定表 (7)

資料番号	遺体名	層位	年代	種名	出土部位		備考	計測値
					左右	部位名		
25	包含層 10	1580-1598	シカ	右	脛骨	両骨端破損	骨幹尖状縁 18.49 横径 20.37	
17	包含層 10	1580-1598	シカ	右	脛骨	脛骨前面から続く副腕と骨幹中央より遠位部	遠位端尖状縁 20.01	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	右	脛骨	骨幹遠位1/3から遠位端まで残存	横径 20.22	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	右	脛骨	遠位端近位端	尖状縁 24.84 横径 21.79	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	右	脛骨	遠位端	横径 46.29	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	右	脛骨	遠位端	横径 28.67	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	右	脛骨	遠位端	骨幹1/2まで残存	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	左	脛骨	脛骨隆起本結合 遠位端破損	骨幹1/2まで残存	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	右	脛骨	脛骨隆起本結合	骨幹1/2まで残存	
4-16	包含層 0-9	1580-1598	シカ	左	脛骨	脛骨隆起本結合	骨幹1/2まで残存	
4-17	包含層 0-9	1580-1598	シカ	左	脛骨	脛骨隆起本結合	骨幹1/2まで残存	
4-14	包含層 0-9	1580-1598	シカ	右	脛骨	脛骨隆起本結合	骨幹1/2まで残存	
4-15	包含層 0-9	1580-1598	シカ	右	脛骨	脛骨隆起本結合	骨幹1/2まで残存	
22	包含層 10	1580-1598	シカ	左	舟状立方骨	舟状立方骨	最大長 36.91 最大幅 23.22	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	左	舟状立方骨	舟状立方骨	最大長 35.79 最大幅 21.21	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	左	舟状立方骨	舟状立方骨	最大長 35.37 最大幅 21.84	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	左	舟状立方骨	舟状立方骨	最大長 24.17 最大幅 16.11	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	左	舟状立方骨	舟状立方骨	最大長 21.75 最大幅 16.11	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	左	中足骨	2 遠位端本結合		
22	包含層 10	1580-1598	シカ	左	中足骨	遠位端本結合 近位端と骨幹残存	骨幹1/2まで残存	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	不明	中手骨or中足骨	骨幹遠位部 遠位端破損 若い	骨幹1/2まで残存	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	不明	中手骨or中足骨	骨幹遠位部		
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	不明	中手骨or中足骨	2 遠位端		
3	包含層 0-9	1580-1598	シカ	不明	中手骨	1 遠位端		
139	包含層 0-9	1580-1598	シカ	不明	中手骨	2 遠位端		
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	不明	中手骨	1 遠位端		
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	不明	中手骨	2 遠位端		
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	不明	中手骨	1 遠位端		
4	包含層 0-9	1580-1598	シカ	不明	中手骨	2 遠位端		
3	包含層 0-9	1580-1598	シカ	不明	中手骨	1 遠位端		
45	包含層 7	1580-1598	シカ (小型)	左	椎骨	椎骨	椎骨	
59	包含層 11	1580-1598	シカorイノシシ	不明	椎骨	椎骨	椎骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカorイノシシ	不明	椎骨	椎骨	椎骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカorイノシシ	不明	椎骨	椎骨	椎骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカorイノシシ	不明	椎骨	椎骨	椎骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカorイノシシ	不明	椎骨	椎骨	椎骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカorイノシシ	不明	椎骨	椎骨	椎骨	
58	包含層 10	1580-1598	シカorイノシシ	左	椎骨	椎骨	椎骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカorイノシシ	右	椎骨	椎骨	椎骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカorイノシシ	不明	椎骨	椎骨	椎骨	
3	包含層 0-9	1580-1598	シカorイノシシ	不明	椎骨	椎骨	椎骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカorイノシシ	不明	椎骨	椎骨	椎骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカorイノシシ	不明	椎骨	椎骨	椎骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	シカorイノシシ	不明	椎骨	椎骨	椎骨	
48	包含層 8-9	1580-1598	ウマ	右	下顎第3小臼歯	下顎第3小臼歯	最大長 14.77 近遠心径 10.06	
60	包含層 13	1580-1598	ウマ	右	下顎第3大白歯	下顎第3大白歯	最大長 12.86 近遠心径 30.50	
26	包含層 4	1620-1629?	ウマ	左	尺骨と脛骨	尺骨と脛骨	骨幹中央尖状縁 42.19 横径 35.50	
26	包含層 4	1620-1629?	ウマ	左	大脛骨	大脛骨	骨幹中央尖状縁 42.19 横径 35.50	
61	包含層 13	1580-1598	ウシ	左	中手骨	中手骨	中手骨	
63	包含層 14	1580-1598	ウシorウマ	左	上脛骨	上脛骨	遠位の外面側のみ残存	
3	包含層 0-9	1580-1598	不明 (中型の哺乳類)	左	後脚骨	後脚骨	後脚骨	
1	包含層 0-9	1580-1598	不明 (小型)	不明	趾骨片	趾骨片	趾骨片	
7	包含層 0-9	1580-1598	不明 (ウマやウシ)	不明	趾骨片	趾骨片	趾骨片	
1	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	不明	趾骨	趾骨	趾骨	
1	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	不明	趾骨	趾骨	趾骨	
7	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	不明	趾骨	趾骨	趾骨	
9	包含層 7-9	1580-1598	不明 (小型)	不明	趾骨	趾骨	趾骨	
13	包含層 0-9	1580-1598	不明 (中型哺乳類)	不明	趾骨	趾骨	趾骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	不明	趾骨	趾骨	趾骨	
55	包含層 8-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	不明	趾骨	趾骨	趾骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	不明	趾骨	趾骨	趾骨	
6	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	左	上脛骨	上脛骨	骨幹遠位部残存 遠位端本結合	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	右	上脛骨	上脛骨	骨幹中央から遠位端まで残存 遠位両上顆破損	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	左	尺骨	尺骨	骨幹遠位部残存 遠位端本結合	
6	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	左	尺骨	尺骨	骨幹のみ残存	
6	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	左	尺骨	尺骨	近位から骨幹中央まで残存	
6	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	不明	中手骨	中手骨	中手骨	
6	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	不明	中手骨	中手骨	中手骨	
6	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	不明	中手骨	中手骨	中手骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	左	大脛骨	大脛骨	遠位部のみ残存	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	左	大脛骨	大脛骨	骨幹のみ残存	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	左	大脛骨	大脛骨	近位から骨幹1/2まで残存 骨頭と大転子破損	
3	包含層 0-9	1580-1598	不明 (中型の哺乳類)	左	大脛骨	大脛骨	両骨端破損	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	右	大脛骨	大脛骨	遠位大転子 遠位両上顆破損	
6	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	不明	大脛骨	大脛骨	遠位部のみ残存 脛骨破損	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	左	脛骨	脛骨	脛骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	左	脛骨	脛骨	骨幹1/3から遠位端まで残存	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	右	脛骨	脛骨	両骨端本結合 同一個体	
6	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	不明	中手骨	中手骨	中手骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	不明	長骨	長骨	骨幹1/2から骨幹遠位 遠位端本結合	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	不明	長骨	長骨	長骨	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (哺乳類)	不明	不明	不明	不明	
4	包含層 0-9	1580-1598	不明 (小型の哺乳類)	不明	不明	不明	不明	

表92 動物遺体の同定表(8)

資料番号	遺構名	層位	年代	種名	出土部位		備考	計測値
					左右	部位名		
7	信玄層	6-9	1580-1598	不明(哺乳類)	不明	長骨片	1	
6	信玄層	6-9	1580-1598	不明(哺乳類)	不明	不明	5	長骨骨幹
5	信玄層	7-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	鳥骨との連続部	1	鳥骨との連続部
4	信玄層	6-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	鳥口骨	1	両骨端縁 カルカガ程度の大きさ
3	信玄層	6-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	鳥口骨	1	鳥口骨断面のみ残存
3	信玄層	6-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	一 鱗骨	1	関節面
3	信玄層	6-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	肩胛骨片	1	1 底部関節面のみ残存
3	信玄層	6-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	右 下腕骨	1	近位部のみ残存
3	信玄層	6-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	右 尺骨	1	近位部のみ残存
3	信玄層	6-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	一 椎体	13	数個連続
3	信玄層	6-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	左 中手骨	2	近位上端位残存
3	信玄層	6-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	長骨片	5	
3	信玄層	6-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	骨片	9	
6	信玄層	6-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	右 椎骨	2	2 遠位端破損
3	信玄層	6-9	1580-1598	不明(中形鳥類)	不明	一 椎体	2	2 大きい方に解体痕あり
7	信玄層	6-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	骨片	5	
7	信玄層	6-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	骨片	3	
8	信玄層	6-9	1580-1598	不明(鳥類)	不明	不明	8	
159	信玄層	6	1580-1598	不明(鳥類)	不明	骨片	1	
129	晴雲702	埋土	1580-1598	サル	左	肘骨	1	近位部破損 写37-2表109
134	晴雲702	埋土	1580-1598	イヌ	左	大腸骨	1	表107
125	本郷みどり	埋土	1580-1598	サル	左	大腸骨	1	大腸骨の遠位端破損 表109
125	本郷みどり	埋土	1580-1598	イノシシ	左	尺骨	1	1 骨幹と同一個体 肘関節面 遠位部未癒合 肘関節面 37.27 胸状突起部 22.27
125	本郷みどり	埋土	1580-1598	イノシシ	左	橈骨	1	1 尺骨と同一個体 遠位部未癒合 表108
101	土坑482	埋土	1580-1598	カモの一種	右	下腕骨	1	1-83 下腕端破損
101	土坑482	埋土	1580-1598	カモの一種	右	鳥口骨	1	表97
105	土坑494	埋土	1580-1598	ドブネズミ	右	下腕骨	1	1-83
104	土坑494	埋土	1580-1598	ドブネズミ or ドブネズミ	不明	一 骨種	1	
100	土坑512	埋土	1580-1598	カモの一種	左	上腕骨	1	写39-16表97
117	土坑538	埋土	1580-1598	タマネズミ	右	下腕骨	1	1-83
118	土坑538	埋土	1580-1598	タマネズミ	左	下腕骨	1	1-83
117	土坑538	埋土	1580-1598	ドブネズミ	左	下腕骨	1	1-83
118	土坑538	埋土	1580-1598	ドブネズミ	左	下腕骨	1	1-83
115	土坑538	埋土	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	大腸骨	2	
113	土坑538	埋土	1580-1598	イヌ	右	大腸骨	1	骨端縁残存 若い 表107
113	土坑538	埋土	1580-1598	イヌ	右	脛骨	1	骨端縁残存 若い 表107
114	土坑538	埋土	1580-1598	シカ	右	上腕骨	1	近位部破損 表108
136	土坑581	埋土	1580-1598	シカ(小型)	右	肩状立骨	1	矢状径 9.80 最大幅 18.94
120	土坑592	埋土	1580-1598	イヌ	右	上腕骨	1	写37-4表100
120	土坑592	埋土	1580-1598	カモの一種	左	上腕骨	1	近位端破損
124	土坑641	埋土	1580-1598	イノシシ	左	脛骨	1	近位部未癒合 骨幹1/2残存
120	土坑663	埋土	1580-1598	ブタ or イノシシ	左	肋骨	1	中段の肋骨
138	土坑773	埋土	1580-1598	イヌ	右	上腕骨	1	両骨端未癒合
133	土坑773	埋土	1580-1598	シカ	右	大腸骨	1	大転子と骨上顆破損 遠位部断面に解体痕あり 骨幹長 184.95 表100
108	溝506	埋土	1580-1598	ネコ	左	上腕骨	1	表106
108	溝506	埋土	1580-1598	ネコ	左	橈骨	1	表106
121	溝506	埋土	1580-1598	ネコ	左	大腸骨	1	表98
122	溝604	埋土	1580-1598	シカ	左	上腕骨	1	骨幹の近位部のみ残存 近位部未癒合 骨幹近位部矢状径 49.22 横径 37.08
127	溝686	埋土	1580-1598	ニワトリ	右	脛骨	1	近位端破損 写39-2表98
68	井戸328	9段目	1580-1598	イヌ	右	橈骨	1	両骨端未癒合 表106
84	井戸328	10段目	1580-1598	インガメ or タサガメ	不明	縁骨板	3	
84	井戸328	10段目	1580-1598	スズメ	不明	肋骨板	2	
85	井戸328	10段目	1580-1598	ドブネズミ	不明	一 歯骨	1	歯骨より後部破損 右の歯は全て釘刺左は第3臼歯破損 写38-1
85	井戸328	10段目	1580-1598	ドブネズミ	右	下腕骨	1	1-83 写38-2
82	井戸328	10段目	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	不明	一 骨種	1	
86	井戸328	10段目	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	大腸骨	1	1 若い
86	井戸328	10段目	1580-1598	タマネズミ or ドブネズミ	左	大腸骨	2	2 若い
86	井戸328	10段目	1580-1598	ネズミ	右	上腕骨	1	1 若い
86	井戸328	10段目	1580-1598	ネズミ	右	大腸骨	1	1 若い
86	井戸328	10段目	1580-1598	ネズミ	左	脛骨	2	2 若い
86	井戸328	10段目	1580-1598	ネズミ	左	肋骨	2	2 若い
86	井戸328	10段目	1580-1598	不明	不明	骨片	4	4 若い
87	井戸328	10段目	1580-1598	不明	不明	長骨片	1	1 若い
87	井戸328	10段目	1580-1598	不明	不明	一 尾椎	1	1 若い
87	井戸328	10段目	1580-1598	イヌ	右	肩骨	1	1 近位端破損 表106
87	井戸328	10段目	1580-1598	イヌ	右	上腕骨	1	1 両骨端未癒合 骨端骨端あり 若い 表106
87	井戸328	10段目	1580-1598	イヌ	右	橈骨	1	1 遠位部矢状径 12.25 横径 21.38



表94 包含層の鳥類の出現頻度表

種	左右	ハヤブサ の一種	トビの 一種	ワシタカ科 の一種	ゴイサギ の一種	ササの一種 (小型)	ガン の一種	カモの一種 の一種	カモの一種 (小型)	シギの一種	クイナの 一種	キジ	ニロトリ	ニフトリ (小型)
上顎骨	-											1		
第6頸椎	-												1	
第7頸椎	-							1						1
第9頸椎	-							2				2		
胸骨	-							1		1				
肩甲骨	左			1	1			4						
鳥口骨	右					3		2						
鳥口骨	左						3	4		1	1		1	1
上腕骨	右							4					2	
上腕骨	左							4					2	
尺骨	左		1					1						
尺骨	右							1						
橈骨	右					2	2	2						1
手根中手骨	左						4	4						1
手根中手骨	右							5						
上肢の第2 指骨	左					1								
上肢の第2 指骨	右	1												
大腕骨	左					2								3
大腕骨	右											2		3
距骨	左				1							2		2
距骨	右				1					1		4		1
中足骨	左							1	3			6		
中足骨	右							2	3			5		1



表 96 包含層以外の出現頻度表 (2)

種	土坑773		溝506		溝604		溝686		井戸528				井戸518		井戸731		
	左右	イヌ シカ	ネコ キジ	シカ	ニワトリ	クマネズミ	ドブネズミ	クマネズミor ドブネズミ	ネズミ	ネズミ	ネズミ	カモの 一種	スッポン	イシガメor カサガメ	イノシシ	イノシシ	ガン
頭骨	-					1											
側頭骨	右					1											
後頭骨	右					1											
前上顎骨	左右					2											
上顎骨	左右					1											
上顎第1切歯	左					1											
下顎骨	左右					3											
歯槽	-					2											
軸椎	-					1											
第1胸椎	-					1											
肋骨の一部	左					1											
肋骨	左右					3											
肩甲骨	左右					1											
鳥口骨	右					1											
鳥口骨	左					2											
上腕骨	左右	1		1		1											1
尺骨	左右					1											
腕骨	左右					1											
腕骨	左					1											
腕骨	右					1											
舟状骨	左					1											
舟状立方骨	右					1											
第1中手骨	左					1											
第2中手骨	左					1											
第4中手骨	左					1											
第5中手骨	左					1											
中手骨	左					1											
腕骨	左					4											
腕骨	右					1											1
大腿骨	左右					5											
大腿骨	右	1				5											
膝蓋骨	左右					2											
膝蓋骨	右					2											
脛骨	左右					1											
脛骨	右					1											
跗骨板	左右					4											1



表 99 包含層の食肉類・霊長類・兎類の出現頻度表

種		サル	ウサギ	キツネ	タヌキ	イヌ	ニホン イタチ	テン	ネコ
頭蓋骨	—								1
前頭骨	左右					1			
頭頂骨	左右			1		1			1
側頭骨	左右				1				
後頭骨	—				1				
頬骨	左右								1
上顎骨	左右								1
上顎大歯	左右					1			
上顎第1大臼歯	左右						1		
下顎骨	左右				1	1			1
環椎	—				1		1		2
第3頸椎	—				1				1
第4頸椎	—				1				1
第6頸椎	—								2
第7頸椎	—								2
第1胸椎	—				2				
第3胸椎	—				1				
第4胸椎	—								1
第12胸椎	—								1
第13胸椎	—				1				1
第4腰椎	—								1
第5腰椎	—								1
第6腰椎	—								1
第7腰椎	—				1				
仙骨	—				1				
肩甲骨	左右					2			3
上胸骨	左右	1	1		1	1	1		3
尺骨	左右				1	1		1	1
橈骨	左右				1	1			2
第2中手骨	左右		1						1
第3中手骨	左右	1				3			2
第5中手骨	左右	1				1			1
寛骨	左右						1		1
大腿骨	左右					4			3
脛骨	左右				3	3			5
腓骨	左右				1	1			2
距骨	左右		1			2			1
踵骨	左右					1			1
立方骨	右		1			1			1
第2中足骨	左右					2			1
第3中足骨	左右		1			1			2
第4中足骨	左右				1	3			3
第5中足骨	左右		3			1			1
			1			3			

表 100 包含層の齧齒類の出現頻度表

種	左右	クマ ネズミ	ドブ ネズミ	クマネズミor ドブネズミ	ネズミ
前頭骨	左 右			3 4	
後頭骨	—			2	
前上顎骨	左		1		
上顎骨	左 右	1 1	5 2		
下顎骨	左 右	11 8	31 28		
下顎切歯	左 右			1 1	
下顎第1大白歯	右			5	
下顎第2大白歯	右			1	
下顎第3大白歯	右			1	
頤椎	—			2	
肋骨	左				1
上胸骨	左 右			13 15	16 12
尺骨	左 右			1 1	1 1
寛骨	左 右			33 29	1 3
大腿骨	左 右			12 17	49 52
脛骨	左 右			18 9	13 29

表 101 包含層の有蹄類の出現頻度表

種	左右	イノシシ	ブタ	イノシシ orブタ	シカ	シカ (小型)	ウシ	ウマ
前頭骨	左 右		1 1					
頭頂骨	左 右		1 1					
側頭骨	左 右		1 1					
後額骨	—		1					
頬骨	右	1						
上顎第1切歯	右			1				
下顎骨	左 右		1 1					
下顎第3小白歯	右							1
下顎第3大白歯	右							1
頤椎	—		1					
第1胸椎	—	1						
第4胸椎	—		1		1			
第5胸椎	—		1					
第6胸椎	—		1					
肋骨	左							
肩甲骨	左 右	1			1 2			
上胸骨	左 右		1		1 2			
尺骨	左 右	2		1	1 1			1
橈骨	左 右	1 1				1		1
尺側手根骨	左				1			
第3・4中手骨	左 右				1 1		1	
第2中手骨	右	1						
第3中手骨	左	1						
第4中手骨	左	1						
寛骨	左 右	1 1	1	1	3 2			
大腿骨	左 右	2 1			2			1
膝蓋骨	左 右	1				1		
脛骨	左 右	1 2			3 5			
腓骨	右	1			1			
距骨	左 右				2 2			
踵骨	左 右				1 1			
舟状立方骨	左 右				1 1			
第3・4中足骨	左				3			
第3中足骨	右	1						
第4中足骨	左	1						

表 102 哺乳類の頭骨の計測表

資料番号	4		160		15643
	タヌキ		ネコ		ブタ
種名	左	右	左	右	左右
頭蓋骨最大長 A-P	-	-	94.66	-	-
脳頭蓋長 (1) A-N	-	-	75.78	-	93.86
脳頭蓋長 (2) A-F	-	-	58.02	-	-
脳頭蓋長 (3) B-N	-	-	-	-	188.58
顔長 N-P	-	-	32.58	-	-
顔長 F-P	-	-	52.24	-	-
顔高 1 N	-	-	24.49	-	-
鼻骨長 N-Rh	-	-	23.10	-	-
吻長 1 P-Oo	-	-	21.24	21.08	-
吻長 2 P-I f	-	-	24.60	25.62	-
最小前頭幅	-	-	29.66	-	65.64
最大頭蓋幅 Eur-Eur	-	-	41.59	-	55.12
两眼窩間最小距離	-	-	19.93	-	(26.68×2)
前頭骨の頬骨突起間距離	-	-	-	-	75.70
頬弓幅 Zy-Zy	-	-	66.74	-	110.01
眼窩内最大高	-	-	28.02	-	-
眼窩内最大幅	-	-	22.91	22.98	-
側頭線間最小距離	-	-	1.66	-	16.80
基底頭蓋長	-	-	84.93	-	-
基底長 B-P	-	-	78.12	-	-
後頭孔間切痕より硬口蓋まで B-St	-	-	42.98	-	-
硬口蓋最大長 St-P	-	-	35.67	-	-
上顎幅 (1) Pm4-M1の最大幅	-	-	38.30	-	-
上顎幅 (2) C歯槽の前方の最小幅	-	-	10.92	-	-
歯槽最大長 P-歯槽後縁	-	-	35.94	36.71	-
頰臼歯列長 Pm1-歯槽後縁	-	-	21.46	21.01	-
小白歯列長 Pm1-Pm4	-	-	19.99	19.52	-
大白歯列長 M1-歯槽後縁	-	-	2.31	2.26	-
鼓泡最大幅	-	-	20.60	20.93	-
後頭三角幅 ot-ot	-	-	40.61	-	80.76
後頭三角高 B-A	29.52	-	25.07	-	71.97
後頭額間最大幅	23.69	-	20.51	-	35.61
大後頭孔高	10.55	-	12.05	-	21.21
大後頭孔幅	13.48	-	12.66	-	17.54
犬歯歯槽最大長	-	-	6.15	6.55	-
犬歯歯槽最大幅	-	-	4.55	4.51	-
犬歯全長	-	-	22.58	22.28	-
犬歯歯冠長	-	-	13.05	12.13	-
裂肉歯 近遠心径	-	-	10.20	9.80	-
裂肉歯 頬舌径	-	-	5.00	5.22	-

単位はmm

表 103 哺乳類の下顎骨の計測表

資料番号	2		160		15443	
	タヌキ		ネコ		ブタ	
種名	左	右	左	右	左	右
下顎骨全長 (1) id - goc	-	-	62.26	62.02	154.03	-
下顎骨全長 (2) id - Cm	-	-	60.74	60.21	-	-
下顎枝長 M 後縁より goc	29.96	-	29.65	28.61	55.56	-
goc より P m2 前縁まで	67.96	-	48.20	47.91	117.08	-
歯槽最大長 id - M 後縁	-	-	33.33	33.09	100.62	99.18
頬臼歯長 (1) P m1 - M 後縁	41.76	-	18.66	19.10	76.55	-
頬臼歯長 (2) P m2 - M 後縁	37.73	-	-	-	64.82	66.19
小臼歯長 (1) P m1 - P m4	22.74	-	11.81	12.36	40.95	-
小臼歯長 (2) P m2 - P m4	17.95	-	-	-	29.43	28.93
大臼歯長 M1 - M 後縁	19.37	-	7.32	7.71	35.89	36.38
C 後縁より P m2 前縁まで	-	-	-	-	13.24	12.54
顎高 gov - 4	31.56	-	11.02	12.35	-	-
下顎枝中間高	-	-	-	-	72.42	72.46
下顎枝高 gov - Cr	40.37	-	28.93	28.09	-	-
下顎体高 (1) M 後縁	11.98	-	11.36	11.13	38.17	36.65
下顎体高 (2) M1 - P m4	9.35	-	10.84	10.96	33.12	32.64
下顎体高 (3) P m2 の前	9.25	-	10.21	10.28	31.68	30.30
下顎体厚 M1 - M2	5.55	-	6.10	6.23	17.84	17.31
犬歯歯槽最大長	-	-	6.20	6.58	10.20	12.90
犬歯歯槽最大幅	-	-	5.00	5.28	7.53	8.52
犬歯 歯冠高	-	-	10.82	9.91	-	-
裂肉歯 径近遠心径	10.18	-	7.32	7.71	-	-
裂肉歯 頬舌	4.54	-	3.41	3.37	-	-
下顎結合面長	-	-	14.47	-	-	-
下顎結合面幅	-	-	7.10	-	-	-
左右下顎幅 (1) 左右 Cr 間	-	-	46.06	-	-	-
左右下顎幅 (2) 左右関節突起外側端	-	-	55.90	-	-	-
犬歯歯槽遠位端間距離	-	-	-	-	33.04	-
犬歯歯槽近位端間距離	-	-	-	-	31.72	-
下顎体中心長	-	-	-	-	43.07	-
下顎体中心高	-	-	-	-	17.86	-
下顎幅 (1) C 後縁より P m2 前縁間最小幅	-	-	-	-	34.42	-
下顎幅 (2) 犬歯歯槽間最大幅	-	-	-	-	40.20	-
下顎幅 (6) 下顎角間最大幅	-	-	-	-	107.78	-
下顎幅 (8) 歯槽後縁間	-	-	-	-	42.89	-
下顎幅 (9) 下顎下縁で体と枝の境界点	-	-	-	-	78.67	-
id から下顎幅 (1) の矢状距離	-	-	-	-	34.07	-
id から下顎幅 (2) の矢状距離	-	-	-	-	16.95	-

単位: mm

表 104 哺乳類の椎骨の計測表(1)

資料番号	4	1	2	3	4	73	99	160	15443
種名	タヌキ	ネコ	ブタ						
	最大幅	—						37.38	58.67
	最大高	—						—	36.16
頸椎	前関節面幅	18.11						17.84	38.27
	後関節面幅	25.43						21.67	39.37
	最大長	21.50						19.83	30.59
	腹側弓長	—						3.69	14.85
	背側弓長	10.65						8.62	15.97
第3頸椎	前関節突起間最大幅	17.95		15.86					
	後関節突起間最大幅	18.92		16.97					
	前後関節突起間最大長	23.29		16.14					
	椎体中央長	16.26		10.77					
	頸椎高	13.61		—					
第4頸椎	前関節突起間最大幅	19.74	19.94						
	後関節突起間最大幅	18.57	—						
	前後関節突起間最大長	21.38	—						
	椎体中央長	14.14	9.67						
	頸椎高	—	14.92						
第6頸椎	前関節突起間最大幅				19.02				
	後関節突起間最大幅				19.53				
	前後関節突起間最大長				13.73				
	椎体中央長				8.45				
	頸椎高				18.65				
第7頸椎	前関節突起間最大幅				19.52			19.12	
	後関節突起間最大幅				17.78			18.86	
	前後関節突起間最大長				14.06			14.87	
	椎体中央長				8.70			8.80	
	頸椎高				24.93			17.60	
第1胸椎	前関節突起間最大幅					16.67	18.37		
	後関節突起間最大幅					12.36	13.37		
	前後関節突起間最大長					13.52	15.68		
	横突起最大長					—	24.32		
	椎体中央長					8.15	8.55		
胸椎高					—	33.77			
第3胸椎	前関節突起間最大幅	20.82							
	後関節突起間最大幅	7.72							
	前後関節突起間最大長	15.06							
	椎体中央長	9.95							
	胸椎高	29.65							
第4胸椎	前関節突起間最大幅				19.56				
	椎体最大幅				7.31				
	椎体高				5.09				
	椎体中央長				8.82				
	胸椎高								
第8胸椎	前関節突起間最大幅							—	
	後関節突起間最大幅							7.09	
	前後関節突起間最大長							16.14	
	横突起最大長							19.74	
	椎体中央長							—	
胸椎高							30.32		
第9胸椎	前関節突起間最大幅							—	
	後関節突起間最大幅							8.60	
	前後関節突起間最大長							16.52	
	横突起最大長							18.98	
	椎体中央長							—	
胸椎高							24.08		
第10胸椎	前関節突起間最大幅							—	
	後関節突起間最大幅							7.93	
	前後関節突起間最大長							16.20	
	横突起最大長							18.10	
	椎体中央長							10.67	
胸椎高							21.98		

表 105 哺乳類の椎骨の計測表 (2)

資料番号	4	1	2	3	4	73	99	160	15643
種名	タヌキ	ネコ	ネコ	ネコ	ネコ	ネコ	ネコ	ネコ	フタ
第13胸椎	前関節突起間最大幅	12.53			15.02				
	後関節突起間最大幅	7.90			9.29				
	前後関節突起間最大長	18.20			21.37				
	横突起最大長	—			—				
	椎体中央長	12.30			14.93				
	胸椎高	—			17.27				
第4腰椎	前関節突起間最大幅						10.81		35.04
	後関節突起間最大幅						10.39		23.70
	椎体最大幅						—		23.97
	前後関節突起間最大長						7.90		37.87
	肋骨突起最大長						—		89.57
	椎体中央長						—		23.45
	椎体高						—	17.72	
	腰椎高						—	44.63	
第5腰椎	前関節突起間最大幅				12.41				37.51
	後関節突起間最大幅				10.47				25.18
	椎体最大幅				—				29.16
	前後関節突起間最大長				21.35				35.48
	肋骨突起最大長				—				—
	椎体中央長				—				—
	椎体高				—			16.31	
	腰椎高							42.15	
第6腰椎	前関節突起間最大幅					12.41			—
	後関節突起間最大幅					10.48			28.35
	椎体最大幅					—			24.27
	前後関節突起間最大長					20.20			34.24
	肋骨突起最大長					—			72.47
	椎体中央長					—			22.12
	椎体高					—		12.84	
	腰椎高					—		40.34	
第7腰椎	前関節突起間最大幅	15.90							
	後関節突起間最大幅	15.53							
	前後関節突起間最大長	15.38							
	肋骨突起最大長	—							
	椎体中央長	11.87							
	腰椎高	—							
第1仙椎	椎体最大幅								60.61
	外側部最大幅								27.00

資料番号4のネコの第6胸椎と第7胸椎は同一個体、単位はmm



表 107 哺乳類の下肢の計測表 (食肉類)

資料番号 種名	4-9		4-10		4-11		24		33		113		134		4-5		66		160	
	タスキ 右	タスキ 左	タスキ 右	タスキ 左	イス 右	イス 左	ネコ 右	ネコ 左	ネコ 右	ネコ 左	ネコ 右	ネコ 左								
寛骨																				
最大長																				
寛骨臼長																				
恥骨前骨長																				
閉鎖孔最大長																				
腸骨体最小径																				
腸骨体最小幅																				
最大長																				
最大長(骨頭から)																				
近位端																				
矢状径																				
横径																				
中央																				
矢状径																				
横径																				
遠位端																				
矢状径																				
横径																				
最大長																				
外側長																				
近位端																				
矢状径																				
横径																				
中央																				
矢状径																				
横径																				
遠位端																				
矢状径																				
横径																				
最大長(外側面)																				
最大長(内側面)																				
遠位端最大幅																				
外側径																				
内側径																				
最大長																				
最大幅																				
脛骨																				
最大長																				
最大幅																				

単位はmm



表 109 哺乳類の下肢の計測表 (靈鼯類・蝙蝠類・奇蹄類)

資料番号	包含骨				橈骨702		木腿み073		土成773		井戸518
	22	35	15443	15443	23	129	125	133	133	111	
種名	イノシシ		イノシシ		イノシシ		サル		イノシシ		
	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	
最大長			160.15	158.33	219.71						
寛骨臼長			23.14	22.24	34.29						29.88
恥骨結合長			46.63	45.36	71.43						
脛頭互最大長			27.64	27.36	44.06						
脛骨体部小高			17.51	17.84	27.15						21.94
脛骨体部小幅					13.84						11.10
最大長	215.92										
最大長(骨端から)											
骨幹・近位端長											
大脛骨											
近位端											
中央											
遠位端											
最大長	189.48										
外側長											
骨幹長											
近位端											
中央											
遠位端											
最大長											
近位端											
中央											
遠位端											
近位端・骨幹長											
近位端											
遠位端											

単位はmm

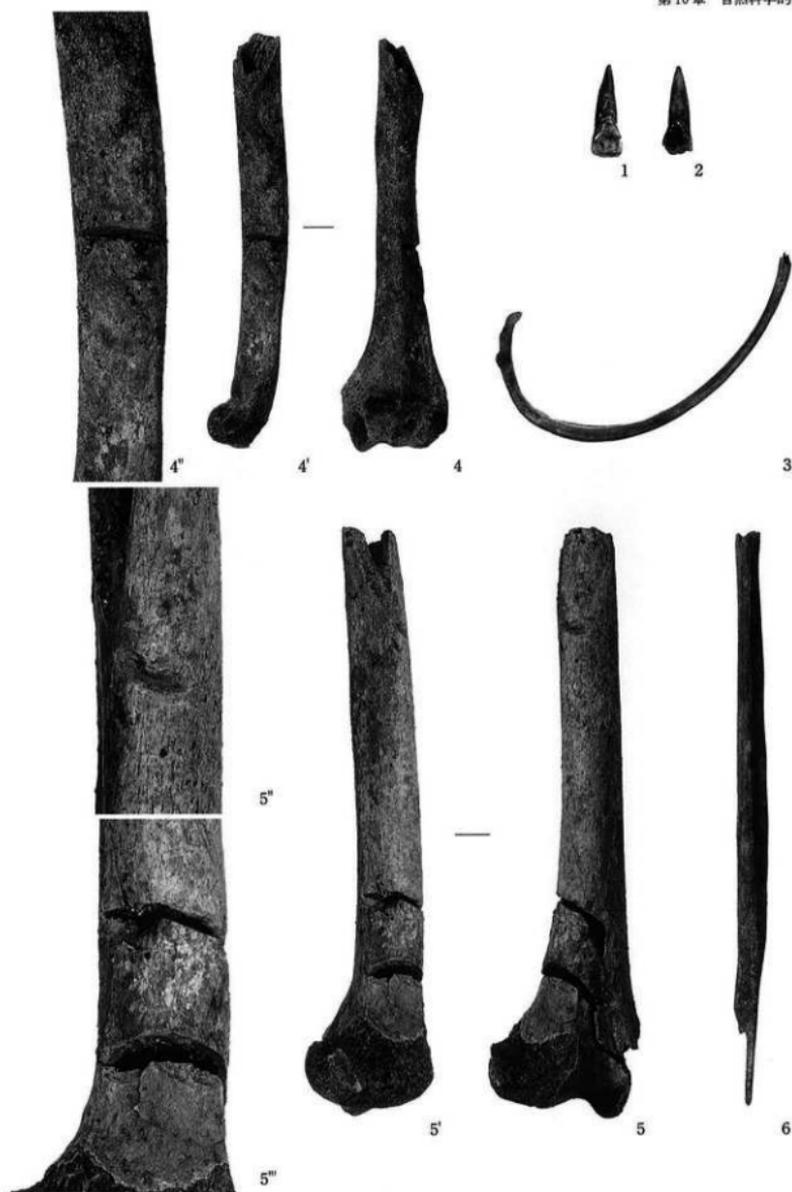


写真30 骨(ヒト)

1. 左上顎第1切歯 2. 右上顎第1切歯 3. 右肋骨 4. 左上腕骨 5. 右大腿骨 6. 右腓骨



写真31 骨(ウマ)



写真32 骨(ブタ)

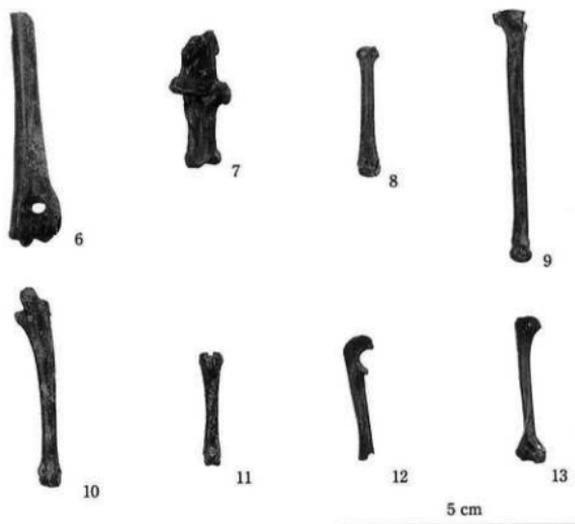
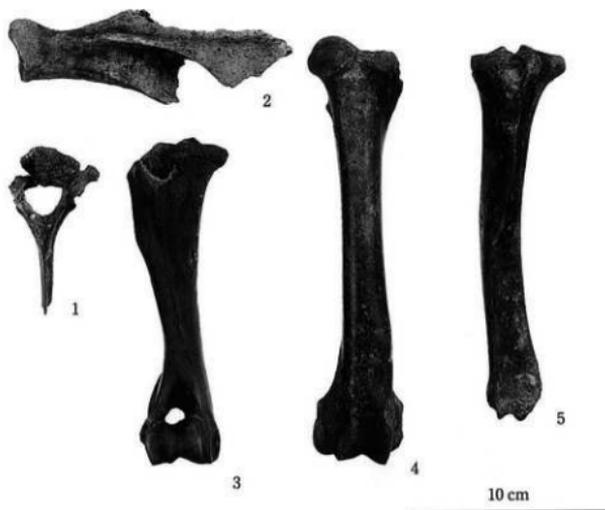


写真33 骨 (上段：イノシシ、下段：ウサギ・テン・ニホンイタチ)



写真34 骨(シカ)

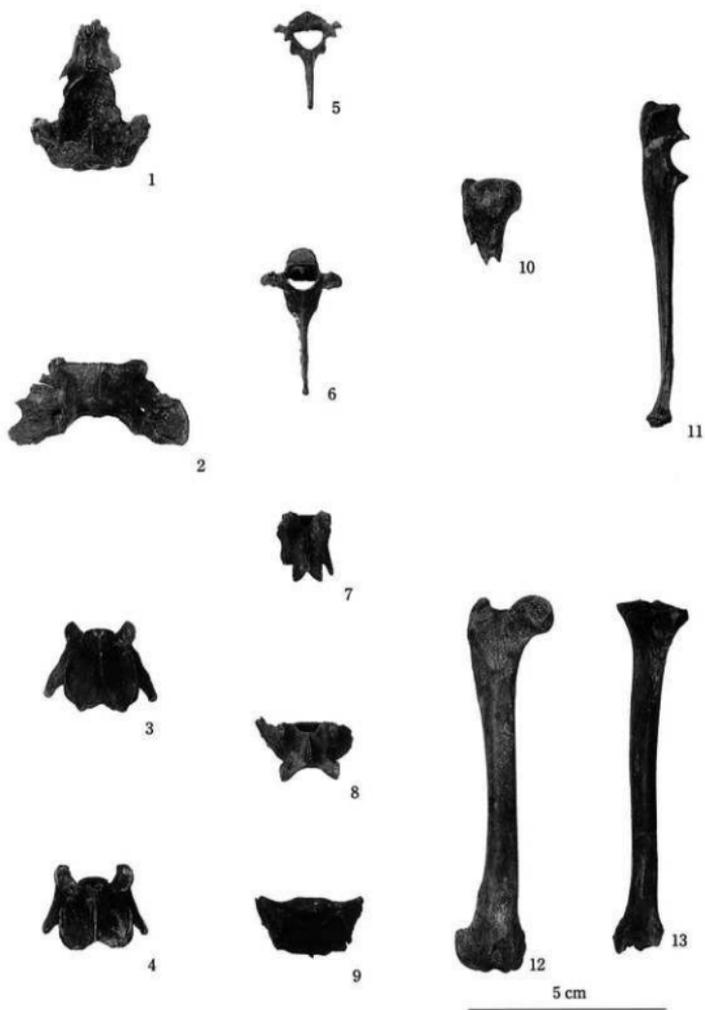


写真35 骨 (タヌキ)

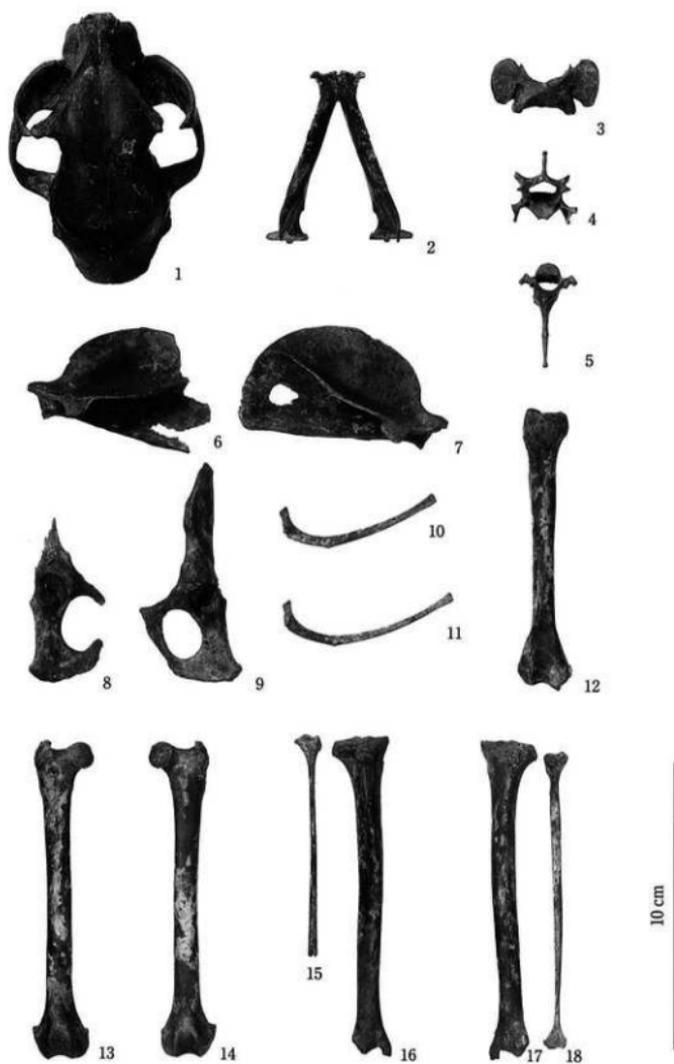


写真36 骨(ネコ)

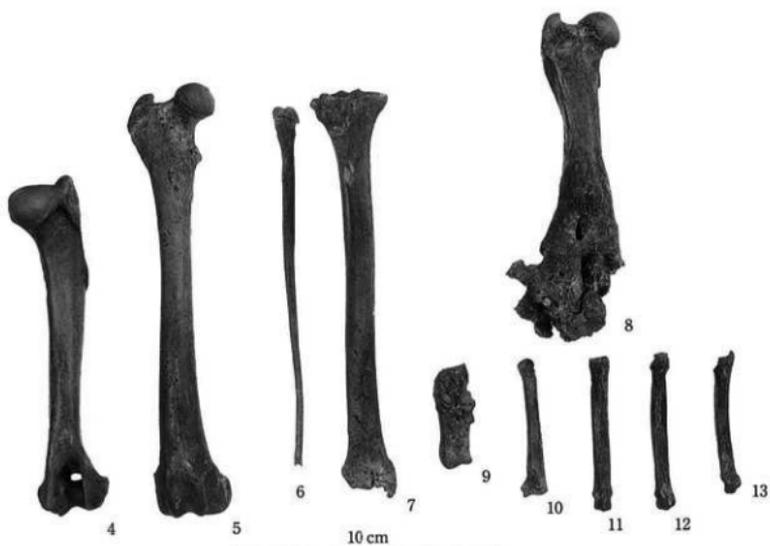
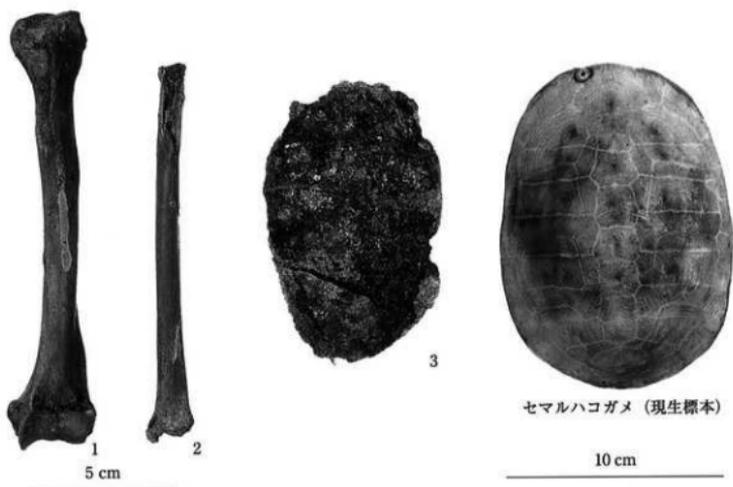


写真37 骨 (上段左:サル、上段右:カメ、下段:イヌ)

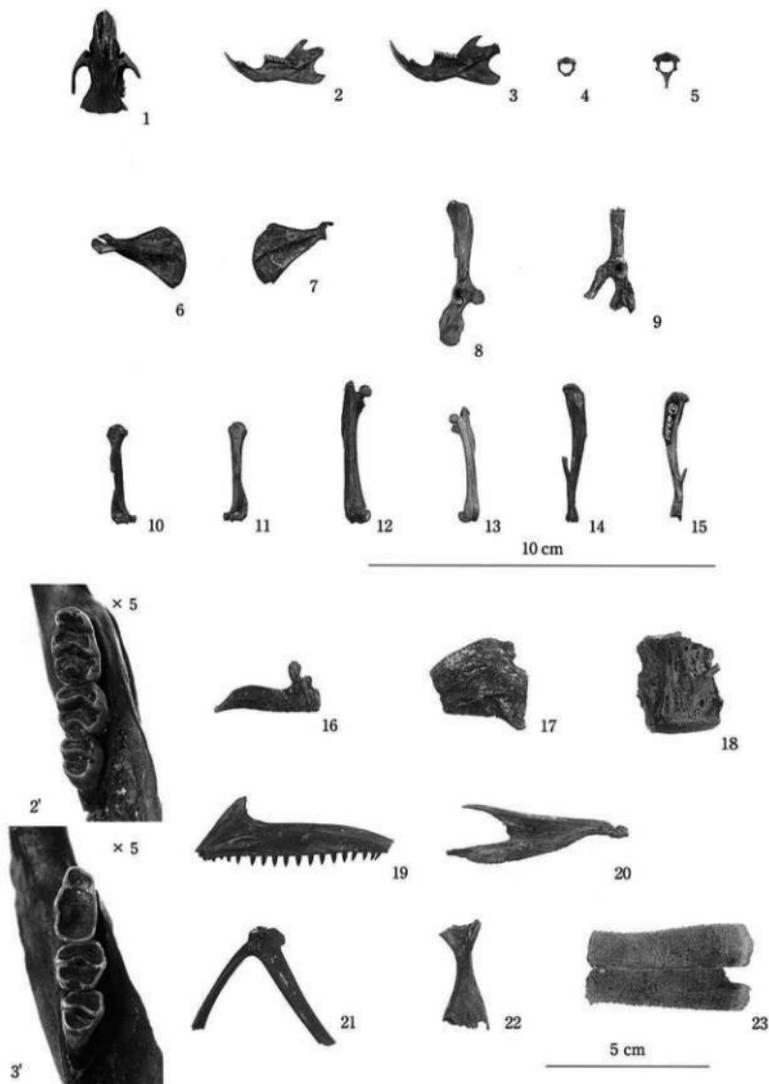


写真38 骨(上段・下段左; ネズミ、下段右; 魚類・スッポン)

16. マダイ上顎骨 17. タイ科上後頭骨 18. 魚類脊椎 19. サワラ上顎骨 20. ハモ上顎骨

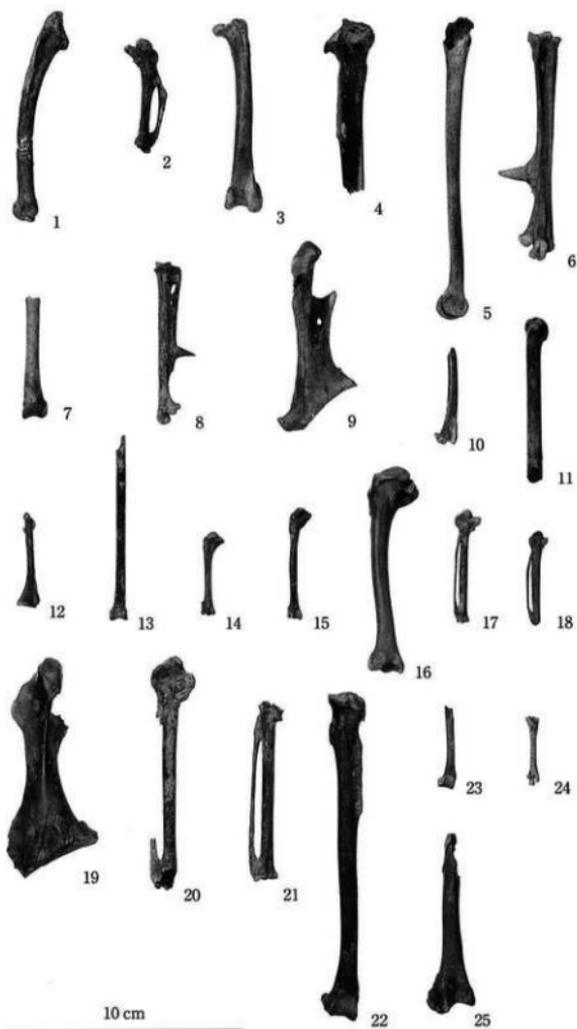


写真39 骨(鳥類)

## 第11章 総括

今回の調査では、再三にわたって記述してきたように、地形的には難波宮跡に近い南東側が高く、北側に東西方向の深い谷が埋没していることが明らかとなった。

とくに今回の調査では、古代においては紀年銘木簡を含む前期難波宮段階の木簡群が出土し、さらに豊臣大坂城段階では重層的な遺構面を検出するとともに多種多様な遺物が出土するなど、非常に重要な調査成果をあげている。ただし、弥生時代以前に関しては縄文時代の無茎石鏃が2点出土したのみであり、顕著なかたちでの生活痕跡は見出すことができなかった。

なお、今回の調査は大阪府警本部棟の新築工事に伴う発掘調査としては計画地の西半部のみ成果であり、向後に予定される東半部の調査成果を含めた検討が不可欠である。したがって、以下では今回の調査成果について各時代ごとに簡潔に総括し、向後の調査に向けての指針としておきたい。

**古墳時代** 当調査区の南、本町通を挟んだ大阪市立中央体育館地区では1987年以降、(財)大阪市文化財協会が行ってきた発掘調査で16棟の5世紀代の大型倉庫群が東西2群に分かれて整然と配列された状態で検出されている。周辺の地形や建物群の配置計画などから東側の建物群はさらに東にも連続している可能性が高く、「難波の堀江」にも近い上町台地の北端に立地する点や正方位での大規模倉庫群の計画的な配置など、非常に重要な意味をもつものである。

今回の調査地は上記の大型倉庫群からさほど距離をおくものではなく、関連する古墳時代の遺構が検出される可能性も示唆されるところであった。しかしながら、結果的には当該期の遺構はまったく検出されず、わずかに土器や石製品が出土したに留まる。出土遺物についてはすでに報告してきたように須恵器、陶棺のほか、紡錘車や白玉といった石製品なども出土している。いずれの出土遺物も遺構を伴っていないが、陶棺や白玉などが出土する点は非常に示唆的であるといえる。ただ、出土した須恵器には5世紀代に遡るものは破片を含めて皆無であり、6世紀代のものが大勢を占めている。

**古代** 当調査区から本町通を隔てた南側の大阪市立中央体育館跡地の調査では内裏西方官衙と仮称される前期難波宮段階の倉庫群とそれを区画する柱列が検出されている。とくにその西側を画する南北方向の扉であるSA301が北側に位置する今回の調査区に向かってのびていることが判明していた(大阪市文化財協会2001)。したがって、今回の調査においても7A地区とした南側の高い部分についてはこれらに関連する遺構が存在する可能性が示唆されるところであった。しかしながら、結果的には江戸時代以降の徳川大坂城築造による大規模な地形改変によって、当時の地表面は大きく削平を受けていることが明らかとなり、豊臣大坂城に関わる遺構ですら井戸などの深いものがかろうじて遺存していたのみであった。このような状況であるから、当然の結果として古代に遡る遺構については望むべくもない状態を呈していた。

上記のように今回の調査では南半では遺構・遺物ともにまったく検出できなかったが、少なくとも内裏西方官衙と仮称される区画の北側100m前後は地形的に高い部分が続いていたことが判明し、充分な平坦面が確保できたものと判断される。後述するように北側に面する谷部から木簡や土器などの多量の遺物が出土したことや南から欄柵のがのびていたことを考えると、前期難波宮段階において何らかの施設が造営されていたことは確実視してよいだろう。

また、調査地の北半で検出した谷は深さ8mを超えるものであり、既往の調査所見を勘案すると、その

幅は少なくとも60m以上を測るものと推定される。

このように難波宮の北側至近に非常に深い東西方向の谷が確認されたことはこれまで不明確であった難波宮の宮域を推定する上において非常に大きな意味をもつ。ただ、今回の調査ではすでに述べてきたように宮域の外郭線を示すような遺構はまったく確認できなかった。

しかしながら、少なくとも古代の段階、すなわち前期、後期ともに難波宮造営に際しては、この谷を整地して積極的に利用することがなかったことは事実である。加えて、少ないながらも祭祀関連遺物が出土し、また、多量の土器等を廃棄するような場所であったことを考えると、この辺りを宮域の北限と推定する見解との整合性を見出すことも可能であるかもしれない。

逆に今回の調査で見つかった推定幅60m以上、深さ8mを超える東西方向谷が前期難波宮の宮域の設定段階において何ら影響を与えなかったとは考え難く、むしろこの谷に規制される形で難波宮の造営が成された可能性も視座に据えて今後の検討を行うことが必要であるといえる。

また、今回の調査における最も大きな成果は谷部16層における紀年銘木簡を含む木簡群の出土である。とくに11号木簡に記された年号は干支表記の「戊申年」であり、共伴した土器の年代観から648年に該当することはほぼや動かない。これ以外に出土した木簡は可能性のあるものを含めて33点。「支多比」・「突」・「伊加比」などの食品の付札木簡が目立つが、人名を記したものや文書木簡も含まれる。

また、9号木簡にみえる「王母前」については宛先を意味するものではないかとの見解もある。王母については道教の神仙思想にあらわれる「西王母」を略したもの、孝徳天皇の母である吉備姫王のことを示すものである可能性も指摘されている（鈴木2000）。

今回の調査では北側の谷部からは木簡群を含む多様な遺物が出土したものの、遺構は検出できず、結果的に当地に造営された施設を特定するには至らなかった。しかしながら、位置的にみて難波宮に包括される地点からこれまで実質的には限りなくゼロに近かった前期難波宮段階の木簡がまとまって出土したことはまぎれもない事実である。

いずれにしても、今回の調査は大局的にみれば高燥な土地であるといえる難波宮周辺地域においても一定の条件さえ整えば、さらなる木簡の出土が期待できることを示した点で非常に大きな意義をもつものであるといえよう。

**中世** 豊臣大坂城築造に伴うと考えられる客土層に覆われる形で谷水田を検出している(11層上面)。この水田面はすでに報告したように谷底を造成して営まれたものであり、地形的には東から西に向かって緩やかに傾斜している。

水田面としては全体の一部を検出したのみで、灌漑の施設や経路などについては不明である。しかし、検出した水田面は谷水田としては一筆の面積が比較的大きく、木組みによる護岸施設を設けるなど、決して一過性の水田として造成されたものではないことを示唆している。すなわち、当該水田は灌漑による用水の確保などの裏づけのもとに造成されたものであることを窺わせている。周辺の地形的条件や各水田面のレベルをみると、調査地の東側、すなわち大坂城側から取水を行っていたことは明白であり、この事実は単に谷水田の検出といった表面的な事象に留まるものではなく、調査地からさほど遠くない場所に溜め池などの灌漑施設の存在が示唆される点でも重要な調査成果であるといえる。

また、この水田面は上記のように大坂城下町の造成に伴うと考えられる客土で埋設している点から、その埋設年代は1580年代後半から1590年代前半頃であったと想定される点においても歴史的意義があり、その造営主体を考える上においても大きな意味をもつものといえる。

**豊臣大坂城** 今回の調査では南半の7A地区は江戸時代以降に地山まで至る大きな削平を受けていたこともあり、当該期の遺構としては井戸などの掘削深度の高いものを検出したに留まる。一方、深い谷となって落ち込んでいた7B地区では谷地形を整地することによって造成して宅地としている状況を明らかにした。

7A地区では全体として豊臣後期の遺構面は残りが悪く、井戸などを数基検出したのみである。しかしながら、今回の調査では1点のみであるが、佐竹氏の家紋である「扇に月丸紋」の軒丸瓦が出土している。現状では当該瓦の出土地の東限となり、佐竹氏の屋敷地の範囲を推定する上において重要な意味をもつものである。

一方、豊臣前期に関しては7A地区では豊臣後期の遺構と同様に井戸などの深い遺構を検出したのみである。そのうちでも井戸328は底面の確認を行うためにライナープレートを用いた工法により、その深さが16mにもおよぶものであることを明らかにしている。

また、7B地区では三の丸造成に伴うと考えられる分厚い客土によって、その下層からは比較的良好な状態で遺構面を重層的に確認し、多種多様な遺物を検出している。

豊臣前期と考えられる各遺構面の状況についてはすでに記してきたので、ここではその詳細については繰り返さない。

すでに報告したが、今回の調査で検出した谷は推定幅60m前後を測るものと考えられ、その谷のおおむね南半分を調査したことになる。調査地の北西端では比較規模の大きな東西方向の溝584を検出している。これより以北の状況は不明ではあるが、この溝が谷心線に近いことや各宅地の入り口を谷の法面側には見出しがたいことなどから、この溝584は谷の中心を貫くように敷設された東西街路の南側の側溝である可能性が高いものと判断している。したがって、検出した区画は基本的にこの街路に接する形で並んでいたものと判断している。

今回の調査では部分的にかかったものを含めて谷の部分だけでも6区画を検出し、各区画内では粗密はあるものの建物跡などを検出している。とくに、今回の調査では谷の法面部分を削り取って平坦面を造成した区画Fでは炉跡などを検出し、東側に接する区画Gではトリベや羽口が多量に出土するなどしており、鑄造をはじめとする金属加工に関わる工房が存在したことはほぼ疑いのない事実である。包含層中からは多量の金属の切り屑が検出されたことも、これを証左している。なお、当該工房でいかなるものが作られていたかは不明だが、出土したトリベには銅や鉄以外に金が付着したのも41点と少なからず認められる点は示唆的である。また出土したトリベの総点数は破片数であるが、3000点にもおよんでおり、当地において継続的に金属加工が行われていたことを示している。

今回の調査ではすでに報告してきたように多量の刀装具が出土しており、これにより当地で生産されていたものの候補として刀装具も浮上するところであるが、未製品の多量出土などといった決定的な証拠に欠けているため、断定的なことはいえない。

また、これ以外の街路に面する区画については、その性格を特定することは困難であるが、多種多様な出土遺物の中にあつて、枡などの計量関係遺物や算盤玉、さらには本報告ではふれていないが、多量に出土した木製品のなかに暖簾掛けと考えられるものが含まれている点は非常に示唆的である。とくに出土した枡は穀物用ではなく、液体用の枡に限られることや一合枡および三合枡といった小形の枡であることなど、一般的な枡ではない点で重要である。

くわえて、出土した木筒には「たるかず」と書かれた荷札木筒が2点出土している点は重要な意味をも

ち、樽の内容物は不明ながらも、その数が「五千七百卅入」と非常に量が多い点も示唆的である。また、その日付が年末にあたる12月28日であるなど、一般的な宅地ではなく、油や酒などの液体を扱う商家が存在していたのではないかと推測する。

いずれにしても、部分的に調査を行ったのみであり、周辺調査との関連などは今後の課題として残っている。

**徳川大坂城** 江戸時代の遺構についてはすでに報告してきたとおりであり、番列や井戸などの遺構を検出したに留まる。今回の調査地点は『文政新改 摂州大坂全図』（文政8年：1825年）などの江戸時代の絵図に投影すると、城の西堀とその西側の「京橋口御定番屋敷」との中間に該当し、地図上ではとくに何も記されることのない空白地帯にあっている。この事実は発掘調査の所見とも、ある意味では整合しているものといえ、掘立柱番列は城の外郭と屋敷地との境界を区画する施設であった可能性が高いものといえる。

**近代以降** 近代以降の状況についてはすでに報告したように陸軍の所管地としての歴史の中で位置付けられる。今回の調査では大きく2時期の遺構群を検出し、それにもない多様な遺物が出土している。詳細については拙稿で検討を行っているので、ここでは多くは触れない（江浦ほか2000）。ただし、拙稿ではⅡ期のレンガ基礎建物跡を陸軍被服支廠に伴うものであるとしたが、これについては事実確認である可能性が高く、陸軍第四師団経理部被服倉庫である可能性が高いものであり、ここで訂正しておきたい。

以上、今回の調査成果を略述してきた。本来なら遺構、遺物ともにもっと詳細な検討を加えるべきであるが、筆者の力量不足に加えて時間的制約もあり、必ずしも十分なものとはなっていない。これについては向後に予定されている東半部の調査成果とあわせて検討を行うことにしたい。

#### 参考文献

- 金箱文夫 1984 「近世の釘」『物質文化』43 物質文化研究会
- 岩田 隆 1985 「中世遺跡出土の下駄」『朝倉氏遺跡資料館紀要』朝倉氏遺跡資料館
- 今村節子 1987 「江戸時代、高倉家における裁衣尺の扱われ方」『計量史研究』vol.9 No.1 日本計量史学会
- 朝倉会館 1990 『藤倉会館 ともやま話』
- 中村 茂ほか 1994 『高崎城三ノ丸遺跡』(『高崎市文化財調査報告書』第129集) 高崎市教育委員会
- 岩田重雄 1994 「中国・朝鮮・日本の長さ標準」『計量史研究』vol.16 No.1 日本計量史学会
- 次山 淳 2000 「平城宮内裏北外郭出土の絵馬資料」『奈良国立文化財研究所年報』2000-Ⅰ 奈良国立文化財研究所
- 佐藤 隆福 2000 『難波宮址の研究』第十一(財)大阪市文化財協会
- 江浦 洋 2000 「大坂城跡出土の犬形土製品小考」『大阪文化財研究』第18号(財)大阪府文化財調査研究センター
- 市田京子 2000 「江戸時代の下駄」『江戸文化の考古学』吉川弘文館
- 四柳嘉章・下村好美 1996 「能登の木製用具 下駄の研究」と木製品にみる中世の民間信仰  
『飾る・遊ぶ・祈るの木製用具』北陸中世時研究会
- 江浦 洋・本田奈都子・小林和美 2000 「陸軍大阪被服支廠跡の調査—大阪府警本部地点における近・現代遺構の発掘調査」  
『ヒストリア』第171号 大阪歴史学会
- 鈴木増民 2000 「難波宮木簡をめぐる視覚」『東アジアの古代文化』103 大和書房
- 江浦 洋 2001 「大坂城跡出土の尺度・橋・秤」『大阪文化財研究』第20号(財)大阪府文化財調査研究センター
- 嶋柄俊夫編 2002 『大坂城跡発掘調査報告書Ⅰ』(財)大阪府文化財センター

## 報告書抄録

ふりがな	おおさかじょうあとに								
書名	大坂城跡Ⅱ								
副書名	大阪府警察本部庁舎新築工事に伴う大坂城跡発掘調査報告書								
シリーズ名	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書								
シリーズ番号	第74集								
編著者名	江浦 洋・亀井 聡・三好 孝一・赤木 克視/安部 みき子・佐藤 隆春・田結庄 良昭 /株式会社古環境研究所・バリノサーヴェイ株式会社								
編集機関	(財)大阪府文化財調査研究センター								
所在地	〒590-0105 大阪府堺市竹城台3丁21番4号 Tel 072-299-8791								
発行年月日	西暦2002年3月29日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
おおさかじょうあと 大坂城跡	おおさかふおおさかし 大阪府大阪市	27128	24	34度 40分 50秒	135度 31分 20秒	1999.2.18. } 1999.11.30.	3,523	大阪府警本部 庁舎新築工事	
なにわのみやあと (難波宮跡)	ちゅうおう(おおてまえ 中央区大手前3丁目								
りくぐんひふく(そうこあと (陸軍被服倉庫跡)									
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
(難波宮跡)	谷	古墳時代	谷・流路	須恵器・白玉	「戊申年」銘の国内最古の紀年銘木簡出土				
	谷	飛鳥時代	谷・集石遺構	木簡・絵馬・木製品 土師器・須恵器					
	谷	奈良時代	谷	土師器・須恵器・瓦					
	水田	室町時代	水田・畦畔	瓦器・青磁					上町台地上における谷水田
	大坂城跡	城郭	豊臣期	礎石建物跡・水路・道 井戸・竈・土坑					陶磁器・木簡・木製品 金属製品・銭貨・金箔瓦
城郭		江戸時代	欄干・井戸・土坑	陶磁器・瓦・銭貨	南北方向の平行する欄干				
(陸軍被服倉庫跡)	陸軍施設	明治～昭和時代	建物跡・溝・土坑	鉄箱・認識票・襟章	施設の性格を特定する遺構・遺物				

